

第2章

研究活動②

国際研究集会／海外活動

20世紀後半、驚異的な経済成長が引き金の一つとなって、日本の社会、文化に対する世界各国の関心はますます高まり、海外における日本研究者の数も急激に増加していた。国際日本文化研究センター（以下、日文研と略称）の研究と研究協力活動の当面の重要な目的は、こうした変化に対応しつつ、日本文化研究を国際的な視野の下で実施することであった。したがって、「世界の中の日本」という自己認識こそが、その出発点でなければならなかった。このため、研究自体に国際的な視点を注入するだけでなく、その方法や成果の公開、研究協力の対象者、研究者間の交流などの幅広い分野にわたって「国際性」が求められたのである。

そうした活動を強力に推し進める舞台として特に設定されたのが、日本に海外の日本文化研究者を招いて実施する「国際研究集会」と、海外に日文研研究者が出向いていて、現地をはじめとする外国人研究者と共同で行った「海外シンポジウム」等の海外活動であった。

1 国際研究集会

●「世界の中の日本」を統一テーマに

そもそも国際研究集会は、日文研の「共同研究」の成果発表を、外国人研究者も交えた国際的な舞台で実施する主旨で設定されたものであった。しかし、共同研究は数年単位で計画されており、最初の成果を獲得するには最低3カ年は必要であった。そこで、日文研創設初年度から3カ年の国際研究集会は、共同研究の成果発表の場ではなく、「世界の中の日本」という統一テーマの下に、そもそも国際的な日本研究とはどのようなものかを問いつつ日本研究の方法や問題点を検証する場であると、日文研創設以前の準備委員会段階ですでに決定されていた。「世界の中の日本」をシリーズタイトルとして開催された第1回から3回までは、文字通りの日本研究、日本文化研究に関する、世界中の日本研究者を一堂に会した国際研究集会（一般公開講演会と国際シンポジウム）となった。

第1回国際研究集会は1988（昭和63）年3月9日～12日の4日間行われた。初日は京都会場において公開講演会が開催された。構造主義の主唱者である世界的な碩学クロード・レヴィ＝ストロース氏が「世界の中の日本文化」と題して日本文化の普遍的側面を強調した講演を行ったほか、ドナルド・キーン日文研教授は「世界の中の日本文学」と題してラフカディオ・ハーンを論じ、さらに梅原猛所長は「世界の中の日本の宗教」と題して仏教伝来以前の日本の宗教風土について講演した。

翌日からの3日間は、都ホテルにおいて国際シンポジウムが実施された。テーマは「日本研究のパラダイム—日本学と日本研究—」とされ、国内外36人の研究者の発表とその他数十名の討論者が参加した（発表者10人、コメンテータ11人、総括報告者1人）。シンポジウムでは、世界各地で行われている日本研究の現状の報告と、それぞれの国の日本研究がかかえている方法論上の問題点を検討し、あわせていくつかの日本文化解釈を提示してもらい、それらが方法論で指摘された問題点とどのように関連するかを集中的に議論し、実りある国際研究集会となった。

以下、第2回、第3回の概要を略記しておこう。

●第2回 1989（平成元）年3月14日～17日〈世界の中の日本Ⅱ〉（於：都ホテル）

「対象と方法—各専門から見た日本研究の問題点—」

公開講演「世界の中の日本の役割」ポール・ケネディ

「日本の立場—内なるものの視座—」高坂正堯

国際シンポジウム発表者8人、コメンテータ8人、総括討論発表者2人

●第3回 1990（平成2）年3月5日～10日〈世界の中の日本Ⅲ〉（於：京都エミナース、都ホテル）

「文化研究という視点—日本研究の総合化について—」

公開講演「中国の中の日本像」陳舜臣

「日本の伝説—救い主としての来訪者」カーメン・ブラッカー

「言語の自然、自然の言語」中西進

国際シンポジウム発表者10人、コメンテータ10人、総括報告者1人

これらの国際研究集会の公開講演や国際シンポジウムでの討議内容を含む全容は、それぞれ報告集としてまとめられ、研究者に公開されている。

●「共同研究」成果発表の場としての国際研究集会

国際研究集会は、第4回を迎えた1990（平成2）年9月以降は、本来の目的であった「共同研究」の成果発表の場として実施されている。

第4回国際研究集会は、共同研究「日本文化の基本構造とその自然的背景」（代表者：埴原和郎）の成果をベースにしたもので、主として自然人類学および考古学に関連する諸分野の立場から、アジア・太平洋地域を視野に入れつつ、この地域における民族と文化の移動・交流、日本人と日本文化の形成過程、小進化、近隣諸集団との近縁関係などの諸問題について集中的に討議した（テーマ「アジア・太平洋諸民族の一員としての日本人」、実施期間：1990（平成2）年9月25日～29日）。この研究集会は、自然科学者の参加も多かったことなどから公用語には英語が採用された。

第5回国際研究集会は、共同研究「日本文学と『私』」（代表者：中西進）の成果を基に、現代人にとって、言葉を表現の手段にした芸術の世界、すなわち文学は、人間の想像力のあり方にいったいどのような価値観をもち、どのような役割を果たしているのか、また、果たしていくべきか、を主題に討議した（テーマ「現代における人間と文学」、実施期間：1991（平成3）年11月25日～29日）。

第6回国際研究集会は、共同研究「日本人の自然観」（代表者：伊東俊太郎）と文部省科学研究費補助金による重点領域研究「文明と環境」との合同で「環境危機の時代における自然と人類」というテーマを掲げて開催された。この研究集会では、環境危機と人類の存続に関する諸問題について、人類学、歴史学、生態学、地球科学、考古学、経済学、工学、哲学および関連するあらゆる学問分野に視野を拡げて討議され、自然と人類が共存し得る新たな文明のパラダイム創造への第一歩を探ろうとした（実施時期：1992（平成4）年9月28日～10月3日）。

また、当年度には特別企画として「技術移転国際シンポジウム」も開催された（実施期間：1992年11月3日～7日）。これは、ヴァスコ・ダ・ガマがヨーロッパとアジアを結ぶ東洋航路を開拓して500年になることを記念して関係各国の研究グループによる共同プロジェクトであったが、1992年度は日本の担当年度にあたっており、日本の研究機関として日文研が主宰することになったものである。技術の分野における移転と内発的発展の関係について、ヨーロッパにおける産業革命の開始期から、日本の殖産興業政策の確立期までの約100年間を対象に討議した。

第7回国際研究集会は、直接的な下地となる共同研究はなかったものの、日本文化研究には欠かせない「日本文化と宗教」という総合テーマの下に、「宗教と世俗化」という副題を設けて開催された。宗教は、どの文化圏においても民族や文化の活動に対して重要な役割を果たしてきた。その宗教が、「近代化」の過程で社会や国家の歴史的な発展や変化に応じて「世俗化」の現象をさまざまな形で示してきたことに焦点を当て、討議を通じて、これらの諸問題を神道、仏教、儒教、キリスト教などの具体的な事例を取り上げて明らかにし、理論的な見通しの提示をめざした（実施期間：1993（平成5）年10月12日～16日）。

1994（平成6）年度は、恒例の国際研究集会を統合した性格をもつ「日本研究・京都会議」を開催した。国内外から日本研究者を一堂に会し、日本文化研究の今後のあり方を幅広く討議するとともに、積極的な交流を通じて研究者のネットワーク形成が図られた（実施時期：1994（平成6）年10月17日～24日）。この「日本研究・京都会議」は、これまで国際研究集会が目指してきた日本文化研究の方法論の集中検討と国際的な研究者交流に課題を絞ったことで、いわば国際研究集会のあり方も含めた中間総括的な実り多い集会となった。

その後、1997（平成9）年度には創立10周年記念国際シンポジウム「日本における宗教と文学」、2007（平成19）年度には創立20周年記念国際シンポジウム「日本文化研究の過去・現在・未来―新たな地平を開くために―」を開催した。

国際研究集会は、日文研の国際性を集約的にアピールしていくねらいもあって、今日に至るまで毎年継続的に開催されている。また、日文研の活動を広く社会にアピールする絶好の機会であるために、国際研究集会開催中には普及活動の「公開講演会」も併催して好評を博している。なお、桂坂に講堂が完成したため1994（平成6）年以降は、公開講演会は日文研内講堂で実施されるようになった。

2 海外活動の展開

「世界の中の日本」という大きな視野に立って日本研究、日本文化研究と研究協力活動を実施することが本センターの目的であり、課題である以上、海外も当然ながら活動の重要な舞台の一つとなっている。

国際研究集会は、海外から研究者を招いて行う。それに対して、海外活動の目的は日文研の研究者が海外に出向いて現地大学・研究機関等と共同でシンポジウムを開催したり、現地の研究者との交流を積極的に深めていくことである。これまでに、国際シンポジウム、日本研究会、海外研究交流シンポジウムなどを推進してきた。この3タイプの活動は、地域や日本研究の進行具合によって少しずつ異なったプログラムとなっている。

もちろん、この海外活動には、日文研の意図を十分に理解してもらい、シンポジウムの共催などを受け入れてくれる提携先が不可欠であり、また、その開拓活動自体が日文研の海外ネットワーク構築に寄与する側面ももっている。

●海外シンポジウムの開催

海外活動としては、最初に手がけられたプログラムである。1995（平成7）年12月4日～7日、北京大学との共催で〈日本研究日中共同セミナー〉が開催されたのが嚆矢である。この第1回国際シンポジウムは、「東アジアにおける近代化の指導者たち」を統一テーマに掲げた。19世紀半ばから辛亥革命ころまでにかけて、西欧列強の強大な圧力に抗して東アジア諸国の指導者たちはいかに対処し、いかなる自己変革を遂げたかを考察した。

1996（平成8）年度は〈日本・トルコ国際シンポジウム〉を、1997（平成9）年度から1999（平成11）年度は、開催地を変えて3年連続して〈ヨーロッパ国際シンポジウム〉を開催した。以降、〈北米シンポジウム〉〈アジア太平洋シンポジウム〉などの連続開催などを含めて、今日に至るまで毎年度実施している。どちらかといえば、日本研究が比較的進んでいる国や地域で実施されるプログラムで、地域によって巡回しながら実施するので「巡回シンポジウム」と呼称することが多い。

●海外における日本研究会

1999（平成11）年から始まった海外における日本研究協力プログラムで、まだ日本研究に関しては発展途上にある国や地域に日本研究の根拠地をつくることを目的としてス

タートしたプロジェクトである。

海外研究交流室を中心に日文研研究員を派遣し、その地域の研究者と協力して現地の研究動向に即したテーマで小規模な研究会を開催し、併せて研究相談などの支援業務を行っている。

日本研究会開催地は、1999年9月にドイツ（ボン）、アメリカ（ハワイ）の2カ所での連続開催に始まり、以下、ほぼ1年に1～2カ所のペースで、タイ、オーストラリア（ビクトリア）、シンガポール、エジプト、ロシア、ポーランド、ポルトガル、スペイン、オーストリア、ギリシャ、イタリア（ミラノ／レッツェ）、ブラジル、ベトナム、インドネシア…で実施されてきた。先進国の中でも、日本研究があまり盛んでない地域などは意図的に選ばれている。

この日本研究会は、同時に海外での優秀な若手研究者の発掘につながるとともに、海外における日本研究の生の情報を得る貴重な機会ともなっている。

●海外研究交流シンポジウム

海外の各地域、国における日本文化研究の成熟度には差がある。そうしたなかで近年になって研究の盛り上がりが顕著な国や地域との研究交流は、より頻繁に、かつ恒常的になされるべきだという新たな課題が浮上してきた。そこで、2006（平成18）年から、こうした先進的な国や地域に対しては恒常的な交流の場として海外研究交流シンポジウムを開催することになった。その第1回が2006（平成18）年11月、韓国において実施されたのを皮切りに、以降、順次フランス、中国、ロシアなどで開催された。近年は、来日中の外国人研究者を対象にして日本で開催されることが多くなっている。

海外研究交流シンポジウムには、日文研研究員を派遣して研究発表を行うとともに、現地研究者との親交を深め、得られた最新情報、要望等を今後の研究協力活動に有効に反映させることとしている。



第1回公開講演会の会場となった京都会館



第1回公開講演会「世界の中の日本」（1988年）
国際研究集会開催期間中に一般市民への講演会を開催



第1回国際研究集会「世界の中の日本」（1988年）

国際研究集会の記録

第1回

【催日・会場】
1988年3月9日～12日　都ホテル
【テーマ】
世界の中の日本Ⅰ：日本研究のパラダイム—日本学と日本研究—
The Paradigm of Japanese Studies: Japanology and Japanese Studies
【実行委員長】
埴原和郎（日文教教授）
【国際研究集会】
参加者36人（国内22人　国外14人）
議長：上山春平（京都国立博物館）
J・V・ネウストブニー（モナシュ大学）「日本研究のパラダイム」〔コメント：伊東俊太郎（東京大学）〕
スリチャイ・ワンガューオ（チュラロンコン大学）「タイにおける日本研究」〔コメント：田辺繁治（国立民族博物館）〕
議長：中根千枝（日文研）
高増傑（中国社会科学院）「中国における日本研究」〔コメント：山本有造（京都大学）〕
ロイヤル・タイラー（オスロ大学）「中世の藝術と宗教」〔コメント：吉田光邦（京都大学名誉教授）〕
議長：河合隼雄（京都大学）
矢野暢（京都大学）「文化研究における地域の意味」〔コメント：パトリシア・スタインホフ（ハワイ大学）〕
中西進（日文研）「東アジアにおける日本文化」〔コメント：A・フォルテ（イタリア東方学研究所）〕
議長：大石慎三郎（学習院大学）
村井康彦（日文研）「文化史から見た日本文化」〔コメント：ロバート・ワゴ（PHPインターセクト）〕
李御寧（梨花女子学校）「レトリックから見た日本文化の特質」〔コメント：山田慶児（日文研）〕

議長：杉本秀太郎（京都女子大学）
イアン・ニッシュ（ロンドン大学）「ヨーロッパにおける日本研究」〔コメント：飯田経夫（名古屋大学）〕
園田英弘（日文研）「自国研究としての日本研究・外国研究としての日本研究」〔コメント：S・リンハルト（ウィーン大学）／山崎正和（大阪大学）〕
総括　芳賀徹（東京大学）〔議長：梅原猛（日文研）〕
【公開講演会】
1988年3月9日　京都会館
クロード・レヴィ=ストロース（コレージュ・ド・フランス名誉教授）「世界の中の日本文化」
ドナルド・キーン（日文研教授）「世界の中の日本文学」
梅原猛（日文研所長）「世界の中の日本の宗教」
【報告書】
国際研究集会報告書第1集（1989年2月）

第2回

【開催日・会場】
1989年3月14日～17日　都ホテル
【テーマ】
世界の中の日本Ⅱ：対象と方法—各専門から見た日本研究の問題点—
Approaches and Methodologies across Disciplines and Areas
【実行委員長】
村井康彦（日文教教授）

【国際研究集会】

参加者38人（国内20人　国外18人）
議長：吉田光邦（京都大学名誉教授）
J・G・ファン・ブレーメン（ライデン大学）「人類学からみた日本研究」〔コメント：濱口恵俊（日文研）〕
中岡哲郎（大阪市立大学）「日本の近代化と技術革新」〔コメント：リンダ・グローブ（上智大学）〕
議長：石井米雄（京都大学）
久野昭（日文研）「日本思想における伝統と変革」〔コメント：エルンスト・ロコバント（東洋大学）〕
ブライアン・モーラン（ロンドン大学）「近代日本の中の伝統工芸」〔コメント：熊倉功夫（筑波大学）〕
議長：山田慶児（京都大学）
容應夷（シンガポール大学）「アジアにおける日本」〔コメント：山折哲雄（日文研）〕

厳安生（北京外国語学院）「近代中国人による日本論」〔コメント：衛藤藩吉（亜細亜大学）〕
議長：飯田経夫（名古屋大学）
上野千鶴子（平安女学院短期大学）「女性に見る近代と脱近代—女性の変貌—」〔コメント：スザンナ・ヴォーゲル（ハーバード大学）〕
村上泰亮（日文研）「産業化の多系性」〔コメント：トーマス・P・ローレン（スタンフォード大学）〕
総括　伊東俊太郎（東京大学）、サヴィトリ・ヴィシュワナタン（デリー大学）〔議長：上山春平（京都国立博物館）〕
【公開講演会】
1989年3月14日　都ホテル
ボール・ケネディ（イエール大学教授）「世界の中の日本の役割」
高坂正堯（京都大学教授）「日本の立場—内なるものの視座—」
【報告書】
国際研究集会報告書第2集（1990年2月）

第3回

【開催日・会場】
1990年3月5日～10日　京都エミナース
【テーマ】
世界の中の日本Ⅲ：文化研究という視点—日本研究の総合化について—
The Development of a Comprehensive Approach to Japanese Studies
【実行委員長】
久野昭（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者30人（国内14人　国外16人）
●特別研究会「世界における日本認識の形成過程とその現状」
●シンポジウム
議長：伊東俊太郎（日文研）
青木保（大阪大学）「日本文化研究の現在」〔コメント：ハルミ・ペフ（スタンフォード大学）〕
クラウス・クラハト（チュービンゲン大学）「思想史からみた日本文化研究」〔コメント：尾藤正英（川村学園女子大学）〕
議長：埴原和郎（日文研）
フランソワ・マセ（フランス国立東洋言語文化研究所）「日本神話における自然観」〔コメント：河合隼雄（京都大学）〕
イアン・リーダー（スターリング大学）「宗教における日本文化の位置」〔コメント：塩原勉（大阪大学）〕

議長：吉田光邦（京都大学名誉教授）
マーガレット・A・マッキーン（デューク大学）「普遍理論のなかの日本社会」〔コメント：速水融（日文研）〕
マサオ・ミヨシ（カリフォルニア大学サンディエゴ校）「普遍性とは何か？日本文学？」〔コメント：鈴木貞美（日文研）〕
議長：芳賀徹（東京大学）
米山俊直（京都大学）「アジア・アフリカの諸文化と日本文化」〔コメント：ゴードン・C・ムアンギ（京都大学）〕
サヴィトリ・ヴィシュワナタン（デリー大学）「アジアの近代化と日本」〔コメント：石田雄（京都大学名誉教授）〕
議長：本間長世（東京大学）
W・F・ヴァン・ドゥ・ワラ（ルーヴァン・カトリック大学教授）「東アジアにおける日本の位置」〔コメント：田代和生（慶應義塾大学）〕
飯田経夫（日文研）「世界の経済・文化における日本の位置」〔コメント：ジェフリー・ブロードベント（ミネソタ大学）〕
総括　山折哲雄（日文研教授）〔議長：上山春平（京都国立博物館）〕
【公開講演会】
1990年3月5日　都ホテル
陳舜臣（作家）「中国の中の日本像」
カーメン・ブラッカー（ケンブリッジ大学教授）「日本の伝説—救い主としての来訪者—」
中西進（日文研教授）「言語の自然、自然の言語」
【報告書】
国際研究集会報告書第3集（1991年3月）

第4回

【開催日・会場】
1990年9月25日～29日　新都ホテル
【テーマ】
アジア・太平洋地域の中の日本人
Japanese as a Member of the Asian and Pacific Populations
【実行委員長】
埴原和郎（日文教教授）
【国際研究集会】
参加者33人（国内26人　国外7人）
WUXinzhi（Academia Sinica）“Origins and affinities of the inhabitants of Japan in different periods”
Michael PIETRUSEWSKY（University of Hawaii at Manoa）
“Japan, Asia and Pacific: A multivariate craniometric investigation”
YAMAGUCHI Bin（National Science Museum）“Skeletal morphology of the Jomon people”
Nancy S. OSSENBERG（Queen's University）“Microevolutionary parallels in the population history of Japan and aboriginal North America: The evidence of cranial nonmetric traits”
ISHIDA Hajime（Sapporo Medical College）and DODO Yukio（Sapporo Medical College）“Differentiation of the northern Mongoloids: The evidence of cranial nonmetric traits”
NAITO Yoshiatsu（Nagasaki University）“The skeleton of the Yayoi people”

Christy G. TURNER II（Arizona State University）“Sundadonty and sinodonty in Japan: The dental basis for a dual origin hypothesis for the peopling of the Japanese islands”
MIZOGUCHI Yuji（National Science Museum）“Similarities of the modern Japanese and some Asians in dental size and foodstuff intakes”
HANIHARA Tsunehiko（Jichi Medical School）“Affinities of Japanese: Dental and cranial evidence”
OMOTO Keiichi（The University of Tokyo）“Some aspects of the genetic composition of the Japanese”

HORAI Satoshi（National Institute of Genetics）“Phylogenetic affiliation of the Japanese inferred from mitochondrial DNA”
TANABE Yuichi（Gifu University）“Phylogenetic studies on the Japanese dogs, with emphasis on migration routes of the dogs”
AN Zhimin（Chinese Academy of Social Sciences）“Continental roots of the early Japanese culture”
KOYAMA Shuzo（National Museum of Ethnology）“The Pleistocene food crisis and Jomon pottery”
SAHARA Makoto（Nara National Cultural Properties Research Institute）“Yayoi culture in the context of world history”
Yoshihiko H. SINTO（Bishop Museum）“A review of the expansion of Austronesian speaking populations in Oceania, and problems of East Polynesian settlement”
KURASHINA Hiro（University of Guam）“Mariana islands archaeology: A case study from Gognga-Gun Beach, Tumon Bay, Guam”
Bruce E. ANDERSON（University of Guam）“Human skeletal remains from the Gognga-Gun Beach project”
HANIHARA Kazuro（Nichibunken）“Dual structure model for the formation of the Japanese population”
【公開講演会】「日本人の形成」
1990年9月29日　都ホテル
小山修三（国立民族学博物館助教授）「縄文から弥生へ—民族考古学の立場から」
クリスティ・G・ターナー（アリゾナ州立大学教授）「歯からみた日本人の起源」
埴原和郎（日文研助教授）「日本人の成立ち」
【報告書】
国際研究集会報告書第4集（1991年12月）

第5回

【開催日・会場】
1991年11月25日～29日　日文研
【テーマ】
現代における人間と文学
Humanity and Literature in the Contemporary World
【実行委員長】
中西進（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者34人（国内22人　国外12人）
●セッション1　伝統と現代
ハワード・S・ヒベット（ハーバード大学名誉教授）“The Vitality of Tradition”
議長：芳賀徹（日文研）、コメンテーター：坪内稔典（京都教育大学）
●セッション2　現代における個人
金南祚（淑明女子大学）「現代における個人」
議長：饗庭孝男（甲南女子大学）、コメンテーター：ユルゲン・ベルント（フンボルト大学）
●セッション3　文学と社会
上垣外憲一（日文研）「日本文学の社会性」
議長：杉本秀太郎（日文研）、コメンテーター：ミコワイ・メラノヴィッチ（ワルシャワ大学）
●セッション4　表現の形式
山口昌男（東京外国語大学）“Expression and Form in the Ancient Japanese Literature”
議長：フィリップ・T・ハリス（オックスフォード大学）、コメンテーター：ツバタナ・クリステワ（ソフィア大学）
●小講演・討議
中上健次（作家）「小説家の想像力」〔議長：鈴木貞美〕

陳建功 (作家／中国作家協会理事)「四合院の悲しみと文学の可能性」 [議長: 鈴木貞美] ● パネルディスカッション「現代における人間と文学」 司会: 中西進 (日文研) パネラー: ウィリアム・R・ラフルーア (ペンシルバニア大学)、アントニー・V・リーマン (トロント大学)、河合隼雄 (日文研) 【公開講演会】 1991年11月29日 都ホテル 李御寧(大韓民国文化部長官)「文学―人と物の距離: 日本 の俳句を韓国の時調から読む」 ヨーゼフ・クライナー (ドイツ日本研究所長)「文学から文化研究へ―海外における日本研究の歩み―」 遠藤周作 (作家)「ひとつの小説の前後」 【報告書】 国際研究集会報告書第5集 (1993年3月)
第6回 【開催日・会場】 1992年9月28日～10月3日 日文研 【テーマ】 環境危機の時代における自然と人類 Nature and Humankind in the Age of Environmental Crisis 【実行委員長】 伊東俊太郎 (日文研教授) 【国際研究集会】 参加者90人 (国内79人 国外11人) ● Session 1 Environment and Civilizations (1) Chair: KOIZUMI Itaru Co-Chair: HAYASHIDA Akira McGuire GIBSON (The Oriental Institute University of Chicago) “The origin and development of Sumerian civilization and its environment” [Comment: FUJII Hideo (Kokushikan University)] D. P. AGRAWAL (Physical Research Laboratory, India) “Environmental and civilizational processes in India: Their global relevance” [Comment: KONISHI Masatoshi (Rikkyo University)] ● Session 2 Environment and Civilizations (2) Chair: TABATA Hideo Co-Chair: KITAGAWA Hiroyuki YASUDA Yoshinori (Nichibunken) “Holocene climatic changes and the transformations of Jomon culture” [Comment: MACHIDA Hiroshi (Tokyo Metropolitan University)] ● Session 3 History and Ecology (1) Chair: HANIHARA Kazuro Co-Chair: ONO Yoshihiko Fekri A. HASSAN (Washington State University) “The ecological consequences of evolutionary cultural transformations” [Comment: KAWANISHI Hiroyuki (Japan Institute of Paleology Studies, Japan)] Ashok JAIN (National Institute of Science, Technology and Development Studies, India)“Social diversity and technology for sustainable development” [Comment: MURAKAMI Yoichiro] ● Session 4 History and Ecology (2) Chair: Mark ELVIN Co-Chair: KUROSU Satomi YOSHINO Masatoshi (Aichi University) “Climate and history in Japan” [Comment: KITO Hiroshi (Sophia University, Japan)] HAYAMI Akira (Nichibunken) “Population and family in crisis: A study of north-eastern Japan in the late 18th century” [Comment: YOSHIMURA Minoru (Yamanashi University)] ● Session 5 The Human Impacts on the Earth (1)

Chair: TAKAYA Koich Co-Chair: TAKEMURA Keiji Mark ELVIN (Australian National University) “Man against the sea: Natural and anthropogenic factors in the changing morphology of Harngzhou bay” [Comment: TAKAHASHI Manabu (Ritsumeikan University)] ZHANG Jiacheng (Academy of Meteorological Science, China)“On the vulnerability of socioeconomical development to climate change in China”[Comment: YASUNARI Tetsuzo (Tsukuba University)] ● Session 6 The Human Impacts on the Earth (2) Chair: NUMATA Makoto Co-Chair: NITTA Eiji Wolfgang HOLZNER (Universität fur Bodenkultur) “The unnaturalness of conservation” [Comment: YAMADA Isamu (Kyoto University)] Lloyd TIMBERLAKE (International Institute for Environment and Development, U.K.) “Environmental politics in the 21st Century” [Comment: KATO Kazu (Environment Agency, Japan)] ISHI Hiroyuki (Editor of the Asahi Shimbun) “Environmental refugees as a final stage of environmental disruption” [Comment: Lloyd TIMBERLAKE] ● Session 7 Human Views of Nature and Environmental Problems (1) Chair: NAKANISHI Susumu Co-Chair: MORIOKA Masahiro Stephen R. KELLERT “Biophilia: Aristotelian echoes of the 'good life'” [Comment: KUWAKO Toshio (Tokyo Institute of Technology, Japan)] KAWAI Hayao (Nichibunken) “Nature and gods” [Comment: YAMAORI Tetsuo (Nichibunken)] ● Session 8 Human Views of Nature and Environmental Problems (2) Chair: KUNO Akira Co-Chair: KAMIGAITO Ken'ichi Augustin BERQUE (Centre de recherches sur le Japon Contemporain, France) “On the relevance of a logic of place in dealing with the environment” [Comment: TAKEUCHI Akihiro (Kyoto University)] Tessa MORRIS-SUZUKI (Australian National University) “Across the frontiers: Nationalism, internationalism and ecological crisis” [Comment: HARADA Kenichi (Yamagata University)] ● General Discussion Chair: ITO Shuntaro Co-Chair: YASUDA Yoshinori 【公開講演会】 1992年10月3日 東急ホテル 河合雅雄 (京都大学名誉教授)「日本人の自然観」 オギュスタン・ベルク (フランス国立社会科学高等研究院教授)「日本における都市と自然」 伊東俊太郎 (日文研教授)「環境の危機と文明の転期」 【報告書】 国際研究集会報告書第6集 (1995年12月)
特別開催 (技術移転国際シンポジウム) 【開催日・会場】 1992年11月3日～7日 国立京都国際会館 【テーマ】 アジア・ヨーロッパ間の科学・技術の移転―ヴァスコ・ダ・ガマから現代まで The Transfer of Science and Technology between Europe and Asia since Vasco da Gama 【実行委員長】 山田慶兒 (日文研教授) 【国際シンポジウム】

参加者44人 (国内27人 国外17人) ● Session 1 Keynote Speech & Industrial Technology Chair: O. PRAKASH T. NAKAOKA “Industrial Revolution and the Endogenous Development in Asia” R. Chandavarkar “The Cotton Textile Industry in India, 1918-1939: Some Comparisons with Japan and China” T. TSUKAHARA “Dutch Commitment in the Search of Asian Mineral Resources and Introduction of Geological Sciences as its Consequence” Discussants: E. IHSANOGLU, H. KAWAKATSU, F. SATOFUKA ● Session 2 Transfer: Conditions and Processes Chair: T. YOSHIDA T. K. WIE “Technology Transfer from Japan to Indonesia” R. LUO and Y. WANG “Import of Western Technology and Early Industrialization in China and Japan: A Comparative Study” H. ZURNDORFER “Theoretical & Practical Conditions of the Transfer of Industrial Technology between Europe & China in the 19th Century” Discussants: S. DU, M. MATSUMOTO, T. IIDA ● Session 3 Military Technology and Transportation Chair: A. B. LAPIAN J. A. De MOOR “Western Technology and Colonial Warfare in Nineteenth Century Asia” J. DELOCHE “Bridge-building in 19th Century India: Indigenous Empiricism and European Technology” F. BROEZE “Maritime Transport: Shipping, Shipbuilding and Port Facilities” Discussants: L. BLUSSÉ, O. PRAKASH, H. SONODA ● Session 4 Technology and Agriculture Chair: L. BLUSSÉ S. F. RUSKANDA “Transfer of Agricultural Technology in Indonesia in the Nineteenth Century” H. HORIO “The Transferred and the Traditional in Agricultural Technology of Modern Japan” Y. SHIRAHATA “European Influence on Japanese Gardening in the 19th Century” Discussants: C. DANIELS, A. B. LAPIAN ● Session 5 Technology and Education Chair: E. IHSANOGLU D. KUMAR “Technology and Education” L. ZHANG “Technology Education in First Generation Chinese Contemporary Enterprises” Discussants: S. NAKAYAMA, W. G. J. REMMELINK Concluding Remarks: D. H. A. KOLFF 【公開講演会】 1992年11月7日 大阪科学技術センター 山田慶兒 (日文研教授)「科学・技術の移転―19世紀東アジアの経験―」 ヘンク・L・ウェセリンク (ライデン大学教授)「科学・技術・コロニアリズム」 【報告書】 国際研究集会報告書第7集 (1994年3月)
第7回 【開催日・会場】 1993年10月12日～16日 日文研 【テーマ】 日本文化と宗教―宗教と世俗化― Japanese Culture and Religions―Religions and Secularization 【研究代表者】

山折哲雄 (日文研教授) 【国際研究集会】 参加者36人 (国内30人 国外6人) ● セッション 1 ハルトムート・O・ローテルムンド (フランス国立高等研究院)「和歌にみる日本人の宗教心」 コメンテーター: 山折哲雄 (日文研)、議長: 青山玄 (南山大学)、副議長: 朱捷 (中京女子大学) ● セッション 2 ジャン＝ノエール・ロベール (フランス国立高等研究院)「仏教に於ける非宗教化の要因としての儒教」 コメンテーター: 黒住真 (東京理科大学)、議長: 長谷正當 (京都大学)、副議長: 古東哲明 (広島大学) ● セッション 3 阿部泰郎 (大手前女子大学)「熊野詣と中世」 コメンテーター: フランソワ・マセ (フランス国立東洋言語文化研究所)、議長: 佐藤弘夫 (東北大学)、副議長: 森岡正博 (日文研) ● セッション 4 フレデリック・ジラルール (フランス極東学院)「鎌倉仏教の諸相」 コメンテーター: 大峯顕 (龍谷大学)、議長: 野崎守英 (中央大学)、副議長: 氣多雅子 (金沢大学) ● セッション 5 ジャン＝ピエール・ベルトン (フランス国立高等研究院)「人類学から見た宗教の世俗化」 コメンテーター: 山下晋司 (東京大学)、議長: 柴山哲也 (朝日新聞)、副議長: 山下悦子 (日本女子大学) ● セッション 6 ジャン・ボベロ (フランス国立高等研究院)「宗教の世俗化と非宗教化」 コメンテーター: 上野千鶴子 (東京大学)、議長: 中村生雄 (静岡県立大学)、副議長: 中井ケイト (上智大学) ● セッション 7 総括討論「宗教の世俗化をめぐる」 コメンテーター: 赤阪憲雄 (東北芸術工科大学)、山本ひろ子 (評論家)、議長: 山折哲雄 (日文研)、久野昭 (日文研)、副議長: エルンスト・ロコパンド (東洋大学) 【公開講演会】 1993年10月16日 京都東急ホテル 久野昭 (日文研教授)「心の鬼」 フランソワ・マセ (フランス国立東洋言語文化研究所教授)「古代日本人の世界賛歌―『古事記』の歌表現と和歌の誕生―」 吉本隆明 (文芸評論家)「日本的なものとは何か」 【報告書】 国際研究集会報告書第8集 (1996年3月)
特別開催 【開催日・会場】 1994年10月17日～22日 日文研 【テーマ】 日本研究・京都会議 【実行委員長】 河合隼雄 (日文研名誉教授) 【全体会議】 1994年10月21日 日文研 ● シンポジウム 参加者666人 (国内544人 国外122人) 「日本文化における型」座長: 源了圓 (東北大学名誉教授) パネリスト: 熊倉功夫 (国立民族学博物館教授)、Thomas RIMER (ピッツバーグ大学教授)、武田建 (関西学院大学理事長)、劉建輝 (南開大学副教授)、笠谷和比古 (日文研助教授)

●所長講演 梅原猛（日文研所長）「日本の思想―神道と仏教」
●総括討議 議長：河合隼雄（日文研名誉教授） ※10月18日～20日のセッションは掲載を省略
【公開講演会】 1994年10月17日　日文研ホール 大江健三郎（小説家）「世界文学は日本文学たりうるか」 マリウス・ジャンセン（プリンストン大学名誉教授）「日本とその世界」
【報告書】 国際研究集会報告書全4冊（1996年3月）
第8回
【開催日・会場】 1995年9月18日～21日　日文研
【テーマ】 市場経済への移行と市場経済の移行 The Transition to Market Economy and the Transition of Market Economy
【研究代表者】 飯田経夫（日文研教授）
【国際研究集会】 1995年9月18日～21日　日文研 参加者28人（国内23人　国外5人）
●Opening Session IIDA Tsuneo “The Transition to Market Economy and the Transition of Market Economy” Shmuel N. EISENSTADT（The Hebrew University of Jerusalem） “Globalization and the Multiplicity of Market Political Economies”
●ASIA（1） Chair: KIMURA Hidenori（Aichi Gakuin University） SEAH Chee-Meow（National University of Singapore）“To Be or not to Be, That’s Not the Question: Fallacies in Stereotyping Economic and Development Strategies” YABUNO Yuzo（Kyushu University）“Colonial Economy to Market Economy in Asia” [Commentator: YODA Hiroshi（Kobe University）]
●SOUTH AMERICA Chair: KITAGAWA Katsuhiko（Kansai University） Manuel A. GARRETÓN（University of Chile）“Transition to Market Economy or New State-Society Relations in Latin America?” Theotonio DOS SANTOS（Federal Fluminense University）“Latin America: Democratization and Structural Adjustment” [Commentator: Carlos A. S. MONTEIRO（Tenri University）]
●EASTERN EUROPE Chair: YODA Hiroshi Gabor BAKOS（Chukyo University）“Hungary’s Experience: Transition to the Market” KIMURA Hiroshi（Nichibunken）“Russia’s Reform and Transition as Seen from Japan” [Commentator: NAGAOKA Sadao（Seikei University）]
●AFRICA Chair: YABUNO Yuzo Gerrishon K. IKIARA（University of Nairobi）“The Transition to Market Economy: The Challenges and Opportunities for Sub-Saharan Africa” Lionel R. CLIFFE（University of Leeds）“Democratisation and Economic Liberalisation: Twin Transformations in Africa” [Commentator: KITAGAWA Katsuhiko, Pauline KENT（Nichibunken）,

HORIE Masahiko（Embassy of Japan, Kenya）]
●ASIA（2） Chair: Pauline KENT Bijay A. MISRA（Nichibunken）“Transition toward Market Economy in India: Possibilities and Apprehensions” Manoj L. SHRESTHA（Konan University）“Multinationalization of Japanese Firms: Perspectives from New Division of and Asian Development” LING Xing-guang（Fukui Prefectual University）“The Development of China’s Market Economy” [Commentator: YABUNO Yuzo]
【報告書】 国際研究集会報告書第9集（1997年3月）
第9回
【開催日・会場】 1995年10月2日～5日　日文研
【テーマ】 歴史における理想郷―東と西 “Ideal Places” in History―East and West
【研究代表者】 芳賀徹（日文研教授）
【国際研究集会】 参加者34人（国内24人　国外10人）
●セッション1 座長：芳賀徹 千田稔（日文研）「海のかなたの理想郷」　討論者：樋口忠彦（新潟大学） Peter H. LEE（University of California, Los Angeles）「韓国古典詩における理想郷」　討論者：成恵卿（日本大学）

●セッション2 座長：鈴木貞美（日文研） 井波律子（日文研）「中国の理想郷」　討論者：張競（東北芸術工科大学） Steven P. SONDRUP（Bringham Young University）「ノルドール・ラクスネスと楽園の政治学」　討論者：Gerald GILLESPIE（Stanford University）
●セッション3 座長：John CLARK（日文研） Larry L. HANSON（東京大学）「16、17世紀のユートピアにおける都市」 討論者：川端香男里（中部大学） 金禹昌（高麗大学校）「生きられる場所と風景―韓国伝統における理想郷の想像力」　討論者：佐々木英昭（名古屋工業大学）
●セッション4 座長：加納孝代（青山学院女子短期大学） Ziva BEN-PORAT（Tel Aviv University）「『キブツ』―ユートピアとその現実：文化概念の模倣と表象」　討論者：木村汎（日文研） Tinia CARVALHAL（Universidade Federal do Rio Grande do Sul）「理想郷としてのブラジリア―中心の領有化」　討論者：井上章一（日文研）
●セッション5 実地見学　主催者：白幡洋三郎（日文研）、早川閑多（日文研）
●セッション6 座長：Jay RUBIN（日文研） 尹相仁（漢陽大学）「漱石及び現代作家における桃源郷」　討論者：相原和邦（広島大学） 稲賀繁美（三重大学）「ゴッホの日本、ゴーギャンのタヒチ再考」　討論者：今橋映子（筑波大学）
●セッション7 座長：川本皓嗣（東京大学） Anthony LIMAN（University of Toronto）「日本-北米文学における理想郷としての『北方』―想像力の開放地」　討論者：エリス俊子（東京大学） 劉建輝（日文研）「幻の楽土―『満州国』の幻想と現実」　討論者：辻原登

（作家）
●セッション8 座長：川端香男里 栗山茂久（日文研）「医学のユートピアニズム」　討論者：森岡正博（日文研） 王寧（北京大学）「新しいユートピアへ―陶淵明『桃花源記』再考」 討論者：ヨコタ=村上孝之（大阪大学）
【公開講演会】 1995年10月2日　日文研ホール 芳賀徹（日文研教授）「桃源郷とユートピア―東西理想郷の比較」 ジェラルド・ギレスピー（スタンフォード大学教授）「山々と詩的幻想―ヨーロッパ文学におけるその伝統」　通訳：エリス俊子（東京大学助教授）
【報告書】 国際研究集会報告書第10集（1997年3月）
第10回
【開催日・会場】 1996年8月28日～30日　日文研
【テーマ】 交渉行動様式の国際比較 International Comparative Studies of Negotiating Behavior
【実行委員長】 木村汎（日文研教授）
【国際研究集会】 参加者29人（国内19人　国外10人）
●Session 1 Chair: KIMURA Hiroshi（Nichibunken） Fred C. IKLE（Center for Security and International Studies） “The Role of Emotions in International Negotiations” [Comments: NAKANISHI Terumasa（Kyoto University）, TSUCHIYAMA Jitsuo（Aoyama Gakuin University）]

●Session 2 Chair: WATANABE Akio（Aoyama Gakuin University） I. W. ZARTMAN（John Hopkins University）“Justice in Negotiation” [Comment: TAKAGI Seiichiro（Saitama University）]
●Session 3 Chair: HAYAKAWA Monta（Nichibunken） Cecilia ALBIN（Cambridge University）“Is There a Place for Justice and Fairness in International Negotiations?” [Comment: NAKANISHI Hiroshi（Kyoto University）]
●Session 4 Chair: KAMIGAITO Ken’ichi（Nichibunken） Paper: Bertam I. SPECTOR（Center for Negotiation Analysis） “Negotiating with So-Called Villains: A Conceptual Framework” [Comment: YOKOTE Shinji（Keio University）]
●Session 5 Chair: HIRAI Tomoyoshi（Hiroshima City College） Frank PFETSCH（Heidelberg University）“Negotiating the European Union with Particular Reference to EU-Bodies / Assemblies” [Comment: ITO Takayuki（Waseda University）]
●Session 6 Chair: YOSHIKAWA Yoko（Kyoto Industrial University） Gunnar SJOSTEDT（Swedish Institute for International Affairs） “Conditions for Leadership in Multilateral Negotiation” [Comment: TSUMORI Shigeru（Osaka University）]
●Session 7 Chair: ONO Yoshihiko（Hokkaido University） Guy O. FAURE（Sorbonne University）“Cultural Aspects of International Negotiation” [Comment: SUZUKI Tadashi（The University of Tokyo）]

●Session 8 Chair: TAKAHASHI Kazuo（Hoso University） Peter BERTON（University of Southern California）“Culture, Communication, Negotiation: China the Soviet Union / Russia, and Japan” [Comments: KONDO Shigenori（International Osaka University）, KASAYA Kazuhiko（Nichibunken）]
●Session 9 Chair: KIMURA Hiroshi Michael BLAKER（University of Southern California）“Negotiating on Rice: ‘No, No, A Thousand Times, No”” [Comments: IOKIBE Makoto（Kobe University）, SUDO Shinji（Kyoto Industrial University）]
●Session 10 Chair: AOYAMA Megumi（Keidanren） John GRAHAM（University of California）“International Commercial Negotiations: A Focus on Japan” [Comment: HAKAMADA Shigeki（Aoyama Gakuin University）]
【公開講演会】 1996年8月30日　日文研ホール 木村汎（日文研教授）「交渉と文化」 ピーター・バートン（南カリフォルニア大学教授）「日本式交渉はユニークか？」
【報告書】 国際研究集会報告書第11-A集（1998年3月）

第11回
【開催日・会場】 1996年9月25日～28日　日文研
【テーマ】 日本人の起源：学際的展望 Interdisciplinary Perspectives on the Origins of the Japanese
【研究代表者】 尾本恵市（日文研教授）
【国際研究集会】 参加者41人（国内30人　国外11人）
●Session 1　Molecular Anthropology Chair: SAITO Naruya（National Institute of Genetics） Speakers: JIN Feng（Academia Sinica）“Population genetic studies on the Chinese” Antonio TORRONI（Universita “La Sapienza”）“The classification of European mtDNA variation in nine major haplogroups. Implications for the origin of Europeans and mtDNA disease studies.” OTA Hiroki（The University of Tokyo）“Ancient DNA: A new strategy for studying population history” Discussant: HORAI Satoshi（National Institute of Genetics）
●Session 2　Morphological Anthropology Chair: WU Xinzhi（Academia Sinica） Speakers: LIU Wu（Academia Sinica）“The dental morphology and continuity of prehistoric and historic humans of China” Michael PIETRUSEWSKY（University of Hawaii）“Multivariate craniometric investigations of Japanese, Asians, and Pacific Islanders” Peter BROWN（University of New England）“The first modern East Asians?: Another look at Upper Cave 101, Liujiang and Minatogawa 1” Discussant: MIZOGUCHI Yuji（National Science Museum）
●Session 3　Ethnprehistory Chair: AKAZAWA Takeru（Nichibunken）

Speakers:
KOYAMA Shuzo (National Museum of Ethnology) “Rethinking of the Jomon period—Excavations of the Sannai-Maruyama site”
NAKAHASHI Takahiro (Kyushu University) “Transition from the Jomon to the Yayoi period in the Northern Kyushu and Yamaguchi region as viewed from ritual tooth ablation and skeletal morphology”
SATO Yo-ichiro (Shizuoka University) “Origin and dissemination of cultivated rice in Asia”
Discussant: TAKAMIYA Hiroto (Sapporo University Women’s Junior College)
●Session 4 Archaeology 1
Chair: SAHARA Makoto (National Museum of Japanese History)
Speakers:
IM Hyo-jai (Seoul National University) “New discoveries in the Korean Neolithic archaeology”
KANASEKI Hiroshi (Tenri University) “Origins of agriculture in Japan”
TSUDE Hiroshi (Osaka University) “Homogeneity and regional variability in cultures of the Kofun period”
Discussant: IKAWA-SMITH Fumiko (McGill University)
●Session 5 Archaeology 2
Chair: YOSHIZAKI Masakazu (Seishu Women’s University)
Speakers:
MATSU’URA Shuji (Ochanomizu Women’s University) “A chronological review of Pleistocene human remains from the Japanese archipelago”
Biran CHISHOLM (University of British Columbia) “Reconstructing prehistoric Japanese diet using stable isotopic analysis”
Mark HUDSON (Okayama University) “Japanese and Austronesian: An archaeological perspective on the proposed linguistic links”
Discussants: KITAGAWA Hiroyuki (Nichibunken) ,
KOIKE Hiroko (Kyushu University)
●Session 6 Linguistics
Chair: AOKI Kenichi (The University of Tokyo)
Speakers:
William WANG (City University of Hong Kong) “Exploration in the origins of the Japanese language”
SAKIYAMA Osamu (National Museum of Ethnology) “Is Japanese an isolated, or Altaic language?”
INOUE Fumiko (Tokyo University of Foreign Studies) “Isolated dialectal forms and language substratum in Japanese”
Discussant: OGURA Mieko (Tsurumi Women’s Junior College)
●Session 7 General Discussion
Chair: OMOTO Keiichi
Speakers / Discussants:
SENDA Minoru (Nichibunken) “Japanese culture and the ocean people”
MURAYAMA Satoshi (Kagawa University) “Regional customs in Japan and regional identity in Germany: From the dual structure model to comparative socio-economic history”
●Session 8 The Jomon Culture
Chair: KOYAMA Shuzo
Speakers:
MORIKAWA Masakazu (Chukyo Women’s University) “Torihamashell mound”
AKAZAWA Takeru “Regional variation in Jomon hunting-fishing-gathering societies”
Richard MACNEISH (Andover Foundation for Archaeological Research) “A Paleolithic-Neolithic sequence from South China, Jiangxi Province, PRC”

【公開講演会】「日本人の起源はどこまでわかったか」
1996年9月27日 日文研ホール
尾本恵市 (日文研教授)「二重構造説の発展」
韓炳三 (前韓国国立中央博物館長)「韓国からの視点」
王巍 (中国社会科学院助教授)「中国からの視点」
井川スミス・史子 (マックギル大学教授)「世界からの視点」
【報告書】
国際研究集会報告書第11-B集 (1999年3月)
特別開催〈創立10周年記念国際研究集会〉
【開催日・会場】
1997年10月16日～18日、11月12日～13日 日文研
【テーマ】
日本における宗教と文学
Religion and Literature in Japan
【研究代表者】
鈴木貞美 (日文研教授)
【国際研究集会】
参加者59人 (国内46人 国外13人)
●公開パネルセッション 西行
司会: 上垣外憲一 (日文研)
パネリスト: 岡野弘彦 (歌人／國學院大學)「『もののふ』の歌の系譜と西行」、高橋英夫 (文芸評論家)「西行の老いについて」、中西進 (大阪女子大学)「和歌と身体—西行をめぐって—」、光田和伸 (日文研)「西行—歌の自由—」
●セッション1 日本人とキリスト教
座長: 鈴木貞美 (日文研)
井上章一 (日文研)「日本人とネストリアン」、エンゲルベルト・ヨリッセン (京都大学)「16世紀カトリックの不寛容主義とルイス・フロイスの文学」、スザンネ・フォルマネク (ウィーン大学)「エロスにかかわる不浄観と宗教—仏教とキリスト教—」
討論者: 山折哲雄 (日文研)、久野昭 (中京女子大学)、エルンスト・ロコバンド (東洋大学)、ジョン・グリーン (ロンドン大学)、王勇 (杭州大学)
●セッション2 宗教とエロス
座長: 白幡洋三郎 (日文研)
小松和彦 (日文研)「禁忌としての性愛」、鈴木貞美 (日文研)「神道とエロスの解放—本居宣長と岩野泡鳴のナショナリズム—」、ウィリアム・ラフルーア (ペンシルバニア大学)「エロスとその子達—日本人の歴史から学ぶ—」
討論者: 芳賀徹 (大正大学)、中村生雄 (大阪大学)、アンドリュウ・ガーストル (ロンドン大学)、イアン・リーダー (デンマーク北欧アジア研究所)、ツベタナ・クリステワ (中京女子大学)、アンヌ・バヤール＝サカイ (リール第3大学)、リース・モートン (ニューキャッスル大学)、セシール・サカイ (パリ第7大学)
●ミニ・シンポジウム
「日本における宗教と文学」
座長: 鈴木貞美 (日文研)、上垣外憲一 (日文研)
スミエ・ジョーンズ (日文研)「20世紀末の日本文化において『宗教』とは何か、『文学』とは何か」、ヘルベルト・ブルチョウ (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)「文学起源論・西洋と日本」、高橋亨 (名古屋大学)「源氏物語の『もののけ』と心的遠近法」、マリエレン・トマン・モリ (サンタクララ大学)「哀れなコアラと寄生するカイワレ—安部公房のカンガルノートにおける夢想構造—」、リース・モートン (ニューキャッスル大学)「内なるマブイー—大城立裕の『厨子瓶』(ずしがめ、1986年)—」、メリンダ・タケウチ (スタンフォード大学)「絵師名の権力: 江戸時代における土佐光信の名の威光」、早川閑多 (日文研)「蕪村絵画の宗教性—雅俗論をめぐって—」
討論者: マリエレン・トマン・モリ、リース・モートン、ヘルベルト・ブルチョウ、メリンダ・タケウチ、高橋亨、スミエ・ジョーンズ、金禹昌 (日文研)、ロイヤル・タイラー (日文研)、鶴田欣也 (日文研)、ヤン・シコラ (日文研)、リヴィア・モネ (日文研)、井波律子 (日文研)、小松和彦 (日文研)、稲賀繁美

(日文研)、早川閑多、光田和伸 (日文研)
フリー・ディスカッション
発題者: 河合隼雄 (日文研)
【公開講演会】
1997年10月18日 日文研ホール
河合隼雄 (日文研所長)「遠藤周作の文学と宗教」
ジャン＝ジャック・オリガス (フランス国立東洋言語文化研究所教授)「生き地獄、そして花—明治時代の散文にあらわれた宗教と文学の関わりあい、考察と仮説—」
【報告書】
創立10周年記念国際研究集会報告書 (1999年11月)
第12回
【開催日・会場】
1998年1月12日～17日 日文研
【テーマ】
比較の観点からみた日本文明
Japan in a Comparative Perspective
【実行委員長】
園田英弘 (日文研教授)
【国際研究集会】
参加者20人 (国内7人 国外13人)
●Special Lecture
Theda SKOCPOL (Harvard University)“The Frontiers of Historical Sociology”
●Session 1 Public Lectures (Auditorium) [公開講演会]
●Session 2 Civilizational encounters: The Japanese encounter with Buddhism and Confucianism in a comparative perspective
SONODA Hidehiro (Nichibunken) “The Way of Approaching Japan”
Ian READER (Nordic Institute of Asian Studies) “Ready Assimilation: Buddhism and Japanese Religion”
TACHIKAWA Musashi (National Museum of Ethnology) “On the Introduction of Buddhist Thought to Japan”
●Session 3 Feudalism and trasition to modernity
Bjorn WITTROCK (Swedish Collegium for Advanced Study in the Social Sciences) “Understanding the Formation of Modernity: Institutional Change and Intellectual Transformations in Comparative Perspective”
ISHII Shiro (Nichibunken) “Feudalism and ‘Ie’ in Japan”
ISHIDA Takeshi (The University of Tokyo) “Creating Modern Japan as a Cultural Unit”
YOSHINO Kosaku (The University of Tokyo) “From <i>Ethnie</i> to Nation: Theoretical Reflections on Nationalism”
●Session 4 Multiple modernities: Japanese modernity in a comparative perspective
Johann P. ARNASON (La Trobe University) “Comparative Perspective on Japanese Modernity”
Raymond GREW (Michigan University) “Comparing Modern Japan: Is There Anything Left to Do?”
BEFU Harumi (Kyoto Bunkyo University) “Globalization of Japan: Its Implication for the Globalization Model”
KAWAKATSU Heita (Waseda University) “Japanese Economic Revolution vs. the Western Experience in Relation with Asia”
●Session 5 Japan in the contemporary world: A variety of forms of globalization
KARIYA Takehiko (The University of Tokyo) “Japan’s Postwar Experiences in Education and Labor Market: Rapid Industrialization and Roles of Institutional Linkages”
●General Discussion

Chair: Selcuk ESENBEL (Bosphorus University)
●General Discussion (at the Kyoto Royal Hotel)
【公開講演会】
1998年1月12日 日文研
S. N. アイゼンシュタット (ヘブライ大学名誉教授)「枢軸文明と非枢軸文明—比較史的展望から見た日本の歴史的体験—」
上山春平 (京都市立芸術大学長)「日本文明のオリジナリティー」
【報告書】
国際研究集会報告書第12集 (1999年11月)
特別開催〈日欧シンポジウム〉
【開催日・会場】
1998年6月10日～12日 日文研
【テーマ】
日本の知恵・欧州の知恵
Japanese Wisdom—European Wisdom Today
【研究代表者】
石井紫郎 (日文研教授)
●オープニングセッション
司会: 柏岡富英 (京都女子大学)
講演: マーク・ルイクス (欧州委員会) “Collective and Individual Priorities for the 21st Century. Rediscovery of Identity in a Rapidly Changing Society.”
●セッション1 働くことと生きること—歴史の視点から—
司会: 石井紫郎 (日文研)、佐藤彰一 (名古屋大学)
ジャン＝クロード・シュミット (社会科学高等学院)「歴史家と図像 (L’historien et les images)」
黒田日出男 (東京大学)「絵画史料にみる中世人の生きざま」
ヒトミ・トノムラ (ミシガン大学) “Femeale Labor in Premodern Japan”
ボリーヌ・シュミット＝バンテル (パリ第1大学)「公民儀礼としての古代ギリシャの宴 (Les Banquets en Grece Antique: un Rituel Civique)」
金子裕之 (奈良国立文化財研究所)「古代貴族の宴—長屋王の館の中で—」
●特別講演
司会: 柏岡富英、宮坂裕夫 (元ベルギー日本人会会長)
挨拶: オヴ・ジュール＝ヨルゲンセン (在HEU大使)
講師: 三好正也 (経済広報センター) “Impact of Globalization on Japan’s Industrial Society”
●セッション2 労働と存在の未来
第1部
司会: オヴ・ジュール＝ヨルゲンセン
フランソワーズ・シュヴェニッケ (Delvaux) “Change in Perception of Work Value”
須網隆夫 (早稲田大学) “Competitiveness, Expansion for Working Age and Diversification of Work”
ジョン・サージェント (SOAS) “Japanese Employment Systems, Past and Present”
ディスカッション
第2部
司会: 島崎博 (日文研)
ダイアナ・ブリッタン (E.C. コンサルタント) “Women in the Decision Making Process”
落合恵美子 (日文研) “Gender and Family in Post-Second War Japan”
マリー・ストームス (デザイナー) “The Working Environment Favorable to Creativity”
ディスカッション
●クロージングセッション
総括的提言: ダイアナ・ブリッタン、佐藤誠三郎 (政策研究大学院大学)
【公開講演会】
1998年6月10日 日文研

(Australian National University), YAHARA Tetsukazu (Kyushu University)
●Mate Choice Based on Physical Characteristics
IHARA Yasuo (The University of Tokyo) “Mate Choice and MHC”
Devendra SINGH (University of Texas) “Waist-to-Hip Ratio: An Indicator of Female Mate Value”
HASEGAWA Mariko (Waseda University) “Reevaluation of the Role of Fluctuating Asymmetry in Human Attractiveness”
Discussion
Chairperson: David C. WAYNFORTH (University of New Mexico)
Discussants:
Geoffrey MILLER (Institute of Economics and Social Evolution), ODA Ryo (Nagoya Institute of Technology), TOKUNAGA Katsushi (The University of Tokyo), Frank MARLOWE (Harvard University), A. C. LITTLE, David I. PERRETT, I. S. PENTON-VOAK, D. M. BURT (University of St. Andrews) “Facial Preferences: Influences of Personality and Parents”
Gillian RHODES (University of Western Australia), Jamin HALBERSTADT (University of Otago) “Facial Attractiveness: Preferences and Possible Evolutionary Mechanisms”
Discussion
Chairperson: YOSHIKAWA Sakiko (Kyoto University)
Discussants:
John HARRIS (University of Otago), INOUE Shoichi (Nichibunken), Duncan CASTLES (The University of Tokyo), KATAYAMA Kazumichi (Kyoto University), Frank MARLOWE (Harvard University)
●Prehistoric Marital Networks
Joseph EZZO (University of Arizona) “Mobility, Migration, and Social Dynamics at Grasshopper Pueblo, Arizona, A.D. 1275～1400”
Henry SCHWARCZ (McMaster University) “Tracing Human Migration with Stable Isotopes of Bones and Teeth”
OTA Hiroki (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology / The University of Tokyo), KITANO Takashi (National Institute of Genetics), Feng JIN (Chinese Academy of Sciences), YUASA Isao (Tottori University), Li WANG (Chinese Academy of Sciences), UEDA Shintaroh (The University of Tokyo), SAITŌ Naruya (National Institute of Genetics), Mark STONEKING (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology) “Low Between-Population Differentiation in Asian Material Lineages”
Discussion
Chairperson: Gina Lee BARNES (Durham University)
Discussants:
YONEDA Minoru (National Institute for Environmental Studies), Mark HUDSON (Tsukuba University), SUGITŌ Shigenobu (Sugiyama Women’s University), Richard VILLEMS (University of Tartu), Robert FOLEY (University of Cambridge), TAKAMURA Tamio (Osaka Industrial University)
Mark STONEKING (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology) “DNA and Recent Human Evolution”
Marcel OTTE (University of Liege) “Cultural Transmission between Neanderthals and Modern Humans in Europe”
Jean-Jacques HUBIN (Université de Bordeaux 1) “Did Neandertals Interbreed with Modern Humans?”
Discussion
Chairperson: Pavel DOLUKHANOV (University of Newcastle)
Discussants:
KONDO Osamu (The University of Tokyo), ISHDA Hajime (Ryukyu University), Paul B. PETTITT (University of Oxford), Richard

VILLEMS (University of Tartu)
【公開講演会】「異性の魅力―サルからヒトそして光源氏の世界まで―」
2000年11月22日 日 文 研
榎本知郎 (東海大学医学部助教授)「ヒトの性行動の進化 ―霊長類との比較から―」
河合隼雄 (日文研所長)「デジタル紫マンダラ ―図像でみる源氏物語の構図―」
【報告書】
国際研究集会報告書第16集 (2002年3月)
第17回
【開催日・会場】
2001年2月19日～22日 日 文 研
【テーマ】
中国に伝存の日本関係典籍と文化財
Survey on Japanese Documents and Cultural Properties Found in China
【研究代表者】
笠谷和比古 (日文研教授)
【国際研究集会】
参加者44人 (国内33人 国外11人)
Chairman：蔣立峰 (中国社会科学院)
Co-Chairman：加藤善朗 (日文研)
池田温 (創価大学)「楊守敬将来資料管見」
陳捷 (日本女子大学)「黎庶昌とその古典籍の蒐集について」
唐剛卯 (湖北省博物館)「鄒蘇園の蔵書目録及びその研究」
王宝平 (浙江大学)「浙江省に伝存の日本関係文献」
歌野博 (北陸先端科学技術大学院大学)「南京図書館所蔵日本古典籍の現況」
コメント：葛劍雄 (復旦大学)
Chairman：池田温
Co-Chairman：雷国山 (南京大学)
大庭脩 (皇學館大学)「日本伝存漢籍の選流について」
横山邦治 (大連外国語学院)「大連図書館の満鉄資料その他」
戦曉梅 (日文研)「中国東北地方における日本典籍」
田桓 (桐蔭横浜大学)「遼寧檔案館の日本関係資料」
Chairman：平木實 (天理大学)
Co-Chairman：唐權 (日文研)
笠谷和比古 (日文研)「台湾における日本関係典籍の所在」
宮崎修多 (成城大学)「台湾総督府旧蔵書の概要」
谷井俊仁 (三重大学)、伍羅 (京都大学)「福建省の調査」
多田伊織 (白鳳女子短期大学)「中国西南地域と香港の日本書の状況について」
石塚晴通 (北海道大学)「在中国仏典日本古写本」
コメント：張曉敏 (上海古籍出版社)
Chairman：頼富本宏 (日文研)
Co-Chairman：王克非 (北京外国語大学)
上垣外憲一 (帝塚山学院大学)「黄遵憲記念館所蔵の日本漢籍について」
孫容成 (京都大学)「中国科学院所蔵の日本漢籍について」
劉曉路 (東京芸術大学)「中国に秘蔵された日本芸術品」
Chairman：劉建輝 (日文研)
Co-Chairman：馮錦榮 (香港大学)
コメント：傅璇琮 (清華大学)
【公開講演会】
2001年2月22日 日 文 研
笠谷和比古 (日文研教授)「中国に伝存する日本関係文書と典籍」
王宝平 (浙江大学日本文化研究所副所長)「中国図書館所蔵の日本関係図書について」
王勇 (国文学研究資料館客員教授)「シルクロードとブックロード」

【報告書】
国際研究集会報告書第17集 (2002年3月)
第18回
【開催日・会場】
2001年11月26日～30日 日 文 研
【テーマ】
聖なるものの形と場
Figures and Places of the Sacred
【研究代表者】
頼富本宏 (日文研教授)
【国際研究集会】
参加者83人 (国内70人 国外13人)
座長：Tadeusz SKORUPSKI (ロンドン大学)
Tadeusz SKORUPSKI “Remarks on the Three Opening Lectures”
韓金科 (法門寺博物館)「法門寺唐代地宮佛舍利供養曼荼羅」
座長：笠谷和比古 (日文研)
彭金章 (敦煌研究院)「敦煌密教図像概述」
田中公明 (東方研究会)「チベットにおける『大日経』と胎藏曼荼羅の資料について」
座長：洪潤植 (ソウル国楽芸術高等学校)
早川開多 (日文研)「江戸絵画における『聖』と『俗』」
Patricia FISTER (日文研) “From Sacred Leaves to Sacred Images: Gen’yo-ni’s Practice of Making and Distributing Miniature Kannon Statues”
津田徹英 (東京文化財研究所)「中世真宗における聖徳太子図像の受容と展開」
座長：Pal Sheldon GRONER (バージニア大学)
石塚晴通 (北海道大学)「聖教の形と場―敦煌及び日本の古写・刊本―」
SHASHIBALA (国際インド文化学院) “Figures of Six Existences and Eight Dhyanas”
座長：宇野隆夫 (日文研)
Jean-Noel ROBERT (フランス高等学院) “From Jien to Son.en: The Poetical Sacralization of Landscape and Language”
安嶋紀昭 (広島大学)「画像による空間の聖別―鶴林寺太子堂内部の荘厳画―」
座長：竹内信夫 (東京大学)
落合仁司 (同志社大学)「聖なるものの数学的な形」
小田淑子 (関西大学)「イスラームにおける聖と日常」
Pol VANDEN BROUCKE (ゲント大学) “The Stupa in Shingon Buddhism: A Three-dimensional Representation of the Ultimate Realty”
座長：星野英紀 (大正大学)
田中智彦 (岐阜聖徳学園大学)「日本における諸巡礼の発達」
SHIMAZAKI Hiroshi (レスブリッジ大学) “Sketching as a Tool for Understanding Sacred Places”
座長：稲賀繁美 (日文研)
千田稔 (日文研)「聖なる場としての国家領域―『神国』意識の成立と展開―」
Kalpakam SANKARNARAYAN (ソーマイヤ仏教研究所) “Pilgrimage to Gaya/Bodh-Gaya (Buddha-Gaya)”
座長：森雅秀 (金沢大学)
井狩彌介 (京都大学)「ヴェーダ祭式の祭火とその象徴思考について」
総括討論 座長：頼富本宏
【公開講演会】
2001年11月26日 日 文 研
頼富本宏 (日文研教授)「威力を生み出す力と場」
サミュエル・モース (アーマスト大学教授)「古代日本のやすらぎの聖地」
立川武蔵 (国立民族学博物館教授)「聖なるものの形とマンダラ」
【報告書】

国際研究集会報告書第18集 (2003年3月)
第19回
【開催日・会場】
2002年1月10日～13日 日 文 研
【テーマ】
女性相続の論理―世界史的視野で家父長制と父系制を再考する―
The Logic of Female Succession: Rethinking Patriarchy and Patrilineality in Global and Historical Prespective
【研究代表者】
落合恵美子 (日文研助教授)
【国際研究集会】
参加者61人 (国内51人 国外10人)
Antoinette FAUVE-CHAMOUX (EHES) “Female Transmission in a Comparative Perspective”
Marie-Pierre ARRIZABALAGA (University of Cergy-Pontoise) “Female Primogeniture System in the French Basque Country”
Martin DRIBE and Christer LUNDH (Lund University) “Gender Aspects of Inheritance Strategies and Land Transmission in Rural Scania, Sweden, 1720～1840”
Beatrice MORING (University of Essex) “Property and Power: Women and the Holding and Transmission of Assets”
Richard WALL (University of Essex) “The Economic Hardship of Widowhood: Some Perspectives on the Standard of Living of English Widows 1600-1900”
Peter BASKERVILLE (University of Victoria) “The Economic Impact of Heiresses, a Canadian Comparative Study: Victoria, B.C. and Hamilton, Ontario, 1871-1901”
Patricia UBEROI (University of Delhi) “Kinship Varieties and Political Expediency: Legislating the Family in Post-Independence India”
Gopinath RAVINDRAN (Jamia Millia Islamia University, LSE)
“Inheritance, Property Control and Marriage in Colonial South-west India: The Case of Matrilineal Nayars, Kerala, India”
橋本泰子 (四国学院大学)「伝統法下のタイ社会における家族制度と女性の相続権」
李卓 (南開大学)「史籍から見た中国の贅婿：中国女性の地位に関連して」
嶋陸奥彦 (東北大学)「朝鮮時代後期の戸の構成とその変化：女性構成員の視点から」
Mary Louise NAGATA (EHES) “Headship and Succession in Early Modern Kyoto”
山本準 (鳴門教育大学)「姉家督：その起源を探る」
●総括討論
討論者：Tamara HAREVEN (University of Delaware)
Solvi SOGNER (University of Oslo)
落合恵美子 (日文研)
【公開講演会】「東の『家』・西の『家』：日欧直系家族における女性の役割」
2002年1月12日 日 文 研
アントワネット・フォーブ＝シャムウ (フランス社会科学高等研究院研究員)
「ビレネー地方の直系家族と女性―ヨーロッパにおける『家』―」
落合恵美子 (日文研助教授)「『家』は日本文化か」
【報告書】
国際研究集会報告書第19集 (2003年1月)
第20回
【開催日・会場】
2002年9月24日～28日 日 文 研
【テーマ】
アングロサクソン文明とアジア

Asia in the Age of Pax Britannica and Pax Americana	(Research Institute of Economy, Trade and Industry)	(東アジアの古代を考える大阪の会)	Abdul-Karim RAFAQ (The College of William and Mary)「王制・カリフ制・スルタン制—シリアはなぜ1920年に王制を選択したか—」
【研究代表者】	【公開講演会】「近代世界の形成—イギリスの役割・日本の役割—」	SHIMAZAKI Hiroshi(University of Lethbridge, Canada)「マカオ：世界史への門戸」[Commentator：野間晴雄(関西大学)、Chair：千田稔]	[Commentator：三木亘(慶應義塾大学)、佐藤次高(東京大学)]
川勝平太(日文研教授)	2002年9月26日 日文研	邢基柱(東国大学校)「朝鮮時代と日本植民地時代のソウル」	Chair：蒋立峰、Timothy D. KERN
【国際研究集会】	ピーター・マサイアス(ケンブリッジ大学ダウニングカレッジ元学長・教授)	[Commentator：松田利彦(日文研)、Chair：渋谷鎮明(中部大学)]	井上浩一(大阪市立大学)「ローマ皇帝からビザンツ皇帝へ—ビザンツ皇帝の即位形式—」
●Session	「近代世界の形成とイギリス」	崔基燁(誠信女子大学校)「近代的発展の表象としてのソウル：その成長と景観」[Commentator：岩鼻通明(山形大学)、Chair：渋谷鎮明]	[Commentator：南川高志(京都大学)、谷井俊仁(三重大学)]
Co-chairman: KAWAKASTU Heita (Nichibunken)	ルイ・カレン(ダブリン大学トリニティカレッジ教授／日文研外国人研究員)	朴海玉(東国大学校)「釜山の都市プランの変遷」	Chair：Willy VANDE WALLE (Catholic University of Lueuven)、加藤善朗(種智院大学)
Co-chairman: A.J.H. LATHAM (University of Wales, Swansea)	「近代アジアの形成と日本」	[Commentator：金徳鉉(慶尚大学校)、Chair：西岡尚也(琉球大学)]	渡辺浩(東京大学)「儒教の『礼』と武家の『作法』—徳川将軍を中心として—」
Honorary Guest: TSUNOYAMA Sakae (Wakayama University)	【報告書】	●総括討議	[Commentator：平木實、磯田道史(慶應義塾大学)、根津寿夫(徳島市立徳島城博物館)]
KITA Masami (Soka University) “Historical process of the Japanese acquisition of modern maritime technology from the United Kingdom—A transformation of a feudal island to Britain of the East”	Intra-Asian Trade and the World Market (Routledge、2006年1月)	Discussant：秋山元秀、小島泰雄(神戸外国語大学)、渋谷鎮明、菅谷文則(滋賀県立大学)	Chair：Willy VANDE WALLE、加藤善朗
MIYATA Toshiyuki (Tenri University) “Rice Business Networks between Singapore and Siam in the Late 19th Century: The Export of Siamese ‘Garden Rice’ and the Actives of Tan Kim Ching”		Chair：千田稔	全体討議
MATSUSHIMA Yasukatsu (Tokai University) “Outsiders to pacific islands? with special reference to Okinawa”	第21回	【公開講演会】	●第3部 貴族とは何か
Huong HA (Technology Management Centre, Singapore)	【開催日・会場】	2002年12月12日 日文研	討論「貴族とは何か」
“E-Commerce and regulations in Singapore”	2002年12月9日～12日 日文研	千田稔(日文研教授)「都城の死と再生—遷都・遷宮について—」	問題提起：鷹谷寿(同志社女子大学)、池田温(創価大学)、江川温(大阪大学)
Javier CUENCA (University of Waterloo) “British transfers from India and British profits on the India trades, 1772-1809”	【テーマ】	ユン・ホンギ(オークランド大学教授)「都市と風水」	Chair：Drew GERSTLE (The University of London)、横谷一子(近畿大学豊岡短期大学)
Tas-Woo LEE (Korea Maritime University) “A Strategy for Ports under Structural Changes in Transport Logistics in the 21st Century”	東アジアの都市形態と文明史	王仲殊(中国社会科学院考古研究所教授)「唐長安城および洛陽城と東アジアの都城」	●第4部 封建制度と官僚制度
A. J. H. LATHAM “ <i>The Rangoon Gazette</i> and Inter-Asian competition in the International Rice Trade, 1920～1914”	Urban Morphology and the History of Civilization in East Asia	【報告書】	報告・討論
YOMODA Masafumi (Waseda University) “Shifting Patterns of Multilateral Settlements in Asia-Pacific Regions in the 1930s”	【研究代表者】	国際研究集会報告書第21集(2004年1月)	Yves SASSIER (Universite de Paris-Sorbonne) 「9～12世紀、フランスにおける王政、貴族政治、会議政治」
Bogac ULKER (Graduate University for Advanced Studies) “Raffles’ Perception of Japan, with special references to Pax-Britannica”	千田稔(日文研教授)		[Commentator：西川洋一(東京大学)、平田茂樹(大阪市立大学)]
KUSAMITSU Toshio (The University of Tokyo) “How the Japanese saw the Anglo-Japanese Alliance”	【国際研究集会】		Chair：頼富本宏(種智院大学)、Bogac ULKER (日文研)
KITAGAWA Katsuhiko (Kansai University) “Encounter between British and Japanese Imperialism in the Congo Basin”	参加者82人(国内63人 国外19人)		上横手雅敬(皇學館大學)「日本中世における文人政治と武人政治」
●Young Researcher’s Session (I)	●Session1 中国文明と都市		[Commentator：源城政好(前宇治市歴史資料館)、安元稔(駒澤大学)]
SHIMADA Ryuto (Leiden University) “Asia in the Pax Tokugawana: Japanese Copper Trade by the Dutch East India Company”	Lothar VON FALKENHAUSEN(UCLA)「帝政中国以前の都市の考古学に関する20の論点」		Chair：頼富本宏、Bogac ULKER
TSUJI Chisako (Josai University) “Introduction of American Cotton into Asia under the Development of the Asian Cotton Industry”	[Commentator：佐々木憲一(明治大学)、Chair：千田稔]		鈴木董(東京大学)「オスマンの家産官僚制とティマール制」
KUME Takashi (The University of Tokyo) “Intra-Asian Competition on the Markets for Sugar, 1890s-1930s”	王守春(中国科学院)「中国における歴史的都市の中心軸の構造と都市形態」[Commentator：千田稔、Chair：佐々木憲一]		[Commentator：谷口昭(名城大学)、藤井譲治(京都大学)]
TAKAHASHI Chikashi (Waseda University) “Intra-Pacific Competition in the Marlets for Furs in the 18th and 19th Centuries”	朱士光(陝西師範大学)「西安の都市的発展と歴史的文化的変遷」		Chair：Selcuk ESENBEL (Bogazici University)、辻垣晃一(日文研)
●Young Researcher’s Session (II)	[Commentator：黄曉芬(東亜大学)、Chair：宇野隆夫(日文研)]		Anthony POLLARD (University of Teesside) 「バスタード封建制の再考察：イギリス北東部のケース」
[Commentator: INOSE Kumie (Konan University)]	朴方龍(国立慶州博物館)「慶州の都城プランの成立」		[Commentator：朝治啓三(関西大学)、井内太郎(広島大学)]
MUTO Shutaro (Graduate University for Advanced Studies)	[Commentator：東潮(徳島大学)、Chair：佐野静代(滋賀大学)]		Chair：Selcuk ESENBEL、辻垣晃一
“Taguchi Ukichi’s Views on Free Trade”	関徳植(韓国国史編纂委員会)「高句麗平壤城の都市形態と設計」		全体討議
MITA Takeshi (Waseda University) “Japanese and Chinese Communists’ Views on John Ruskin”	[Commentator：田中俊明(滋賀県立大学)、Chair：東潮]		●第5部 思想・宗教・文化
HAMADA Yo (Nichibunken) “Japanese Religious Trends in the Age of Pax Britannica and Pax Americana: A Look at <i>Chapel Weddings</i> and Japanese Christianity”	金子裕之(奈良文化財研究所)「平京城における長安の影響」		報告・討論
●Young Researcher’s Session (III)	[Commentator：木原克司(鳴門教育大学)、Chair：高橋徹(滋賀県立大学)]		Francois MACÉ (National Institute of Oriental Language and Civilization) 「江戸時代の政治：イデオロギー制度における神道の地位—吉田神道の場合—」
KANEKO Shinsuke (Yokohama City University) “Intra-Asian Competition in the World Markets for Silks, 1859-1941”	●Session2 都市プランの変容と政治的営力		[Commentator：原田正俊(高野山大学)、加藤善朗]
Soo-Yoon LEE (Leiden University) “Rival Merchants: Korean Market in the Late Nineteenth Century”	鄭在書(梨花女子大学)「苑囿：帝国の叙事空間—漢賦でのアイデンティティと多声性—」[Commentator：金子裕之、Chair：千田稔]		Chair：名和修(陽明文庫)、Marjan BOOGERT
●Closing Session	朴淳発(忠南大学校百済研究所)「泗泚都城」		李成茂(Academy of Korean Studies)「朝鮮王朝における両班の地方支配と朱子学的村落規範」
Free Discussants: MATSUBARA Masatake (National Museum of Ethnology), MOTONOEiichi (Waseda University), TOYA Riina	[Commentator：亀田修一(岡山理科大学)、Chair：山近久美子(防衛大学校)]		[Commentator：Selcuk ESENBEL、三谷博(東京大学)]
	魏存成(吉林大学)「渤海都城の布局、発展および隋唐長安城との関係」		Chair：高木侃(専修大学)、Emilia GADELEVA (四国大学)
	[Commentator：小方登(京都大学)、Chair：高橋誠一(関西大学)]		Richard W. KAEUPER (University of Rochester) 「騎士道の武力と宗教的安定策」
	唐曉峰(北京大学)「明清北京城の帝都景観」		[Commentator：平山朝治(筑波大学)、Alexander BENNETT (日文研)]
	[Commentator：金坂清則(京都大学)、Chair：溝口常俊(名古屋大学)]		Chair：高木侃、Emilia GADELEVA
	陳橋駅(浙江大学)「先秦時代と秦漢時代の杭州」		全体討議・シンポジウム総括
	[Commentator：愛宕元(京都大学)、Chair：秋山元秀(滋賀大学)]		Chair：Willy VANDE WALLE、森田登代子(樟蔭東女子短期大学)
	Kristin STAPLETON(The University of Kentucky)「城門の外—清と中華民国初期の郊外—」		【公開講演会】
	[Commentator：徐蘇斌(東京造形大学)、Chair：愛宕元]		2003年3月15日 日文研ホール
	滝浪貞子(京都女子大学)「平安京と京都」		郭斉勇(武漢大学人文科学院長)「中国周代の儀礼と王権」
	[Commentator：森洋久(日文研)、Chair：青木淳(高知女子大学)]		リチャード・ケウパー(ロチェスター大学教授)「騎士道とキリスト教」
	●Session3 都市の近代化と異文明の侵入		
	Alexia BORO(Universita Cà Foscari Di VENEZIA)「『和洋折衷』東京の近代空間を解釈する装置としての明治建築」		
	[Commentator：内田忠賢(お茶の水女子大学)、Chair：宇野隆夫]		
	葛剣雄(復旦大学)「上海：地方小都市から国際的メトロポリスへ」		
	[Commentator：秋山元秀、Chair：劉建輝(日文研)]		
	劉建輝「受け継がれる帝国の記憶—大連近代都市空間の成立とその変遷—」[Commentator：水内俊雄(大阪市立大学)、Chair：松下煌		

【報告書】
国際研究集会報告書第22集（2004年1月）
『国際シンポジウム　公家と武家の比較文明史』（思文閣出版、2005年8月）
第23回
【開催日・会場】
2003年11月18日～22日　日文研
【テーマ】
21世紀の日本武道の行方：過去・現在・未来
The Direction of Japanese <i>Budo</i> in the 21st Century: Past, Present, Future
【研究代表者】
山田奨治（日文研助教授）
【国際研究集会】
●セッション1　武道の思想
鈴木貞美（日文研）「日本武道と大正生命主義：阿波研造の弓道を視点として」[Chair:村山勤治（滋賀大学）、Commentator:フレデリック・クレインス（日文研）]
魚住孝至（国際武道大学）「武道の思想史的研究の課題」[Chair:村山勤治、Commentator:竹田隆一（山形大学）]
William M. BODIFORD(UCLA)「禅と日本剣術の関係についての再考察」[Chair:村山勤治、Commentator:前林清和（神戸学院大学）]
寺山旦中（二松学舎大学）「剣・禅・書と現代」[Chair:前林清和、Commentator:山田奨治]
全体討議　[Chair:前林清和]
●セッション2　武道と理念
阿部哲史（タンカプヤ仏教短期大学）「武道における文化摩擦」[Chair:酒井利信（筑波大学）、Commentator:稲賀繁美（日文研）]
村田直樹（講道館）「術から道へ—講道館柔道の誕生—」[Chair:酒井利信、Commentator:井上俊（甲南女子大学）]
入江康平（筑波大学名誉教授）「理念としての武道—武道の特性から考える—」[Chair:酒井利信、Commentator:榎本鐘司（南山大学）]
羅永一（Seoul University）「韓国社会における武道概念の混乱」[Chair:百鬼史訓（東京農工大学）、Commentator:阿部哲史]
作道正夫（大阪体育大学）「武の文化性—その経緯と理念をめぐって—」[Chair:百鬼史訓、Commentator:藤堂良明（筑波大学）]
全体討議　[Chair:百鬼史訓]
●セッション3　武道と教育
寒川恒夫（早稲田大学）「武道で何を教えるか」[Chair:恵土孝吉（金沢大学）、Commentator:太田順康（大阪教育大学）]
大矢稔（国際武道大学）「剣道教育の中心的課題—技と心の相即に着目して—」[Chair:恵土孝吉、Commentator:大保本輝雄（埼玉大学）]
松井完太郎（国際武道大学）「障害者への武道普及の可能性」[Chair:恵土孝吉、Commentator:豊嶋建広（麗澤大学）]
本村清人（東京女子体育大学）「日本の学校体育における武道」[Chair:松尾牧則（国際武道大学）、Commentator:木村昌彦（横浜国立大学）]
Duncan MARK（専門学校禅林学園）「武道と教育」[Chair:松尾牧則、Commentator:浜田初幸（鹿屋体育大学）]
Karl FRIDAY（Georgia University）「武の道と流派武芸と合戦武術の一考察」[Chair:松尾牧則、Commentator:田中守（国際武道大学）]
全体討議　[Chair:松尾牧則]
●セッション4　武道と国際環境
Richard J. SCHMIDT（Nebraska University）and George H. BRISTOL（USMC）「アメリカ合衆国海兵隊マージナルアーツ・プログラムの開発における日本武道・武術の影響」[Chair:柏崎克彦（国際武道大学）、Commentator:三村由紀（防衛学校）]
David MATSUMOTO（San Francisco State University）「日本における柔道指導のあり方を見直す」[Chair:柏崎克彦、Commentator:中島

たけし（国士舘大学）]
Raymond AMBROSI(<i>Budo</i> Researcher)「民間武術と儀式—経済発展を生き延びる—」[Chair:柏崎克彦、Commentator:王成（日文研）]
Alexander BENNETT（日文研）「剣道の黒船—韓国—剣道の国際普及とオリンピック問題」[Chair:船越正康(大阪教育大学)、Commentator:阿部哲史]
Meik SKOSS(Koryu Books)「海外古流　古流武道・武術を国外に伝える困難」[Chair:船越正康、Commentator:Bittmann HEIKO（金沢大学）]
Danny HAKIM（The Wingate Institute for Physical Education and Sport）「武道の教え—イスラエル・パレスチナ対立の壁を乗り越える—」[Chair:長谷川弘一(会津大学)、Commentator:Alexander BENNETT]
全体討議　[Chair:長谷川弘一]
【公開講演会】
2003年11月22日　日文研ホール
アントン・ヘーシंक（IOC(国際オリンピック委員会)委員）「Paradox of <i>Judo</i> as an Olympic Sport and <i>Judo</i> as Tradition（柔道のパラドックス—オリンピック競技と伝統との間で—）」
山下泰裕（東海大学教授／国際柔道連盟教育コーチング理事）「国際化の時代における柔道の果たすべき役割」
【報告書】
『日本の教育に“武道”を—21世紀に心技体を鍛える—』（明治図書出版、2005年11月）

第24回
【開催日・会場】
2005年2月7日～11日　日文研
【テーマ】
世界の歴史空間を読む—GISを用いた文化・文明研究—
Reading Historical Spatial Information from around the World: Studies of Culture and Civilization Based on Geographic Information Systems Data
【研究代表者】
宇野隆夫（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者50人（国内29人　国外21人）
小方登（京都大学）「衛星画像の考古学・歴史地理学における応用」
山口欧志（中央大学）「弥生時代の集落と文物の時空間動態」
吉田広（愛媛大学）、増田浩太（島根県教育庁古代文化センター）、山口欧志「弥生銅鐸のGIS解析—密度分布と埋納地からの可視領域—」
溝口常俊（名古屋大学）「GISによる近世隠岐の村落景観」
安藤広道（慶応義塾大学）、津村宏臣（東京藝術大学）「東京湾西岸鶴見川・早淵川流域における弥生時代集落遺跡のGIS研究」
塩出徳成（ニューヨーク州立大学バッファロー校）「古代エジプト都市の景観」
Nick RYAN（University of Kent）「文化遺産調査のためのスマートシステム」
Carlos REYNOSO（Universidad de Buenos Aires）「空間分析におけるカオスと複雑系理論の効果—問題と展望—」
津村宏臣「空間統計学的手法による縄文時代人のエコシステムの解説」
森洋久（日文研）「考古学における分散型GISの展開」
伊藤淳史（京都大学）「弥生遺跡のGIS解析—京都府南部地域の事例から—」
安英樹（石川県埋蔵文化財研究センター）「弥生遺跡のGIS解析—石川県の事例から—」
作花一志（京都情報大学院大学）「古代中国王朝の開始と惑星集合」
Clive R. ORTON（University College London）「GISに付加価値を—空間分析の手法と適用—」
Franco NICCOLUCCI（University Florence）「考古学GISアプリケーションの不確実性とその対応」
Kenneth L. KVAMME（University of Arkansas）「GISを用いた考古学モデリング—大規模にも小規模にも—」

Ian JOHNSON（University of Sydney）「アンコール研究：GISとGPS、リモートセンシングと調査データの統合」
Peter JABLONKA（Universitat Tübingen）「考古学におけるGISの応用：トロイの事例」
Juan A. BARCELO（Universitat Autònoma de Barcelona）「考古学の多次元空間分析—GISパラダイムをこえて—」
Maurizio CATTANI（Università degli Studi di Bologna）「GISを利用した考古学研究に対する期待、評価および可能性」
宮原健吾（京都市埋蔵文化財研究所）、臼井正（大阪産業大学）「日本古代の墳墓と都城　—位置と方位を中心として—」[Commentator:齊東方（北京大学考古文博学院）]
酒井英男（富山大学）、岸田徹（富山大学）「電磁気から見る遺跡と遺物の調査」
碓井照子（奈良大学）「遺跡情報のUMLによるモデリング—地理情報標準による海外の遺跡情報の共有化—」
森本晋（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）「遺跡データベースの構築」
李盛周（金陵大学校）、孫徹（金陵大学校）「韓国、新羅加耶地域古墳資料に関するGIS研究」[Commentator:徐光輝（龍谷大学）]
David S. SPRAGUE（農業環境技術研究所）「迅速測図：日本初の近代的測量手法による地形図と関東平野における歴史的土地利用方のGISによる解析」
Maurizio TOSI（Università degli Studi di Bologna）「サマルカンドとゼラフシャン渓谷の歴史の考察：GISと地理学と歴史学におけるシルクロード」
Philip C. BROWN（オハイオ州立大学）「日本における村落の位置、境界とGISの史的研究の考察」
Loren SIEBERT（ア Kron 大学）「GISで見る『江戸—東京—図化と解釈—」
鵜柄俊夫（同志社大学）「平安京と中世の村—遺跡の見方と考え方について—」
齊島雲（中国社会科学院考古研究所）「中国山東省の沐河上流における史前文化の環境考古検討」[Commentator:王震中（中国社会科学院歴史研究所）]
劉建国（中国社会科学院考古研究所）「GISを用いた中国山西省襄汾県における古代集落遺跡の分布と変遷の研究」[Commentator:王震中（中国社会科学院歴史研究所）]
焦南峰（陝西省考古研究所）「ボーリング調査・測量調査から見た前漢陽陵の造営企画」
黄曉芬（東亜大学）「前漢南北中軸線とその象徴性」
難波純子（奈良国立博物館）「商周青銅彝器の広がり—青銅器のGIS解析より—」
【公開講演会】
2005年2月10日　日文研ホール
宇野隆夫（日文研教授）「眺望の日本列島史：GISによる可視領域分析」
ハンス・カマーマンス（ライデン大学シニアレクチャラー）「過去を甦らせる手法を求めて：考古学における予測モデル分析」
矢野桂司（立命館大学教授）「歴史都市京都のバーチャル時・空間」
【報告書】
国際研究集会報告書第24集（2006年6月）
第25回
【開催日・会場】
2005年3月7日～12日　日文研
【テーマ】
旅と日本「発見」—移動と交通の文化形成力—
The “Discovery” of Japan: Travel and Mobility in the Creation of Culture
【研究代表者】
白幡洋三郎（日文研教授）
【オープニング講演会】
2005年3月7日　日文研ホール
池内紀（ドイツ文学者・エッセイスト）「日本人の旅—発見の楽しみ—」

パネルディスカッション「日本の旅、日本への旅」
パネラー：錦仁（新潟大学教授）、原田信男（国士舘大学教授）、巖安生（北京日本学研究中心教授）、司会：白幡洋三郎（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者44人（国内37人　国外7人）
●セッション1
座長：神崎宣武（旅の文化研究所）
錦仁（新潟大学）「旅人の発見—堀秀成の『秋田日記』、イザベラ・バードと比較して—」
濱名篤（関西国際大学）「海外団体パッケージ・ツアーの普及と土産物店での購買行動」
コンスタンティン・ヴァポリス（University of Maryland）「藩士の参勤交代をめぐる諸視点」
●セッション2
座長：原田信男（国士舘大学）
高橋伸子（札幌大学）「北海道観光の展開」
ドゥアンチャイ・ロタナワニット（Thammasat University）「国家と地方アイデンティティの構築—北タイのメーホンソン県における観光政策のジレンマ—」
●セッション3
座長：唐権（関西外国語大学）
原淳一郎（東京大学史料編纂所）「寺社参詣における書物の機能」
ビン・シン（University of Alberta）「ファン・boyチャウ（潘佩珠）が見た明治日本」
多田伊織（白鳳女子短期大学）「あこがれのハワイ航路—アジアにとつての“西”西洋にとつての“東”—」
●セッション4
座長：井上章一（日文研）
巖安生（北京外国語大学）「時代の変遷と共に変る中国から日本への旅のイメージと風景」
フレデリック・クレインス（日文研）「オランダ商館型日本観と鎖国」
朴鎔烈（韓国中央大学）「門付芸について」
●セッション5
座長：浅見和彦（成蹊大学）
白井哲哉（埼玉県立文書館）「名所化する遺跡・廃墟」
西田正憲（奈良県立商科大学）「風景画家による日本の自然『発見』」
●セッション6
座長：長田俊樹（総合地球環境学研究所）
天野史郎（明治学院大学）「旅するコンパニオン」
申昌浩（京都精華大学）「旅を禁じる儒教文化」
唐権（関西外国語大学）「名勝図会の誕生—清代における日中文化交流に関する一考察—」
●セッション7
座長：申昌浩（京都精華大学）
原田信男（国士舘大学）「江戸の小さな『旅』」
高田公理（武庫川女子大学）「遊廓への『旅』—楽しみとヒーリング—」
浅見和彦（成蹊大学）「女の旅、庶民の旅」
●セッション8
座長：安部文司（大阪教育大学）
園田英弘（日文研）「スダ海峡からマラッカ海峡へ—幕末オランダ留学6年間の旅行ルートの変化—」
ウィリー・ヴァンデワラ（Catholic Univ. of Leuven）「旅と政変—幕末明治初期を旅行したモンブラン伯（白山伯）—」
●セッション9
座長：園田英弘（日文研）
副座長：菊池優子（ダルムシュタット工科大学）
白幡洋三郎「総括討論への問題提起」
総括討論

【公開講演会】
2005年3月12日 日文研ホール
ペーター・パンツァー（ボン大学教授）「旅のなかの異文化像」
白幡洋三郎（日文研教授）「旅と日本『発見』」
【報告書】
日文研叢書43『旅と日本発見―移動と交通の文化形成力』（2009年3月）

第26回

【開催日・会場】
2005年8月26日～29日 日文研
【テーマ】
東アジアにおける近代諸概念の成立
Modern Conceptual Formation in East Asia
【研究代表者】
鈴木貞美（日文研教授）

【国際研究集会】
参加者53人（国内30人 国外23人）
●基調報告
司会：劉建輝（日文研）
鈴木貞美（日文研）「近代における『知』の再編成を探索する―概念とジャンルを中心に―」

馮天瑜（武漢大学）「新術語の生成―『封建』を例として―」
●セッション1 前近代における「概念」の状況とその展開
司会：劉建輝、上垣外憲一（帝塚山学院大学）
柳文章（桃山学院大学）「近代日本における漢字による翻訳造語」
潘光哲（台北中央研究院）「『封建』とFeudalismの遭遇―『概念変遷』と『翻訳政治』に関する歴史的考察―」

李恭忠（南京大学）「『倭寇』の記憶と明清期『海權』觀念の生成―嚴如煜『海防輯要』を中心に―」
張哲嘉（台北中央研究院）「近代漢字医学術語の生成―『解体新書』と『全体新論』の名詞訳語について―」
荒川清秀（愛知大学）「日中学術用語の形成と伝播―地理学用語を中心に―」

●セッション2 近代諸概念の生成
司会：陳力衛（目白大学）、沈国威（関西大学）、稲賀繁美（日文研）、孫建軍（北京大学）
劉禾・Lydia Liu（University of Michigan）「超・記号と觀念の生成―『夷』をめぐる阿片戦争中の諸言説―」
沈松橋（台北中央研究院）「近代中国における『国民』という概念（1895～1911）」

章清（復旦大学）「『国家』と『個人』の間―清末中国の『自由』をめぐる諸言説について―」
鄭英淑（国際基督教大学）「訳語『人權』の成立について」
鄧紅（大分県立芸術文化短期大学）「『自然』の意味について」
劉東（北京大学）「『芸術』―対等言語の下の文化的抑圧―」

聶長順（武漢大学）「近代日本における『Logic』概念の成立とその中国への影響」
YONG Liang（University Trier）「漢字術語による『民法』核心概念の生成と変容」
Iwo AMELUNG（Eberhard Karls Universitat Tubingen）「国債概念の受容と近代初期中国における国庫券の発行について」

●セッション3 翻訳論からのアプローチ
司会：井上健（東京工業大学）
左玉河（中国社会科学院）「『直訳』から『訳釈』へ―張東蓀の試みた西洋哲学術語の翻訳方法―」
熊月之（上海社会科学院）「酋長、プレジデントから大統領へ―清末中国におけるアメリカ大統領記名の変遷―」
金子務（帝京平成大学）「誤解のトライアングル―『オリープ』『月桂樹』『橄欖』―」

●セッション4 生成の現場とその射程
司会：鈴木貞美、孫江（静岡文化芸術大学）
張西平（北京外国語大学）「16～18世紀東アジアにおける洋学の伝播と影響―天主教の中国語文献を中心に―」
李漢燮（高麗大学）「19世紀末日韓両語の語彙交流について―『漢城旬報』や『漢城周報』に受け入れた日本語を中心に―」

孫建軍「『万国公法』の翻訳作業に関わった中国人」
黄興濤（中国人民大学）「清末民初の新名詞・新概念の『近代性』について―『思想の近代性』と近代『社会』概念における中国的アイデンティティの問題をかねて―」
楊念群（中国人民大学）「『危機意識』の形成と中国近代歴史觀念の変遷との対応関係」

【報告書】
国際研究集会報告書第26集（2012年3月）

第27回

【開催日・会場】
2005年11月8日～12日 日文研
【テーマ】
日本の伝統工藝再考―外からみた工藝の将来とその可能性―
Traditional Japanese Arts and Crafts in the 21st Century: Reconsidering the Future from an International Perspective

【研究代表者】
稲賀繁美（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者67人（国内48人 国外19人）
●セッション1 日本の伝統工藝と美の変容：受容の位相
司会：稲賀繁美（日文研）

渡邊俊夫（Chelsea College of Art and Design）「歴史性喪失というアイデンティティー：ジョサイア・コンドルの日本庭園論」[ディスカッサント：片平幸（桃山学院大学）、藤田治彦（大阪大学）]
横溝廣子（東京芸術大学）「明治政府と伝統藝術」[ディスカッサント：大熊敏之（富山大学）、樋田豊郎（京都工芸繊維大学）]

●セッション2 美的概念の近代：中国・韓国および西欧近代の関係を問い直す
司会：大滝幹夫（文星芸術大学）
何菁（University of California）「岡倉天心の中国旅行と中国山水の『写生』の発見」[ディスカッサント：戦暁梅（東京工業大学）、西原大輔（広島大学）]
閔周植（Yeungam University）「美意識の葛藤：韓国と日本の工藝の比較から」[ディスカッサント：後小路雅弘（九州大学）、朴美貞（同志社大学）]

司会：鈴木禎宏（お茶の水女子大学）
鄭寧（清華大学美術学院）「宋代陶磁器と日本：東亜文化圏を視野に」[ディスカッサント：荒川正明（（財）出光美術館）、西横偉（熊本大学）]
モーガン・ビテルカ（Occidental College）「伝統の隠喩としての楽焼：手工藝と近代鑑識のジレンマ」[ディスカッサント：大滝幹夫（文星芸術大学）、リチャード・ウィルソン（国際基督教大学）]

自由討論：西口光博（龍谷大学）
●セッション3 美術・工藝と意匠：その将来への可能性
司会：リチャード・ウィルソン
イザベル・エムリク（ENSAAMA）「日欧の漆工藝、その今日と明日」[ディスカッサント：栗本夏樹（京都市立芸術大学）]

玉蟲敏子（武蔵野美術大学）「琳派の近代とその国際性」[ディスカッサント：クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究所）、後藤結美子（京都市美術館）]
●セッション4 伝統の再発見と変容：戦前/戦後期の工藝動向の問い直し
司会：渡邊俊夫（Chelsea College of Art and Design）
味岡千晶（フリーランス美術作家）「近代日本工藝と『民藝作家』」[ディスカッサント：鈴木禎宏（お茶の水女子大学）、土田真紀（帝塚山大学）]
イサベル・シャリエ（Universite Leuvain la Neuve）「八木一夫：前衛藝術

家・陶芸家」[ディスカッサント：樋田豊郎（京都工芸繊維大学）、中村錦平（多摩美術大学）]
司会：ジョン・クラーク（University of Sydney）
金子賢治（東京国立近代美術館）「『工芸』と『クラフト（craft）』―戦後日本の工芸観の形成―」[ディスカッサント：鶴飼敦子（京都大学）、吉村良夫（美術批評家連盟）]

マリア・ロマン・ナヴァエロ（Universidad Autónoma de Madrid）「茶陶：伝統陶藝あるいは？」[ディスカッサント：リチャード・ウィルソン、鈴木禎宏（お茶の水女子大学）]
クリフトン・モンティス（フリーランスアーティスト）「文化交流の現在を司る『使節』としての日本の伝統工藝：ある工藝家の遭遇の経緯から」[ディスカッサント：栗本夏樹（京都市立芸術大学）、木村法光（元京都市立芸術大学）]

自由討論：金恵信（学習院大学）、徐蘇斌（東京大学生産技術研究所）、芳賀徹（京都造形芸術大学）、伊藤奈保子（Universitas Padjajaran）
●セッション5 技と巧：家元/職人/芸術家/経営者を：現状打破に向かって

司会：パトリシア・フィスター（日文研）
バーバラ・フォード（MetropolitanMuseum of Art）「メトロポリタン美術館の日本工芸」[ディスカッサント：柏木加代子（京都市立芸術大学）、龍村光峯（日本伝統織物保存研究会）]

ノーマ・レスピシオ（University of the Philippines）「伝統と変化に直面して：京都染織を多角的に展望する」[ディスカッサント：山川暁（京都国立博物館）、金谷美和（京都大学）、コメンテーター：ひろいのぶこ（京都市立芸術大学）]
●セッション6 手作りの将来・工藝の将来/危機の中の可能性
司会：原田平作（愛媛県美術館）
大滝幹夫「市場性を中心に伝統工藝（手仕事等）の展望を探る」[ディスカッサント：金谷美和]

佐野真由子（静岡文化芸術大学）「伝統文化の国際的認知と将来：ユネスコでの経験を通じて」[ディスカッサント：林洋子（京都造形芸術大学）]
司会：タイモン・スクリーチ（University of London）
ミコワイ・メラノヴィッチ（Warsaw University）「『全球化』と地域の伝統：ポーランドと日本の工藝、民衆文化そして藝術をめぐる」[ディスカッサント：伊藤奈保子]

イヴァン・クレイトン（University of Sunderland）「工藝の実践と生活の質をめぐる：ディッチリングから」[ディスカッサント：今井祐子（福井大学）]
●総合討議
司会：稲賀繁美（日文研）
ディスカッサント：ジョン・クラーク（University of Sydney）、ヘンリー・スミス（Columbia University）、タイモン・スクリーチ、山田 実（日本伝統織物保存研究会）

【公開講演会】「日本の伝統工藝を見る―新発見とあらたな視覚―」
2005年11月8日 日文研ホール
リチャード・ウィルソン（国際基督教大学教授）「京都の工藝：伝統と情報を再考する」
ニコル・ルーマニエール（セインズベリー日本藝術研究所長）「日英文化交流のなかの工藝」

【報告書】
国際研究集会報告書第27集（2007年9月）

第28回

【開催日・会場】
2006年3月14日～18日 日文研
【テーマ】
売る文化、売られた文化：テレビコマーシャルによる文化研究を探る
Selling Culture, Sold Culture：Cultural Studies Based on Evidence from Television Commercials
【研究代表者】

山田奨治（日文研助教授）
【国際研究集会】
参加者37人（国内27人 国外10人）
●基調講演
吉見俊哉（東京大学）「戦時プロパガンダからみえる戦後消費社会―『戦争とメディア』デジタルアーカイブの構築とエンサイクロペディアプロジェクト―」

●特別講演1
座長：山田奨治（日文研）
山川浩二（元（株）電通）「POPするCM―世の中への弾じけ方を追う―」
●セッション1 売る文化1
座長：落合恵美子（京都大学）

高野光平（東京大学）「CM史の転回：作品史からメディア史へ」[コメンテーター：吉見俊哉]
黄昇民（中国伝媒大学）「社会意識の鏡：過去10年の中国における広告の受け手の研究」[コメンテーター：君塚洋一（京都学園大学）]
●セッション2 売る文化2
座長：稲賀繁美（日文研）

呉咏梅（北京日本学研センター）「セクシーで売ります：日本のセクシーCMと消費文化」[コメンテーター：葉口英子（中部大学）]
太田乃輔（立命館大学）「大阪広告にみるクリエイティブの特徴と歴史」[コメンテーター：ジャン＝クリスチャン・ブーヴィエ（世界のCMフェスティバル）]
葉口英子（中部大学）「広告と音楽―日本のテレビCMにみる音楽―」[コメンテーター：小川博司（関西大学）]

難波功士（関西学院大学）「ACC受賞作にみるCF表現の変化」[コメンテーター：谷川建司（早稲田大学）]
●CM上映
吉村和真（京都精華大学）、高野光平（東京大学）「テレビ黎明期のCM―TCJコレクションの紹介―」

●パネル討論1：映画・アニメ・CMの交流
座長：萩原滋（慶應義塾大学）
小川順子（日文研）「TVCM⇔映画―映像作家の世界―」
谷川建司（早稲田大学）「日本の外タレCMにおけるタレント・イメージと当該スター出演映画等におけるそのイメージとの相互関係」
吉村和真（京都精華大学）「テレビ黎明期のCMとアニメの関係」

●セッション3 売られた文化1
座長：呉咏梅
君塚洋一（京都学園大学）「広告コミュニケーションと経験形成」[コメンテーター：日吉昭彦（目白大学）]
●特別講演2
座長：山田奨治

岡師三千男（HitchHike、元日本天然色映画（株））「ある視点から…CM創成期における『日本天然色映画（株）』の存在」
●セッション4 売られた文化2
座長：呉咏梅
白石さや（東京大学）「キャラクターを売る・キャラクターで売る。」[コメンテーター：スーザン・ネイピア（テキサス大学）]

●パネル討論2：作られた文化イメージ
座長：佐藤卓己（京都大学）
ジャン＝クリスチャン・ブーヴィエ「『ガイジン』の起用法は、日本人の『元気度』を計る恰好のバロメーター」
柄本三代子（東京国際大学）「CMに見る健康の科学」
朽木量（千葉商科大学）「CM中の生活文化財を読む―物質文化からみたライフスタイル―」

山下典子（甲南女子大学）「CMのなかの『風景』―車両広告における『まなざし』の問題―」
●パネル討論3：環境広告
座長：香坂玲（国連環境計画）
ミヒヤエル・フリットナー（フライブルク大学）「走り去る動物」

アンダース・ハンセン（レスター大学）「テレビ広告における環境・自然・アイデンティティ」
関谷直也（東京大学）「『自然』『自然さ』を広告する／『自然のため』『自然に』広告をする」
●全体討論
座長：山田奨治
「売る文化、売られた文化」
●特別講演3：CMの保存・公開
座長：李珣淑（元京都市立芸術大学）
全俊九、金相俊（韓国広告団体連合会）「広告データベースとオンライン・サービスの構築：韓国広告情報センター」
●パネル討論4
座長：赤間亮（立命館大学）
金相俊（（社）韓国広告団体連合会）、高野公平（東京大学）、谷川建司（早稲田大学）、丸茂巧（電通）「CMの保存と公開を考える」
【公開講演会】「テレビ・コマーシャルという文化」
2006年3月18日　日文研ホール
ジャン＝クリスチャン・ブーヴィエ（「世界のCMフェスティバル」プロデューサー）「文化の視点からみた世界のコマーシャル・フィルム」
大林宣彦（映画作家）「CM製作における人間学」
【報告書】
『文化としてのテレビ・コマーシャル』（世界思想社、2007年3月）
第29回
【開催日・会場】
2006年10月17日～20日　日文研
【テーマ】
前近代における東アジア三国の文化交流と表象
Cultural Exchange and Representation of China, Korea and Japan in the Premodern Age
【研究代表者】
笠谷和比古（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者45人（国内34人　国外11人）
●基調報告
司会：笠谷和比古（日文研）
上垣外憲一（帝塚山学院大学）「文化交流事業としての朝鮮通信使」 [コメンテーター：高橋博巳（金城学院大学）]
姜東燁（国立江原大学校）「会同館と東アジア」[コメンテーター：平木實（京都府立大学）]
許南春（国立济州大学校）「詩歌を通してみた中国・日本」[コメンテーター：劉建輝（日文研）]
●報告
司会：崔博光（成均館大学校）
吉田公平（東洋大学）「東アジアの思想史の流れ ―心学の視点から―」 [コメンテーター：竹村民郎（元大阪産業大学）]
花田富二夫（大妻女子大学）「近世初期医事文化と庶民文学との接点をめぐって」[コメンテーター：石川了（大妻女子大学）]
吉田宏志（元京都府立大学）「朝鮮絵画の流れ―通信使画員の場合―」 [コメンテーター：芳賀徹（京都造形芸術大学）]
濱田陽（帝京大学）「前近代東アジアにおける『通信』の意味とその現代的可能性」[コメンテーター：浜下昌宏（神戸女学院大学）]
李徳炯（成均館大学校）「超越と凝視」[コメンテーター：吉田公平（東洋大学）]
朴性泰（成均館大学校）「朝鮮時代中国文学の受容と変容―『列女伝』の受容と変容を中心に―」[コメンテーター：宮本恵光（香川大学）]
菅宗次（武庫川女子大学）「朝鮮通信使による日本語による韻文文学史料―発句、和歌などの短冊色紙をめぐって―」[コメンテーター：朴鍾祐（神戸大学）]

黄鎬徳（城西国際大学）「山水と風景のあいだ―韓国近代形成期の日本見聞、朝鮮通信使と比べて―」[コメンテーター：朴秀美（神戸学院大学）]
●基調報告
司会：劉建輝
仲尾宏（京都造形芸術大学）「交流の受け手―民衆が受けた印象―」 [コメンテーター：上垣外憲一]
李岩（中央民族大学）「朴趾源《热河日记》の实学精神和艺观探析」 [コメンテーター：姜東燁（国立江原大学校）]
廉松心（北華大学）「熱河日記に反映された清朝の民族統治」[コメンテーター：水戸部浩子（庄内日報社）]
●報告
司会：上垣外憲一
牛林杰（山東大学）「跨文化交流与文化误读 ―以17～18世纪中韩文人的交流为中心―」[コメンテーター：齊藤希史（東京大学）]
長森美信（天理大学）「天理大学附属天理図書館所蔵『東槎録』について―金仁謙『日東杜遊歌』との関連から―」[コメンテーター：廉松心（北華大学）]
韓梅（山東大学）「三部の燕行録から見た朝鮮文人の中国観」[コメンテーター：濱田陽（帝京大学）]
佐野真由子（静岡文化芸術大学）「幕末の対欧米外交を準備した朝鮮通信使―各国外交官による江戸行の問題を中心に―」[コメンテーター：徳盛誠（東京大学）]
●ミニシンポジウム：中国文化の受容と日韓の文芸
司会：巖安生（大手前大学）
高橋博巳（金城学院大学）「文人たちの宴『以德酔人、勝於以酒』―1763～4年の通信使行―」[コメンテーター：濱下武志（龍谷大学）]
徳盛誠（東京大学）「筆談の中の学問観、詩文論―1748年の朝鮮通信使来訪」[コメンテーター：巖基珠（専修大学）]
杉下元明（東海大学）「俗文藝と通信使」[コメンテーター：姜東燁（国立江原大学校）]
金炳国（建陽大学校）「青莊館李德懋文学の思想的基盤と公安派詩論の受容様相研究」[コメンテーター：菅宗次（武庫川女子大学）]
李春姫（長春理工大学）「明の文人王世貞の文学思想と朝鮮李彦瓚の漢詩について」[コメンテーター：崔博光（成均館大学校）]
●報告
司会：平川祐弘（大手前大学）
鄭銀志（日本女子大学）「外交儀礼における日本と朝鮮の服飾―朝鮮通信使と対馬使節を中心に―」[コメンテーター：佐々木衛（神戸大学）]
川原秀城（東京大学）「洪大容の科学知識と社会思想」[コメンテーター：平川祐弘（大手前大学）]
松田清（京都大学）「野呂元丈の情報源―朝鮮通信使と阿蘭陀通詞―」 [コメンテーター：芳賀徹（京都造形芸術大学）]
安大玉（東京大学）「アストロラープの東伝と朝鮮の簡平渾蓋日晷」 [コメンテーター：松田清（京都大学）]
【公開講演会】
2006年10月17日　日文研ホール
小倉紀蔵（京都大学助教授）「韓流の思想的意味―ブレモダン、モダン、ポストモダンの越境―」
崔博光（成均館大学校名誉教授）「朝鮮通信使と燕行使―文化の発信者と転信者（Intermediary）として―」
【報告書】
国際研究集会報告書第29集（2011年3月）
第30回
【開催日・会場】
2007年2月13日～15日　日文研
【テーマ】
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚
Study of Bureaucracy of the Japanese Colonial Empire

【研究代表者】
松田利彦（日文研助教授）
【国際研究集会】
参加者52人（国内40人　国外12人）
●基調報告
司会：ジェームズ・C・バクスター（日文研）
松田利彦（日文研）「植民地期朝鮮における官僚／官僚制についての研究史―現状と課題―」
やまだあつし（名古屋市立大学）「台湾植民地官僚制概論」
●セッション1　「帝国」日本と植民地官僚
司会：松田利彦
岡本真希子（早稲田大学）「朝鮮総督府・台湾総督府の高級官僚の異動動態について」
加藤聖文（国文学研究資料館）「拓務省と植民地官僚―人事交流システムの実態―」
蔡慧玉（ワシントン大学／中央研究院）「植民地帝国日本における官僚の異動に関する比較研究序説」
李炯植（東京大学）「政党政治における植民地統治―植民地長官人事を手掛かりとして―」
李昇燁（京都大学）「外務省の『外地人』官僚たち―朝鮮人・台湾人副領事特別任用制度を中心に―」
●セッション2　台湾と植民地官僚
司会：浜口裕子（拓殖大学）
呉文星（台湾師範大学）「札幌農学校卒業生と台湾近代糖業研究の展開―台湾総督府糖業試験場を中心として（1902～1921）―」
大浜郁子（法政大学）「台湾における植民地近代教育の形成と清朝教育の遺産―書房義塾参考書の制定過程と学務官僚の政策関与を中心として―」
黄紹恒（新竹交通大学）「台湾総督府官僚と技術移転に関する研究」
司会：広瀬貞三（福岡大学）
やまだあつし「調査マンと台湾植民地官僚制」
野口真広（早稲田大学）「石塚英蔵の台湾経験―台湾総督府参事官長から台湾総督へ―」
鐘淑敏（中央研究院）「台湾総督府健治郎時代における植民地官僚と台湾支配―田日記を中心として―」
●セッション3　朝鮮と植民地官僚
司会：長沢一恵（京都造形芸術大学）
鄭在貞（ソウル市立大学校）「朝鮮総督府の鉄道官僚と鉄道政策―大村卓一の場合―」
松田利彦「朝鮮総督秘書官と『文化政治』―守屋栄夫日記を読む―」
福井譲（広島大学）「朝鮮総督府の通信政策―朝鮮簡易生命保険制度の導入と通信局―」
司会：浅井良純（同志社大学）
田上俣（延世大学校）「寺内正毅と朝鮮の『総督政治』」＊代読
李承烈（延世大学校）「朝鮮議会設置要求と総督政治の近代性をめぐる問題」
禹大亨（親日反民族行為者財産調査委員会）「日帝下久間健一の農政観と植民地農政の矛盾」
李俊植（親日反民族行為者財産調査委員会／成均館大学校）「朝鮮総督府内部官僚・富永文一の郷約研究と郷約普及運動」
司会：三谷憲正（佛教大学）
Hyung Gu LYNN（ブリティッシュ・コロンビア大学）「中央朝鮮協会と政策決定過程―東亜日報・朝鮮日報強制廃刊事件を中心に―」
方基中（延世大学校）「1940年前後の朝鮮總督府の『新體制』認識と兵站基地強化政策―経済支配システムの特質と関連して―」
張信（親日反民族行為者真糾明委員会）「日帝下朝鮮人高等官僚の生と意識―高等文官試験合格者を中心に―」
水野直樹（京都大学）「植民地朝鮮の思想検事」
●総合討論

司会：松田利彦
【報告書】
国際研究集会報告書第30集（2008年1月）
第31回
【開催日・会場】
2007年3月23日～25日　日文研
【テーマ】
東アジアにおける学芸史の総合的研究の継続的発展のために
For the Continued Development of Comprehensive Academic Research on East Asia
【研究代表者】
鈴木貞美（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者45人（国内30人　国外15人）
●基調報告　鈴木貞美
●セッション1　概念史研究の視点
司会：孫江（静岡文化芸術大学）
銭永祥（中央研究院）「市民社会の基本概念」代読：藩光哲
馮天瑜（武漢大学）「歴史意味論」
張鳳陽（南京大学）「中国におけるヨーロッパ政治哲学の受容―いくつかのキーワードを手がかりに―」
方維規（北京師範大学）「ドイツの概念史研究と漢語概念研究」
章清（復旦大学）「ヨーロッパの近代学科概念と中国」
[コメンテーター：竹村民郎（元大阪産業大学）、安田敏朗（一橋大学）、張西平（北京外国語大学）、吉澤誠一郎（東京大学）、高柳信夫（学習院大学）]
●セッション2　概念の生産と再生産
司会：陳力衛（目白大学）
陳建華（香港城市大学）「革命という概念」
黃興濤（中国人民大学）「彼女の物語―『她』という言葉の形成―」
聶長順（武漢大学）「明治日本における統計学の訳語」
[コメンテーター：荒川清秀（愛知大学）、川島真（東京大学）、岩月純一（一橋大学）、十重田裕一（早稲田大学）]
●セッション3　テキストの諸相
司会：孫建軍（北京大学）
李漢燮（韓国高麗大学）「『漢城旬報』にみる近代知識の伝播」
王奇生（中国社会科学院）「もう一つの新文化運動―『新青年』雑誌を中心に―」
朱京偉（北京外国語大学）「日本語マルクス主義文献と中国語翻訳の翻訳」
[コメンテーター：上垣外憲一（帝塚山学院大学）、茂木敏夫（東京女子大学）、橋本行洋（花園大学）]
●セッション4　知識・規範・ジャンル
司会：鈴木貞美
張壽安（中央研究院近代史研究所）「近代中国における学科体制の形成」
張曉敏（上海辞書出版社）「清末期における中国の教科書と日本」
楊念群（中国人民大学）「西洋医学と近代知の空間」
[コメンテーター：田中比呂志（東京学芸大学）、濱田陽（帝京大学短期大学）]
総括と展望（司会：劉建輝）
全員討論
総括：孫江
第32回〈創立20周年記念国際シンポジウム〉
【開催日・会場】
2007年9月18日～21日　日文研
【テーマ】
日本文化研究の過去・現在・未来―新たな地平を開くために―
Japanese Studies: Past, Present and Future Breaking New Ground for Research in Japanese Culture

【実行小委員長】
劉建輝（日文研准教授）
【国際研究集会】
参加者69人（国内49人　国外20人）
劉建輝「創立20周年記念国際シンポジウムについて」
鈴木貞美（日文研）「日文研新規翻訳プロジェクトについて」
●セッション1
司会：劉建輝（日文研）
Mikolaj MELANOWICZ（ワルシャワ大学）「日本文化研究と日本文学――ポーランドにおける日文学研究――」
KIM Reho（ロシア科学アカデミー世界文学研究所）「東洋の視点から書く《世界文学史》構築の可能性」
Heinrich MENKHAUS（マールブルグ大学日本研究センター）「ドイツの大学における日本研究の構造的諸問題」
【コメンテーター：竹村民郎（元大阪産業大学）、上垣外憲一（帝塚山学院大学）、斎藤光（京都精華大学）】
●セッション2
司会：Markus RÜTTERMANN（日文研）
Silvio VITA（イタリア国立東方学研究所）「学術交流としての日本研究――ヨーロッパ諸国の在日研究機関の行方――」
Alexander MESHCHERYAKOV（ロシア国立人文学大学）「ソ連・ロシアにおける日本文化の研究――ユートピア学から現実学へ――」
Chavalin SVETANANT（チュラロンコン大学）「タイにおける日本研究及び古代日本文学受容の実態」
【コメンテーター：Leith MORTON（東京工業大学）、川島真（東京大学）、佐野真由子（静岡文化芸術大学）】
●セッション3
司会：Timothy D. KERN（日文研）
X. Jie YANG（カルガリー大学）「カナダにおける日本研究の今」
Pullattu Abraham GEORGE（ジャワハルラルネルー大学）「アジア新時代の日印関係とインドにおける日本研究」
根川幸男（ブラジル大学）「ブラジル近現代史の中の『日本文化』表象」
【コメンテーター：北政巳（創価大学）、平木實（京都府立大学）、秋道智彌（総合地球環境学研究所）】
●セッション4
司会：牛村圭（日文研）
水戸考道（香港中文大学）「日本研究の政治経済学―研究評価における国際標準化と教育における市場原理導入の21世紀日本研究プログラムへの影響―」
Karel FIALA（福井県立大学）「テキスト分析で示される平安・鎌倉期の長編物語のもう一つの姿」
Ahmed Mohamed Fathy MOSTAFA（カイロ大学）「戦時下・戦後30年の日本精神史―安岡章太郎はこう語った―」
【コメンテーター：錦仁（新潟大学）、佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所）、岩見照代（麗澤大学）】
●セッション5
司会：筒井清忠（帝京大学）
TRAN Thi Chung Toan（ハノイ国家大学）「ベトナムにおける日本文化研究の諸課題」
王曉平（天津師範大学）「中国学と日本学との握手」
I. Ketut SURAJAYA（インドネシア大学）「インドネシアにおける日本軍政府は植民地政府であるか解放政府であるか―社会文明開化から見た見解―」
【コメンテーター：金子務（大阪府立大学）、Pauline KENT（龍谷大学）、竹山（李）相哲（龍谷大学）】
●セッション6
司会：磯前順一（日文研）
黄自進（台湾中央研究院）「中日二重文化からの日本研究」
Josef KYBURZ（フランス国立科学研究センター）「グローバル化の

渦の中に巻き込まれて―日本文化研究の行く末―
【コメンテーター：巖安生（大手前大学）、長田俊樹（総合地球環境学研究所）、佐伯順子（同志社大学）】
●セッション7
司会：白幡洋三郎（日文研）
全体討論
問題提起：李漢燮（高麗大学校）、鈴木貞美、牛村圭
所外セッション
日文研発―源氏物語ゆかりの地を訪ねて―
【公開講演会】
2007年9月18日　日文研ホール
オギュスタン・ペルク（フランス国立社会科学高等研究院教授）「生への存在」
李御寧（元韓国文化大臣（初代）／梨花学術院名誉碩座教授）「『綾』からの脱出は可能か―富永仲基の研究法の視点から―」
【報告書】
国際研究集会報告書第32集（2009年3月）

第33回
【開催日・会場】
2008年3月6日～8日　日文研
【テーマ】
王権と都市
Kingship and City Culture
【研究代表者】
今谷明（日文研教授）
【国際研究集会】
●報告
司会：マルクス・リュッターマン（日文研）
宇野隆夫（日文研）「インダス文明の都市と王権」〔ディスカッサント：岡田保良（国士舘大学）〕
ベルナルド・ロンデリ（ピコッカ大学）「都市以前の複合性：青銅器時代および鉄器時代初期のポー川流域（イタリア）における社会変容と拡大」〔ディスカッサント：西川幸治（滋賀県立大学／日文研）〕
司会：宇野隆夫
王震中（中国社会科学院）「商代における殷都の族居特点と商の王権」〔ディスカッサント：王維坤（西北大学／日文研）〕
ムスタファー・アッバーディー（アレキサンドリア大学）「王と皇帝と都市アレクサンドリア」〔ディスカッサント：岡田保良（国士舘大学）〕
仁藤敦史（国立歴史民俗博物館）「日本古代の都城と行幸：『動く王』から『動かない王』への転換」〔ディスカッサント：今谷明（日文研）〕
セバスチャン・ストライド（パルセロナ大学）「南中央アジアにおける王権と都市」〔ディスカッサント：宇野隆夫〕
●総合討論
司会：今谷明、マルクス・リュッターマン
大月康弘（一橋大学）、乙坂智子（横浜市立大学）、金銀貞（東北大学）、白幡俊輔（京都大学）、園師宣忠（大阪産業大学）、仁藤敦史（国立歴史民俗博物館）、藤井真生（日本学術振興会）、加藤祐三（横浜市立大学／日文研）、西川幸治（滋賀県立大学／日文研）
【公開講演会】
2008年3月7日　日文研
王維坤（西北大学国際文化交流学院副院長・教授／日文研外国人研究員）「中国の都城のプランから見る日本の都城制の源流」
エゴン・フライグ（ロストック大学ハインリヒ・シュリーマン古代研究所教授）「都市の共和制と多数決原理―古代ギリシャのポリス形成について―」
【報告書】
国際研究集会報告書第33集（2008年3月）

第34回
【開催日・会場】

2008年6月27日～30日　日文研
【テーマ】
石川淳と戦後日本
Ishikawa Jun and Postwar Japan
【研究代表者】
鈴木貞美（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者59人（国内49人　国外10人）
●報告
基調報告　ウィリアム・タイラー（オハイオ州立大学／日文研）「『荒魂』を改めて読む」
狩野啓子（久留米大学）「狂意識の展開」
ヴィンサン・ボルティエ（リセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ）「物質界への問い：石川淳フィクションにおけるイメージの動き―1935～1954―」
鳥羽耕史（徳島大学）「石川淳と演劇―『千田是也演出のために』の射程―」
ジリコ・ツプリシュ（パシフィック大学）「いまだに軍国主義を嚙う『マルスの歌』」
日高昭二（神奈川大学）「空白の〈帝国〉―石川淳の戦後―」
ローマン・ローゼンバウム（シドニー大学）「『焼け跡のイエス』を巡って」
水谷真紀（東洋大学）「石川淳と敗戦体験：『燃える棘』を中心に」
安原義博（フロリダ州立大学）「占領時代の石川淳文学とポピュリズム」
池内紀（ドイツ文学者）「江戸文化と石川淳」
早川聞多（日文研）「石川淳『南画大体』をめぐって」
吉川宜時（横浜市立大学）「戦後日本の宣長研究における石川淳」
山口俊雄（愛知県立大学）「石川淳の〈革命小説〉―『鷹』から『虹』へ―」
重松恵美（佛教大学）「石川淳『夷齋雜言』―『節度ある反逆』の系譜との関係―」
コルベイ・スティープ（立命館大学）「石川淳とバーフォマティヴィテ：野坂昭如と比較する」
マッツ・カールソン（シドニー大学）「1968年の運動を振り返って：『天馬賦』再読」
ヘレン・ウィートマン（デンバー大学）「見せ掛けの世：『狂風記』の表面と深層」
李忠奎（慶南大学）「『天門』をめぐって」
竹内清己（東洋大学）「無頼の使徒―石川淳の戦後十年、太宰治・坂口安吾を超えて―」
鈴木貞美（日文研）「石川淳、戦後小説の展開―『荒魂』を中心に―」
●総括討論
ディスカッサント：稲賀繁美（日文研）、井波律子（日文研）、金貞恵（釜山外国語大学／日文研）、金炳辰（総合研究院大学院大学）、杉浦晋（埼玉大学）、中川成美（立命館大学）、ドリス・バーゲン（マサチューセッツ大学）、アリサ・フリードマン（オレゴン大学）、帆苅基生（青山学院大学）、マイク・モラスキー（ミネソタ大学／日文研）、スティープ・ラブソン（ブラウン大学）、劉建輝（日文研）、グニラ・リンドバーク・ワダ（ストックホルム大学／日文研）、若松伸哉（青山学院大学）、渡辺喜一郎（北陸高校）
【報告書】
日文研叢書45『石川淳と戦後日本』（ミネルヴァ書房、2010年3月）

第35回
【開催日・会場】
2008年11月17日～20日　日文研
【テーマ】
東アジア近代における概念と知の再編成
The Reformulation of Concepts and Intellectual Systems in Modern East Asia
【研究代表者】
鈴木貞美（日文研教授）
●セッション1　伝統的「知」と「概念」の連続と継承

司会：王中忱（清華大学）
韓東育（東北師範大学）「朱舜水における幾つかの謎について」
李梁（弘前大学）「コインブラからゴア、マカオ、北京、そして東アジアへ―16～18世紀東アジアにおける新しい知識の伝播とその体系の構築をめぐって―」
劉勇（清華大学）「中国小説の二つの伝統」
盧烈紅（武漢大学）「『小学』より『語言学』へ」
●セッション2　幕末・清末における「知」の再編と創成
司会：鈴木貞美、劉建輝（日文研）
章清（復旦大学）「清朝末期における西洋知識体系の分類」
王確（東北師範大学）「中国美学知識的最初形成」
龔雋（中山大学）「中国近代における仏教運動と現代性：太虚と歐陽意無を中心として」
張伸民（復旦大学）「出版と文化の政治―清末文化市場における生殖医学書籍―」
徐水生（武漢大学）「明治の哲学訳語と近代中国哲学の発展」
黄克武（台湾中央研究院）「近代中国翻訳語彙における厳復の役割」
周光慶（華中師範大学）「『新新相引』而日進―梁启超は『新名詞』で国家観念を組みかえる―」
●セッション3　近代諸概念の生成と展開
司会：上垣外憲一（帝塚山学院大学）、稲賀繁美（日文研）、孫江（静岡文化芸術大学）
川尻文彦（帝塚山学院大学）「近代中国における『文明』―明治日本の学術と梁啓超―」
李漢燮（高麗大学）「『漢城旬報』と『漢城周報』の新概念について」
聶長順（武漢大学）「明治日本におけるEthics, Moral philosophy (science)の訳名の考察」
鍾少華（北京師範大学）「近代中国語『文学』という概念の形成と発展」
金子務（大阪府立大学）「『理学』概念の成立」
鈴木貞美（日文研）「明治期啓蒙思想における『自由・平等』概念の再編成―福沢諭吉、西周、加藤弘之をめぐって―」
馮天瑜（武漢大学）「哲学：東アジア文化圏における学科名目生成の範例」
依岡隆児（徳島大学）「日本の近代とハイマート（郷土/故郷）概念」
増田周子（関西大学）「民謡概念の移入、展開、変容―台湾の民謡運動を中心に―」
●セッション4　20世紀における東アジア的「知」と概念の新展開
司会：陳力衛（目白大学）
王明珂（台湾中央研究院）「20世紀前半における中国辺境民族考察と“辺疆民族”概念について―歴史語言研究所の学者を例として―」
麻国慶（中山大学）「明らかな民族と曖昧なエスニック・グループ―20世紀五十年代以降の中国における民族概念の発展―」
呉炳亨（成均館大学）「1920年代中国社会主義論戦をめぐる知識史的再解釈」
井佐原均（情報通信研究機構）「コンピュータはテキストから何を取り出すか―自然言語処理の試み―」
彭広陸（北京大学）「『慰安婦』から“慰安妇”へ」
沈巍（中国社会科学院）「作为现代知识分子自我分析案例的《多余的话》」
●セッション5　総合討論
司会：劉建輝
【報告書】
国際研究集会報告書第35集（2010年3月）

第36回
【開催日・会場】
2009年1月8日～10日　日文研
【テーマ】
いま構築されるアジアのジェンダー：人間再生産のグローバルな再編成
The Asian Gender under Construction: Global Reconfiguration of Human Reproduction

【研究代表者】
落合恵美子（日文研客員教授／京都大学大学院文学研究科教授）
【国際研究集会】
参加者数78人（国内34人　国外44人）
●セッション1　開会にあたって
司会：落合恵美子（日文研／京都大学）
落合恵美子「趣旨説明：アジアの諸問題」
●セッション2　グローバルな親密性
司会：嘉本伊都子（京都女子大学）
ダニエル・ペランジュ（ウェストオンタリオ大学）、クアット・チュ・ホン、リ・バック・ズン、チャン・ジャン・リン（ハノイ社会開発研究所）「農民の娘から外国人妻へーベトナム送り出しコミュニティにおけるジェンダーの変容に国際結婚による移住があたえる影響ー」
郝洪芳（サンケイエンジニアリング）「業者婚をした中国人妻の主体と葛藤」
青山薫（京都大学）「近代化からグローバル化を生きる移住性労働者」
討論：ウン・ギス（ソウル大学）　全参加者
●セッション3　人びとをつなぐ
司会：竹沢泰子（京都大学）
ブリジット・リュウ（HOME）、ラハユ・ガブレル（SMS）「人びとをつなぐーシンガポールとインドネシアにおける家事労働者のシェルターー」
上野加代子（徳島大学）「抵抗の戦略ーシンガポールの移住家事労働者ー」
藍佩嘉（国立台湾大学）「ケアワークの文化、文化を超えたケアワーク」
討論：タンタン・アウン（名古屋大学）　全参加者
●セッション4　アジア近代における女性
司会：宮坂靖子（奈良大学）
ソ・ジョン（高麗大学）「近代初期韓国ニュー・ウーマンの困難ー女性の解放と良妻賢母の関係を中心にー」
呉咏梅（北京外国語大学）「モダニズムを売るー1920～30年代上海におけるカレンダーポスターと雑誌広告に見るニュー・ウーマンの表象ー」
山根真理（愛知教育大学）「高齢者のライフコースからアジアの家族・ジェンダーの『近代』を再考するー韓国のケースを中心にー」
討論：タネート・ワンヤンナワー（タマサート大学）　全参加者
●セッション5　家事と主婦
司会：瀬地山角（東京大学）
中谷文美（岡山大学）「家事の文化ーオランダ、日本、インドネシアにおける母として主婦としての女性ー」
押川文子（京都大学）「就労する妻たちを支えるもの：インド都市中間層の家族戦略」
クアット・チュ・ホン、リ・バック・ズン（ハノイ社会開発研究所）「仕事と家庭の両立には3つの頭と6本の手が要るー現代ベトナム女性のジレンマー」
鄭楊（ハルビン師範大学）「変化する中国における主婦ー多様な生の選択ー」
討論：村上薫（日本貿易振興機構アジア経済研究所）　全参加者
●セッション6　政策的枠組み
司会：石井正子（大阪大学）
イト・ベン（トロント大学）「社会政策から見た韓国における家族とジェンダー役割の変容ー東アジア各国に示唆するものー」
イ・ヘキョン（培材大学）「韓国の移住政策における多文化家族の役割」
川野英二（京都大学）「アジアの文脈における統合政策の枠組みのために」
討論：姫岡とし子（筑波大学）　全参加者
【公開シンポジウム】
2009年1月10日　日文研ホール
「アジア女性はどこへ行くーグローバル化とジェンダーの再編成ー」
パネルディスカッション
呉咏梅（北京日本学研究中心准教授）、安里和晃（京都大学大学院文学研究科准教授）、クアット・チュ・ホン（ハノイ社会開発研究所長）、藍佩嘉（国立台湾大学社会学部准教授）、ブリジット・リュウ（HOME代表（シンガポール））、イト・ベン（トロント大学社会学部教授）、イ・ヘキョン（韓国培材大 schools 校教授）
司会：落合恵美子（日文研客員教授／京都大学大学院文学研究科教授）

【報告書】
国際研究集会報告書第36集（2010年3月）
第37回
【開催日・会場】
2010年2月23日～28日　日文研
【テーマ】
都市文化とは何かー文化論からの日本「発見」ー
Comparative Study of Urban Culture
【研究代表者】
白幡洋三郎（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者39人（国内34人　国外5人）
●セッション1
司会：錦仁（新潟大学）
中昌浩（京都精華大学）「個案の都市文化コンテンツ“房（バン）”の系譜ー妓房からチムジル房までの韓国の個案の都市文化ー」
竹村民郎（元大阪産業大学）「近代日本初の海外観光ツアーと日本発見」
奥野卓司（関西学院大学）「粋から萌へ…現代サブカルチャーの起源としての近世都市文化」
【コメンテーター：矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学）ほか】
●セッション2
司会：コンスタンティン・ヴァボリス（メリーランド大学）
李偉（日文研）「日本庭園における中国名所の表現ー西湖モチーフを例としてー」
西田正憲（奈良県立大学）「自然地域に流出する都市文化ー現代アートによる里山と里海の再発見ー」
●セッション3
司会：上垣外憲一（大手前大学）
端信行（兵庫県立歴史博物館）「文化アイデンティティの分離と統合ー都市文化の生成と伝承をめぐってー」
原田信男（国士舘大学）「江戸のなかの異文化」
ペーター・パンツァー（ボン大学）「街鼠と田舎鼠ー都市生活の喜びと悩みー」
【コメンテーター：長田俊樹（総合地球環境学研究所）ほか】
●セッション4
司会：佐藤友美子（財サントリー文化財団）
町田香（日文研）「『演出』『仮装』『装飾』に満ちた江戸時代庭園の演劇的世界」
小野健吉（奈良文化財研究所）「『春日権現験記絵』に見る貴族邸宅の庭園と自然」
パスカル・グリオレ（フランス国立東洋言語文化研究所）「日本大衆演劇劇場探検記」
●セッション5
司会：新井菜穂子（元日文研）
唐権（華東師範大学）「『申江勝景図』とその周辺ー清末上海の都市文化と日本ー」
金哲会（北京語言大学）「中国大陸における『城市』文化と『食産』文化」
●セッション6
司会：宮一穂（京都精華大学）
図師宣忠（京都造形芸術大学）「囲むべきか、囲まざるべきかー市壁から見たヨーロッパの『中世都市』ー」
錦仁（新潟大学）「藩主の領内巡覧記ー仙台藩主と秋田藩主ー」
白幡洋三郎（日文研）「都市はぜいたくー近世・近代、衣食住の視点からー」
【コメンテーター：越澤明（北海道大学）ほか】
●セッション7
司会：天野史郎（明治学院大学）
藤井真生（秀明大学）「中世チェコにおけるワインとビール」
豊田裕章（大阪府立豊中支援学校）「復元・水無瀬離宮ー後鳥羽院の庭園都市ー」

牛村圭（日文研）「アキュラ、レクサス、インフィニティ：逆輸入された日本のクルマ文化」
総合討論（司会：長田俊樹）
【公開講演会】
2010年2月27日　日文研ホール
【講演】村井康彦（京都市美術館長）「日本の都市文化」
【討論】「歌（うた）・酒（さけ）・宴（うたげ）ー個人と集団ー」
パネリスト：白幡洋三郎（日文研教授）〔報告・司会〕、錦仁（新潟大学教授）、原田信男（国士舘大学教授）、パスカル・グリオレ（フランス国立東洋言語文化研究所（INALCO）教授）
【報告書】
『都市歴史博覧ー都市文化のなりたち・しくみ・たのしみ』（笠間書院、2011年12月）
第38回
【開催日・会場】
2010年11月8日～11月11日　日文研
【テーマ】
東洋美学と東洋的思维を問う：植民地帝国下の葛藤するアジア像
Questioning Oriental Aesthetics and Thinking: Conflicting Visions of “Asia” under the Colonial Empires
【研究代表者】
稲賀繁美（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者79人（国内64人　国外15人）
●Part 1: Oriental Reactions to Western Cultural Hegemony
Chair: INAGA Shigemi (Nichibunken), Discussant: OTABE Tanehisa (The University of Tokyo)
Michael F. MARRA (University of California) “Hermeneutics of Emplacement: On Places, Cuts, and Promises”
INAGA Shigemi “Philosophia, Ethica and Aesthetica in the Far-Eastern Cultural Sphere: Receptions of Western Ideas and Reactions to Western Cultural Hegemony”
MIN Joosik (Yeugnam University / National Research Foundation of Korea) “Korean Modern Reactions to Western Aesthetics”
●Part 2: Western Rediscoveries of Oriental Cultures: Materiality and Spirituality
Chair: GUO Nanyan (Nichibunken), Discussants: YAMADA Shōji (Nichibunken), YOSHINAGA Shin'ichi (Maizuru National College of Technology)
HASHIMOTO Yorimitsu (Osaka University) “Jūjutsu and Bushidō in the British Empire in the Early 20th Century”
Minna TORMA (Christie's Education) “Osvald Siren's Encounter with the Arts of China and Japan”
Manfred SPEIDEL (RWTH Aachen University (Retired)) “Bruno Taut and Japanese Traditional Architecture in the Face of Its Modernization”
General Discussion
●Part 3: Confrontations of Eastern and Western Institutions in Image-Politics
Chair: INAGA Shigemi, Discussant: GUO Nanyan
Ayako HOT TA-LISTER (Independent Scholar Historian) “Japan Seeks an Image as an Emerging Colonial Empire: The Japan-British Exhibition of 1910 in London”
FAN Liya (Yomiuri NTV Cultural Center Study Courses) “Modern Chinese Intellectuals and the 1935 London International Exhibition of Chinese Art: The Reactions of Cai Yuanpei and <i>The China Critic Group</i> ”
Hui GUO (Leiden University) “From Japan to Europe: Teng Gu's

Internalization of Western Art Historical Ideas”
●Part 4: Conflicts of Interpretations in Visualizing the Invisible Orient
Chair: Patricia FISTER (Nichibunken), Discussants: NISHIHARA Daisuke (Hiroshima University), HASHIMOTO Yorimitsu
Aida Yuen WONG (Brandeis University) “Kishida Ryūsei (1891～1929) : Painter of the ‘Oriental Grotesque’ and the Mingei Movement”
Murielle HLADIK (National Superior School of Architecture of Saint-Etienne) “Aesthetics of Imperfection: Discovering the Value of Discontinuity and Fragmentation”
KIKUCHI Yuko (University of the Arts London) “Visualising Oriental Crafts: Contested Notion of ‘Japaneseness’ and the Crafts of the Japanese Empire”
Anton SEVILLA (Ateneo de Manila University) “Ethics of Emptiness East and West: Examining Nishitani, Watsuji, and Berdyaev”
General Discussion
●Part 5: Western Academic Disciplines and Things Oriental
Chair: TAKII Kazuhiro (Nichibunken), Discussant: SANO Mayuko (Nichibunken)
Olivier KRISCHER (University of Tsukuba) “Ōmura Seigai's Conception of Oriental Art History and China”
PAI Hyung-il (University of California) “Tracing the Ruins of Japan's ‘Imagined’ Imperial Past: Travel Photography and Archaeology in Colonial Korea (1902～1943)”
●Part 6: Oriental Identity in Question: Beyond East-West Dichotomies
Chair: John BREEN (Nichibunken), Discussant: HOSOKAWA Shūhei (Nichibunken)
Félix U. KAPUTU (Massachusetts College of Art and Design)
“Beyond the East and the West: An African View of Japanese Aesthetics”
●Part 7: Orient on Display: Conflicts between Self-Image and Western Expectations
Public Lectures
General Discussion
Chair: INAGA Shigemi, Discussants: Silvio VITA (Italian School of East Asian Studies (ISEAS)), HAMASHITA Masahiro (Kobe College), ŌHASHI Ryōsuke (University of Cologne)
【公開講演会】「東洋の自己イメージと西洋からの期待ー落差と葛藤ー」
2010年11月10日　日文研ホール
バート・ウィンザー＝タマキ（カリフォルニア大学アーヴァイン校美術史学部准教授）「東洋の導師と現代芸術家ー戦後米国アートに見る役割分担ー」
クリスティース・グライナー（サンパウロ・カトリック大学身体言語学科教授）「舞踏という経験ー東西の違いを越えて身体を再創造するー」
【報告書】
国際研究集会報告書第38集（2011年3月）
第39回
【開催日・会場】
2010年11月29日～12月3日　日文研
【テーマ】
環境と文明：過去・現在・未来
The Environment and Civilization: Past, Present and Future
【研究代表者】
安田喜憲（日文研教授）
【国際研究集会】
参加者77人（国内41人　国外36人）
●Opening Speech　YASUDA Yoshinori (Nichibunken)
●Session 1
Chair: Felix BITTMANN (Lower Saxony Institute for Historical Coastal Research)
Timo SAARINEN (University of Turku), Saija TURUNEN, Eeva

HALTIA-HOVI “Reconstructing Late Holocene environmental and climate changes in Finland using annually laminated lake sediments” Ingelise STUIJTS (The Discovery Programme) “Environment and people: Who, what, why and whither in Derryville Bog, Co. Tipperary, Ireland” Roger J. FLOWER (Environmental Change Research Centre (ECRC)) “Sediment records of past environmental changes in Lake Qarun, a remnant early Holocene lake within the Faiyum Depression of Egypt: sedimentary diatoms and sediment stratigraphy” Mohamed A. HAMDAN (Cairo University) “Geoarchaeology of Sheikh el Obeiyid Site, Farafra, Western Desert, Egypt.”
●Session 2
Chair: Mirosław MAKOHONIENKO (Adam Mickiewicz University) Vuthy VOEUN (Ministry of Culture and Fine Arts) “Angkor Ancestors’ sites in Cambodia yield thousands of fish bones from 18 families” Xun LI (Institute of Geological Nuclear Sciences), YASUDA Yoshinori, FUJIKI Toshiyuki (Nichibunken), OKAMURA Makoto, MATSUOKA Hiromi, YAMADA Kazuyoshi (Naruto University of Education) “An 8000-year lake record from Bali: Implications for climate variability and possible human activities” Geoffrey HOPE (Australian National University) “Kosipe: Using fire as a proxy for Pleistocene occupation in the mountains of southern New Guinea” Chair: Michael O’CONNELL (Natural University of Ireland Galway) Sunil GUPTA (Allahabad Museum) “Maritime environments and civilization: Early exchange networks from the Bay of Bengal to the Far East (1000 BC ~ 500 AD)” Vasant SHINDE (Deemed University) “Decline of the Harappan Civilization of South Asia: Causes and consequences” SUGIYAMA Taishi (Central Research Institute of Electric Power Industry) “Environmental Archaeology of Global Warming: For the improvement of IPCC science on Climate Change and its Impacts”
●Discussion
●Closing Speech Fekri HASSAN (University Collage London) ※12月1日～2日は、国際環境考古学会2010年大会のため、プログラム掲載を省略
【公開講演会】「太陽と古代文明」 2010年12月3日 日文研ホール イングリーザ・ズタイン (ディスカバリー・プログラム研究員) 「太陽・永遠の旅：先史時代スカンディナヴィアとドイツの宇宙観」 マイケル・オコーネル (アイルランド国立大学教授) 「アイルランドの太陽信仰」 安田喜憲 (日文研教授) 「長江文明の太陽信仰」 フェクリ・ハッサン (ロンドン大学名誉教授) 「神々の起源—自然・政治・信仰—」 青山和夫 (茨城大学教授) 「マヤ文明とアステカ文明における太陽と暦」
第40回
【開催日・会場】 2011年7月13日～7月16日 日文研
【テーマ】 植民地帝国日本における支配と地域社会 The Rule and the Local Society in the Japanese Colonial Empire
【研究代表者】 松田利彦 (日文研准教授)
【国際研究集会】 参加者69人 (国内60人 国外9人)
司会：戸部良一 (日文研)
●基調報告 松田利彦 (日文研) 「植民地帝国の中の地域社会：朝鮮史研究における成果と課題」

陳延浚 (台湾中央研究院台湾史研究所) 「植民地から帝国史研究の可能性を再考する—台湾史における地方エリートの研究トレンドと関連して」
●セッション1 植民地研究と地方史
司会：松田利彦 洪淳権 (東亜大学校) 「日帝下朝鮮の地域社會研究と‘草の根の植民地主義’—1920年代の「府・面協議会」に関する研究と事例を中心に—」 張隆志 (台湾中央研究院台湾史研究所) 「植民地統治と地方社会：日治時期台湾史料と研究潮流の紹介」 [コメント：春山明哲 (早稲田大学)]
●セッション2 衛生行政の展開
司会：長沢一恵 (奈良大学) 栗原純 (東京女子大学) 「台湾総督府のマラリア対策と地域社会」 朴潤栽 (延世大学校) 「朝鮮総督府の種痘政策と朝鮮人の反応」 [コメント：李炯植 (国民大学校日本学研究所)]
●セッション3 植民地支配と地域有力者
司会：王鉄軍 (遼寧大学／日文研外国人研究員) 呉文星 (台湾師範大学) 「日本統治下台湾における社会的リーダー階層と義務教育の実施—第一回台湾総督府評議員会の議論を中心に—」 河元鎬 (東国大学校) 「日帝の植民地支配と全南羅州地域の地方有力者」 [コメント：板垣竜太 (同志社大学)]
●セッション4 地域社会と学校
司会：李昇燁 (佛教大学) 古川宣子 (大東文化大学) 「植民地期慶尚北道における学校『普及』と地域—金泉高等普通学校の設立をめぐる動きを中心に—」 林欣宜 (University of Oxford) 「政治権力交代時における植民地教育と社会的エリートの流動の関係—台湾新竹を例に—」 藤井康子 (京都大学大学院教育学研究科) 「1920年代台湾における中等・高等教育と地域社会—南部における学校設立運動に着目して—」 [コメント：大浜郁子 (琉球大学)]
●セッション5 1920年代の青年会・青年団
司会：水野直樹 (京都大学人文科学研究所) 陳文松 (成功大学) 「1920年代台湾における官製青年団の導入と草屯炎峰青年会」 朴賛勝 (漢陽大学校／日文研外国人研究員) 「1920年代初期朝鮮の青年運動と支配当局の対応」 [コメント：宮崎聖子 (福岡女子大学)]
総合討論



第5回国際研究集会(1991年)



創立10周年記念国際研究集会公開パネルセッション(1997年)



創立10周年記念国際研究集会 エクスカーション(天龍寺にて)

海外シンポジウムの記録

第1回

【開催日】
1995年12月4日～7日
【開催場所／共催機関】
中国・北京／北京大学
【テーマ】
東アジアにおける近代化の指導者たち—東亜近代化歷程中的傑出人物—
【代表者】
芳賀徹（日文研教授）
【報告書】
中国国際シンポジウム報告書（1997年3月）

第2回

【開催日】
1996年10月7日～11日
【開催場所／共催機関】
トルコ・イスタンブール／イスラム歴史・芸術・文化研究センター
【テーマ】
トルコと日本における近代科学技術の導入について
Introduction of Modern Science and Technology to Turkey and Japan
【代表者】
山田慶兒（日文研教授）
【報告書】
トルコ国際シンポジウム報告書（1998年3月）

第3回

【開催日】
1998年3月20日～22日
【開催場所／共催機関】
イギリス・マクレスフィールド／シェフィールド大学
【テーマ】
日欧文化・文明交流の歴史とダイナミクス—日本のグローバルな意味—
Japan-Europe Cultural Exchange : Its History and Dynamics
—The Global Meaning of Japan
【代表者】
石井紫郎（日文研教授）
【報告書】
Japan Review Vol.12（2000年11月）

第4回

【開催日】
1998年10月12日～15日
【開催場所／共催機関】
ベルギー・ルーヴァン／ルーヴァン・カトリック大学
【テーマ】
日欧文化・文明交流の歴史とダイナミクス—文化の翻訳・翻訳の文化—
Japan-Europe Cultural Exchange : Its History and Dynamics
—Translation of Culture and Culture of Translation—
【代表者】
石井紫郎（日文研教授）
【報告書】
ヨーロッパ国際シンポジウム報告書（1998・ベルギー）（2000年3月）、 DODONÆUS IN JAPAN（Leuven University Press, 2001年）

第5回

【開催日】

1999年10月27日～29日
【開催場所／共催機関】
オランダ・ライデン／ライデン大学
【テーマ】
日欧文化・文明交流の歴史とダイナミクス—近世世界の二つの顔—
Japan-Europe Cultural Exchange : Its History and Dynamics
—Two Faces of the Early Modern World—
【代表者】
石井紫郎（日文研教授）
【報告書】
ヨーロッパ国際シンポジウム報告書（1999・オランダ）（2001年3月）

第6回

【開催日】
2000年11月9日～11日
【開催場所／共催機関】
アメリカ・ハワイ／ハワイ大学マノア校
【テーマ】
日米歴史家円卓会議「誤解と偏見の過去・現在、そして未来」
Roundtable of Japanese and American Historians “Misapprehensions
and Prejudiced Views, Past and Present—Can History be Different in
the Future”
【代表者】
石井紫郎（日文研教授）
【報告書】

北米シンポジウム報告書「Writing Histories in Japan Texts and their
Transformations from Ancient Times through the Meiji Era」
（2007年6月）

第7回

【開催日】
2001年1月26日～27日、29日～30日
【開催場所／共催機関】
アメリカ・カリフォルニア／カリフォルニア大学サンタバーバラ校及びロサン
ゼルス校
【テーマ】
日本人の価値・規範意識とヒストリオグラフィー
Historiography and Japanese Consciousness of Values and Norms
【代表者】
鈴木貞美（日文研教授）
【報告書】
北米シンポジウム報告書（2001・カリフォルニア）（2003年1月）

第8回

【開催日】
2002年1月15日～17日
【開催場所／共催機関】
日本・京都（日文研）／プリンストン大学
【テーマ】
日本人の価値・規範意識とヒストリオグラフィー—歴史学と民俗学
Historiography and Japanese Consciousness of Values and Norms :
History and Folklore Studies
【代表者】
ジェームズ・バクスター（日文研教授）

【報告書】
北米シンポジウム報告書（2002・プリンストン）（2006年11月）

第9回
【開催日】
2002年10月30日～11月3日
【開催場所／共催機関】
カナダ・バンフ（バンフセンター）／カルガリー大学
【テーマ】
日本人の価値・規範意識とヒストリオグラフィー
Historiography and Japanese Consciousness of Values and Norms :
Historical Consciousness, Historiography, and Modern Japanese of
Values
【代表者】
ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【報告書】
北米シンポジウム報告書（2002・バンフ）（2006年11月）

第10回

【開催日】
2003年11月10日～13日
【開催場所／共催機関】
オーストラリア・シドニー／シドニー大学
【テーマ】
アジア太平洋地域におけるグローバリゼーション、ローカライゼーション
と日本文化：その研究の過去・現在・未来
Globalization, Localization, and Japanese Studies in the Asia-Pacific
Region
【代表者】
ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【報告書】
シドニーシンポジウム報告書（2010年3月）

第11回

【開催日】
2004年10月28日～31日
【開催場所／共催機関】
シンガポール／シンガポール国立大学
【テーマ】
アジア太平洋地域におけるグローバリゼーション、ローカライゼーションと
日本文化：その研究の過去・現在・未来
Globalization, Localization, and Japanese Studies in the Asia-Pacific
Region
【代表者】
園田英弘（日文研教授）
【報告書】
シンガポールシンポジウム報告書（2010年3月）

第12回

【開催日】
2005年9月30日～10月4日
【開催場所／共催機関】
中国・香港／香港中文大学
【テーマ】
アジア太平洋地域におけるグローバリゼーション、ローカライゼーションと
日本文化：その研究の過去・現在・未来
Globalization, Localization, and Japanese Studies in the Asia-Pacific
Region
【代表者】

園田英弘（日文研教授）
【報告書】
香港シンポジウム報告書（2010年3月）

第13回

【開催日】
2006年11月5日～6日
【開催場所／共催機関】
エジプト・カイロ／カイロ大学
【テーマ】
日本研究カイロ会議
Cairo Conference on Japanese Studies 2006
【代表者】
園田英弘（日文研教授）
【報告書】
カイロシンポジウム報告書（2007年12月）

第14回

【開催日】
2007年10月31日～11月2日
【開催場所／共催機関】
ロシア・モスクワ／ロシア国立人文学大学、モスクワ国立大学アジア・アフリカ
諸国大学
【テーマ】
日本文化の解釈：ロシアと日本からの視点
Interpretations of Japanese Culture : Views from Russia and Japan
【代表者】
細川周平（日文研教授）
【報告書】
ロシアシンポジウム報告書（2009年12月）

第15回

【開催日】
2008年10月14日～16日
【開催場所／共催機関】
ブラジル・サンパウロ／サンパウロ大学
【テーマ】
日本・ブラジル文化交流—言語・歴史・移民
Intercâmbio Cultural entre o Brasil e o Japão : Língua/História/
Imigração
【代表者】
細川周平（日文研教授）
【報告書】
ブラジルシンポジウム報告書（2009年11月）

第16回

【開催日】
2009年11月3日～4日
【開催場所／共催機関】
インド・デリー／ジャワハルラル・ネルー大学
【テーマ】
アジア新時代の南アジアにおける日本像—インド・SAARC諸国における
日本研究の現状と必要性
Changing Perceptions of Japan in South Asia in the New Asian Era:
The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries
【代表者】
宇野隆夫（日文研教授）
【報告書】
インドシンポジウム報告書（2011年3月）

第17回
【開催日】
2010年10月5日～10月7日
【開催場所／共催機関】
インドネシア・ジャカルタ／インドネシア大学
【テーマ】
日本の文化と社会の潮流
Understanding Contemporary Japan
【代表者】
山田奨治（日文研准教授）
【報告書】
インドネシアシンポジウム報告書（2011年11月）

第18回
【開催日】
2011年5月27日～5月29日
【開催場所／共催機関】
中国・上海／復旦大学
【テーマ】
江南文化と日本―資料・人的交流の再発掘―
Jiangnan Culture and Japan: A Rediscovery of Resources and Human Exchange
【代表者】
山田奨治（日文研教授）



第1回海外シンポジウム（北京大学、1995年）



第17回海外シンポジウム（インドネシア大学、2010年）



第2回海外シンポジウム（トルコ・イスラム歴史・芸術・文化研究センター、1996年）



第18回海外シンポジウム（復旦大学、2011年）

日本研究会の記録

第1回
【開催日】
1999年9月9日～10日
【開催場所】
ドイツ／ボン大学日本学ゼミナール

第2回
【開催日】
1999年9月20日～21日
【開催場所】
アメリカ／ハワイ大学マノア校イーストウェストセンター

第3回
【開催日】
2001年1月15日
【開催場所】
タイ／チュラロンコン大学

第4回
【開催日】
2001年2月16日～17日
【開催場所】
オーストラリア／モナシュ大学

第5回
【開催日】
2001年11月30日、12月3日
【開催場所】
ニュージーランド／カンタベリー大学、オークランド大学

第6回
【開催日】
2002年3月11日
【開催場所】
シンガポール／国立シンガポール大学

第7回
【開催日】
2002年12月16日
【開催場所】
エジプト／カイロ大学文学部

第8回
【開催日】
2003年2月17日、21日
【開催場所】
ロシア／ロシア科学アカデミー東洋研究所

第9回
【開催日】
2003年8月26日
【開催場所】
ポーランド／ワルシャワ大学

第10回
【開催日】
2005年2月15日、17日、21日～22日
【開催場所】
ポルトガル／リスボン新大学
スペイン／マドリードアウトノマ大学、バルセロナアウトノマ大学

第11回
【開催日】
2005年8月31日～9月3日
【開催場所】
オーストリア／ウィーン大学

第12回
【開催日】
2005年9月4日～7日
【開催場所】
ギリシャ／ヘレニズム文化研究センター、アテネ大学

第13回
【開催日】
2006年9月18日、21日～22日
【開催場所】
イタリア／国立ミラノ大学、国立レッツェ大学

第14回
【開催日】
2007年8月2日、6日
【開催場所】
ブラジル／サンパウロ大学日本文化研究所、国際交流基金サンパウロ日本文化センター、リオデジャネイロ州立大学

第15回
【開催日】
2008年11月21日
【開催場所】
ベトナム／ハノイ大学

第16回
【開催日】
2009年5月13日～14日
【開催場所】
インドネシア／インドネシア大学

第17回
【開催日】
2010年10月16日～17日
【開催場所】
台湾／台湾中央研究院

第18回
【開催日】
2011年8月24日～27日
【開催場所】
エストニア／タリン大学

海外研究交流シンポジウムの記録

第1回

【開催日】

2006年11月20日～22日

【開催場所】

韓国／韓国学中央研究院、ソウル大学校日本研究所、東西大学校日本研究センター

【代表者】

猪木武徳（日文研教授）

第2回

【開催日】

2007年3月8日～10日

【開催場所】

フランス／アルザス・ヨーロッパ日本学研究所（共催）

【テーマ】

近代日本の社会と文化

【代表者】

猪木武徳（日文研教授）

第3回

【開催日】

2007年12月12日～13日

【開催場所】

中国／華東師範大学外国語学院

【代表者】

細川周平（日文研教授）

第4回

【開催日】

2008年3月1日～2日

【開催場所】

フランス／アルザス・ヨーロッパ日本学研究所（共催）

【テーマ】

近代日本の美と思想

【代表者】

細川周平（日文研教授）

第5回

【開催日】

2008年9月26日～27日

【開催場所】

ロシア／ロシア国立極東大学付属東洋大学（共催）

【テーマ】

ロシア極東文化の中の日本

【代表者】

細川周平（日文研教授）

第6回

【開催日】

2009年6月2日～3日

【開催場所】

日本／日文研（アルザス・ヨーロッパ日本学研究所共催）

【テーマ】

他者になることー東西文化の変容の体験と物語ー

【代表者】

細川周平（日文研教授）

第7回

【開催日】

2010年3月19日～3月20日

【開催場所】

日本／日文研

【テーマ】

出島文書と徳川時代

【代表者】

フレデリック・クレインス（日文研准教授）

第8回

【開催日】

2011年2月25日～27日

【開催場所】

日本／日文研

【テーマ】

文化の翻訳ー北欧における日本文学研究を中心にー

【代表者】

山田奨治（日文研准教授）



第3回日本研究会（タイ・チュラロンコン大学、2001年）



第9回日本研究会（ポーランド・ワルシャワ大学、2003年）



第18回日本研究会（エストニア・タリン大学、2011年）



第1回海外研究交流シンポジウム（韓国・東西大学校日本研究センター、2006年）

第3章

研究活動③

その他の活動

日文研の25年の歴史のなかで、さまざまなかたちで研究および研究協力活動のやり方（方法）が試行されてきた。「共同研究」のように日文研の中核となるべく位置づけられた研究活動は計画通りに定例的に推進されていったが、初期の活動は、個人のアイデアや数人の集いから派生したものなども少なくなかった。

それらのなかには、ある限定された期間だけの役割を担った活動に終わったものもあり、また当時は非常に重要な役割を担ったものの、センター全体で取り組まれたものではない研究プログラムもあった。その実績の積み重ねによって、後に公式な日文研の研究・研究協力活動に発展していったものもあった。したがって、これらは、日文研の歩みの重要な脇役として位置づけられる。

1.学際的研究風土が生んだ「基礎領域研究」

日文研を特徴づける学問的風土として、国際性ととともに重要な要素として取り上げられるのが「学際性」である。日文研の教員は、研究者として複数の専門領域を持たなければならないという不文律があった。専門領域の複数性は、一時は教員の採用基準でもあったほどである。

それは、結果的には、既存の学問体系や研究手法にとられない新しい日本文化研究分野の生成を促すことに繋がることである。これからの日本研究はいかにあるべきか、そのあり方や展望をにらんで、日文研の専任教員が中心となって、さまざまな機関、多様な分野の研究者との研究会を通して、新しい研究媒体の発掘や新しい研究手法の開発、斬新な研究視点の模索などに取り組んできたのである。

発端は、1992（平成4）年4月に同時スタートした「本草セミナー」（担当：山田慶児教授）と「故実セミナー」（担当：村井康彦教授）であった。「本草セミナー」は、共同研究の参加者を中心として『本草綱目』の会読をすすめ、「故実セミナー」は、「故実と儀礼の成立」に関する古記や藤原頼長の『日記』の会読で始められた。さらに、翌1993年4月には新たに「比較文化映像資料研究」（担当：白幡洋三郎助教授）も加わった。この年から、名称も「基礎研究」と改め、あくまでも教員の自主ゼミの形式をとっていたが、さらに新年度になると新しいプロジェクトが加わるなど、ほぼ定例化したものになっていった。

その後、専任教員の大半がそれぞれに自らの課題に照らしあわせつつ、研究手法や研究視点の革新のために新しい研究テーマを開発し続け、短いもので2年から5年、長いものではそれ以上を超える研究会を主宰するようになった。近年では、名称も「基礎領域研究」と再度改められ、平均して年間に7～8テーマが同時並行的に実施されている（基礎領域研究一覧は237頁参照）。

2.さまざまな研究交流の推進

日文研設立以来、1991（平成3）年10月に「木曜セミナー」が誕生するまでの4年間は、所員同士の自由で自主的な横断的研究交流はなされていなかった。そうした初期の所員間コミュニケーションを促し、日文研の学際的な学問風土の形成に貢献したのは、いくつかの“羅漢の集い”（梅原猛初代所長の言葉）の試みであった。

○暖話会

創設間もない日文研の研究活動は、「共同研究」を中心に活発化されていた。専任教員は、ほとんど複数の研究班に所属していた。それぞれ、自分の専門領域とは異なった研究領域の発表を聴き、討論する楽しさは他の大学や研究機関では味わえない刺激的なものであった。しかし、一方で、テーマを定めず自由な発想で議論し、意見発表できる

場をもちたいとする欲求も徐々に目覚めていった。

そうした空気を反映して生まれたのが「暖話会」である。月1回木曜日、発表者は1回2人程度で1人15分ほどの報告をし、それを素材として討議するというのが大まかな取り組みであった。「暖話会」という名前には、それぞれの発表を「話の芽」として、温かいまなざしの下で育てようという意味が込められていた。談論風発の連続で、延々4時間に及ぶこともしばしばであった。会は、1989（平成元）年2月に始まり、1991（平成3）年7月まで、2年間にわたって20回開催された。

○所長特別研究会

日文研第2代の河合隼雄所長（在任：1995年5月～2001年5月）が主唱して開催された特別研究会である。ほぼ毎月1回のペースで、1999年4月から2001年1月まで、計16回開催された。ユング派分析心理学に基づく心理療法士として著名であった河合所長は、一方で、日本文化論に関する数多くの著作で知られ、自我意識の探究を通して日本人と日本文化を研究することに情熱を傾けていた。そうした問題関心から、個々の研究会のテーマや発表者選定など、所長自らがプロデュースに関わったものである。テーマは、比較文化論の視点からつねに国際性と総合性を保持することに留意されていた。

この研究会の成果は、『「個人」の探求—日本文化のなかで—』（河合隼雄編著、NHK出版、2003年刊）として纏められて出版された。

○ジャポニスム・セミナー

19世紀中頃から20世紀初頭にかけて、フランスのパリで万国博覧会が何度か開催され、日本からも工芸品や美術品が出品され、にわかに日本ブームが起きた。その影響を受けたヨーロッパでの芸術運動を“ジャポニスム”という。日本文化がヨーロッパに輸出された事例として、日文研にとっても重要なテーマあったため、1992（平成4）年5月から1993（平成5）年12月まで、10回にわたって連続研究発表会を実施した。しかし、日文研としての研究方法を整えることができなかったため、関心のある研究員だけの研究会にとどまった。

○Saturday Seminar

“Nichibunken Evening Seminar（イブニング・セミナー）”が始まる前に、木村汎教授の努力で先行的に行われていた日本在住の外国人研究者及び日本人研究者の英語による研究発表会である。このセミナーの段階では、日本人教員の担当者によるテーマ選定などの助言システムもなく、進行方法などについてもまちまちで整っていなかった。

○アメリカン・ウェイ・オブ・ライフと日本

1960年代のアメリカに関する書物の合評を通して、同時代の日本文化と比較研究する試みで、飯田経夫教授を中心に推進された。1993（平成5）年6月に始まり、1997（平成9）年2月まで、断続的に11回開催された。

基礎領域研究の記録

【研究課題】 本草研究 (担当者：山田慶児)	【研究課題】 中国語運用の基礎・応用 (担当者：郭南燕)
【開始年】 1992年	【開始年】 2009年
【研究課題】 故実研究 (担当者：村井康彦)	【研究課題】 日本宗教史基礎研究 (担当者：末本文美士)
【開始年】 1992年	【開始年】 2010年
【研究課題】 比較文化映像資料研究 (担当者：白幡洋三郎)	
【開始年】 1993年	
【研究課題】 近世医書研究 (担当者：山田慶児)	
【開始年】 1994年	
【研究課題】 近世天文書研究 (担当者：山田慶児)	
【開始年】 1994年	
【研究課題】 古文書研究 (担当者：千田稔、笠谷和比古、早川閑多)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 海外日本学研究 (担当者：芳賀徹)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 日本宗教論 (担当者：山折哲雄)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 明治期日本論の検討 (担当者：石井紫郎、井上章一、鈴木貞美)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 家族史・人口史の基礎研究 (担当者：速水融、落合恵美子、小野芳彦)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 Elements of English Style (担当者：木村汎、栗山茂久)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 身体の比較文化史 (担当者：芳賀徹、栗山茂久)	
【開始年】 1995年	
【研究課題】 近世風俗未公刊資料解説 (担当者：芳賀徹、早川閑多、光田和伸)	
【開始年】 1996年	
【研究課題】 文化論の基礎概念と方法 (担当者：鈴木貞美)	
【開始年】 1997年	
【研究課題】 日本研究と画像情報処理 (担当者：山田奨治)	
【開始年】 1997年	
【研究課題】 DNA考古学 (担当者：尾本恵市)	
【開始年】 1997年	
【研究課題】 日本古典詩歌講読の基礎 (担当者：光田和伸、早川閑多)	
【開始年】 1997年	
【研究課題】 3次元データとバーチャルリアリティ (担当者：赤澤威)	
【開始年】 1998年	
【研究課題】 フランス語運用の基礎・応用 (担当者：稲賀繁美)	
【開始年】 1998年	
【研究課題】 寺院参詣資料の研究 (担当者：頼富本宏)	
【開始年】 2000年	
【研究課題】 日本研究におけるビジュアルデータベース (担当者：赤澤威)	
【開始年】 2000年	
【研究課題】 韓国語運用の基礎・応用 (担当者：松田利彦)	
【開始年】 2001年	
【研究課題】 日本宗教研究の基礎理論 (担当者：小松和彦)	
【開始年】 2003年	
【研究課題】 人文情報学の基礎 (担当者：山田奨治)	
【開始年】 2003年	
【研究課題】 身心技法の探究 (担当者：稲賀繁美)	
【開始年】 2003年	
【研究課題】 比較日本文化研究基礎論 (担当者：小松和彦)	
【開始年】 2007年	

【研究課題】 中国語運用の基礎・応用 (担当者：郭南燕)
【開始年】 2009年
【研究課題】 日本宗教史基礎研究 (担当者：末本文美士)
【開始年】 2010年

暖話会の記録

第1回
【開催日】 1989年2月17日
【テーマ】 共同研究のあり方について
第2回
【開催日】 1989年3月30日
【テーマ】 自然観について
【話題提供】 中西進 (日文研教授)「日本の自然観について」、下立強 (北京大学常務副主任／日文研客員教授)「中国の自然観について」
司会：安田喜憲 (日文研助教授)
第3回
【開催日】 1989年4月13日
【テーマ】 梅原猛著『日本人のあの世観』中公叢書 (1989) をめぐって
【話題提供】 安田喜憲 (日文研助教授)「エジプトと日本の他界観」、中西進 (日文研教授)「古代人の他界観」
司会：村井康彦 (日文研教授)
第4回
【開催日】 1989年5月18日
【話題提供】 森岡正博 (日文研助手)「人間が人間を利用することを正当化する論理についてこのごろ思うこと」、久野昭 (日文研教授)「平安京都市計画はなぜ失敗したか」
司会：早川閑多 (日文研助教授)
第5回
【開催日】 1989年6月15日
【テーマ】 日本人の顔
【話題提供】 埴原和郎 (日文研教授)「なまぐさフェイス」、山折哲雄 (日文研教授)「ブッダフェイス」
司会：井上章一 (日文研助教授)
第6回
【開催日】 1989年9月21日
【話題提供】 笠谷和比古 (日文研助教授)「日本近世にみる権力と自由」
第7回
【開催日】 1989年11月8日
【話題提供】 小野芳彦 (日文研助教授)「初心者にもわかる一かな漢字変換の進歩―」
第8回
【開催日】 1989年12月13日
【話題提供】 グラント・グッドマン (カンザス大学教授／日文研客員教授)「アメリカにおける天皇報道」
第9回
【開催日】 1990年4月19日
【話題提供】 山田慶児 (日文研教授)「中国古代の解剖学」
第10回
【開催日】 1990年5月31日
【話題提供】 伊東俊太郎 (日文研教授)「文明の時代区分」

第11回
【開催日】 1990年6月21日
【話題提供】 速水融 (日文研教授)「世界に冠たる宗門改帳」
第12回
【開催日】 1990年7月19日
【話題提供】 飯田経夫 (日文研教授)「日本経済の『特殊性』をどうとらえるか」
第13回
【開催日】 1990年10月11日
【話題提供】 ウィーベ・カウテルト (ワーニンゲン大学植物園研究員／日文研外来研究員)「Gardens-Eye Openers」
第14回
【開催日】 1990年11月22日
【話題提供】 河合隼雄 (日文研教授)「『箱庭療法』について」
第15回
【開催日】 1991年1月24日
【話題提供】 黒須里美 (日文研助手)「現代日本の多世代家族」
コーディネーター：中西進 (日文研教授)
第16回
【開催日】 1991年2月21日
【話題提供】 佐藤知己 (日文研助手)「アイヌ語の構造」
コーディネーター：伊東俊太郎 (日文研教授)
第17回
【開催日】 1991年4月18日
【話題提供】 村井康彦 (日文研教授)「洛西の歴史と地理」
第18回
【開催日】 1991年5月23日
【話題提供】 別役恭子 (日文研寄附研究部門教授)「浮田一憲『婚怪草紙絵巻』について」
コーディネーター：早川閑多 (日文研助教授)
第19回
【開催日】 1991年6月12日
【話題提供】 北川浩之 (日文研助手)「暦の年代と炭素14年代」
コーディネーター：安田喜憲 (日文研助教授)
第20回
【開催日】 1991年7月18日
【話題提供】 木村汎 (日文研教授)「国際交渉における“面子”―とくにソ連の場合―」
コーディネーター：飯田経夫 (日文研教授)

所長特別研究会「日本文化と個人」の記録

第1回

【開催日】1999年4月22日
【報告者・題名】ブルーノ・リーネル（日文研客員助教授）「西洋のセラピストから見た日本人の自我：The Formless Ego」

第2回

【開催日】1999年5月27日
【報告者・題名】河合隼雄（日文研所長）「古事記神話の中空構造」

第3回

【開催日】1999年6月24日
【報告者・題名】鈴木貞美（日文研教授）「日本の『私』—短歌を通して—」

第4回

【開催日】1999年7月22日
【報告者・題名】アフファマット・M・F・モスタファ（日文研客員助教授）「アラブの『私』を考える」

第5回

【開催日】1999年9月30日
【報告者・題名】マリエレン・モリ（日文研外来研究員）「自己喪失の恐怖と恍惚…高橋たか子の文学」

第6回

【開催日】1999年11月25日
【報告者・題名】ジャン＝ノエル・A・ロベール（日文研客員教授）「自我の拡大と自己意識」

第7回

【開催日】1999年12月9日
【報告者・題名】宇野隆夫（日文研教授）「装いによる個人の表現—日本列島中央部前近代の三つの画期—」

第8回

【開催日】2000年1月27日
【報告者・題名】井上章一（日文研助教授）「建築における模倣と創造」

第9回

【開催日】2000年3月23日
【報告者・題名】今道友信（英知大学文学部教授）「個性と個人—日本人の場合—」、笠谷和比古（日文研教授）「日本型組織と個人の自立—歴史の視角から—」、村上淳一（桐蔭横浜大学法学部教授）「存在としての個人、循環としての個人」、頼富本宏（日文研教授）「我・無我・真我　そして……」

第10回

【開催日】2000年6月1日
【報告者・題名】稲賀繁美（日文研助教授）「分割可能な自己の夢 A Dream of the Dividable Self—岩明均『寄生獣』を出発点に—」

第11回

【開催日】2000年6月29日
ミニシンポジウム「日本人の倫理観を問う—価値相対主義はいかにして相対化されうるか?!—」

第12回

【開催日】2000年9月27日
【報告者・題名】園田英弘（日文研教授）「『愛するということ』再考—フィクションとしての西洋の「個人」—」

第13回

【開催日】2000年10月26日
【報告者・題名】テモテ・カーン（日文研助教授）「サードカルチャーキッズ（TCK）仲間を探す」

第14回

【開催日】2000年11月30日
【報告者・題名】リチャード・ルビンジャー（日文研客員教授）「近世庶民教育における個人の日米間比較」

第15回

【開催日】2000年12月14日
【報告者・題名】李卓（日文研客員教授）「日本の良妻賢母と中国の賢妻良母」

第16回

【開催日】2001年1月25日
【報告者・題名】アリソン・トキタ（モナシュ大学日本研究センター所長）「語り部の行方—語り物におけるナレーター、個人としてのパフォーマンス—」

ジャポニスム・セミナーの記録

第1回

【開催日】1992年5月19日
【話者・テーマ】深井晃子（京都服飾文化研究財団学芸員）「ファッションにおけるジャポニスム」

第2回

【開催日】1992年7月7日
【話者・テーマ】Libuše BOHÁČKOVÁ（プラハ国立博物館元キュレーター／日文研客員教授）「チェコにおける衣装デザインのジャポニスム」、児玉実英（同志社女子大学教授）「アメリカの服飾におけるジャポニスム—キモノの変遷—」

第3回

【開催日】1992年9月12日
【話者・テーマ】上垣外憲一（日文研助教授）「音楽のジャポニスム」、内藤高（同志社大学助教授）「“キモノ”登場のコンテクスト—いつ・どこで・誰が着るのか—フランス文学、美術などを手掛かりとして」

第4回

【開催日】1992年11月11日
【話者・テーマ】松村恵理（前国立近代美術館学芸員）「壁紙のジャポニスム」、周防珠美（京都服飾文化研究財団学芸員）「テキスタイルにおけるジャポニスム—特に19世紀末のリヨンを中心にとして—」

第5回

【開催日】1993年1月21日
【話者・テーマ】深井晃子（京都服飾文化研究財団学芸員）「キモノはモードを変えたか？」

第6回

【開催日】1993年2月25日
【話者・テーマ】Isabelle CHARRIER（神戸大学外国人教師）「ジャポニスムを問い直す」、池上忠治（神戸大学文学部教授）「ジャポニスムあれこれ」

第7回

【開催日】1993年5月27日
【話者・テーマ】稲賀繁美（三重大学人文学部助教授）「装飾と服飾のジャポニスム」

第8回

【開催日】1993年7月8日
【話者・テーマ】稲賀繁美（三重大学人文学部助教授）「装飾と服飾のジャポニスム」

第9回

【開催日】1993年10月28日
【話者・テーマ】稲垣直樹（京都大学総合人間学部教授）「貞奴とジャポニスム」

第10回

【開催日】1993年12月15日
【話者・テーマ】芳賀徹（日文研教授）「『藝術の日本』(Le Japon artistique)におけるジャポニスム」

Saturday Seminar の記録

第1回
【開催日】1991年1月12日
【話者・テーマ】Milka MAURER（慶應義塾大学客員研究員）
“The Definition of the Civilization Diseases: Low Drug Abuse in Japan”
第2回
【開催日】1991年2月9日
【話者・テーマ】John W.DOWER（カルフォルニア大学サンディエゴ校教授）“Race and Power in U.S.-Japan Relations”
第3回
【開催日】1991年3月9日
【話者・テーマ】W.Mark FRUIN（ヨーロッパ経営学研究所教授）
“The Anatomy of Japanese Power: Industrial Structure and Business Policy”
第4回
【開催日】1991年4月13日
【話者・テーマ】John MOCK（ミシガン州立大学連合日本センター所長）
“Maintaining Historical Symbols to Develop an Urban Identity”
第5回
【開催日】1991年5月11日
【話者・テーマ】David S.LANDES（ハーバード大学教授）“Another Look at the Wealth of the Nations: Why Are Some So Rich and Some So Poor?”
第6回
【開催日】1991年6月8日
【話者・テーマ】John W.M.CHAPMAN（サセックス大学教授／立命館大学客員教授）“The Missing Dimension in Japan's International Communication from 1914 to 1941”
第7回
【開催日】1991年7月13日
【話者・テーマ】Manoj L.SHRESTHA（龍谷大学非常勤講師／日文研来訪研究員）“The Role of Japanese Small Manufacturing Firms in Overseas Investment”
第8回
【開催日】1991年9月14日
【話者・テーマ】Michael M. ANDERSON（フルブライト研究員）“Japanese Architecture and the Problem of Authenticity: An Inquiry into Values”
第9回
【開催日】1991年10月19日
【話者・テーマ】Beatrice M.BODART-BAILE（オーストラリア国立大学リサーチフェロー／日文研客員助教授）“Travelling the Tokaido Three Hundred Years Ago: Engelbert Kaempfer in the Kansai”
第10回
【開催日】1991年11月9日
【話者・テーマ】Judith BABBITS（ジョン・F・ケネディ大学講師）

“America's Visual Depiction of Japan from Mid-19th Century to 1990”
第11回
【開催日】1991年12月14日
【話者・テーマ】Theodore F.WELCH（北イリノイ大学教授）“The Closing of Library Schools in the U.S. and the Possible Impact on Library Activities in Japan”
第12回
【開催日】1992年1月11日
【話者・テーマ】Peter DUUS（スタンフォード大学教授）“Imperialism without Colonies: Reflections on the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere”
第13回
【開催日】1992年2月8日
【話者・テーマ】Ilari TYRNI（タンペレ大学教授／日文研客員教授）
“The Japanese Management Structure as a Competitive Strategy: The Importance of Nexus of Long Term Treaties, Common Knowledge and Firm Specific Learning”
第14回
【開催日】1992年3月14日
【話者・テーマ】Andrew M. WATSON（トロント大学教授／日文研来訪研究員）“Time and Space in Japanese History: The Application of the Model”
第15回
【開催日】1992年4月11日
【話者・テーマ】Andrew M. WATSON（トロント大学教授／日文研来訪研究員）“Time and Space in Japanese History: The Application of the Model”
第16回
【開催日】1992年5月9日
【話者・テーマ】G. Cameron HURST III（ニューヨーク市立大学リーマン広島校学長／カンザス大学東アジア研究所長）“From Heiho to Bugei: The Development of Martial Arts in Tokugawa Japan”
第17回
【開催日】1992年6月13日
【話者・テーマ】Darryl R.J.MACER（筑波大学外国人教師）“Japanese Attitudes to Genetic Engineering, among Public, High School Teachers and Scientists, and International Comparisons”
第18回
【開催日】1992年7月11日
【話者・テーマ】Laurel L. CORNELL（インディアナ大学助教授／日文研客員助教授）“Infanticide in Early Modern Japan?”
第19回
【開催日】1992年9月12日
【話者・テーマ】Diana B.PUTMAN（静岡県立大学客員共同研究員）
“Betwixt and Between: Japanese Women Returnees”

第20回
【開催日】1992年10月17日
【話者・テーマ】Florentino RODAO（東京大学大学院生）“Spanish-Japanese Relations: 1936～1945”
第21回
【開催日】1992年11月14日
【話者・テーマ】Paul McCARTHR（駿河台大学教授／日文研客員教授）
“Images of Japan and the West in the Works of Tanizaki Jun'ichiro”
第22回
【開催日】1992年12月12日
【話者・テーマ】William D. JOHNSTON（ウェスリアン大学助教授／日文研客員助教授）“On the Medical and Cultural History of Syphilis in Japan”
第23回
【開催日】1993年1月9日
【話者・テーマ】Conrad D. TOTMAN（イエール大学教授）“Hageyama (Bare Mountain) or Birin (Beautiful Forest) : The Changing Face of Japan's Forests from 1592 to 1992”
第24回
【開催日】1993年2月13日
【話者・テーマ】Patricia E. TSURUMI（ヴィクトリア大学教授）“Gender, Class, and Industria lization : Meiji Factory Women”
第25回
【開催日】1993年3月13日
【話者・テーマ】Alexander DOLIN（東京外国語大学助教授）“New Japanese Poetry (Kindaishi) and Western Culture”
第26回
【開催日】1993年4月10日
【話者・テーマ】Martin C. COLLCUTT（プリンストン大学教授／日文研客員教授）“Hojo Masako (1156～1225) : Religion and Politics in The Life of a Medieval Woman”
第27回
【開催日】1993年5月8日
【話者・テーマ】Livia MONNET（ミネソタ大学助教授／日文研客員助教授）
“Strategies of Subversion in Tsushima Yuko's Short Stories”
第28回
【開催日】1993年6月12日
【話者・テーマ】Stephen VLASTOS（アイオワ大学教授）“Fascism from Below Reconsidered: Nohonshugi (Agrarianism) and the May 15, 1932 Incident”
第29回
【開催日】1993年7月10日
【話者・テーマ】Selçuk A. ESENBEL（ボスボラス大学助教授／日文研客員助教授）“The Tension of Civilization: Western Culture in the Lives of the Meiji Japanese and the Ottoman Turks”
第30回
【開催日】1993年10月9日
【話者・テーマ】Olof G. LIDIN（コペンハーゲン大学教授／日文研客員教授）“Tanegashima and the First Portuguese in Japan”

第31回
【開催日】1993年11月13日
【話者・テーマ】Willy F.VANDE WALLE（ルーヴァン・カトリック大学教授／日文研客員教授）“History of the Relations between Japan and Belgium”
第32回
【開催日】1993年12月11日
【話者・テーマ】Andrei S. GRATCHEV（ロシア科学アカデミー世界経済・国際関係研究所研究員）“Political Development in Russia and Its Impact on Russo-Japanese Relations”
第33回
【開催日】1994年2月5日
【話者・テーマ】Jane M. BACHNIK（ノースキャロライナ大学准教授）
“Rethinking the ‘Demise’ of Postwar <i>Ie</i> (Household) : Succession Strategies and Industrial Linkages in the Contemporary <i>Ie</i> ”
第34回
【開催日】1994年3月12日
【話者・テーマ】Janet R. GOODWIN（会津大学教授）“Women or the Margins: Prostitution in Medieval Japan”
第35回
【開催日】1994年4月9日
【話者・テーマ】Thomas H. ROHLICH（アイオワ大学教授）“Searching for Critical Space: Mumyozoshi and Monogatari Criticism”
第36回
【開催日】1994年7月9日
【話者・テーマ】Shelley F. QUINN（オハイオ州立大学助教授）
“The Practice of <i>Yūgen</i> : Zeami on How to Play a Role”
第37回
【開催日】1994年10月8日
【話者・テーマ】John SHARKEY（日文研客員助教授）“The Impact of Trade Friction on Anglo-Japanese Relations in the 1930's”
第38回
【開催日】1994年11月12日
【話者・テーマ】George AKITA（ハワイ大学名誉教授）“The ‘Hardliner’ Revisionists-Johnson and van Wolferen and Their Negative Impact on U.S.-Japan Relations”
第39回
【開催日】1995年2月18日
【話者・テーマ】Burglind JUNG MANN（ハイデルベルグ大学東アジア美術研究部研究員／日文研来訪研究員）“The Formation of Nanga: Chinese and Korean Elements in Gion Nankai's Landscape Paintings”

「アメリカン・ウェイ・オブ・ライフと日本」の記録

第1回

【開催日】1993年6月19日

【話者・テーマ】北川勝彦（四国学院大学教授）「経済史から見るアメリカン・ウェイ・オブ・ライフ」、柏岡富英（日文研助教授）「社会学から見るアメリカン・ウェイ・オブ・ライフ」

第2回

【開催日】1993年7月30日

【話者・テーマ】Selcuk Ayse ESENBEL（ボスボラス大学助教授／日文研客員助教授）「トルコの生活文化とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフ」、塚田守（相山女学園大学助教授）「アメリカ1960年代の意味」

第3回

【開催日】1993年9月3日

【話者・テーマ】木村英憲（愛知学院大学助教授）「アメリカの『多元主義』をめぐって」

第4回

【開催日】1993年11月26日

【話者・テーマ】Willy F. VANDE WALLE（ルーヴアン・カトリック大学教授）「ベルギーおよびヨーロッパからみたアメリカ」、若田恭二（関西大学教授）「『草の根のアメリカ政治』をめぐって」

第5回

【開催日】1994年2月28日

【話者・テーマ】Pauline KENT（日文研助手）「日系オーストラリア人（オーストラリア系日本人）のアメリカ体験記」、木村英憲（愛知学院大学助教授）「アメリカは多元主義社会か（2）」

第6回

【開催日】1994年6月4日

【話者・テーマ】上田肇（園田学園女子短期大学教授）「現代アメリカ小説におけるアメリカン・ウェイ・オブ・ライフの再構築」、Darrell HAMAMOTO（広島大学フルブライト研究員）「Asian Americans on U.S. Television」

第7回

【開催日】1994年7月2日

【話者・テーマ】室谷哲（静岡県立大学助教授）「アメリカ的食文化と価値体系」

第8回

震災のため中止

第9回

【開催日】1995年4月22日

【合評】木村英憲（愛知学院大学助教授）、室谷哲（静岡県立大学助教授）、柏岡富英（日文研助教授）
DAEDALUS誌 Winter 1995年号 “An American Dilemma Revisited” 特集の合評

第10回

【開催日】1995年5月27日

【話者・テーマ】室谷哲（静岡県立大学助教授）「リンド夫妻『ミドル・タウン』をめぐって」

第11回

【開催日】1996年1月23日～24日

【論題】日常生活からみたアメリカ

【話者・テーマ】Carol BOSSERMAN（教務カウンセラー）「Working and Walking Hand in Hand with Martin Luther King」、Philip BOSSERMAN（広島女学院大学教授）「The Non-Violent Tradition in America: Anabaptism and Quakerism」、室谷哲（静岡県立大学助教授）「日本人からみたアメリカの合理性について」、木村英憲（愛知学院大学助教授）「日本人からみたアメリカ人の人間関係」、富澤克美（福島大学教授）「20世紀初頭の経営学者からみた労働者の職場生活」

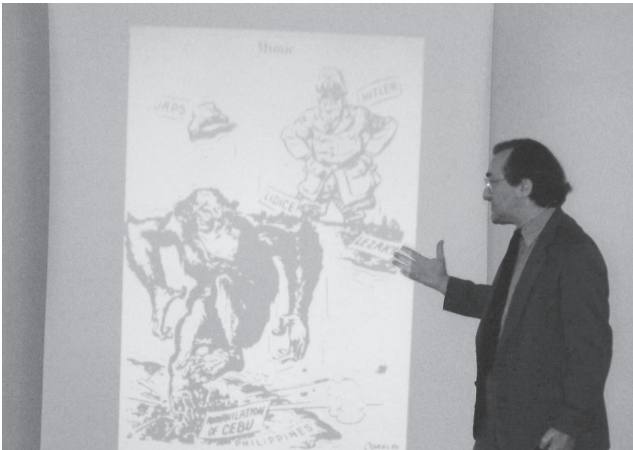
第12回

【開催日】1997年2月21日

【話者・テーマ】室谷哲（静岡県立大学助教授）「アメリカ大衆スポーツの歴史」、東元春夫（京都文化短期大学教授）「アメリカン・フットボール：大学の『アメフト』」



基礎領域研究「近世医書研究」(1996年)



第2回Saturday Seminar発表風景(1991年)



第9回所長特別研究会討議風景(2000年)



第16回所長特別研究会発表風景(2001年)

第4章

研究協力活動

研究協力活動は、研究活動とともに並立すべき極めて重要な日文研の活動であり、日文研創設を意味づける決定的な要素となった。研究活動の目的が、日本文化研究の国際性、学際性、総合性によって特徴づけられることと同様に、こうした日本文化研究がより強力に推進できるように、海外を含めたすべての日本文化研究者に対して研究協力・支援をすることの緊急性と重要性が強い説得力をもち、日文研創設のもう一つの主要な目的として認知されたのであった。

研究協力活動は二つの側面をもつ。一つは情報支援である。日本文化に関わる研究資料・情報を収集し、分析・整理し、研究者に提供して研究を支援することである。このために、特に情報管理施設を設置し、図書館が中心となって文献・映像資料・音響資料などの収集・整理・提供を行っている。そして、担当教官の統括の下、情報管理施設の充実化を実現し、情報処理専門官を登用するなどしてコンピュータネットワークの構築、データベースの構築・管理によって、所内はもとより、国内、そしてグローバル・ネットワークの構築にいたるまで、情報システムとしての高度化を実現してきた。日文研の情報支援は、いまや国際的なフィールドにまで到達しているのである。

もう一つは、国際的なフィールドでの「フェイス・トゥ・フェイス」の研究協力活動の実行である。海外の各地域の研究動向を解析し、その地域の研究者の要請に応じて適切な研究支援を行うとともに、日文研自身が世界各地からさまざまな領域の外国人研究者を受け入れ、研究や発表の場を提供して研究協力活動を強力に推進してきた。

研究協力活動は、こうして、日文研の日本文化研究の裾野を広げるだけでなく、さらに国際的な視野からの研究支援・協力のためのさまざまな活動を蓄積してきたのである。

そして、今後の新たな研究協力活動のあり方を考えるとき、日本研究者の膨大な裾野を有する日本国内にも改めて目を向ける必要があると思われる。この25年間の蓄積が、ようやくそうしたニーズに応えうるだけのものをもたらしたといえよう。

1 情報の収集・整理・提供による研究協力

(1) 日本研究資料の収集・整理

日文研の研究協力活動の第一歩＝「情報支援」の基盤形成は、まずは、日本研究に資するための研究資料の発掘、収集に着手することから始められた。その収集対象は、既に創設以前から計画されていたような、以下のイ) からホ) の5つのジャンルであった。一見して明らかなように、それらは図書（文献）に限定されていない。映像資料、音響資料なども重要視された（このため、収集の方針や判定を行う機関は図書委員会ではなく研究資料委員会と称された）。まずは、その5分野の現状を総覧し、次にその収集経過などの実際を追ってみよう。

イ) 外国語で書かれた日本研究図書および訳書の網羅的収集

外国人によって書かれ、著された文献を日文研では「外書」と呼び、創設以来網羅的収集に努めてきた結果、2010（平成22）年度末現在では約5万6,000冊を蔵し（訳書は別途約3,100冊）、日文研図書館の特色として内外から高い評価を得ている。後述するように、外部への現物貸出が多いのもこの外書である。

1997（平成9）年には、創立10周年事業として、収集資料のうち1900年以前に刊行された欧文図書から善本1,057点を選んで詳細な所蔵目録を作成した。また、2007（平成19）年の創立20周年事業として、外書に掲載されている挿絵をテーマ別に編集し、『異邦人のまなざし』と題して5冊（「富士山」「芸者」「妖怪」「子ども」「遊び」）の小冊子を発行した。こうした画像は、外国人にとっての日本イメージを端的に表現するものとして好評を博し、その後2冊が追加発行されている。

ロ) 日本文化研究に関する基本図書の収集

国内外を問わず、日本研究を行う上で必要不可欠な資料集や全集など、直接的には日本文化研究を対象としたものではなくとも、間接的に、あるいは広い分野にわたって必要とされる文献・資料を「基本図書」として収集している。とりわけ基本資料であるだけに、関連資料は一括することを原則にして集約的に収集することに力を注いできた。「外書」収集においては日文研の特色を鮮明にするために網羅的に収集しているが、基本図書については集約的に取り揃えることによって遺漏のないことを目指してきた。その結果、基本図書は全体図書の中で収集規模が最も多く、日本語基本図書約30万7,000冊（2010年度末現在）、外国語基本図書約9万6,000冊（同）に達している。原本が入手困難な場合はマイクロ版として収集している。

ハ) 日本研究関連文献目録・索引の網羅的収集

これは、基本図書と同様に日本研究のためには不可欠の資料であり、図書そのものについては日文研では収集規模に限界があるため、少なくとも関連文献目録・索引等に関しては網羅的に収集することでその代替とした。2010年度末現在で日本語文献目録5,203点、外国語文献目録2,178点に達している。

ニ) 日本文化研究関連の映像資料（写真・地図・ビデオ・DVD等）

下記別表のとおりである。特に写真、地図や動画資料に関しては、先行する研究機関や大学などにある資料も依然として単発的で、規模的にもさほど顕著なものがなく、日文研が独自に開拓していくには十分な意義と可能性があると考えられ、重点収集ジャンルとして精力的に取り組んできた。映像資料は、将来的にも膨大化していくので、その重要性はさらに高まるであろう。

ホ) 日本文化研究関連の音響資料（レコード・テープ・CD等）

音響資料に関しても映像資料と同様なことがいえる。しかも、音響資料などは一般的には特に研究資料としてではなく別の用途のために保存されていることもあり、日文研では研究資料として再評価することも加えて収集・整理を図っている。

資料収集状況 2011（平成23）年3月31日現在

●図書資料（冊数）

種別	外国語図書	日本語図書	合計
外書：外国語で書かれた日本研究図書及び訳書	56,057	3,168	59,225
日本研究に必要な基本図書	95,386	307,587	402,973
日本研究に関する文献目録	2,178	5,203	7,381
合計	153,621	315,958	469,579

●雑誌資料

種別	タイトル数	継続受入タイトル数
日本語雑誌	6,722	1,408
外国語雑誌	1,232	309
合計	7,954	1,717

●映像・音響資料

種別	件数	内容
DVD	714	日本映画、歌舞伎など
ビデオテープ	3,172	日本映画、伝統芸能など
CD-ROM	276	国歌大観などの検索ツール
CD	1,392	伝統芸能（落語など）
LD	45	アニメーションなど
LP	54	声明など
カセットテープ	109	芸能関係（民謡、演歌など）
外像写真	56,911	外書掲載の挿絵などの写真

種別	件数	内容
古写真	5,639	おみやげ写真帳の写真
ガラス写真	4,848	風景・人物などが焼き付けられたガラス乾板
個人撮影写真	162,000	浅野喜一、高橋善幸、岡崎文彬撮影の写真

(2) 研究資料収集の経過―方針の変遷、高額品購入、寄贈資料受入

以下に、研究資料委員会の記録に基づいて、ごく初期の収集活動の実際をいくつかピックアップしてみよう。

◎1987 (昭和62) 年7月8日、第1回研究資料委員会が開催された。創設されてまだ1カ月半しか経っていない時期に第1回会合がもたれたことは、日文研にとって研究資料の収集作業がいかに重要なものと認識されていたかを示すものである。委員会は、下部組織として映像・音響資料、貴重書、選書の3小委員会を編成していた（小委員会はのちに委員会に吸収）。

◎1987 (昭和62) 年7月22日、第2回委員会で、基本図書は資料集・全集・中国古典・雑誌バックナンバー（復刻含む）、文献目録は網羅的収集、外書は外国語で書かれた日本研究書・文化関係専門書・雑誌バックナンバーを含め網羅的収集、という基本方針を決定した。

◎1987 (昭和62) 年8月12日、第3回委員会で、1988 (昭和63) 年を初年度とする3年ごと三次にわたる基本文献の整備計画を立案することとした。これによって、比較的高額なコレクション、セットものの購入などがしやすくなった。

◎1987 (昭和62) 年10月6日、第4回委員会で、日本研究欧文古書4点セット、計3,093点を購入することを了承した。初めての高額図書購入。

◎1987 (昭和62) 年12月9日、第5回委員会で日本関係古書として大きなまとりのあったJohn Loweコレクション3,322冊の一括購入を検討（1988 (昭和63) 年9月に購入）。

◎1988 (昭和63) 年4月28日、第6回委員会で、収集資料のカテゴリーの整理を行った。メインの図書コレクションを、「日本を外から観察し研究してきた人々の記録・研究成果・観察者自身の各種情報」として大きなまとりにし、体系的に収集する。また、基本的な図書・文献目録、都市史関連資料、貴重書に類する資料集・全集を基本的なカテゴリーとした。

◎1989 (平成元) ～91 (平成3) 年度にかけては、博物学関係、『国華』揃、府県統計書マイクロフィルム、華道コレクション、『太陽』全巻セットなど、各種の全集やセット・揃いものを次々と購入していった。そうしたなかで、1990 (平成2) 年11月8日の第15回委員会で、国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成を、破格の高額資料ではあったものの、研究に必須であるため6カ年の分割決裁という形で購入を決定している。

◎1992 (平成4) 年6月25日、第24回委員会で、小笹喜三蒐集『平安人物志』短冊コレクション（短冊91葉、原稿17冊）を購入決定。後に、この短冊は共同研究の対象として活用され、データベース化されている。

以上のような初期の収集方針や購入実態などを反映して、以降ほぼ20年間にわたってコンスタントに収集活動が続いた。寄贈書の受入も本格化した。

◎映像資料、音声資料に関しては、小委員会ではたびたび収集方針が検討され、日文研の特徴ある収集物としてまとめていこうという努力がなされてきた。その結果、近世風俗資料、絵巻物（怪異・妖怪）、名所図絵、都市図・鳥瞰図、古写真コレクションなどの特徴的なコレクションを形成していった。

◎「宗田文庫」の寄贈を受けた（1997年。1998年9月文庫披露式）ことが大きな契機となって、1999 (平成11) 年1月14日の第47回委員会で、寄贈書受入に関する基本方針を決定。①寄贈受入は委員会に諮る、②紹介教官は目録作成可能な状態にした上で資料課に提出する、こととなった。

◎寄贈書は、日文研の研究資料コレクションの中でも、それぞれが重要なものとなっていた。量・質ともにその筆頭は前述した「宗田文庫」で、日本医学史・薬学史で優れた業績を残した故宗田一氏の旧蔵書の寄贈を受けたものである。一枚物の画像資料や古地図も含み、医学史研究の貴重なコレクションとして著名となっている。また、2003 (平成15) 年には、財団法人野間科学医学研究資料館から蔵書の寄贈を受け、「野間文庫」として、「宗田文庫」とともに日文研の医学史資料の双璧と謳われて広く利用に供されている。さらに、日中歴史研究センターが所蔵していた近代日中関係史に関わる資料約3万8,000冊からなる「日中文庫」（2005年9月）、古地図コレクションとして地理学史の大阪大学名誉教授・海野一隆氏より寄贈された「海野文庫」（2006年5月）など、日文研が日本学、日本文化学のセンターとしての認知度が高まるにつれて、資料価値の高いコレクションの寄贈が続いた。

以下に、主要なコレクションの概要を一覧しておく。

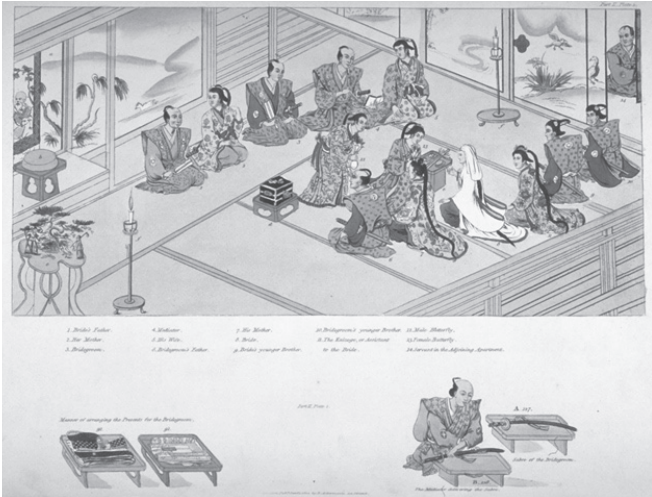
●主要なコレクション

コレクション名	内容	目録	データベース
野間文庫	財団法人野間科学医学研究資料館から寄贈された図書約7,000冊。16世紀の解剖学書等、西洋医学の古典的著作を数多く揃えている	有	医学史
宗田文庫	日本医学史・薬学史の研究ですぐれた業績を残した故宗田一（そうだ はじめ）氏の旧蔵書の寄贈を受け、「宗田文庫」として利用に供している	有	宗田
廣重徹旧蔵図書	元日本大学理工学部教授で、物理学史・近代科学史研究において大きな功績を残した廣重徹（ひろしげ とおる）氏の旧蔵書の寄贈を受け、日文研で利用に供している	有	
高橋虔旧蔵図書	牧師であり著名な聖書学者でもあった同志社大学名誉教授・高橋虔（たかはし まさし）氏が所蔵していた図書、約5,200冊。昭和期のキリスト教関係資料及び文献のコレクションで、聖書の邦語翻訳、聖書学や日本プロテスタント教会史関連の資料が充実している。氏の子息であり日文研職員であった高橋悠氏により寄贈された	有	
間文庫	日本労務管理史・日本的経営論の分野で優れた業績を残した早稲田大学名誉教授・間宏（はざま ひろし）氏が所蔵していた図書。約1万500冊。労働関係の図書・文献のコレクションで、一般図書、戦前の労働関係資料、雑誌・新聞・年鑑類、工場概要や就業案内などの特殊文献、洋書に分けられる	有	
岡崎文庫	世界の造園史に関する先駆的業績を残した造園史家・林学者で京都大学名誉教授の岡崎文彬（おかざき あやあきら）氏が所蔵していた資料。庭園関係の図書約800冊と、日本と諸外国の庭園・公園等の写真約7万コマがある		
海野文庫	地理学史の分野に名を残した大阪大学名誉教授・海野一隆（うんの かずたか）氏が所蔵していた図書。古地図関係の蔵書で、約3,400冊に及ぶ		地図 （作成中）
暦算文庫	日文研名誉教授・山田慶児（やまだ けいじ）氏により寄贈された。東アジア科学史を専門とした蔵書のうち、暦算関係の和書100点を所蔵		
吉林省档案館	吉林省の公文書館である吉林省档案館所蔵のマイクロフィッシュ549点4,196枚。吉林省以外の満州国中央の資料で、官吏管理名簿、警察概要、法令集、統計などを含む		

コレクション名	内容	目録	データベース
日中文庫	2005年3月に閉館した日中歴史研究センターが所蔵していた資料。近代日中関係史に関するものが多く、約3万8,000冊を所蔵している	有	
天沼俊一博士コレクション	京都大学教授であった建築史家天沼俊一氏旧蔵の戦前の朝鮮関係の地図等118点		地図 (作成中)
古写真コレクション	横浜アルバム写真帖105冊		古写真
平安人物志短冊帖	陽明文庫長であった小笹喜三氏が収集した短冊。平安人物志に載っている一流の文化人が書いた和歌の短冊947枚		平安人物志



モンタヌス「日本誌」(1664年刊)より方広寺大仏像
Gedenkwaardige gesantschappen der Oost-Indische Maetschappy in't vereenigde Nederland, aen de Kaisaren van Japan.



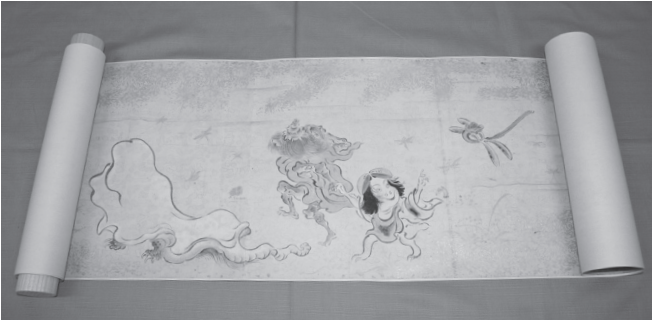
ティチング「日本風俗図誌」(1822年刊)より婚礼の図
Illustrations of Japan



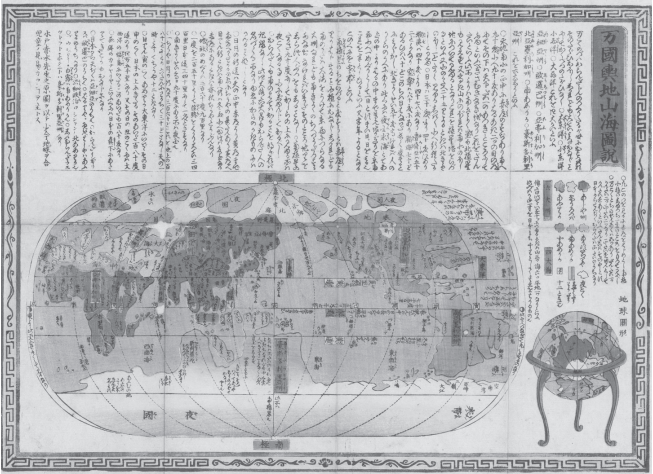
ケンペル「日本誌」
英語版(1727年刊)
仏語版(1729年刊)
蘭語版(1729年刊)
独語版(1777年刊)



宗田文庫より
手前は「金瘡療治鈔」室町時代末期頃写本



「百鬼ノ図」 江戸時代初期写



「地球萬國山海輿地全圖説」 嘉永年間刊(海野文庫)

(3) 短期間に集中的に収集、充実化

このようにして収集された日本研究資料が、わずか25年間という短期間にもかかわらずに、専門図書館として、量的にも外書計約6万冊、基本図書約40万冊、文献目録約7,300点を誇り、そして内容的には、まさに「日文研らしい」国際的かつ「学際的（複合的）」な視点で貫かれているとして高い評価を得ているのは、その独特の選書方針を貫いてきた努力などが認知されたからであろう。しかも低迷する日本経済などの厳しい環境下にあってなお、このような研究資料の選定と購入を研究者の手にゆだねることが継続できているのは、日文研にとっても、また日本文化研究者にとっても幸いであった。

通常、新設の国立研究所などの場合は、高額な資料（図書）購入費の交付は、設立後6～7年までとされる。しかし日文研の場合は、相対的に減額はされているものの、重要な文献や資料の購入を中止しなければならなかったという案件はまだ少なく、なお意欲的な研究資料の探索は続けられている。

(4) 図書館、図書資料館のサービス

図書館は、建屋の竣工から半年後の1991（平成3）年4月から閲覧・貸出サービスを開始した。中央に東屋風のカウンターを配した円形図書館は、三層の吹き抜け構造になっており、落ち着いた利用空間を提供している。ここには約6万冊の図書が配架されており、利用者は自由に手にとって閲覧することができる。1995（平成7）年に増設された図書資料館には、約35万冊が収容可能な固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、グループ研究室、マイクロ資料室等が配置されている。個々の資料の配架場所・貸出状況等は、各フロアに配置された検索用端末で調べることができる。

図書資料館開館に合わせて、NACSIS-ILL（国立学術情報センター（当時）の蔵書相互貸借サービス）のサービスを開始し、図書資料の閲覧などが全国規模で可能になった。

また、2010（平成22）年には第二図書資料館がオープンした。別名「外書館」と呼ばれるように、ここに「外書」を集約することにより、外書を集中整理・管理して検索・貸出の利便性を格段に向上させた。

図書館及び2つの資料館の利用実態は次表に示したとおりである。入室者、貸出冊数、文献複写（他機関へ依頼）、現物貸借（他機関へ依頼）の多くは、日文研の教員、客員研究員、大学院生等の利用である。文献複写（日文研受付）と現物貸借（日文研受付）の2項目は外部研究者からの依頼によって、当館が利用されている件数を表している。外部研究者の利用が徐々に拡大していることがわかる。この中で、現物貸借（日文研受付）のうち、一番多いのはやはり外書である。近年になってその傾向がさらに強くなり、当館の特色が生かされている。こうした研究資料の外部研究者による活用は、とりまなおさず日文研にとっては研究協力活動の推進にあたり、今後ともさらに活発化することが期待される。

●利用統計

年度	入室者数	貸出冊数	文献複写 （他機関へ 依頼）	文献複写 （日文研 受付）	現物貸借 （他機関へ 依頼）	現物貸借 （日文研 受付）
1991	15,902	1,293	118	23	17	17
1992	17,191	2,629	276	24	204	29
1993	18,139	3,389	503	46	391	101
1994	23,177	5,121	913	216	442	149
1995	21,015	4,488	1,064	276	668	335
1996	20,410	8,320	1,316	264	854	467
1997	25,023	14,455	1,679	387	1,068	572

1998	27,804	13,673	1,583	594	1,190	773
1999	30,796	17,554	1,634	823	1,144	843
2000	31,605	16,470	1,340	1,305	1,195	967
2001	35,466	17,473	1,618	1,788	1,897	892
2002	37,703	16,908	2,091	1,996	1,710	821
2003	30,098	17,210	1,457	1,601	1,596	813
2004	28,883	13,233	1,717	2,076	1,510	866
2005	26,164	15,779	1,897	2,135	1,539	876
2006	24,341	15,726	2,066	2,188	1,447	979
2007	24,133	14,666	1,178	2,056	1,003	908
2008	23,466	14,291	1,944	2,105	1,244	999
2009	21,992	13,204	1,959	1,882	1,483	915
2010	25,229	14,315	2,468	1,720	1,067	802

(5) 情報システムの高度化

日文研における情報システムの構築は、研究協力活動はもとより、研究活動にとって不可欠の要素であり、また普及活動にとっても極めて重要な機能である。

特に、研究者に対する情報システムサービスには、各研究者が研究及び情報収集するためのコンピュータ環境を構築する「研究基本システム」と、各研究者がコンピュータを用いて研究した成果をデータベース化することを支援する「研究支援システム」がある。このデータベース化は、所内研究者はもとより、広く外部研究者にとっても、日文研が新たに収集・開拓した研究資料を利用するためのツールであり、日本学、日本文化学研究の新しい拠点＝日文研がどのような資料を提供してくれるか、期待を寄せていたものであった。日文研の研究協力活動の一環としても、情報システムの高度化とその充実が渴望されていた。

日文研に汎用コンピュータが導入されたのは1992（平成4）年1月であった。同年4月には情報管理施設に情報課を設置、これによってデータベースの構築が本格的に開始された。1994（平成6）年3月に分散型画像データベースシステムの導入を行い、1995（平成7）年3月には超高精細電子カメラを用いた大型画像入力システムを導入。1996（平成8）年1月には機器の更新を行い、汎用から分散環境に移行した。同年3月には全文データベース構築のための入力システムも導入した。

これ以降も、多年次計画の一環として、1997（平成9）年3月には三次元形状計測装置、1998（平成10）年3月にはデジタルビデオシステム、1999（平成11）年3月には高精細地図情報システム等を次々に導入して、コンピュータ環境の高精度化、データベース構築の利便性の向上を図っていった。この結果、日文研が提供する情報は格段に多彩になり、日本文化研究者の研究をさまざまな側面から支援し、研究協力活動の拡充に貢献している。

こうしたコンピュータ環境の高精度化に対応して、さらに1999（平成11）年4月には、教官等で構成された文化資料研究企画室を設置した。この組織は、日本文化の研究に必要な画像処理等のシステムの企画立案、及び開発研究を専門的・体系的に行うことを目的としたものである。

これにより、既存文化資料のデジタル化、データベース化及びインターネットでの提供、超高精細画像の画像化や三次元モデル化等による新しい研究素材の創成、文化資料の新しい活用形態の理論・方法の研究開発など、多岐にわたる情報サービスの高度化を実現すべく、その開発研究のリーダー役として機能している。この文化資料研究企画

室の設置を契機として、現在では以下のような多彩な情報サービスが実現できるようになった。

(6) 多彩な情報の提供

以下のような情報システムの充実・高度化によって、日文研では現在、多彩な情報提供を迅速に行い、研究協力活動はもとより、インターネット情報による普及活動を精力的に実施している。

◆ホームページ

日文研の概要、活動内容、行事・催し物、教職員等の募集などに関する情報を提供。また、データベースの検索、インターネット放送の視聴等も可能である。(1996年1月開設)
URL : http : //www.nichibun.ac.jp

◆データベース

データベースは一般公開用、登録者専用の2種類をホームページで提供している。

◆インターネット放送

2000 (平成12) 年1月から、学術講演会等をインターネット経由で生放送している。これらを含め、過去の学術講演会等をライブラリーとして蓄積している。

◆高精細地図情報

古地図、国土地理院地図等の高精細地図情報をネットワーク経由でセンター内の研究者に提供している。

◆人物映像情報

GIS (地理情報システム) 技術を応用し、人物情報及びその関連情報を空間情報と結びつけて検索するシステムを構築し、インターネットで提供している。

◆時代統合情報

時間軸により、地図、人物情報を一元的に検索するシステムを構築し、インターネットで提供している。

◆統合型情報検索

高精細地図情報システム、人物映像情報システム、時代統合情報システム、その他のデータベースを横断的に統合して検索することが可能になっている。

◆CD-ROM収録データベース

CD-ROMサーバシステムにより、「国歌大観」「雑誌記事索引」「GeoRef」(地球科学文献情報) 等のデータベースをネットワーク経由でセンター内の研究者に提供している。

◆日本研究基礎資料高度利用情報システム

◎大規模データ蓄積サーバシステム

文字、音響、画像、映像などで複合的に生成した情報に、GIS (地理情報システム) などのマルチメディア的な要素を付加した学術情報資源として効率的な利用の実現をめざしている。大容量・高信頼の大規模ディスク装置によるセンター内研究者間での共有が可能になっている。

◎音響・画像・映像編集用デジタルスタジオシステム

多種多彩な記憶媒体に保存されている音響・画像・映像を、最新の媒体へ変換可能なダビングシステム。素材編集の可能なノンリニア編集システム、DVDオーサリングシステムを提供している。

◎日本研究基礎データベース汎用化システム

日本研究資源を国内外の日本研究者に、より利用しやすい形態で提供できる環境整備としてのアプリケーションサーバ。これにより、『日本研究』『Japan Review』『貴重書』の各データベースに対する閲覧機能、検索機能の向上を図っている。

◎内部ネットワーク用映像配信サーバシステム

テレビコマーシャル・データベースの動画映像を高速・高品質で配信するためのサーバシステム。

◎『平安人物志』『平安人物志短冊帖』『GLOBAL BASE』の連携作業および三次元可視化システム

「日本ハイパーメディア情報システム」で経年的に精緻化したGIS (地理情報システム) に、空間軸だけでなく自然軸、人間軸といったさまざまな次元を付加し、多次元化の視点として三次元化と可視化システムの構築を実現している。

◎高度情報検索システム

国内外の日本研究者が日本研究資源をより効率的に利用できるように、インターフェースを工夫し、情報共有化機能及び多言語対応機能を装備している。

●本センター所蔵のデータベース (2011 (平成23) 年9月30日現在)

種別	件数	内容
貴重書	66件	日文研が所蔵する貴重書 (主として開国期以前に出版された外国語図書) を順次画像化したもの。テキスト情報として、書誌情報、目次、図版キャプションを付記
日本関係欧文図書目録 (外書データベース)	1,057冊	日文研が所蔵する1900年以前に出版された欧文図書で、日本に関する記述のある図書の画像・書誌情報。冊子目録 (3冊本+索引) を電子情報化したもの
外像データベース	56,911件	日文研が収集した、世界各国で出版された日本文化資料から抽出した写真、挿し絵等の画像・書誌情報
古写真データベース	5,431件	日文研が所蔵する江戸末期から明治初期の手彩色写真の画像・書誌情報
在外日本美術データベース	5,883件	ロシアのプーシキン、エルミタージュ、ハンガリーのフェレンツ・ホップ美術館が所蔵する日本美術品 (絵画、版画、根付、陶磁器、漆器、彫刻、金工等) の画像・書誌情報
平安人物志データベース	927頁	日文研所蔵の『平安人物志』(1768~1867) の画像・全文・索引情報
平安人物志短冊帖データベース	947件	日文研所蔵の『平安人物志』に掲載された諸家の短冊の画像・全文・書誌情報
宗田文庫図版資料データベース	1,104件	宗田文庫は、医史学者の故宗田一氏が収集された、医学史・薬学史に関する書籍、図版資料などを中心とする日本医療文化史のコレクション。このなかから、主として図版資料を収録
都年中行事画帖	103件	平安京都の祭りなどの風俗を描いた『都年中行事画帖』(詞書:江馬務、画:中島莊陽 日文研所蔵) の絵と詞書を収録
所蔵地図データベース	846件	近世の都市地図を中心に、地図資料の所在情報を収録。日文研所蔵地図については、画像データを付加
WebGIS日本全図	1件	Webから閲覧ができる都道府県地図
図録 米欧回覧実記	317件	1878 (明治11) 年刊行の久米邦武編『特命全権大使米欧回覧実記』に掲載された図版と、図版に関連する本文記事を収録
近世畸人伝 (正・続)	97件	『近世畸人伝 (正・続)』の全文と図版を収録。記事の収録に際しては、原本で使用されている旧字を新字に置き換え、JISコードに登録されていない文字については同音・同義のJISコード文字を採用している
平安京都名所図会	24冊	近代以前の平安・京都の風俗を、主に絵図を通して研究するために、日文研が所蔵する江戸から明治期にかけての平安・京都を描いた「名所図会」の高精細画像データベース
艶本資料データベース	616冊	日文研が蒐集してきた近世の艶本の基本的な書誌データと、全ページの高精度画像データベース
ちりめん本データベース	77冊	日文研所蔵のちりめん本 (各国語で書かれた昔話) の高精度画像データベース

種別	件数	内容
近世風俗図会データベース	181件	日文研所蔵の絵双紙（絵草子・絵草紙）の高精度画像データベース
絵巻物データベース	20件	日文研所蔵の絵巻物の高精度画像データベース
西洋医学史古典文献（野間文庫）	64件	財団法人野間科学医学研究資料館（平成15年に閉館）から寄贈された蔵書をデータベース化したもの
平治物語絵巻「六波羅合戦の巻」デジタル復元図	1件	東京国立博物館が所蔵する絵巻の白描模本をベースに現存する武者絵の彩色と模本に書きこまれた色指定に基づきデジタル処理によって原画を復元したもの
日中歴史研究センター旧蔵書目録	27,803件	日中歴史研究センター旧蔵書を「欧文図書」、「中文図書」、「日文図書」、「地図資料」に分類した目録情報
怪異・妖怪伝承データベース	35,701件	民俗学の調査などをとおして報告された怪異・妖怪の事例についての書誌情報
長崎古地図データベース	141点	長崎市立博物館所蔵の長崎古地図のうち、日文研が撮影したカラー画像221点についてデジタル化し、あわせて長崎市立博物館編『長崎市立博物館資料目録：図書・地図・写真資料編』掲載の関連目録データをデータベース化
民事判決原本データベース	549,101件	明治元年から明治23年までの民事判決原本の全文を画像化
錦絵観音霊験記の世界	100件	およそ160年前、日本各地に散在する百観音霊場を題材にした浮世絵（錦絵）が製作され、流行した。それが「観音霊験記」で、これを鮮明な画像で紹介するのみならず、霊験記の本文を翻刻し、あわせて各札所、衣装等の解説を付加
於竹大日如来縁起絵巻	150件	羽黒山修験道根本道場としての羽黒山荒沢寺正善院に伝わる三巻からなる絵巻で、同院境内に祀られているお竹大日堂の由来を説いている。正善院の全面的な協力のもと、上記の絵巻と同院所蔵の於竹関係資料に基づいて作成
家族史・人口史文献データベース	家族史 8,154件 人口史 1,603件	「家族史」は日本に関する家族史分野の研究文献を、「人口史」は、日本における人口史および歴史人口学分野の研究文献を収録
連歌データベース	197,228件	永禄以前（連歌師宗養の没年まで）の連歌作品のすべてと、永禄以後幕末までの主要な連歌作品を収載。データはすべて勢田勝郭氏（奈良工業高等専門学校教授）がみずから多年にわたって入力・蓄積したもので、日本研究に役立てて欲しいと日文研に一括寄託されたもの
和歌データベース	190,423件	勅撰集21種すべて、万葉集をはじめ「夫木和歌集」などの私撰集と主要な私家集の和歌を収録。データはすべて勢田勝郭氏（奈良工業高等専門学校教授）がみずから多年にわたって入力・蓄積されたもので、日本研究に役立てて欲しいと日文研に一括寄託されたもの
俳諧データベース	25,652件	芭蕉、蕨村をはじめ、主要な俳諧作品を収載。データはすべて勢田勝郭氏（奈良工業高等専門学校教授）がみずから多年にわたって入力・蓄積されたもので、日本研究に役立てて欲しいと日文研に一括寄託されたもの
季語検索	35,811件	35,000以上の季語を収録。和歌、連歌、俳諧データベースの検索補助機能として構築。季語検索単独でも利用可能
怪異・妖怪絵姿データベース	16巻	日文研所蔵の妖怪絵巻を高精細画像でデジタル化
考古学GISデータベース	4,701件	考古学GISは、地理情報システムGIS (Geographical Information System) を活用して空間情報の研究を進める考古学の新しい分野。平安京・京都遺跡、地震痕跡遺跡、佐賀弥生遺跡のデータベースを構築

種別	件数	内容
ラージマップ—高精細空中写真WebGIS—	1件	ラージマップは、高精細空中写真（解像度約25cm）をベースマップとして用いたWeb GISである。現在、高精細空中写真は京都・奈良・滋賀県の一部、コンテンツは報告書抄録データベース、平安京条坊図を運用
日本語語彙研究文献データベース	7,034件	このデータベースは、19世紀半ば以降日本で形成された新しい語彙、概念や意味について研究した文献を調査したもの
連歌連想語彙データベース	—	日文研の連歌データベースに収録されている連歌から、前句と付句にあらわれる語彙のパターンを連想語彙として抽出し、それらの順引きと逆引きを可能にした。山田奨治・岩井茂樹編『連歌の発想・連想語彙用例辞典と、そのネットワーク解析』（日文研叢書38）に収録した「連想語彙用例辞典」を電子化しリンク付けしたもの
古事類苑全文データベース	3件	『古事類苑』は、総ページ数は67,000ページ以上、見出し数40,000項目以上におよぶ大百科事典である。明治政府の国家プロジェクトとして編纂がはじまり、明治から大正にかけて出版された。このデータベースは、国文学研究資料館等と共同して『古事類苑』の全文をテキストデータ化し、順次公開するもの
古事類苑ページ検索システム	51巻	本データベースは、『古事類苑』を国内外の日本研究者により広くかつ容易に利用してもらうことを目的として、大正版の洋装本（51巻）を基にして簡便な検索機能を付与したもの
怪異・妖怪画像データベース	2,450点	絵画資料に描かれた怪異・妖怪に関する画像を集めたデータベース

●機関連携データベース

種別	件数	内容
米国議会図書館所蔵浮世絵データベース	2,741件	米国議会図書館の所蔵する浮世絵の画像及び解説文をデータベース化したもの
米国議会図書館所蔵奈良絵本	4冊	米国議会図書館の所蔵する奈良絵本の画像及び解説文をデータベース化したもの
米国議会図書館所蔵承応版源氏物語データベース	60件	米国議会図書館の所蔵する完本『承応版源氏物語』（本文54冊、注釈書6冊）の全ページの画像をデータベース化したもの
浮世絵芸術データベース	158冊	国際浮世絵学会（旧日本浮世絵学会）が発行してきた『浮世絵芸術』の既刊誌を、「世界の日本研究者への研究協力」を目的とする日文研の事業の一環として、同学会と日文研が連携協力することにより制作されたもの

●WebOPAC

種別	件数	内容
所蔵図書データベース	所蔵491,934件 書誌278,833件	日文研が所蔵する世界各国の図書資料の書誌・所蔵情報。日文研所蔵の文献・画像資料のほぼ全体がつかめる

●海外における日本研究機関

種別	件数	内容
日本研究機関データベース	1,649機関	日本研究を行っている世界各地の研究機関情報

● 日文研出版データベース

種別	件数	内容
Japan Review	475件	年一回出版する英文学術誌のデータベース。優れた研究論文、研究ノート、書評のほか、日本関連の貴重な原稿の翻訳等を収録する
日本研究	475件	年2回出版する『日本研究』のデータベース。日文研教員、共同研究員などの研究成果を収録する原著論文集
日文研フォーラム報告書データベース	132件	外国人客員教員などによる日文研フォーラムの報告書の全文情報
専任教員執筆一覧データベース	13,680件	日文研教員が執筆した書籍、論文などの書誌情報
研究集会データベース	1,022件	日文研が行っている学術講演会、公開セミナーなどの開催情報

● 動画

種別	件数	内容
テレビコマーシャル・データベース	4,411件	ACC（社）全日本シーエム放送連盟）賞受賞作品を対象に、1961～1997年にかけて製作されたコマーシャルフィルムのデータベース

2 国際研究協力活動

(1) 地域担当性による国際研究協力の推移

当初構想された国際研究協力活動の中核は、専任教官がそれぞれの担当地域を分担し、その地域の実情に応じた研究協力を行うことであった。東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、東ヨーロッパ、西ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの10地域に分けて、それぞれの日本研究者への研究協力を推進する手はずになっていた。

しかし実態は、地域による日本研究の進行度にかかなりの濃淡の差があり、研究者の層も異なっていることが明らかになった。個人だけでなく、日本研究機関の存在の有無、機能の程度にも差があった。そうした実情を踏まえ、やがて、単純な地域区分をそのまま担当者制に当てはめるのではなく、地域による日本研究の熱意と実績の違いを認めた上で、（i）日本研究者が少なく、課題も資料も乏しい地域や国に対する支援のあり方と、（ii）日本研究意欲が盛んで、若い研究者も育っている地域や国に対する協力のあり方に分けて、それぞれに最適な研究協力を進めていくべきだということになった。また、いかに学際的に柔軟性をもった教官が多いとはいえ、担当教官のみでのマネジメントでは困難がつきまとうということも明らかになった。

こうした反省から、1998（平成10）年4月9日、専任教官と管理職員からなる海外研究交流室を設置した。この新組織の下で、まず上記（i）の地域を中心に、日本研究の“芽”を育てるための日本研究会を組織していった（第1回：1999年9月、ドイツ・ボン大学）。一方、日本研究意欲の盛んな（ii）の地域を対象に、恒常的な海外研究交流シンポジウムを実施していくこととして、まず第1回を2006（平成18）年11月に韓国で開催した。

いずれも、スタート後は年間2回程度開催されており、研究拠点の形成と研究者開拓、または密度の濃い研究者交流をそれぞれの柱に据えて継続的に実施し、これらにより国際研究協力を海外で安定的に実施する基盤が確立された（詳細は第2部第2章「海外

活動」の項参照）。

同時に、管理部内に研究協力専門官室を設け、交流室の業務をサポートするとともに、情報収集から外国人宿泊施設の管理・運営にいたるまで研究協力・支援に関わる幅広い業務にあたることとなった。

(2) フォーラム、レクチャーなどの「実践の場での研究協力」

こうした研究情報の提供や国際研究協力体制の整備とともに、特に外国人研究者に対する研究協力として重要視してきたのが、日本で研究発表の場を提供し、フォーラム（討論）やレクチャー（講義）を通じて、助言、支援、そして交流を行うことでそれぞれの日本研究を深めていくという、日常的で実践的な研究協力を推進することであった。日文研の公用語は日本語である。厳格なルールではないが、基本的な姿勢として日本語を共通語としており、外国人研究者も、発表は日本語で行い、質疑応答なども日本語で行われる。また、発表テーマの選定にあたっては日文研の担当教官が発表の外国人研究者と共同（協力）で行うことにより、研究協力の実を上げることができる。こうしたことの積み重ねによって、真の意味での研究協力の実現をめざしている。

研究課題（テーマ）は、日本人の専任教官が提案して指定する場合と、外国人研究者と協議して決定する場合があり、その選択の仕方もいかにして効率よく研究協力の実を上げるかによって判定された。こうした実践的な研究協力の場として、以下のような企画が継続的に実施されてきた。

◆シンポジウム

シンポジウムは教官の個人研究や「共同研究」に関連して、その研究方法の多様化の一環として設定された。形態はさまざまだが、研究の学際性や総合性を獲得しようとするときには大いに有効な方法であるため、シンポジウム形式の研究については、原則として積極的に推進してきた。なぜなら、こうした集団的研究方法は、当然ながら研究者間交流を促進するとともに、おのずから相互に研究支援・協力を進めることになったからである。シンポジウムは原則として申請制度をとっている。

日文研創設以来、国際研究集会と併催されるシンポジウムを除いて別表（262頁）のように103回の開催実績がある。

◆レクチャー

1988（昭和63）年11月から始まり、ほぼ2カ月に1回のペースで実施され、現在までに130回以上実施されてきた日文研伝統の研究「道場」である。発表者は必ずしも外国人研究者に限定されたものではなく、また共同研究のある研究班が集団で参加するなど、開放的な空気のなかで研究者交流が行われてきた。多くの外国人研究者が参加し、こうした打ち解けた雰囲気と知的向上心が融け合って、日本文化研究の最先端の空気を吸収できる催しをめざしている。

◆日文研フォーラム

第1回が1987（昭和62）年10月であり、日文研設立後わずか5カ月後にスタートした。ほぼ毎年11回（8月は夏休み）開催しており、現在までに240回を超す名物企画となっている。

日文研フォーラムの目的は、来日中の海外の日本研究者にそれぞれの専門領域の研究成果を発表してもらうこととしており、日文研のスタッフでない日本文化研究の著名人などの発表もみられる。会場も交通至便な京都市街に設定してきたことにより、参加者は研究者をこえて、日本文化に興味をもつ一般人にまで広がりをみせている。

◆木曜セミナー

研究部に所属する全教員（研究員）が、毎月1回第3木曜日に出席し、定例的に研究者の交流を深めることを目的としたフォーマルな研究集会である。直前に、全所員が出席すべき所員会議が設定されており、月に1回は研究部全員が顔を揃えることができる大事な場になっている。1991（平成3）年10月に制度化され、2011（平成23）年9月時点で185回開催されてきた。研究集会であるから、毎回必ず研究発表が行われるが、とくに外国人ゲストが日文研を訪問している際には、できるだけその研究者の発表を聴くなどして、国際性と研究協力を標榜する日文研らしさを発揮している。

◆Nichibunken Evening Seminar（イブニング・セミナー）

外国人研究者による日本研究発表の場であり、使用言語には基本的に英語が採用されている。みずからの研究成果を日本語のみで発表、自在に質疑応答するとなると困難を感じる研究者も存在するため、それを補う意味で実施されるようになった。また、日本人研究者にとっては実践的な英語学習のチャンスとしても活用できるため、このセミナーは1995（平成7）年7月に開講されて以来、毎月1回のペースで継続されている。



日文研ハウス外観
国内外から訪れる研究者のための宿泊施設



日文研ハウス(単身用)竣工式(1999年)



外国人研究員契約式(1996年)



外国人ゲストの歓送迎会(1997年)

シンポジウムの記録

第1回

【開催日】1992年6月2日～3日
【主催者】中西進（日文研教授）
【テーマ】日中文化交流…新しい視点

第2回

【開催日】1992年11月20日～21日
【主催者】鈴木貞美（日文研助教授）
【テーマ】1.『太陽』と博文館、2.『太陽』創刊をめぐるって

第3回

【開催日】1992年11月30日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）
【テーマ】1.民俗から見た韓国古代文化の交流、2.韓国と日本の生活文化の比較、3.韓国のノリバンと日本のまつり

第4回

【開催日】1992年12月22日
【主催者】中西進（日文研教授）
【テーマ】1.触れ合うリズム ―志賀直哉における自然と自己―、2.川端康成の自然・女・自己

第5回

【開催日】1994年2月2日
【主催者】山折哲雄（日文研教授）、笠谷和比古（日文研助教授）
【テーマ】豊臣秀吉の死と葬儀

第6回

【開催日】1994年6月20日～22日
【主催者】速水融（日文研教授）
【テーマ】ユーラシア人口・家族の比較社会史

第7回

【開催日】1994年6月28日～29日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）、白幡洋三郎（日文研助教授）、笠谷和比古（日文研助教授）
【テーマ】日文研の徳川研究―近刊著書の相互批評―

第8回

【開催日】1994年9月2日～3日
【主催者】園田英弘（日文研教授）
【テーマ】第2回歴史社会学シンポジウム「歴史社会学をめぐる諸問題」

第9回

【開催日】1994年9月28日～29日
【主催者】安田喜憲（日文研教授）
【テーマ】日本列島植生史

第10回

【開催日】1995年3月16日～19日
【主催者】村井康彦（日文研教授）
【テーマ】東アジアにおける中国文明の受容と変容「東アジアにおける官僚制とその文化的基盤」

第11回

【開催日】1995年3月25日～26日
【主催者】安田喜憲（日文研教授）
【テーマ】歴史気候学のための高精度分解能の気候変動

第12回

【開催日】1995年3月28日～29日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）
【テーマ】近代日本の音楽と社会―明治の唱歌、大正の歌曲、昭和の歌謡―

第13回

【開催日】1996年1月22日～23日
【主催者】笠谷和比古（日文研助教授）
【テーマ】日本型組織をめぐる諸問題

第14回

【開催日】1996年2月2日～3日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）
【テーマ】日本・アジア現代美術交流の今後の問題

第15回

【開催日】1996年5月16日～17日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）
【テーマ】現代における中国哲学研究―21世紀への展望―

第16回

【開催日】1996年7月29日～30日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】日本型組織をめぐる諸問題（II） ―日本型組織と個人―

第17回

【開催日】1996年11月22日～23日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】日本型組織をめぐる諸問題（III） ―日本型組織のシステム論的分析―

第18回

【開催日】1996年12月20日～21日
【主催者】芳賀徹（日文研教授）
【テーマ】江戸期の旅行記と物の見かたの問題

第19回

【開催日】1997年2月21日～22日
【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）
【テーマ】絵画・版画・写真

第20回

【開催日】1997年2月25日～27日
【主催者】落合恵美子（日文研助教授）
【テーマ】家族と人口の歴史社会学

第21回

【開催日】1997年3月16日～18日
【主催者】河合隼雄（日文研所長）、上垣外憲一（日文研助教授）

【テーマ】語り物…東と西

第22回

【開催日】1997年3月24日～25日
【主催者】尾本恵市（日文研教授）
【テーマ】将棋とは何か

第23回

【開催日】1997年3月27日
【主催者】光田和伸（日文研助教授）
【テーマ】日本文学研究とコンピューター―現状と未来―

第24回

【開催日】1997年4月4日～5日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】日本型組織をめぐる諸問題（IV） ―日本型組織の比較文明論的考察―

第25回

【開催日】1997年7月29日
【主催者】上垣外憲一（日文研助教授）
【テーマ】東アジア文化交流史研究

第26回

【開催日】1998年2月22日～23日
【主催者】上垣外憲一（日文研教授）
【テーマ】東アジア比較文化史研究

第27回

【開催日】1998年2月24日～25日
【主催者】稲賀繁美（日文研助教授）
【テーマ】異文化交流の倫理に向けて

第28回

【開催日】1998年3月11日～12日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】中国流出日本関係文獻・絵画の総合調査

第29回

【開催日】1998年3月13日
【主催者】上垣外憲一（日文研教授）、山田熒治（日文研助教授）
【テーマ】ネットワークと電子メディアを利用した研究交流の可能性―中国における日本・日本語研究の場合―

第30回

【開催日】1998年7月10日～11日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】日本官僚制の論理と倫理

第31回

【開催日】1998年7月17日～18日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】近世社会における文化的モビリティ―徳川時代の武家、公家、庶民―

第32回

【開催日】1998年8月4日～5日
【主催者】稲賀繁美（日文研助教授）
【テーマ】異文化交流の倫理にむけて（2）

第33回

【開催日】1998年8月5日～6日
【主催者】山田熒治（日文研助教授）
【テーマ】古文書OCR（自動読み取り）

第34回

【開催日】1999年3月5日～7日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】曖昧さを焦点に

第35回

【開催日】1999年9月4日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】日中韓におけるアジア観の変遷

第36回

【開催日】1999年11月30日～12月1日
【主催者】笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】日本・トルコの比較近代化研究

第37回

【開催日】2000年2月29日～3月1日
【主催者】速水融（日文研名誉教授）、落合恵美子（日文研助教授）
【テーマ】ユーラシアプロジェクトの成果と挑戦 1995-2000

第38回

【開催日】2000年3月9日～11日
【主催者】園田英弘（日文研教授）
【テーマ】地域研究を通してみた近代日本―社会学と歴史学の対話―

第39回

【開催日】2000年3月11日～12日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】東アジア比較文学史の可能性を考える

第40回 ※第1回文化資料研究企画室シンポジウムとして記録

第41回

【開催日】2000年3月26日
【主催者】千田稔（日文研教授）
【テーマ】亀の古代学

第42回

【開催日】2000年3月27日～29日
【主催者】光田和伸（日文研助教授）
【テーマ】連歌空間《連歌》に出会うために セッション2000

第43回

【開催日】2000年3月28日
【主催者】石井紫郎（日文研教授）
【テーマ】民事判決原本利用保存の諸問題

第44回

【開催日】2000年3月29日～30日
【主催者】頼富本宏（日文研教授）
【テーマ】聖なるものの形と場

第45回 ※第1回日本在住外国人シンポジウム・「世界の日本研究」シンポジウムとして記録

第46回 ※第2回日本在住外国人シンポジウム・「世界の日本研究」シンポジウムとして記録

第47回
【開催日】2001年3月19日～20日
【主催者】千田稔（日文研教授）
【テーマ】地図・地誌書からみたアジアの近代化

第48回
【開催日】2001年6月15日～16日
【主催者】稲賀繁美（日文研助教授）
【テーマ】近代東アジアの美術史学・建築史学・考古学の成立：文化財行政とその周辺

第49回
【開催日】2001年6月20日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】日中文化往還：地図と留学生がもたらした「西洋」的世界像

第50回
【開催日】2001年7月28日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】明治期総合雑誌の学際的研究

第51回
【開催日】2001年12月7日～8日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】学芸ジャンルの編成と再編成

第52回 ※第3回日本在住外国人シンポジウム・「世界の日本研究」シンポジウムとして記録

第53回
【開催日】2002年1月31日～2月1日
【主催者】千田稔（日文研教授）、宇野隆夫（日文研教授）
【テーマ】東アジア文明と「半島空間」――山東半島と遼東半島――

第54回
【開催日】2002年3月28日
【主催者】山田奨治（日文研助教授）
【テーマ】コマーシャル映像の文化的研究を探る

第55回
【開催日】2002年10月19日～20日
【主催者】佐藤卓己（日文研助教授）
【テーマ】東アジアにおけるラジオ史

第56回
【開催日】2002年12月6日～7日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】学芸ジャンルの編成と再編成――2002――

第57回
【開催日】2003年1月27日
【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）、劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】東アジアにおける日本研究の現状と展望

第58回
【開催日】2003年2月9日～11日

【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）
【テーマ】百人一首の世界

第59回
【開催日】2003年2月21日～22日
【主催者】早川閑多（日文研教授）
【テーマ】将棋学の可能性をさぐる

第60回
【開催日】2003年3月15日～16日
【主催者】テモテ・カーン（日文研助教授）
【テーマ】近代東アジアにおけるキリスト教宣教師・宣教団の活動――その教会史、交流史、社会史に関する研究状況と展望――

第61回
【開催日】2003年3月15日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】石川淳をめぐって

第62回
【開催日】2003年3月30日～31日
【主催者】川勝平太（日文研教授）
【テーマ】オックスフォード大学研究者グループとの学術交流セミナー「市民社会の諸相」日英合同シンポジウム
1.「京都と市民」、2.「京都と武士」、3.「京都市民と神社仏閣」、4.「市民社会の諸相―日本との比較1」、5.「市民社会の諸相―日本との比較2」

第63回
【開催日】2003年4月25日～26日
【主催者】小松和彦（日文研教授）
【テーマ】妖怪研究の過去・現在・未来を考える

第64回
【開催日】2003年7月18日～19日
【主催者】テモテ・カーン（日文研助教授）、劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】近代東アジア文化とプロテスタント宣教師

第65回
【開催日】2003年7月30日～31日
【主催者】稲賀繁美（日文研助教授）
【テーマ】東アジア美術史・文化史の再構築――文化史の基礎概念の問い直しからあらたな提案へ――

第66回
【開催日】2003年10月13日～14日
【主催者】安田喜憲（日文研教授）
【テーマ】世界の中の日本地域研究方法論――新世界地理の構成――

第67回
【開催日】2003年12月12日～13日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】近代中国東北部の歴史と文化

第68回
【開催日】2004年1月11日～13日
【主催者】安田喜憲（日文研教授）
【テーマ】稲作文明のエートス―地球環境史とアジア文明史の相互関係の解明―

第69回
【開催日】2004年1月30日～31日
【主催者】山田奨治（日文研助教授）
【テーマ】テレビCMによる文化研究のあらたな可能性を探る

第70回
【開催日】2004年2月7日～9日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】日本の出版文化とジャンル

第71回
【開催日】2004年2月10日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】近代日中における漢語概念の往還

第72回
【開催日】2004年3月19日
【発起人】小松和彦（日文研教授）、宇野隆夫（日文研教授）、稲賀繁美（日文研助教授）、森洋久（日文研助教授）
【テーマ】赤澤威教授退官記念シンポジウム

第73回
【開催日】2004年9月13日
【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）
【テーマ】写真史研究の広がり―映像資料と日本文化史研究―

第74回
【開催日】2004年9月25日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】近代東アジア文化史の再構築

第75回
【開催日】2005年3月17日～18日
【主催者】川勝平太（日文研教授）
【テーマ】Inter Asian Competition for the World Market

第76回
【開催日】2005年5月14日
【担当】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】ワビ・サビ・幽玄―「日本的なるもの」の誕生―

第77回
【開催日】2005年5月14日
【主催者】細川周平（日文研助教授）
【テーマ】日本音楽における時間性―その美学的概念や音楽語法に関する技術的様相―

第78回
【開催日】2005年6月25日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】東アジア文化史再構築の試み

第79回
【開催日】2005年11月26日
【主催者】劉建輝（日文研助教授）
【テーマ】往還と沈潜：日中文化相互受容の再考察

第80回
【開催日】2006年5月24日

【主催者】稲賀繁美（日文研教授）
【テーマ】Borderlines and Cultural Identity
境界線と文化アイデンティティ

第81回
【開催日】2006年6月5日
【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）
【テーマ】「鎮守の社」は近現代に生まれた景観?―映像資料をもとに―

第82回
【開催日】2006年7月15日
【主催者】白幡洋三郎（日文研教授）
【テーマ】外国人カメラマンが撮った幕末日本

第83回
【開催日】2007年1月26日～27日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】日文研横断シンポ「戦争・メディア・ジャンル」

第84回
【開催日】2007年7月17日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】イスラーム神学校における教育文化

第85回
【開催日】2008年10月4日
【主催者】磯前順一（日文研准教授）
【テーマ】安丸民衆史の射程―主体性・全体性・両義性―

第86回
【開催日】2008年10月22日
【主催者】劉建輝（日文研准教授）
【テーマ】東アジア連帯論の系譜と国際理解

第87回
【開催日】2008年12月4日～7日
【主催者】細川周平（日文研教授）
【テーマ】戦間期大阪の音楽と近代

第88回
【開催日】2009年5月23日～24日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】京都学派と「近代の超克」―近代性・帝国・普遍性―

第89回
【開催日】2009年6月17日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】日文研・バークレーの対話

第90回
【開催日・会場】2009年9月9日～14日・東北師範大学（長春）・通化師範学院（通化）・黒龍江大学（ハルビン）
【主催者】劉建輝（日文研准教授）
【テーマ】東北アジア文化史の再構築

第91回
【開催日・会場】2009年11月25日～27日・中山大学（広東省広州市）
【主催者】中山大学人類学研究所、アジア太平洋研究所、日文研（代表：鈴木貞美（教授））

【テーマ】近代東アジアにおける鍵概念—民族、国家、民族主義—
第92回
【開催日・会場】2009年12月4日～5日・立命館大学国際平和ミュージアム
【主催者】ロンドン大学SOAS、立命館アート・リサーチセンター、文部科学省COE日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点（立命館大学）、日文研（代表：早川閑多（教授））
【テーマ】立命館大学アート・リサーチセンター創立10周年記念—近世春本・春画とそのコンテクスト—
第93回
【開催日】2010年3月5日～6日
【主催者】旧植民地関係資料に関する研究グループ、日文研*（代表：劉建輝（准教授））
*人間文化研究総合推進事業、日文研プロジェクト「日中歴史マイクロ資料の整理と利用」、 「『満州』学の整理と再編」 共同研究会
【テーマ】近代東アジア歴史研究の現状と既存資料の有効利用
第94回
【開催日】2010年7月16日～18日
【主催者】漢陽大学校比較歴史文化研究所、科学研究費基盤研究（A）「東アジアにおける文化交流と知的システムの近代的編成」（代表：鈴木貞美（教授））、日文研共同研究会「東アジアの近現代における知的交流—概念編成を中心に—」
【テーマ】東アジアにおけるトランスナショナル人文学の可能性
第95回
【開催日】2010年9月11日
【主催者】平成19～22年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）「近代日本の歴史的時空間データマイニングのための基盤整備」（代表：山田奨治（准教授））
【テーマ】日本の歴史的時空間情報の現在
第96回
【開催日】2010年9月19日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】『文藝春秋』の欧文付録「Japan To-day」の研究
第97回
【開催日】2010年9月23日～25日
【主催者】南京大学人文社会科学高等研究院、日文研*（代表：鈴木貞美（教授））*人間文化研究連携共同推進事業2010年度連携研究
【テーマ】東アジアにおける知的体系の再構築—日本と中国の視座—
第98回
【開催日】2010年10月30日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】『石川淳と戦後日本』合評会
第99回
【開催日】2010年12月18日～20日
【主催者】東北亜歴史財団、人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究」、日文研*（代表：松田利彦（准教授））*日文研共同研究会「東アジアにおける知的システムの近代的再編成」
【テーマ】日韓相互認識—移動と視線1910–2010—
第100回
【開催日】2011年3月4日～6日
【主催者】人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究」、日文研*

（代表：劉建輝（准教授））*日文研共同研究会「『満州』学の整理と再編」
【テーマ】中国東北部（旧満州）と日本—100年関係史の整理と再編—
第101回
【開催日】2011年3月19日～20日
【主催者】細川周平（日文研教授）
【テーマ】1950年代日本映画における「戦後」の構築研究
第102回
【開催日】2011年7月30日～31日
【主催者】細川周平（日文研教授）
【テーマ】1950年代日本映画における戦前・戦中との連続性・非連続性
第103回
【開催日】2011年9月30日～10月1日
【主催者】佐野真由子（日文研准教授）
【テーマ】万国博覧会とアジア—上海から上海へ、そしてその先へ—

日本在住外国人シンポジウム・「世界の日本研究」シンポジウムの記録
第1回
【開催日】2000年3月31日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】バブル崩壊後の日本研究
【報告書】『世界の日本研究 2000』（2001年3月）
第2回
【開催日】2001年2月9日～11日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】コリアにおける日本研究の現在
【報告書】『世界の日本研究 2001—コリアにおける日本研究の現在—』（2002年7月）
第3回
【開催日】2002年1月25日～29日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】20世紀の日中関係を振り返る
【報告書】『アジア遊学』No.41（勉誠出版、2002年7月）、No.44（勉誠出版、2002年10月）
第4回
【開催日】2002年9月14日～16日
【主催者】鈴木貞美（日文研教授）
【テーマ】日本統治下の朝鮮—研究の現状と課題—
【報告書】『世界の日本研究 2002—日本統治下の朝鮮：研究の現状と課題—』（2003年3月）
第5回
【開催日】2003年9月25日～27日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】Observing Japan from Within（内側から見た日本：在住外国人研究者の視点）
【報告書】『世界の日本研究 2004—内側から見た日本：在住外国人研究者の視点—』（2004年11月）
第6回
【開催日】2004年9月8日～11日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】在外コリアンのディアスポラと国際ネットワーク戦略
【報告書】『世界の日本研究 2005—在外コリアンのディアスポラと国際ネットワーク戦略—』（2006年8月）
第7回
【開催日】2006年2月20日～21日
【主催者】猪木武徳（日文研教授）
【テーマ】比較：在住日本研究者が語る日本の美術と音楽
【報告書】『世界の日本研究 2006—比較：在住日本研究者が語る日本の美術と音楽—』（2007年3月）
第8回
【開催日】2007年1月12日～13日
【主催者】ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【テーマ】コミュニケーションを考える：Rethinking “Communication”
【報告書】『世界の日本研究 2007—コミュニケーションを考える—』（2008年2月）
第9回
【開催日】2008年3月14日～15日
【主催者】細川周平（日文研教授）
【テーマ】日本の仏教学者—21世紀の仏教学に向けて—：Scholars of Buddhism in Japan：Buddhist Studies in the 21 st Century
【報告書】『世界の日本研究 2008—日本の仏教学者：21世紀の仏教学に向けて—』（2009年3月）
第10回
【開催日】2010年1月29日
【主催者】郭南燕（日文研准教授）
【テーマ】日本語で書く—文学創作の喜びと苦しみ—
【報告書】『世界の日本研究 2010—日本語で書く—文学創作の喜びと苦しみ—』（2011年3月）



第10回「世界の日本研究」シンポジウム（2010年）

文化資料研究企画室シンポジウムの記録

第1回

【開催日】2000年3月24日～25日
【テーマ】日本研究とビジュアルデータベース

第2回

【開催日】2000年10月9日
【テーマ】デジタルライブラリ：文化資料研究の未来像

第3回

【開催日】2001年2月27日
【テーマ】XMLとメタデータ

第4回

【開催日】2001年11月17日
【テーマ】電子ジャーナルとデータベース

第5回

【開催日】2002年9月18日
【テーマ】米国議会図書館における日本資料と電子図書館

第6回

【開催日】2002年10月25日
【テーマ】アメリカにおける東洋資料のコンピュータ化の歴史

第7回

【開催日】2002年12月17日
【テーマ】空間情報システム（SIS）研究会

第8回

【開催日】2003年7月15日
【テーマ】コンピュータによる自然言語処理：入門と応用

第9回

【開催日】2003年11月27日
【テーマ】デジタル時代の著作権

第10回

【開催日】2004年6月25日
【テーマ】GIS研究会「歴史と地図」

第11回

【開催日】2004年10月15日
【テーマ】米国における日本研究の動向：データベースによる調査を中心として

第12回

【開催日】2005年12月9日
【テーマ】ウェブアーカイブの現状：国立国会図書館の経験から

第13回

【開催日】2006年3月10日
【テーマ】次世代型インターネットの展望

第14回

【開催日】2006年6月15日
【テーマ】ブラング文庫の現状と課題

第15回

【開催日】2006年7月27日
【テーマ】占領と映画：CIE映画に見る民主化教育

第16回

【開催日】2007年3月10日
【テーマ】米国の対外情報政策とCIE映画

第17回

【開催日】2007年12月2日～3日
【テーマ】ブラング文庫マイクロ資料の高度活用

第18回

【開催日】2008年9月26日
【テーマ】映像メディアと歴史記述

レクチャーの記録

第1回

【開催日】1988年11月26日
【発表者・テーマ】ミース・S・ビスワナサン（ブラウン大学助教授）「九鬼周造著『“いき”の構造』（1）」
【担当】久野昭（日文研教授）

第2回

【開催日】1989年1月19日
【発表者・テーマ】リース・D・モートン（シドニー大学東洋研究学部助教授）「近代詩人と戦争：草野心平の場合」
【担当】中西進（日文研教授）、上垣外憲一（日文研助教授）

第3回

【開催日】1989年3月2日
【発表者・テーマ】崔博光（成均館大学校副教授）「朝鮮通信使と日本文化—古義堂を中心に—」
【担当】上垣外憲一（日文研助教授）

第4回

【開催日】1989年4月8日
【発表者・テーマ】ミース・S・ビスワナサン（ブラウン大学助教授）「九鬼周造著『“いき”の構造』（2）」
【担当】久野昭（日文研教授）

第5回

【開催日】1989年6月2日
【発表者・テーマ】鶴田欣也（ブリティッシュ・コロンビア大学教授）「日本近代文学における向う側空間—泉鏡花の場合—」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第6回

【開催日】1989年6月19日
【発表者・テーマ】ヘルベルト・E・プルチョウ（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）「日本の儀礼について」
【担当】山折哲雄（日文研教授）

第7回

【開催日】1989年10月17日
【発表者・テーマ】S・N・アイゼンシュタット（ヘブライ大学社会科学部教授）“Culture and Social Structure Revisited”
【担当】柏岡富英（日文研助教授）

第8回

【開催日】1989年12月7日
【発表者・テーマ】C・O・サルキソフ（ソ連科学アカデミー東洋学研究所日本研究部長／慶應義塾大学法学部訪問教授）「日本研究の計画と現状、特に現政権さらには社会主義の根本的再検討についての講義と討論」
【担当】園田英弘（日文研助教授）

第9回

【開催日】1990年1月31日
【発表者・テーマ】和田春樹（東京大学社会科学研究所教授）「ペレストロイカの現在と日本」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）、柏岡富英（日文研助教授）

第10回

【開催日】1990年8月10日
【発表者・テーマ】ダリル・メイサー（前ケンブリッジ大学招へい研究員）「遺伝子工学の現状とその生命倫理的・社会的問題」
【担当】森岡正博（日文研助手）

第11回

【開催日】1990年9月13日
【発表者・テーマ】ロムアルド・フシチャ（ワルシャワ大学助教授）「日本語の多体系性の問題」
【担当】上垣外憲一（日文研助教授）

第12回

【開催日】1990年10月13日
【発表者・テーマ】ロナルド・P・トビー（イリノイ大学教授）「江戸時代の絵画に見る外国人像」
【担当】杉本秀太郎（日文研教授）

第13回

【開催日】1990年11月15日
【発表者・テーマ】ユーリア・D・ミハイロヴァ（ソ連科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支部研究員）「本居宣長について」
【担当】速水融（日文研教授）

第14回

【開催日】1990年11月27日
【発表者・テーマ】ヘンリー・D・スミス（コロンビア大学教授）「日本近世の映像資料について」
【担当】園田英弘（日文研助教授）

第15回

【開催日】1990年11月28日
【発表者・テーマ】アレクサンドル・A・ドーリン（ソ連科学アカデミー東洋学研究所上級研究員）「ペレストロイカの荒波の中のソ連知識人」
【担当】上垣外憲一（日文研助教授）

第16回

【開催日】1990年12月17日
【発表者・テーマ】上田紀行（日本学術振興会特別研究員）「地球意識と癒し」
【担当】森岡正博（日文研助手）

第17回

【開催日】1991年1月16日
【発表者・テーマ】園田英弘（日文研助教授）「社会階層の歴史社会学」
【担当】園田英弘（日文研助教授）

第18回

【開催日】1991年1月31日
【発表者・テーマ】秋間俊夫（日文研来訪研究員／オークランド大学上級講師）「ヨミの国と外つ国」
【担当】中西進（日文研教授）

第19回
【開催日】1991年4月25日
【発表者・テーマ】上田雄（日本海事史学会理事）「海事的観点より見た日本渤海交渉史」
【担当】中西進（日文研教授）

第20回
【開催日】1991年10月2日
【発表者・テーマ】アール・マイナー（プリンストン大学教授）
“A Consideration of Naming in Literature”
【担当】中西進（日文研教授）

第21回
【開催日】1991年10月16日
【発表者・テーマ】松田清（京都大学助教授）「日文研所蔵の外国語で書かれた古典籍について」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第22回
【開催日】1991年10月28日
【発表者・テーマ】ジャン・カロ・カルザ（ヴェニス大学準教授）「イタリアの日本美術コレクションについて」
【担当】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

第23回
【開催日】1991年11月13日
【発表者・テーマ】古田島洋介（明星大学講師）「渤海関係漢詩文献の基礎的考察」
【担当】中西進（日文研教授）

第24回
【開催日】1991年12月19日
【発表者・テーマ】山口昌男（日文研客員教授／東京外国語大学教授）
「巖谷小波とその友人たち」
【担当】河合隼雄（日文研教授）

第25回
【開催日】1991年12月24日
【発表者・テーマ】ピアタ・ロマノヴィッチ（クラクフ国立美術館極東部学芸員）「クラクフ美術館の日本美術コレクションについて」
【担当】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

第26回
【開催日】1992年3月9日
【発表者・テーマ】ジャン＝ジャック・オリガス（フランス国立東洋言語文化研究所教授）「フランスの現代詩に生きる俳句」
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第27回
【開催日】1992年4月2日
【発表者・テーマ】多田富雄（東京大学教授）「『無明の井』について」
【担当】河合隼雄（日文研教授）

第28回
【開催日】1992年4月28日
【発表者・テーマ】ギュリ・ゲオルグ・カザール（ルーマニア国立美術館東洋部学芸員）「ルーマニアに於ける日本美術について」
【担当】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

第29回
【開催日】1992年5月8日
【発表者・テーマ】カール・モスク（ヴィクトリア大学教授）“Family System and Labor Market Gift Exchange in Prewar Japan”
【担当】速水融（日文研教授）

第30回
【開催日】1992年5月9日
【発表者・テーマ】辻原登（作家）「『村の名前』と桃源郷構想」
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第31回
【開催日】1992年5月16日
【発表者・テーマ】キム・レチュン（日文研客員教授／ロシア科学アカデミー世界文学研究所教授）「『戦争と平和』再考―老子からの視点―」、芳賀徹（日文研教授）「ゴッホと大正詩歌」
【担当】中西進（日文研教授）

第32回 ※第1回シンポジウムとして記録

第33回
【開催日】1992年6月4日
【発表者・テーマ】アドリアナ・ボスカロ（ヴェニス大学教授）「イタリアにおける日本文学の翻訳」
【担当】中西進（日文研教授）

第34回
【開催日】1992年6月11日
【発表者・テーマ】魯義（吉林大学副教授／関西学院大学客員教授）
「中国の行政学者が見た中国の日本研究」、スコット・ジョンソン（関西大学教授）「長期日本滞在中の外国人日本研究者の日本研究論」
【担当】園田英弘（日文研助教授）

第35回
【開催日】1992年7月17日
【発表者・テーマ】渡辺豊和（京都造形芸術大学教授／建築家）「建築のユートピア」
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第36回
【開催日】1992年9月4日
【発表者・テーマ】山口昌男（日文研客員教授／東京外国語大学教授）
「『太陽』創刊について」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第37回
【開催日】1992年11月12日
【発表者・テーマ】マーク・コウディ・ボールトン（ヴィクトリア大学助教授）
「泉鏡花の超自然的自然主義」
【担当】中西進（日文研教授）

第38回
【開催日】1992年11月19日
【発表者・テーマ】王宝平（杭州大学日本文化研究センター副教授）
「在中国日本古典籍調査の現段階」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第39回 ※第2回シンポジウムとして記録

第40回
【開催日】1992年11月25日
【発表者・テーマ】松井利彦（名古屋女子大学教授）、石原八東（俳人）
「俳句と現代」、パネルディスカッション：李栄九（日文研客員教授／中央大学校文学部教授）、王勇（日文研客員助教授／杭州大学日本文化研究センター所長）、芳賀徹（日文研教授）、中西進（日文研教授）
「『俳句の国際性』をめぐって」
【担当】中西進（日文研教授）、芳賀徹（日文研教授）

第41回 ※第3回シンポジウムとして記録

第42回 ※第4回シンポジウムとして記録

第43回
【開催日】1993年1月22日～23日
【発表者・テーマ】鈴木貞美（日文研助教授）「日清戦争と『太陽』の創刊、創刊時『太陽』の細目検討」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第44回
【開催日】1993年2月16日
【発表者・テーマ】郡司隆男（日文研客員助教授／大阪大学大学院言語文化研究科助教授）「日本語の句構造文法」
【担当】中西進（日文研教授）

第45回
【開催日】1993年2月17日
【発表者・テーマ】柳宗鎬（梨花女子大学教授／東京大学比較文学比較文化客員研究員／文芸批評家）「金素雲訳『朝鮮詩集』再読―韓国近代詩と日本―」
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第46回
【開催日】1993年2月19日～20日
【発表者・テーマ】坪内祐三（編集者）「大橋乙羽と『太陽』の創刊、創刊時『太陽』の細目検討」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第47回
【開催日】1993年3月11日
【発表者・テーマ】藤津滋生（関西外国語大学職員）「外書の所在情報について」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第48回
【開催日】1993年3月12日
【発表者・テーマ】コージ・タイラ（イリノイ大学教授）「米国における沖縄研究の動向」
【担当】笠谷和比古（日文研助教授）

第49回
【開催日】1993年5月11日
【発表者・テーマ】石牟礼道子（作家）「風土の心」
【担当】中西進（日文研教授）

第50回
【開催日】1993年6月4日
【発表者・テーマ】マックレイン陽子（オレゴン大学名誉教授）「夏目漱石について」

【担当】中西進（日文研教授）

第51回
【開催日】1993年6月7日
【発表者・テーマ】遠藤正治（大垣工業高校教諭）「幕末日本の写真事情」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第52回
【開催日】1993年7月5日
【発表者・テーマ】木下直之（兵庫県立近代美術館学芸員）「戦争写真の周辺」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第53回
【開催日】1993年7月12日
【発表者・テーマ】王承礼（中国吉林省社会科学院教授）「渤海国をめぐって」
【担当】鈴木貞美（日文研助教授）

第54回
【開催日】1993年9月9日
【発表者・テーマ】ベン・アミ・シロニー（ヘブライ大学教授）「日本の概念の誤訳―西欧語の場合―」
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第55回
【開催日】1993年9月13日
【発表者・テーマ】堀勇良（横浜開港資料館主任調査員）「写真の年代判定」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第56回
【開催日】1993年10月7日
【発表者・テーマ】ロバート・ダーントン（プリンストン大学教授）
“The Forbidden Best―Sellers of Prerevolutionary France―”
【担当】芳賀徹（日文研教授）

第57回
【開催日】1993年10月25日
【発表者・テーマ】タチヤーナ・リヴォヴナ・ソコロヴァ＝デリュエシナ（翻訳家）
「『源氏物語』のロシア語翻訳をめぐって」
【担当】濱口恵俊（日文研教授）

第58回
【開催日】1993年11月2日
【発表者・テーマ】イーゴリ・S・フィリポフ（ロシア国立図書館長）「ロシア所蔵の日本関係資料について①」、リュドミラ・F・コズロワ（ロシア国立図書館国際図書館関係部長）「ロシア所蔵の日本関係資料について②」
【担当】白幡洋三郎（日文研助教授）

第59回
【開催日】1993年11月29日
【発表者・テーマ】チェ・エバ（フェレンツ・ホップ東アジア美術館日本部学芸員）「ハンガリーに於ける日本美術」
【担当】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

【担当】 山折哲雄（日文研教授）
第61回
【開催日】 1993年12月20日
【発表者・テーマ】 小沢健志（写真史家）「銀板写真—日本の初期写真史—」
【担当】 白幡洋三郎（日文研助教授）
第62回 ※第5回シンポジウムとして記録
第63回
【開催日】 1994年2月10日
【発表者・テーマ】 趙東一（ソウル大学教授）“A Comparative Study of East Asian Literary Histories”、小西甚一（筑波大学名誉教授）「私の『日本文藝史』」
【担当】 芳賀徹（日文研教授）
第64回
【開催日】 1994年3月16日
【発表者・テーマ】 アショク・ジャイン（インド国立科学技術開発研究所長）“Post Modern Technology Paradigm and Gandhi”
【担当】 山田慶兒（日文研教授）
第65回
【開催日】 1994年4月18日
【発表者・テーマ】 宮地哉恵子（国立国会図書館職員）「瓦版・錦絵の映像情報」
【担当】 白幡洋三郎（日文研助教授）
第66回
【開催日】 1994年6月24日
【発表者・テーマ】 稲垣直樹（京都大学総合人間学部助教授）、熊倉千之（東京家政学院大学人文学部助教授）「『日本文学における「私』』の批評会」
【担当】 中西進（日文研教授）、上垣外憲一（日文研助教授）、鈴木貞美（日文研助教授）
第67回
【開催日】 1994年9月5日
【発表者・テーマ】 小椋純一（京都精華大学人文学部助教授）「歴史的植生景観の復元—絵図をもとにした研究手法—」
【担当】 白幡洋三郎（日文研助教授）
第68回
【開催日】 1994年12月21日
【発表者・テーマ】 ビーター・セルズ（スタンフォード大学助教授）“Universality of Constraint-based Phrase Structure Grammars [制約に基づく句構造文法の一般性について]”、ダニエル・フリッキンジャー（スタンフォード大学プロジェクトマネージャー）“Comparative Aspects of Japanese and English Grammar [日本語文法と英語文法の比較]”
【担当】 小野芳彦（日文研助教授）
第69回
【開催日】 1995年2月15日
【発表者・テーマ】 秋山光和（日仏会館常務理事）「フェレンツ・ホッフ 東洋美術館所蔵源氏物語画帖について—源氏絵の流れの中で—」
【担当】 辻惟雄（日文研教授）、別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

第70回
【開催日】 1995年5月15日
【発表者・テーマ】 永野一見（写真家）「被災地を取材して—震災と映像—」
【担当】 白幡洋三郎（日文研助教授）
第71回
【開催日】 1995年7月3日
【発表者・テーマ】 木下直之（兵庫県立近代美術館学芸員）「シネマトグラフ＜明治の日本＞の日本像」
【担当】 白幡洋三郎（日文研助教授）
第72回
【開催日】 1996年1月19日
【発表者・テーマ】 クリス・ウィルソン（オーストラリア国立大学リサーチ・フェロー）“What is the Demographic Transition: An Alternative View”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第73回
【開催日】 1996年2月16日
【発表者・テーマ】 宮本又郎（大阪大学経済学部教授）「物価史について」
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第74回
【開催日】 1996年4月16日
【発表者・テーマ】 堀勇良（横浜開港資料館主任研究員）「横浜絵はがきのジャポニスム」
【担当教官】 園田英弘（日文研教授）、白幡洋三郎（日文研教授）
第75回
【開催日】 1996年4月23日
【発表者・テーマ】 スミエ・ジョーンズ（インディアナ大学教授）「後期江戸文化における性とその表現」
【担当】 早川開多（日文研助教授）
第76回
【開催日】 1996年5月24日
【発表者・テーマ】 フィリップ・ハミアル（詩人／画家／彫刻家）、リース・D・モートン（詩人／日文研客員教授／ニューカッスル大学教授）「南太平洋からの吟遊詩人」
【担当】 鈴木貞美（日文研助教授）、リース・モートン（日文研客員教授）
第77回
【開催日】 1996年6月11日
【発表者・テーマ】 斎藤多喜夫（横浜開港資料館調査第一課長）「長崎版画と横浜浮世絵」
【担当】 白幡洋三郎（日文研教授）、園田英弘（日文研教授）
第78回
【開催日】 1996年7月19日
【全体テーマ】 近代日本人の外国体験—2つのケース・スタディー—
【発表者・テーマ】 マーティン・コルカット（プリンストン大学教授／国立歴史民俗博物館客員教授）「サンフランシスコの岩倉使節団—アメリカ側の新聞報道などをめぐって—」、ヴィン・シン（アルバータ大学歴史学部教授）「小松清のベトナム体験」
【担当】 上垣外憲一（日文研助教授）、芳賀徹（日文研教授）

第79回
【開催日】 1996年10月14日
【発表者・テーマ】 F・J・レヴィット（ベン・グリオン大学講師）、J・アザリア（マドラス大学教授）“Comparative Bioethics in Asia: Are Japan, Israel, and India the Ends of Asia?”
【担当】 森岡正博（日文研助手）
第80回
【開催日】 1996年10月24日
【発表者・テーマ】 ブリッタ・ホエム（スウェーデン統計研究所プログラムディレクター）“Family and Fertility Trends in Sweden”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第81回
【開催日】 1997年1月13日
【発表者・テーマ】 デビッド・R・コープ（イギリス経済・環境開発研究所所長）“Intergenerational Justice”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第82回
【開催日】 1997年2月19日
【発表者・テーマ】 ヨラン・テルボーネ（ゴトボルグ大学教授）“Comparative Modernities and Family Pattern”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第83回
【開催日】 1997年2月28日
【発表者・テーマ】 入江康平（筑波大学体育科学系教授）「武道にみる技術観」
【担当】 山田燹治（日文研助教授）
第84回
【開催日】 1997年3月26日
【発表者・テーマ】 黒須憲（東北学院大学教養学部助教授）「江戸期の通矢競技と地方文化—仙台藩の例—」
【担当】 山田燹治（日文研助教授）
第85回
【開催日】 1997年11月26日
【発表者・テーマ】 アラン・D・J・マクファーレン（ケンブリッジ大学教授／東京大学客員教授）“The Savage Wars of Peace: England, Japan and Malthusian Trap”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第86回
【開催日】 1997年12月8日
【発表者・テーマ】 西村雄一郎（映画・映像評論家／映像作家）「黒沢明の谷間—東映太秦撮影所における『トラ・トラ・トラ!』制作の事情—」
【担当】 鈴木貞美（日文研教授）
第87回
【開催日】 1998年3月17日
【発表者・テーマ】 マンフレッド・シュバイデル（アーヘン工科大学教授）「三十三度行者—西国巡礼の風習について—」
【担当】 山田燹治（日文研助教授）
第88回
【開催日】 1998年4月24日
【発表者・テーマ】 アイザ・ゲッティック（中東工科大学教授）、ヘザー・ブース

（オーストラリア国立大学研究員）、クリストファー・ウィルソン（日文研客員助教授／オーストラリア国立大学研究員）「人口と社会：発展のパラドックス」
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）、黒須里美（日文研助手）
第89回
【開催日】 1998年6月5日
【発表者・テーマ】 アレクサンダー・ヴォヴィン（ハワイ大学準教授）、板橋義三（九州大学助教授）「日本語系統論の現在」
【担当】 鈴木貞美（日文研教授）、長田俊樹（日文研助手）
第90回
【開催日】 1998年7月3日
【発表者・テーマ】 劉建輝（北京大学助教授）「上海というトポス」
【担当】 鈴木貞美（日文研教授）
第91回
【開催日】 1998年9月9日
【発表者・テーマ】 ド・ティエン・キン（日文研外来研究員）“Impact of Change in Social Occupation and Labor Structure upon Living Standard Stratification in the Red River Delta and Comparison with Japan's Case”
【担当】 落合恵美子（日文研助教授）
第92回
【開催日】 1998年10月23日
【発表者・テーマ】 ボール＝アンドレ・ローゼンタール（フランス社会科学高等学院歴史研究センター副所長）“Migration, Space and Families in XIXth Century France”
【担当】 黒須里美（日文研助手）
第93回
【開催日】 1998年11月30日
【発表者・テーマ】 ウィレム・ヤン・ボート（ライデン大学日韓研究所長）“Movement of Sinologist in Kyoto in the Seventeenth Century”
【担当】 白幡洋三郎（日文研教授）
第94回
【開催日】 1999年3月11日
【全体テーマ】 日本関係資料についての諸問題 Problems of Materials and Informations on Japan
【発表者・テーマ】 ビーター・ダン（ケンブリッジ大学図書館テクニカルオフィサー）“Managing the Technical Aspects of Providing Japanese in Formation by Computers”、小山騰（ケンブリッジ大学図書館中国日本セクション専門官）「ケンブリッジ大学の蔵書と日本関係資料」
【担当】 白幡洋三郎（日文研教授）
第95回
【開催日】 1999年4月23日
【発表者・テーマ】 長島要一（コペンハーゲン大学教授）「翻訳と引用：シーボルトの翻訳と引用をめぐって」
【担当】 鈴木貞美（日文研教授）
第96回
【開催日】 1999年4月27日
【発表者・テーマ】 アスコ・パルボラ（ヘルシンキ大学教授）「言語学から見たインダス文明」
【担当】 白幡洋三郎（日文研教授）、長田俊樹（日文研助手）
第97回
【開催日】 1999年5月14日
【発表者・テーマ】 ヴァン・デル・ヘーグ（オランダ大学助教授）「オランダの東洋学：東洋学がもたらしたものの歴史」
【担当】 鈴木貞美（日文研教授）、長田俊樹（日文研助手）

第97回
【開催日】1999年11月4日
【発表者・テーマ】奥泉栄三郎（シカゴ大学図書館日本部門主任司書）
「北米の日本研究図書館―その略史・人材・大型資料・動向―」
【担当】渡邊雅子（日文研助教授）

第98回
【開催日】2000年2月7日
【発表者・テーマ】リース・D・モートン（ニューキャッスル大学教授）
「モダニズムと『みだれ髪』・鉄幹と『むらさき』」
【担当】稲賀繁美（日文研助教授）

第99回
【開催日】2000年2月9日
【発表者・テーマ】高橋裕一（獅子博物館長）「多彩な日本の獅子舞のかたちとその分布」
【担当】稲賀繁美（日文研助教授）

第100回
【開催日】2000年7月12日
【発表者・テーマ】ウィリアム・M・ボディフォード（UCLA 東アジア言語文化学部助教授）「道元禪師の賛仰：永平寺における高祖忌の教团的・宗学的展開」
【担当】頼富本宏（日文研教授）

第101回
【開催日】2000年8月3日～4日
【発表者・テーマ】周紹泉（日文研客員教授）、嶋陸奥彦（東北大学大学院文学研究科教授）、臼井佐知子（東京外国語大学外国語学部教授）
「中国・朝鮮の歴史文書と戸籍」
【担当】落合恵美子（日文研助教授）

第102回
【開催日】2000年9月28日
【発表者・テーマ】トーマス・ローサー（マギル大学助教授）「国家に目を遣る：近世の能楽の視覚に体现された幻影」
【担当】テモテ・カーン（日文研助教授）

第103回
【開催日】2001年3月14日
【発表者・テーマ】クリストファー・ロイド（ニューイングランド大学教授／オーストラリア・ニュージーランド社会経済史学会長）「グローバリゼーションは資本主義の最終段階？」
【コメンテーター】L・M・カレン（トリニティカレッジ教授）
【担当】川勝平太（日文研教授）

第104回
【開催日】2001年3月23日
【発表者・テーマ】周紹泉（中国社会科学院歴史研究所教授）、侯楊方（復旦大学中国歴史地理研究所助教授）、落合恵美子（日文研助教授）
「徽州明代万暦黄冊の分析」
【担当】落合恵美子（日文研助教授）

第105回
【開催日】2001年3月27日
【発表者・テーマ】ロイヤル・タイラー（オーストラリア国立大学来訪研究者）
「能の機織：『呉服』と『錦木』を中心に」
【担当】鈴木貞美（日文研教授）

第106回
【開催日】2001年7月11日
【発表者・テーマ】原武史（明治学院大学国際学部助教授）「可視化された帝国―近代日本の行幸啓―」
【担当】園田英弘（日文研教授）

第107回
【開催日】2001年9月23日
【発表者・テーマ】ユハ・アンテロ・ヤンフネン（北海道大学スラブ研究センター客員教授／ヘルシンキ大学教授）「日本語起源研究 ―フレームワーク―」
【担当】鈴木貞美（日文研教授）

第108回
【開催日】2002年1月11日
【発表者・テーマ】レオン・セラフィム（ハワイ大学東洋言語文学部準教授）
「日本語はいつ琉球に入ったのか？ ―言語・考古・歴史の批判的比較―」
【担当】鈴木貞美（日文研教授）

第109回
【開催日】2002年3月9日
【発表者・テーマ】ウィルフリード・デモン（ルーバン大学名誉教授）
「ヨーロッパにおける家族政策：その現状と展開」
【担当】落合恵美子（日文研助教授）

第110回
【開催日】2002年3月22日
【発表者・テーマ】エリック・ラス（カンザス大学助教授）“The Myths and Media of Noh’s Ethos”
【担当教官】笠谷和比古（日文研教授）

第111回
【開催日】2002年3月22日
【発表者・テーマ】枝廣淳子（環境ジャーナリスト）「レスター・ブラウンの思想とワールドウォッチ研究所」
【担当】園田英弘（日文研教授）

第112回
【開催日】2002年3月26日
【発表者・テーマ】萩野弘巳（県立長崎シーボルト大学教授）「複式夢幻能における時間の流れ―ノン・リニアと浮動視点―」
【担当】稲賀繁美（日文研助教授）

第113回
【開催日】2003年2月5日
【発表者・テーマ】ブリッジ・タンカ（デリー大学中国日本学科準教授）
「宗教と近代：明治期日本の仏教改革運動」
【担当】落合恵美子（日文研助教授）

第114回
【開催日】2003年3月25日
【発表者・テーマ】ペーター・パンツァー（ボン大学日本文化研究所教授）
「日本とウィーンのピーダーマイヤー」
【担当】白幡洋三郎（日文研教授）

第115回
【開催日】2003年3月31日
【発表者・テーマ】ジャース・コビー（フランス国立科学研究所主任研究員）
「味覚の人類学―甘さと辛さからみた日本文化―」
【担当】白幡洋三郎（日文研教授）

第116回
【開催日】2004年5月20日
【発表者・テーマ】田中道子（エル・コレヒオ・デ・メヒコ（メキシコ大学院大学）アジア・アフリカ研究センター教授）「メキシコ大学院大学における日本研究の40年」
【担当】ジェームズ・バクスター（日文研教授）

第117回
【開催日】2004年7月15日
【発表者・テーマ】ジュディス・M・スノッドグラス（ウェスタンシドニー大学シニア・レクチャラー）“Exhibiting Meiji Modernity : Japanese Art at the Columbian Exposition, Chicago 1893”
【担当】細川周平（日文研助教授）

第118回
【開催日】2004年9月15日
【発表者・テーマ】ヴィクター・ヴィクトロヴィッチ・リビン（サンクトペテルブルグ大学助教授）「サンクトペテルブルグ（ロシア）における日本語学習の三百年のあゆみ」
【担当】ジェームズ・バクスター（日文研教授）

第119回
【開催日】2005年4月5日
【発表者・テーマ】サオワラック・スリヤウォンバイサル（チュロンコン大学準教授）「謡曲にみる娘の姿」
【担当】ジェームズ・バクスター（日文研教授）

第120回
【開催日】2005年7月14日
【発表者・テーマ】カール・カッセゴール（イエテボリ大学文学部上級研究員／京都大学招へい外国人学者）「離脱（EXIT）と発言（VOICE）―日本の社会運動における諸様式について―」
【担当】園田英弘（日文研教授）、テモテ・カーン（日文研助教授）

第121回
【開催日】2009年4月8日
【発表者・テーマ】ウィリアム・ハメル（ハーバード大学アジアセンター出版部編集委員）“How to Publish Your Manuscript”
【担当】山田奨治（日文研准教授）

第122回
【開催日】2009年11月11日
【発表者・テーマ】ジャクリース・ストーン（プリンストン大学教授）「日本宗教研究をめぐって」
【担当】末木文美士（日文研教授）

第123回
【開催日】2009年11月20日
【発表者・テーマ】周小儀（北京大学外国語学院英語系教授）「1920～30年代中国におけるピアズリーの受容と上海のデカダンス文学」
【担当】劉建輝（日文研准教授）

第124回
【開催日】2009年12月11日
【発表者・テーマ】張文良（創価大学国際仏教学高等研究所学振研究員／中国人民大学哲学院準教授）「現代中国の仏教と仏教研究」
【担当】末木文美士（日文研教授）

第125回
【開催日】2009年12月21日
【発表者・テーマ】アブデッラエフ・カジム（ウズベキスタン共和国科学アカデミー考古学研究所指導研究員）、パルダエフ・ムフトルクル（ウズベキスタン共和国科学アカデミー考古学研究所指導研究員）「中央アジア・ソグディアナにおける仏教遺跡と美術」
【担当】宇野隆夫（日文研教授）

第126回
【開催日】2010年4月6日
【発表者・テーマ】ヴィルヘルム・ブラウネーダー（ウィーン大学教授）
「ヨーロッパにおける国制史の現状」
【コメンテーター】屋敷二郎（一橋大学大学院法学研究科准教授）、瀧井一博（日文研准教授）
【担当】瀧井一博（日文研准教授）

第127回
【開催日】2010年11月19日
【発表者・テーマ】ブライアン・アンドレ・ピクトリア（アンティオク大学教授）
「禅とテロリズム―血盟団事件を中心に―」
【担当】末木文美士（日文研教授）

第128回
【開催日】2011年5月20日
【発表者・テーマ】ハヨ・クロンパッハ（ロンドン大学講師・研究員）
「禅と西洋形而上学の解体」
【担当】末木文美士（日文研教授）

第129回
【開催日】2011年6月24日
【発表者・テーマ】マーク・ブラム（ニューヨーク州立大学オールバニー校教授）「念仏のベルソナ」
【担当】末木文美士（日文研教授）

第130回
【開催日】2011年6月25日
【発表者・テーマ】安丸良夫（一橋大学名誉教授）「再検証『戦後知の可能性』（安丸良夫他編著）」
【担当】磯前順一（日文研准教授）

第131回
【開催日】2011年7月27日
【発表者・テーマ】アントニー・ベスト（ロンドン大学上級講師）「日英関係と汎アジア主義の挑戦 1895-1956」
【担当】瀧井一博（日文研准教授）

日文研フォーラムの記録

開催場所は、国際交流基金京都支部（第1回～第164回）、キャンパスプラザ京都（第165回～第167回、第179回～第215回）、アーバネックス御池ビル東館（第168回～第178回）、ハートピア京都（第216回～）。※ただし第91回と第101回のみ、日文研で開催。
また司会は、第34回～第159回（第101回は除く）は日文研研究協力専門官が担当した。

第1回

【開催日】1987年10月12日

【発表者】梅原猛（日文研所長）

【テーマ】日文研フォーラム開催にあたって

【発表者】パロータ・アレッサンドロ（ビサ大学助教授）

【テーマ】近代日本の社会移動に関する一、二の考察

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第2回

【開催日】1987年12月11日

【発表者】エンゲルベルト・ヨリッセン（京都市立芸術大学・京都外国語大学非常勤講師／日文研客員助教授）

【テーマ】南蛮時代の文書の成立と南蛮学の発展

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第3回

【開催日】1988年2月19日

【発表者】リー・A・トンプソン（大阪大学人間科学部助手）

【テーマ】大相撲の近代化

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第4回

【開催日】1988年4月19日

【発表者】フォスコ・マライーニ（日文研客員教授）

【テーマ】庭園に見る東西文明のちがひ

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第5回

【開催日】1988年6月14日

【発表者】宋欒七（慶北大学校師範大学副教授／京都大学人文科学研究所招聘外国人学者）

【テーマ】大塩平八郎研究の問題点

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第6回

【開催日】1988年8月9日

【発表者】セップ・リンハルト（ウィーン大学教授／京都大学人文科学研究所客員外国人研究員）

【テーマ】近世後期日本の遊び―拳を中心に―

【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第7回

【開催日】1988年10月11日

【発表者】スーザン・J・ネイピア（テキサス大学オースティン校助教授）

【テーマ】近代日本小説における女性像―現実と幻想―

【コメンテーター】上野千鶴子（日文研客員助教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第8回

【開催日】1988年12月13日

【発表者】ジェームス・ドビンズ（米国オベリン大学助教授）

【テーマ】―仏教に生きた中世の女性―恵信尼の書簡

【コメンテーター】久野昭（日文研教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第9回

【開催日】1989年2月14日

【発表者】巖安生（北京外国語学院日本語学部助教授）

【テーマ】―中国人留学生の見た―明治日本

【コメンテーター】上垣外憲一（日文研助教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第10回

【開催日】1989年4月11日

【発表者】劉敬文（中国遼寧大学日本研究所副所長）

【テーマ】教育投資と日本の戦後経済高度成長

【コメンテーター】菊池城司（大阪大学人間科学部教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第11回

【開催日】1989年5月9日

【発表者】シュザンヌ・ゲイ（オベリン大学助教授）

【テーマ】中世京都における土倉酒屋―都市社会の自由とその限界―

【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第12回

【開催日】1989年6月13日

【発表者】夏剛（京都工芸繊維大学助教授）

【テーマ】インタビュー・ノンフィクションの可能性―猪瀬直樹著「日本凡人伝」を手掛りに―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第13回

【開催日】1989年7月11日

【発表者】エルンスト・ロコバント（東洋大学助教授）

【テーマ】国家神道を考える

【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）

【司会】上垣外憲一（日文研助教授）

第14回

【開催日】1989年8月8日

【発表者】キム・レーホ（ソ連科学アカデミー 世界文学研究所教授）

【テーマ】近代日本文学研究の問題点

【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第15回

【開催日】1989年9月12日

【発表者】ハルトムート・O・ロータモンド（フランス国立高等研究院教授／東洋大学助教授）

【テーマ】江戸末期における疱瘡神と疱瘡絵の諸問題

【司会】井上章一（日文研助教授）

第16回

【開催日】1989年10月3日

【発表者】汪向荣（中日関係史研究会常務理事／日文研客員教授）

【テーマ】弥生時期日本に來た中国人

【司会】埴原和郎（日文研教授）

第17回

【開催日】1989年11月14日

【発表者】ジェフリー・ブロードベント（ミネソタ大学助教授）

【テーマ】地域開発政策決定過程を通してみた日米社会構造の比較

【司会】上垣外憲一（日文研助教授）

第18回

【開催日】1989年12月12日

【発表者】エリック・セズレ（フランス国立科学研究所助教授）

【テーマ】日本の国際化の展望と外国人労働者問題

【司会】井上章一（日文研助教授）

第19回

【開催日】1990年1月9日

【発表者】スミエ・ジョーンズ（インディアナ大学準教授）

【テーマ】レトリックとしての江戸

【司会】井上章一（日文研助教授）

第20回

【開催日】1990年2月13日

【発表者】カール・ベッカー（筑波大学哲学思想学系外国人教師）

【テーマ】往生―日本の来世観と尊厳死の倫理―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第21回

【開催日】1990年4月10日

【発表者】グラント・K・グッドマン（カンザス大学教授／日文研客員教授）

【テーマ】忘れられた兵士―戦争中の日本に於けるインド留学生

【司会】園田弘弘（日文研助教授）

第22回

【開催日】1990年5月8日

【発表者】リービ英雄（スタンフォード大学準教授／日文研客員助教授）

【テーマ】柿本人麿と日本文学における「独創性」について

【司会】井上章一（日文研助教授）

第23回

【開催日】1990年6月12日

【発表者】リヴィア・ロディカ・モネ（ミネソタ州立大学東洋学科助教授）

【テーマ】村上春樹：神話の解体

【司会】井上章一（日文研助教授）

第24回

【開催日】1990年7月10日

【発表者】李国棟（北京連合大学外国語師範学院日本語学部講師）

【テーマ】魯迅の悲劇と漱石の悲劇―文化伝統からの一考察―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第25回

【開催日】1990年9月11日

【発表者】馬興国（遼寧大学日本研究所副所長／日文研客員助教授）

【テーマ】正月の風俗―中国と日本―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第26回

【開催日】1990年10月9日

【発表者】ケネス・クラフト（リハイ大学宗教学部助教授）

【テーマ】現代日本における仏教と社会活動

【コメンテーター】久野昭（日文研教授）

【司会】久野昭（日文研教授）

第27回

【開催日】1990年11月13日

【発表者】アハマド・M・ファトヒ（カイロ大学講師）

【テーマ】義経文学とエジプトのペーパルス王伝説における主従関係の比較

【司会】中西進（日文研教授）

第28回

【開催日】1991年1月18日

【発表者】カレル・フィアラ（カレル大学日本学科長／日文研客員助教授）

【テーマ】言語学からみた『平家物語・巻一』の成立過程

【司会】井上章一（日文研助教授）

第29回

【開催日】1991年2月12日

【発表者】アレクサンドル・A・ドーリン（ソ連科学アカデミー東洋学研究所上級研究員）

【テーマ】ソビエットの日本文学翻訳事情―古典から近代まで―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第30回

【開催日】1991年3月5日

【発表者】ウィーベ・カウテルト（ワーゲニンゲン大学植物園研究員）

【テーマ】バロック・ヨーロッパの日本庭園情報―ゲオルグ・マイステルの旅―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第31回

【開催日】1991年4月9日

【発表者】ミコワイ・メラノヴィッチ（ワルシャワ大学教授／日文研客員教授）

【テーマ】ポーランドにおける谷崎潤一郎文学

【司会】井上章一（日文研助教授）

第32回

【開催日】1991年5月14日

【発表者】ベアトリス・M・ボダルト＝ベイリー（オーストラリア国立大学リサーチフェロー／日文研客員助教授）

【テーマ】三百年前の京都―ケンペルの上洛記録―

【司会】井上章一（日文研助教授）

第33回

【開催日】1991年6月11日

【発表者】サトヤ・B・ワルマ（ジャワハルラー・ネール大学教授／日文研客員教授）

【テーマ】インドにおける俳句

【司会】井上章一（日文研助教授）

第34回

【開催日】1991年7月9日

【発表者】ユルゲン・ベルント（フンボルト大学教授／森鴎外記念館長／日文研客員教授）

【テーマ】ドイツ統合とベルリンにおける森鷗外記念館
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）
第35回
【開催日】1991年9月10日
【発表者】ドナルド・M・シーキンス（琉球大学助教授）
【テーマ】忘れられたアジアの片隅―50年間の日本とビルマの関係―
【コメンテーター】飯田経夫（日文研教授）
第36回
【開催日】1991年10月8日
【発表者】王曉平（天津師範大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】中国詩歌における日本人のイメージ
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第37回
【開催日】1991年11月12日
【発表者】辛容泰（東国大学校文科大学教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】日本語の起源―日本語・韓国語・甲骨文字との脈絡を探る―
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）
第38回
【開催日】1991年12月10日
【発表者】洪潤植（東国大学校教授）
【テーマ】古代日本佛教における韓国佛教の役割
【コメンテーター】上垣外憲一（日文研助教授）
第39回
【開催日】1992年1月14日
【発表者】サヴィトリ・ヴィシュワナタン（デリー大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】インドは日本から遠い国か？―第二次大戦後の国際情勢と日本のインド観の変遷―
【コメンテーター】木村汎（日文研教授）
第40回
【開催日】1992年3月10日
【発表者】ジャン＝ジャック・オリガス（フランス国立東洋言語文化研究所教授）
【テーマ】正岡子規と明治の随筆
【コメンテーター】芳賀徹（日文研教授）
第41回
【開催日】1992年4月14日
【発表者】リブジュ・ボハーチコヴァー（プラハ国立博物館日本美術元キュレーター／日文研客員教授）
【テーマ】チェコスロバキアにおける日本美術
【コメンテーター】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）
第42回
【開催日】1992年5月12日
【発表者】ポール・マッカーシー（駿河台大学教授）
【テーマ】谷崎文学の「読み」と翻訳―アメリカにおける最近の傾向―
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第43回
【開催日】1992年6月9日
【発表者】G・カメロン・ハーストIII（ニューヨーク市立大学リーマン広島校学長／カンザス大学東アジア研究所長）
【テーマ】兵法から武芸へ―徳川時代における武芸の発達―
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）

第44回
【開催日】1992年7月14日
【発表者】杉本良夫（ラトローブ大学社会学科教授）
【テーマ】オーストラリアから見た日本社会
【コメンテーター】園田英弘（日文研助教授）
第45回
【開催日】1992年9月8日
【発表者】王勇（杭州大学日本文化研究センター教授／日文研客員助教授）
【テーマ】中国における聖徳太子
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）
第46回
【開催日】1992年10月13日
【発表者】李榮九（韓国中央大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】直感と芭蕉の俳句
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第47回
【開催日】1992年11月10日
【発表者】ウィリアム・D・ジョンストン（ウェスリアン大学歴史学部助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】日本疾病史考―「梅毒」の医学的・文化的概念の形成―
【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）
第48回
【開催日】1992年12月8日
【発表者】マノジュ・L・シュレスタ（甲南大学経営学部講師）
【テーマ】アジアにおける日系企業の戦略転換―技術移転をめぐる―
【コメンテーター】飯田経夫（日文研教授）
第49回
【開催日】1993年1月12日
【発表者】朴正義（圓光大学校師範大学副教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】キリスト教受容における日韓比較
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
第50回
【開催日】1993年2月9日
【発表者】マーティン・コルカット（プリンストン大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】伝説と歴史の間―北條政子と宗教―
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）
第51回
【開催日】1993年3月9日
【発表者】清水義明（プリンストン大学美術史考古学科マーカンド荣誉教授）
【テーマ】チャールズ・L・フリーア（1854～1919）とフリーア美術館―米国の日本美術コレクションの一例として―
【コメンテーター】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）
第52回
【開催日】1993年4月13日
【発表者】金春美（高麗大学教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】日本近代知識人の思想と実践―有島武郎の場合―
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
第53回
【開催日】1993年5月11日

【発表者】タキエ・スギヤマ・リプラ（ハワイ大学教授）
【テーマ】皇太子妃選択の象徴性―旧身分文化との関連を中心として―
【コメンテーター】園田英弘（日文研助教授）
第54回
【開催日】1993年6月8日
【発表者】姜希雄（ハワイ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】変革と選択：10世紀の日本と朝鮮―科举制度をめぐる―
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）
第55回
【開催日】1993年7月13日
【発表者】ツベタナ・クリステワ（ソフィア大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】涙の語り―平安朝文学の特質―
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第56回
【開催日】1993年9月14日
【発表者】金容雲（漢陽大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】和算と漢算を通してみた日韓文化比較
【コメンテーター】伊東俊太郎（日文研教授）
第57回
【開催日】1993年10月12日
【発表者】オロフ・G・リディン（コペンハーゲン大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】徳川時代思想における荻生徂徠
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研助教授）
第58回
【開催日】1993年11月9日
【発表者】マヤ・ミルシンスキー（リュブリアナ大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】無常観の東西比較
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
第59回
【開催日】1993年12月14日
【発表者】ウィリー・F・ヴァンドゥワラ（ルーバン・カトリック大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】日本・ベルギー文化交流史―南蛮美術から洋学まで―
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研助教授）
第60回
【開催日】1994年1月18日
【発表者】J・マーティン・ホルマン（ミシガン州立大学連合日本センター所長）
【テーマ】自然と偽作―井上靖文学における『陰謀』―
【コメンテーター】芳賀徹（日文研教授）
第61回
【開催日】1994年2月8日
【発表者】マイヤ・グラシモヴァ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所研究員）
【テーマ】外から見た日本文化と日本文学―俳句の可能性を中心に―
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第62回
【開催日】1994年3月8日
【発表者】オギュスタン・ペルク（フランス社会科学高等研究院教授／日文研客員教授）
【テーマ】和辻哲郎の風土論の現代性

【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研助教授）
第63回
【開催日】1994年4月12日
【発表者】リチャード・トランス（オハイオ州立大学助教授）
【テーマ】出雲地方に於ける読み書き能力と現代文学、1880～1930
【コメンテーター】上垣外憲一（日文研助教授）
第64回
【開催日】1994年5月10日
【発表者】シルバーノ・D・マヒウォ（フィリピン大学アジア・センター準教授）
【テーマ】フィリピンにおける日本現状紹介の諸問題
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）
第65回
【開催日】1994年6月14日
【発表者】劉建輝（南開大学副教授／日文研客員助教授）
【テーマ】「魔都」体験―文学における日本人と上海―
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）
第66回
【開催日】1994年7月12日
【発表者】チャールズ・J・クイン（オハイオ州立大学準教授／東北大学客員教授）
【テーマ】私の日本語発見―王朝文を中心に―
【コメンテーター】中西進（日文研教授）
第67回
【開催日】1994年9月13日
【発表者】フランソワ・マセ（フランス国立東洋言語文化研究所教授／日文研客員教授）
【テーマ】幻の行列―秀吉の葬送儀礼―
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
第68回
【開催日】1994年11月15日
【発表者】賈蕙萱（北京大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】中日比較食文化論―健康的飲食法の研究―
【コメンテーター】村井康彦（日文研教授）
第69回
【開催日】1994年12月20日
【発表者】彭飛（日本学術振興会特別研究員）
【テーマ】―日本語の表現からみた―異文化摩擦のメカニズム
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
第70回
【開催日】1995年1月10日
【発表者】ミハイル・ウスペンスキー（エルミタージュ美術館学芸員／日文研客員助教授）
【テーマ】根付―ロシア・エルミタージュ美術館のコレクションを中心に―
【コメンテーター】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）
第71回
【開催日】1995年2月14日
【発表者】厳紹邇（北京大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】記紀神話における二神創世の形態―東アジア文化とのかかわり―
【コメンテーター】中西進（日文研教授）

第72回
【開催日】1995年3月14日
【発表者】王家驊（南開大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】渋沢栄一の「論語算盤説」と日本的な資本主義精神
【コメンテーター】伊東俊太郎（日文研教授）

第73回
【開催日】1995年4月11日
【発表者】アリソン・トキタ（モナシュ大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】日本伝統音楽における語り物の系譜―旋律型を中心に―
【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第74回
【開催日】1995年5月9日
【発表者】リュドミラ・エルマコワ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所極東文学課長）
【テーマ】和歌の起源―神話と歴史―
【コメンテーター】中西進（帝塚山学院大学国際理解研究所長／日文研名誉教授）

第75回
【開催日】1995年6月6日
【発表者】パトリシア・フィスター（日文研寄附研究部門助教授）
【テーマ】近世日本の女性画家たち
【コメンテーター】別役恭子（日文研寄附研究部門教授）

第76回
【開催日】1995年7月25日
【発表者】崔吉城（広島大学総合科学部教授）
【テーマ】「恨」の日韓比較の一考察
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）

第77回
【開催日】1995年9月26日
【発表者】蘇徳昌（奈良大学教養部教授）
【テーマ】日中の敬語表現
【コメンテーター】濱口恵俊（日文研教授）

第78回
【開催日】1995年10月17日
【発表者】李均洋（西北大学副教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】一日・中比較文化考―雷神思想の源流と展開
【コメンテーター】井波律子（日文研教授）

第79回
【開催日】1995年11月28日
【発表者】ウィリアム・H・サモニデス（カンザス大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】豊臣秀吉と高台寺の美術
【コメンテーター】辻惟雄（日文研教授）

第80回
【開催日】1995年12月19日
【発表者】タチヤーナ・L・ソコロワ＝デリュシナ（翻訳家／日文研来訪研究員）
【テーマ】俳句の国際性―西欧の俳句についての一考察―
【コメンテーター】杉本秀太郎（日文研教授）

第81回
【開催日】1996年1月16日
【発表者】ジョン・クラーク（シドニー大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】日本の近代性とアジア：絵画の場合
【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第82回
【開催日】1996年2月13日
【発表者】ジェイ・ルービン（ハーバード大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】京の雪、能の雪
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第83回
【開催日】1996年3月12日
【発表者】イザベル・シャリエ（神戸大学国際文化学部外国人教師）
【テーマ】日本近代美術史の成立―近代批評における新語―
【コメンテーター】早川開多（日文研助教授）

第84回
【開催日】1996年4月16日
【発表者】リース・モートン（ニューキャッスル大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】日本近代文芸におけるゴシック風小説
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）

第85回
【開催日】1996年5月28日
【発表者】マーク・コウディ・ボールトン（ヴィクトリア大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】能における「草木成仏」の意味
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第86回
【開催日】1996年6月11日
【発表者】フランシスコ・ハビエル・タブレロ（慶応義塾大学訪問講師）
【テーマ】社会的構築物としての相撲
【コメンテーター】尾本恵市（日文研教授）

第87回
【開催日】1996年7月30日
【発表者】シルヴァン・ギニャール（旭西）（大阪学院大学助教授）
【テーマ】筑前琵琶―文化を語る楽器―
【コメンテーター】早川開多（日文研助教授）

第88回
【開催日】1996年9月10日
【発表者】ヘルベルト・E・ブルチョウ（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授／日文研客員教授）
【テーマ】怨霊の領域
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）

第89回
【開催日】1996年10月1日
【発表者】王秀文（東北民族学院助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】シャクシ・女・魂―日本におけるシャクシにまつわる民間信仰―
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第90回
【開催日】1996年11月26日
【発表者】王宝平（杭州大学日本文化研究所副所長／日文研客員助教授）

【テーマ】明治期に來日した中国人の外交官たちと日本
【コメンテーター】井波律子（日文研教授）

第91回
【開催日】1996年12月17日
【発表者】陳生保（上海外国語大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】中国語の中の日本語
【コメンテーター】芳賀徹（日文研教授）

第92回
【開催日】1997年1月21日
【発表者】アレクサンダー・ニコラエヴィッチ・メシェリヤコフ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】奈良時代の文化と情報
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第93回
【開催日】1997年2月18日
【発表者】郭永喆（瀋陽大学文科大学長／日文研客員教授）
【テーマ】言語から見た日本
【コメンテーター】芳賀徹（日文研教授）

第94回
【開催日】1997年3月18日
【発表者】マリア・ロドリゲス・デル・アリサル（マドリード国立外国語学校助教授／日本学研究所所長）
【テーマ】弁当と日本文化
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）

第95回
【開催日】1997年4月15日
【発表者】ミケーレ・マルラ（カリフォルニア大学ロサンゼルス校助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】弱き思惟―解釈学の未来を見ながら―
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第96回
【開催日】1997年5月13日
【発表者】デニス・ヒロタ（京都浄土真宗翻訳シリーズ主任翻訳家／パークレー仏教研究所準教授）
【テーマ】日本浄土思想と言葉 ―なぜ一遍が和歌を作って、親鸞が作らなかったか―
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第97回
【開催日】1997年6月10日
【発表者】ヤン・シコラ（カレル大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】近世商人の世界―三井高房『町人考見録』を中心に―
【コメンテーター】飯田経夫（日文研教授）

第98回
【開催日】1997年7月8日
【発表者】鶴田欣也（ブリティッシュコロンビア大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】向う側の文学―近代からの再生―
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）

第99回
【開催日】1997年9月9日
【発表者】ポーリン・ケント（龍谷大学助教授）

【テーマ】『菊と刀』のうら話
【コメンテーター】柏岡富英（日文研助教授）

第100回
【開催日】1997年10月14日
【発表者】セオドア・ウィリアム・グーセン（ヨーク大学準教授／日文研客員助教授）
【テーマ】「日本文学」とは何か―21世紀に向かって―
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第101回
【開催日】1997年11月11日
【パネルディスカッション】日本および日本人―外からのまなざし―
【パネリスト】金禹昌（高麗大学校文科大学教授／日文研客員教授）、リヴィア・ロディカ・モネ（モントリオール大学準教授／日文研来訪研究員）、カール・モスク（ヴィクトリア大学教授／日文研客員教授）、ヤン・シコラ（カレル大学助教授／日文研客員助教授）、鶴田欣也（ブリティッシュコロンビア大学教授／日文研客員教授）
【コーディネーター】井上章一（日文研助教授）
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）
【司会】千田稔（日文研教授）

第102回
【開催日】1997年12月9日
【発表者】ジョナ・サルズ（龍谷大学助教授）
【テーマ】猿から尼まで―狂言役者の修業―
【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第103回
【開催日】1998年1月13日
【発表者】姜信杓（仁済大学校人文社会科学研究所教授）
【テーマ】京都考見録：韓国文化人類学者の経験
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第104回
【開催日】1998年2月10日
【発表者】高文漢（山東大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】中世禪林の異端者―休宗純とその文学―
【コメンテーター】井波律子（日文研教授）

第105回
【開催日】1998年3月3日
【発表者】シュテファン・カイザー（筑波大学文芸・言語学系教授）
【テーマ】和魂漢才、和魂洋才―語彙・表記に見る日本文化の特性―
【コメンテーター】山田奨治（日文研助教授）

第106回
【開催日】1998年4月7日
【発表者】スミエ・ジョーンズ（インディアナ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】幽霊と妖怪の江戸文学
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第107回
【開催日】1998年5月19日
【発表者】リヴィア・ロディカ・モネ（モントリオール大学準教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】映画と文学の間に―金井美恵子の小説における映画的身体―
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）

第108回
【開催日】1998年6月9日
【発表者】島崎博（レスブリッジ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】化粧の文化地理
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第109回
【開催日】1998年7月14日
【発表者】丘培培（バツサー大学助教授／日文研来訪研究員）
【テーマ】なぜ莊子の胡蝶は俳諧の世界に飛ぶのか ―詩的イメージとしての典故―
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第110回
【開催日】1998年9月8日
【発表者】ブルーノ・リーネル（チューリッヒ大学講師／ユング派精神分析家／日文研客員助教授）
【テーマ】日本の教育がかかえる問題点
【コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第111回
【開催日】1998年10月6日
【発表者】アハマド・ムハマド・ファトヒ・モスタファ（カイロ大学講師／日文研客員助教授）
【テーマ】『愛玩』―安岡章太郎の「戦後」のはじまり―
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第112回
【開催日】1998年11月10日
【発表者】アリソン・トキタ（モナシュ大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】「道行き」と日本文化―芸能を中心に―
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第113回
【開催日】1998年12月8日
【発表者】グレン・フック（シェフィールド大学教授／東京大学客員教授）
【テーマ】地域主義の台頭と東アジアにおける日本の役割
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第114回
【開催日】1999年1月12日
【発表者】杜勤（華東師範大学助教授／華東師範大学外国語学院第2学部副学部長／日文研客員助教授）
【テーマ】「中」のシンボリズムについて ―宇宙論からのアプローチ―
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第115回
【開催日】1999年2月9日
【発表者】シーラ・スミス（ボストン大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】日本の民主主義―沖縄からの挑戦―
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第116回
【開催日】1999年3月16日
【発表者】エドウィン・A・クランストン（ハーバード大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】うたの色々：翻訳は詩歌の詩化または死化？
【コメンテーター】早川潤多（日文研助教授）

第117回
【開催日】1999年4月13日
【発表者】ウィリアム・ジェファーソン・タイラー（オハイオ州立大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】石川淳著『黄金傳説』その他の翻訳について
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第118回
【開催日】1999年5月11日
【発表者】金知見（韓国仏教教育大学大学院長／日文研客員教授）
【テーマ】内藤湖南先生の眞蹟―高麗太祖顯陵詩―
【コメンテーター】頼富本宏（日文研教授）

第119回
【開催日】1999年6月8日
【発表者】マリア・ヴォイヴォディッチ（モンテネグロ共和国政府民営化推進部外資担当課長／日文研客員助教授）
【テーマ】言葉いろいろ―日本の言葉に反映された文化の特徴―
【コメンテーター】石井紫郎（日文研教授）

第120回
【開催日】1999年7月13日
【発表者】リース・幸子・滝（ケドレン精神衛生センター箱庭療法トレーニングコンサルタント／日文研客員助教授）
【テーマ】心理臨床の場に映った私生活の中の暴力と社会の中の暴力
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第121回
【開催日】1999年9月7日
【発表者】宋敏（国民中学校・文科大学長／日文研客員教授）
【テーマ】明治初期における朝鮮通信使の日本見聞
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第122回
【開催日】1999年10月12日
【発表者】ジャン＝ノエル・アレキサンドル・ロベール（パリ国立高等研究院教授／日文研客員教授）
【テーマ】21世紀の漢文―死語の将来―
【コメンテーター】頼富本宏（日文研教授）

第123回
【開催日】1999年11月16日
【発表者】ヴラディスラフ・ニカロヴィッチ・ゴレグリヤード（ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルグ支部極東部長／日文研客員教授）
【テーマ】鎖国時代のロシアにおける日本水夫たち
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）

第124回
【開催日】1999年12月14日
【発表者】楊曉捷（カルガリー大学準教授／日文研客員助教授）
【テーマ】鬼のいる光景―絵巻『長谷雄草紙』を読む―
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第125回
【開催日】2000年1月11日
【発表者】エミリア・ガデレワ（日文研中核的研究機関研究員）
【テーマ】年末・年始の聖なる夜―西欧と日本の年末・年始の行事の比較的研究―

【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第126回
【開催日】2000年2月8日
【発表者】李応寿（世宗大学校副教授／日文研客員助教授）
【テーマ】東アジア獅子舞の系譜―五色獅子を中心に―
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）、高橋裕一（獅子博物館長）

第127回
【開催日】2000年3月14日
【発表者】アンナ・マリア・トレーンハルト（デュッセルドルフ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】皇室と日本赤十字社の始まり
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第128回
【開催日】2000年4月11日
【発表者】アリ・ペッカ・コルホネン（ユワスクラ大学教授／日文研客員助教授）
【テーマ】アジアの西の境
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第129回
【開催日】2000年5月9日
【発表者】金貞禮（国立全南大学校副教授／日文研客員助教授）
【テーマ】五・七・五、日本と韓国
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第130回
【開催日】2000年6月13日
【発表者】ケネス・リチャード（県立長崎シーボルト大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】出島―長崎―日本―世界 憧憬の旅―サダキチ・ハルトマン（1867-1944）と倉場富三郎（1871-1945）―
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）

第131回
【開催日】2000年7月11日
【発表者】リュドミラ・ホロドヴィッチ（ソフィア大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】お盆と正教の五旬祭―比較的なアプローチ―
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第132回
【開催日】2000年9月12日
【発表者】マーク・メリ（日文研外来研究員）
【テーマ】「物のあはれ」とは何なのか
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第133回
【開催日】2000年10月10日
【発表者】リチャード・ルビンジャー（インディアナ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】読み書きできなかったのは誰か―明治の日本―
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第134回
【開催日】2000年11月14日
【発表者】辛容泰（東国大学校日本学研究所研究員／日文研客員教授）

【テーマ】日本語の「カゲ（光・蔭）」外―日本文化のルーツを探る―
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第135回
【開催日】2000年12月12日
【発表者】蔡敦達（同済大学日本学研究所助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】中国文人が観た明治日本―旅行記を読む―
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第136回
【開催日】2001年2月6日
【発表者】バルト・ガーンズ（日文研中核的研究機関研究員）
【テーマ】長者の山―近世的経営の日欧比較―
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第137回
【開催日】2001年3月6日
【発表者】ポール・シュルダン・グローナー（ヴァージニア大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】仏教の戒律とは何か？
【コメンテーター】頼富本宏（日文研教授）

第138回
【開催日】2001年4月10日
【発表者】李卓（南開大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】中日姓名の比較について―親族の血縁性と社会性―
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第139回
【開催日】2001年5月8日
【発表者】エッケハルト・マイ（フランクフルト大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】西洋における俳句の新しい受容へ
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第140回
【開催日】2001年6月12日
【発表者】徐蘇斌（日文研外国人研究員）
【テーマ】中国現代建築の成立基盤―留日建築家・趙冬日と人民大会堂―
【司会・コメンテーター】井上章一（日文研助教授）

第141回
【開催日】2001年7月10日
【発表者】ヘンリー・スミス（コロンビア大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】忠臣蔵再考―四十七士の三百年―
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第142回
【開催日】2001年9月18日
【発表者】ジョナサン・オーガスティン（日文研外来研究員）
【テーマ】聖人伝、高僧伝と社会事業―古代日本、ヨーロッパの高僧を中心に―
【コンテーター】頼富本宏（日文研教授）

第143回
【開催日】2001年10月9日
【発表者】アレクサンダー・ポビン（ハワイ大学準教授／日文研客員助教授）
【テーマ】日韓上代言語域：神と国と人と
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）、長田俊樹（京都造形芸術大学教授／日文研客員教授）

第144回
【開催日】2001年11月13日
【発表者】官文娜（日文研外国人研究員）
【テーマ】日本社会における「近親婚」と中国の「同姓不婚」との比較
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第145回
【開催日】2001年12月11日
【発表者】チグサ・キムラ＝スティーブン（カンタベリー大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】大庭みな子『三匹の蟹』：ミニスカート文化の中の女と男
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第146回
【開催日】2002年1月15日
【発表者】申昌浩（日文研中核的研究機関研究員）
【テーマ】親日仏教と韓国社会
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第147回
【開催日】2002年2月12日
【発表者】マシミリアーノ・トマシ（ウェスタン ワシントン大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】近代詩における擬声語について
【コメンテーター】光田和伸（日文研助教授）

第148回
【開催日】2002年3月12日
【発表者】鄭恵卿（世宗大学校人文科学大学副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】日韓言語文化の比較—語る文化と語らぬ文化—
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第149回
【開催日】2002年4月9日
【発表者】マシュー・フィリップ・マッケルウェイ（ニューヨーク大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】初期洛中洛外図の人脈と武家作法—三条本を中心に—
【コメンテーター】早川開多（日文研教授）

第150回
【開催日】2002年5月14日
【発表者】李光潯（東西心理学研究所長／日文研外国人研究員）
【テーマ】禅心理学的生命観
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第151回
【開催日】2002年6月11日
【発表者】魯義（北京外国問題研究会教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】中日関係と相互理解
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第152回
【開催日】2002年7月9日
【発表者】アレクシア・ポロ（カ・フォスカリ大学助手／日文研外国人研究員）
【テーマ】建物と権力—明治初期の東京の建築について—
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）

第153回
【開催日】2002年9月10日
【発表者】李美林（日文研外来研究員）
【テーマ】近世後期「美人風俗画」の絵画的特徴—日韓比較—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）

第154回
【開催日】2002年10月8日
【発表者】マルクス・リュッターマン（日文研外国人研究員）
【テーマ】伝授から伝統へ—中・近世日本における「啓蒙」の一面について—
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第155回
【開催日】2002年11月5日
【発表者】金文吉（釜山外国語大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】神代文字と日本キリスト教—国学運動と国字改良—
【コメンテーター】松田利彦（日文研助教授）

第156回
【開催日】2002年12月10日
【発表者】スーザン・バーンズ（シカゴ大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】問題化された身体—明治時代における医学と文化—
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第157回
【開催日】2003年1月14日
【発表者】デビット・ハウエル（プリンストン大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】天保七年常州那珂湊敵討ち一件顛末—近世日本における公的美徳と私的暴力をめぐって—
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第158回
【開催日】2003年2月18日
【発表者】戦曉梅（日文研研究機関研究員）
【テーマ】隠逸山水に秘められた「近代」—富岡鉄斎を読む—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）

第159回
【開催日】2003年3月11日
【発表者】リチャード・オカダ（プリンストン大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】「母国語」とは誰の言葉？：言語と国民国家
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第160回
【開催日】2003年4月8日
【発表者】ウィリアム・スウェル（セントメアリー大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】旧満州における戦前日本の町づくり活動
【コメンテーター】劉建輝（日文研助教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第161回
【開催日】2003年5月20日
【発表者】朴鎰烈（韓国中央大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】神々の使者に扮装する愉しみ—門付け儀礼の演劇性をめぐって—
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）
【司会】山田奨治（日文研助教授）

第162回
【開催日】2003年6月10日
【発表者】林容澤（仁荷大学校副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】詩の翻訳は可能か—金素雲訳『朝鮮詩集』の場合—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）
【司会】光田和伸（日文研助教授）

第163回
【開催日】2003年7月8日
【発表者】ボイカ・エリット・ツィゴバ（ソフィア大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】ブルガリア人の日本文化観—その理解と日本文芸作品の翻訳をめぐって—
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）
【司会】光田和伸（日文研助教授）

第164回
【開催日】2003年9月9日
【発表者】イング・マリア・ダニエルズ（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート客員講師／日文研外来研究員）
【テーマ】現代住宅に見られる日本人と『モノ』の関わり方
【コメンテーター】千田稔（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第165回
【開催日】2003年10月14日
【発表者】王成（首都師範大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】阿部知二が描いた“北京”
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）
【司会】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

第166回
【開催日】2003年11月11日
【発表者】陳暉（中国社会科学院亜太日本研究所研究員教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】明治教育家 成瀬仁蔵のアジアへの影響—家族改革をめぐって—
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）
【司会】マルクス・リュッターマン（日文研助教授）

第167回
【開催日】2003年12月9日
【発表者】エフゲーニー・S・バクシェエフ（国立ロシア文化研究所研究員／日文研外国人研究員）
【テーマ】人と神とが³出会う場所 沖縄県宮古諸島の聖地・拝所—その構造と形態を中心として—
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第168回
【開催日】2004年4月13日
【発表者】関周植（嶺南大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】風流の東アジア—美を生きる技法—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第169回
【開催日】2004年5月11日
【発表者】コンスタンティン・ノミコス・パポリス（メリーランド大学準教授／日文研外国人研究員）

【テーマ】参勤交代と日本の文化
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）
【司会】渡邊雅子（日文研助教授）

第170回
【開催日】2004年6月8日
【発表者】王述坤（東南大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】近代における日本、中国の文人・作家の自殺
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）
【司会】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

第171回
【開催日】2004年7月13日
【発表者】ヴィクター・ヴィクトロヴィッチ・リビン（サンクトペテルブルグ大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】知られざる歌麿—「百千鳥狂歌合はせ」の詩的、文法的分析—
【コメンテーター】早川開多（日文研教授）
【司会】パトリシア・フィスター（日文研助教授）

第172回
【開催日】2004年9月14日
【発表者】スコット・ノース（大阪大学大学院人間科学研究科助教授）
【テーマ】セールスマンの死：サービス残業・湾岸戦争・過労死
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第173回
【開催日】2004年10月19日
【発表者】色音（中国社会科学院民族研究所研究員（教授）／日文研外国人研究員）
【テーマ】シャーマニズムから見た〈日本的なもの〉
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）
【司会】山田奨治（日文研助教授）

第174回
【開催日】2004年11月9日
【発表者】李漢燮（高麗大学校日語日文学科教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】明治期の外国人留学生と文明開化
【コメンテーター】劉建輝（日文研助教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第175回
【開催日】2004年12月14日
【発表者】アレクサンダー・マーシャル・ヴィーシー（ストーンヒル大学助教授／日文研外来研究員）
【テーマ】近世村社会における仏教僧侶の村人との仲介的役割
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）
【司会】ジェームズ・バクスター（日文研教授）

第176回
【開催日】2005年1月11日
【発表者】ロイ・アンソニー・スターズ（オタゴ大学シニア・レクチャー／日文研外国人研究員）
【テーマ】国家主義者としての三島由紀夫—戦後の原点—
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）
【司会】フレデリック・クレインス（日文研助手）

第177回
【開催日】2005年2月8日

【発表者】 マッツ・アーネ・カールソン（ストックホルム大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 僕はこの暗合を無気味に思ひ…芥川龍之介『菌車』、ストリンドベリ、そして狂気
【コメンテーター】 鈴木貞美（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第178回

【開催日】 2005年3月8日
【発表者】 呉咏梅（北京日本学研究センター専任講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】 アジアにおけるメディア文化の交通—中国人大学生が見た日本のテレビドラマをめぐって—
【コメンテーター】 山田奨治（日文研助教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第179回

【開催日】 2005年4月12日
【発表者】 ノエル・ジョン・ピニングトン（アリゾナ大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 中世能楽論における「道」の概念—能役者が歩むべき「道」—
【コメンテーター】 光田和伸（日文研助教授）
【司会】 マルクス・リュッターマン（日文研助教授）

第180回

【開催日】 2005年5月10日
【発表者】 池明観（日文研外国人研究員）
【テーマ】 韓国現代史と日本について—1973年から1988年まで—
【コメンテーター】 千田稔（日文研教授）
【司会】 松田利彦（日文研助教授）

第181回

【開催日】 2005年6月14日
【発表者】 イアン・ジェームズ・マクマレン（オックスフォード大学ペンブロークカレッジ教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 徳川時代の孔子祭
【コメンテーター】 笠谷和比古（日文研教授）
【司会】 細川周平（日文研助教授）

第182回

【開催日】 2005年7月12日
【発表者】 鄭在貞（ソウル市立大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 韓日につきまとう歴史の影とその克服のための試み
【コメンテーター】 松田利彦（日文研助教授）
【司会】 牛村圭（日文研助教授）

第183回

【開催日】 2005年9月20日
【発表者】 オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 日本の住まいにおける風土性と持続性
【コメンテーター】 鈴木貞美（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第184回

【開催日】 2005年10月11日
【発表者】 魯成煥（蔚山大学校人文学部日本語日本学科教授／日文研外来研究員）
【テーマ】 韓国から見た日本のお盆

【コメンテーター】 小松和彦（日文研教授）
【司会】 山田奨治（日文研助教授）

第185回

【開催日】 2005年11月16日
【発表者】 セルゲイ・ラブチューフ（マクシム・ゴリキー文学学院助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 考古学と文字—古代日本の漢字文化を中心に—
【コメンテーター】 宇野隆夫（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第186回

【開催日】 2005年12月20日
【発表者】 尹相仁（漢陽大学校国際文化大学日本言語文学科教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 〈日流〉の水脈—なぜ韓国の若者は日本の現代小説に惹かれるのか—
【コメンテーター】 稲賀繁美（日文研教授）
【司会】 渡邊雅子（日文研助教授）

第187回

【開催日】 2006年1月10日
【発表者】 アンドリュウ・ガーストル（ロンドン大学SOAS教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 女形の身体を描く—肉体表現と流光斎—
【コメンテーター】 早川聞多（日文研教授）
【司会】 マルクス・リュッターマン（日文研助教授）

第188回

【開催日】 2006年2月21日
【発表者】 ウィリアム・バック・ブレッカー（南カリフォルニア大学助手／日文研外来研究員）
【テーマ】 郊外の隠遁への憧れ—江戸時代の郊外における美学的スペース—
【コメンテーター】 井上章一（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第189回

【開催日】 2006年3月14日
【発表者】 アーデル・アミン・サーレ（カイロ大学文学部日本語学科専任講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】 「国語」という神話—日本とエジプトにおける言語の近代化をめぐって—
【コメンテーター】 鈴木貞美（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第190回

【開催日】 2006年4月18日
【発表者】 金容儀（全南大学校人文学部副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 玄界灘を渡った鬼のイメージ—なぜ韓国のトケビは日本の鬼のイメージで語られるのか—
【コメンテーター】 小松和彦（日文研教授）
【司会】 渡邊雅子（日文研助教授）

第191回

【開催日】 2006年5月16日
【発表者】 崔博光（成均館大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 京都と文化表象—18世紀朝鮮通信使の目から—
【コメンテーター】 笠谷和比古（日文研教授）
【司会】 松田利彦（日文研助教授）

第192回
【開催日】 2006年6月13日
【発表者】 劉春英（東北師範大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 「満州国」時代「新京」に於ける日本人作家
【コメンテーター】 劉建輝（日文研助教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第193回

【開催日】 2006年7月11日
【発表者】 周維宏（北京日本学研究センター教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 近代化による農村の変貌とその捉え方について—中日農村を比較して—
【コメンテーター】 白幡洋三郎（日文研教授）
【司会】 渡邊雅子（日文研助教授）

第194回

【開催日】 2006年9月19日
【発表者】 ダリア・シュバンバリーテ（ピリニウス大学講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】 オセアニアの島々のイメージ形成をめぐって
【コメンテーター】 小松和彦（日文研教授）
【司会】 井口かをり（日文研プロジェクト研究員）

第195回

【開催日】 2006年10月10日
【発表者】 エドウィナ・バーマー（カンタベリー大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 ニュージーランドの学生が学ぶ「日本」—高等教育の社会科カリキュラムを中心に—
【コメンテーター】 千田稔（日文研教授）
【司会】 渡邊雅子（日文研助教授）

第196回

【開催日】 2006年11月14日
【発表者】 ジョセフ・キブルツ（フランス国立科学研究センター教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 おれ（ふだ）が語る日本人の神仏信仰
【コメンテーター】 小松和彦（日文研教授）
【司会】 ジェームズ・パスキンド（日文研プロジェクト研究員）

第197回

【開催日】 2006年12月13日
【発表者】 ロバート・エスキルドセン（スミス大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 異国船物語—江戸後期に描かれた船—
【コメンテーター】 ジェームズ・バクスター（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第198回

【開催日】 2007年1月16日
【発表者】 プラット・アブラハム・ジョージ（ジャワハルラル・ネルー大学日本語学科準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 日印関係とインドにおける日本研究—宮沢賢治の業食主義の思想—
【コメンテーター】 小松和彦（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第199回

【開催日】 2007年2月13日
【発表者】 スティリアノス・ババレクサンドロプロス（アテネ大学神学部

準教授／日文研外国人研究員）／（代講） 笠谷和比古（日文研教授）
【テーマ】 日本仏教論—その思想史的展開をめぐって—
【コメンテーター】 笠谷和比古
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第200回

【開催日】 2007年3月13日
【発表者】 陸留弟（華東師範大学外国語学院日本語学部教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 楽しみの茶と嗜みの茶—中国から見た茶の湯文化—
【コメンテーター】 鈴木貞美（日文研教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研助教授）

第201回

【開催日】 2007年4月18日
【発表者】 モハメッド・レザ・サルカル・アラニ（イラン・アラメ タバタバイ大学教育学部助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 国境を越えた日本の学校文化
【コメンテーター】 渡邊雅子（日文研准教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研准教授）

第202回

【開催日】 2007年5月16日
【発表者】 張哲俊（北京師範大学文學院比較文学研究所教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 唐代文学における日本のイメージ
【コメンテーター】 劉建輝（日文研准教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研准教授）

第203回

【開催日】 2007年6月13日
【発表者】 チャワーリン・サウェッタナン（チュラーロンコーン大学専任講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】 「気」の思想・「ころ」の文化—言語学からみた日本人とタイ人の心のあり方—
【コメンテーター】 山田奨治（日文研准教授）
【司会】 テモテ・カーン（日文研准教授）

第204回

【開催日】 2007年7月25日
【発表者】 シンシア・ネリ・ザヤス（フィリピン国立大学国際研究センター準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 淡路島における災害と記憶の文化—荒神信仰を中心に—
【司会・コメンテーター】 テモテ・カーン（日文研准教授）

第205回

【開催日】 2007年9月11日
【発表者】 チャン・ティ・チュン・トアン（ベトナム国立ハノイ国家大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 宮本常一の民俗誌を通して見た日本女性と日本文化理解
【コメンテーター】 テモテ・カーン（日文研准教授）
【司会】 井口かをり（日文研プロジェクト研究員）

第206回

【開催日】 2007年10月10日
【発表者】 ペイ・ヒョンイル（カリフォルニア大学サンタバーバラ校准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】 朝鮮旅行案内書に見る日本人のロマン
【コメンテーター】 山田奨治（日文研准教授）

【司会】テモテ・カーン（日文研准教授）
第207回
【開催日】2007年11月14日
【発表者】金榮哲（漢陽大学校日本語文化学部教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】遊興の「花」としての理想—妓生（キーセン）と遊女—
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研准教授）

第208回
【開催日】2007年12月12日
【発表者】王維坤（西北大学国際文化交流学院教授・副院長／日文研外国人研究員）
【テーマ】中国出土の文物から見た中日古代文化交流史 —和同開珎と井真成墓誌を中心として—
【コメンテーター】宇野隆夫（日文研教授）
【司会】テモテ・カーン（日文研准教授）

第209回
【開催日】2008年1月16日
【発表者】ブライアン・小野坂・ルパート（イリノイ大学東アジア学科・宗教学科准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】懺悔・供養・修法—前近代日本仏教の心を探る—
【コメンテーター】パトリシア・フィスター（日文研教授）
【司会】ジェームズ・パスキンド（日文研プロジェクト研究員）

第210回
【開催日】2008年2月26日
【発表者】マイク・モラスキー（ミネソタ大学准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】関西のジャズ喫茶文化
【コメンテーター】細川周平（日文研教授）
【司会】パトリシア・フィスター（日文研教授）

第211回
【開催日】2008年3月18日
【発表者】カリン・グニラ・リンドバーク=ワダ（ストックホルム大学主任教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】北極から日本へ—スウェーデン探検隊が見た明治日本—
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）
【司会】パトリシア・フィスター（日文研教授）

第212回
【開催日】2008年4月23日
【発表者】周見（中国社会科学院世界経済政治研究所教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】渋沢栄一と張謇—日中近代企業家に関する一つの比較—
【コメンテーター】猪木武徳（日文研所長）
【司会】パトリシア・フィスター（日文研教授）

第213回
【開催日】2008年5月14日
【発表者】金貞恵（釜山外国語大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】小説を通してみたグローバル時代の在日コリアン
【コメンテーター】松田利彦（日文研准教授）
【司会】パトリシア・フィスター（日文研教授）

第214回
【開催日】2008年6月11日

【発表者】フレデリック・ジラルール（フランス国立極東学院教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】ヨーロッパ人の日本宗教へのアプローチ—エミール・ギメと日本の僧侶神主との問答—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研教授）
【司会】ジェームズ・パスキンド（日文研プロジェクト研究員）

第215回
【開催日】2008年7月9日
【発表者】アレキサンダー・ヴォヴィン（ハワイ大学マノア校東洋言語文学部教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】萬葉集に見られる不思議な言葉と上代日本列島に於けるアイヌ語の分布
【コメンテーター】光田和伸（日文研准教授）
【司会】ジェームズ・パスキンド（日文研プロジェクト研究員）

第216回
【開催日】2008年9月11日
【発表者】金弼東（世明大学校日本語学科副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】韓国における日本研究が語るもの
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第217回
【開催日】2008年10月9日
【発表者】王中忱（清華大学人文社会科学院教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】1930年代の『改造』における魯迅の日本越境
【コメンテーター】劉建輝（日文研准教授）

第218回
【開催日】2008年11月12日
【発表者】ジェームズ・パスキンド（日文研海外研究交流室プロジェクト研究員）
【テーマ】日本における禪淨双修—黄檗宗を中心として—
【コメンテーター】磯前順一（日文研准教授）

第219回
【開催日】2008年12月10日
【発表者】ノリコ・マナベ（ニューヨーク市立大学非常勤講師／日文研外来研究員）
【テーマ】洋楽ジャンルの適応と変遷：童謡、ヒップホップとレゲエの事例研究
【コメンテーター】細川周平（日文研教授）

第220回
【開催日】2009年1月16日
【発表者】郭南燕（日文研准教授）
【テーマ】志賀直哉の関西観
【コメンテーター】光田和伸（日文研准教授）

第221回
【開催日】2009年2月17日
【発表者】胡宝華（南開大学歴史学院准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】内藤湖南の中国学界に与えた影響
【コメンテーター】井波律子（日文研教授）

第222回
【開催日】2009年3月9日
【発表者】ヴォルフガング・シャモニ（ハイデルベルグ大学教授／日文研外国人研究員）

【テーマ】江戸時代における無名の人々の伝記
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）
第223回
【開催日】2009年4月14日
【発表者】河名サリ（マサチューセッツ大学ボストン校助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】メディア・ミックスの系譜—近代文学とベストセラーと視覚文化—
【コメンテーター】山田奨治（日文研准教授）

第224回
【開催日】2009年5月12日
【発表者】趙政男（高麗大学校政治外交学科教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】変わりゆく国家と民族のすがた
【コメンテーター】松田利彦（日文研准教授）

第225回
【開催日】2009年7月14日
【発表者】ジョン・ブリーン（日文研准教授）
【テーマ】天皇のギフト—明治外交の一齣—
【コメンテーター】瀧井一博（日文研准教授）

第226回
【開催日】2009年9月8日
【発表者】野原博淳（フランス国立科学研究センター上級研究員／日文研外国人研究員）
【テーマ】日本の技術者とフランスの技術者—技術革新の担い手—
【コメンテーター】猪木武徳（日文研所長）

第227回
【開催日】2009年10月26日
【発表者】秋菊姫（東京大学交流研究員）
【テーマ】韓国の純情漫画と日本の少女マンガ
【コメンテーター】山田奨治（日文研准教授）

第228回
【開催日】2009年11月16日
【発表者】ファム・ティ・トゥ・ザン（ハノイ国家大学・人文社会科学大学東洋学部日本学科専任講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】世俗化から見た近代仏教—日本とベトナムとの比較—
【コメンテーター】末本文美士（日文研教授）

第229回
【開催日】2009年12月8日
【発表者】許南麟（ブリティッシュコロンビア大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】近世日本における開帳と秘仏の文化
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第230回
【開催日】2010年1月19日
【発表者】陳玲（清華大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】猿と一緒に踊り、鷹と共に空へ飛ぶ—バーチャル空間における文化遺産の再構築—
【コメンテーター】山田奨治（日文研准教授）

第231回
【開催日】2010年2月9日

【発表者】蒋立峰（中国社会科学院日本研究所教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】日本文化の形成及びその特徴
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第232回
【開催日】2010年3月9日
【発表者】趙維平（上海音楽学院教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】東アジアにおける雅楽の流れ
【コメンテーター】細川周平（日文研教授）

第233回
【開催日】2010年4月13日
【発表者】エックハルト・マイ（フランクフルト大学名誉教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】見る風景・想像する風景—芭蕉の俳文をたのしむ—
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）

第234回
【開催日】2010年5月11日
【発表者】黄自進（台湾・中央研究院近代史研究所研究員（教授）／日文研外国人研究員）
【テーマ】蒋介石の人格形成と日本
【コメンテーター】劉建輝（日文研准教授）

第235回
【開催日】2010年6月8日
【発表者】ジェフリー・アングルス（ウェスタン・ミシガン大学准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】「訳する」というのはどういうことか?—翻訳概念史の概略—
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第236回
【開催日】2010年7月13日
【発表者】フィリップ・ハリス（オックスフォード大学クイーンズカレッジフェロー／日文研外国人研究員）
【テーマ】初期の和歌と地名—英詩からの見方—
【コメンテーター】荒木浩（日文研教授）

第237回
【開催日】2010年9月14日
【発表者】崔官（高麗大学校教授・日本研究センター所長／日文研外国人研究員）
【テーマ】戦争・記憶・想像力—文禄の役（壬辰倭乱）をめぐる—
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第238回
【開催日】2010年10月12日
【発表者】根川幸男（ブラジリア大学外国語・翻訳学部准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】海を渡った日本の教育—戦前期ブラジルにおける日本の教育文化の越境と再創—
【コメンテーター】井上章一（日文研教授）

第239回
【開催日】2010年11月9日
【発表者】呉京煥（釜山大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】日本現代批評と韓国の美
【コメンテーター】劉建輝（日文研准教授）

第240回
【開催日】2010年12月14日
【発表者】ローマン・ローゼンバウム（シドニー大学名誉アソシエイト／日文研外国人研究員）
【テーマ】小田実の思想と文学―全体小説を短編で書くこと―
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第241回
【開催日】2011年1月18日
【発表者】アイーダ・スレイメノヴァ（極東国立総合大学東洋学部准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】亡命ロシア人が見た近代日本
【コメンテーター】劉建輝（日文研准教授）

第242回
【開催日】2011年2月15日
【発表者】康志賢（全南大学校副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】時空を超える弥次喜多の笑い―小説から浮世絵まで―
【コメンテーター】早川閑多（日文研教授）

第243回
【開催日】2011年3月9日
【発表者】徐載坤（韓国外国語大学校日本語通翻訳学科副教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】萩原朔太郎と近代日本―時代のパイオニア―
【コメンテーター】牛村圭（日文研教授）

第244回
【開催日】2011年4月26日
【発表者】ミツヨ・ワダ・マルシアーノ（カールトン大学准教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】戦後映画における孤児の表象
【コメンテーター】細川周平（日文研教授）

第245回
【開催日】2011年5月17日
【発表者】王鉄軍（遼寧大学日本研究所副研究員／日文研外国人研究員）
【テーマ】関東都督府の満州調査
【コメンテーター】松田利彦（日文研准教授）

第246回
【開催日】2011年6月14日
【発表者】韓東育（東北師範大学歴史文化学院教授（院長）／日文研外国人研究員）
【テーマ】朱舜水と日本
【コメンテーター】劉建輝（日文研准教授）

第247回
【開催日】2011年7月12日
【発表者】ロー・ダニエル（社団法人東アジア平和投資プログラム代表／日文研外国人研究員）
【テーマ】竹島から「韓流」まで：日本と韓国の「地政心理」の出会い
【コメンテーター】戸部良一（日文研教授）

第248回
【開催日】2011年9月13日
【発表者】グエン・ティ・タン・タム（ハノイ貿易大学上級講師／ベトナム科学技術協会技術開発研究所副所長／日文研外国人研究員）
【テーマ】ベトナムにおける日本語教育と日本研究の現状

【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）
『日文研フォーラム報告書』
1988（昭和63）年創刊（以後、随時刊行）。来日中の外国人研究員が日文研フォーラムにおいて日本に関連したテーマについて発表した研究成果を記録した報告書



第1回日文研フォーラム(1987年)



第3回日文研フォーラム(1988年)



第248回日文研フォーラム(2011年)



日文研フォーラム報告書

木曜セミナーの記録

第1回

【開催日】1991年10月17日
【話者（評者・発表者）】河合隼雄（日文研教授）
【話題】宇治拾遺物語の夢

第2回

【開催日】1991年11月21日
【話者（評者・発表者）】井上章一（日文研助教授）
【話題】桂離宮神話と美人論—紋切型がかわるとき—

第3回

【開催日】1992年1月16日
【話者（評者・発表者）】中西進（日文研教授）
【話題】古代を考える

第4回

【開催日】1992年2月20日
【話者（評者・発表者）】森岡正博（日文研助手）
【話題】Images of Life among Contemporary Japanese

第5回

【開催日】1992年3月19日
【話者（評者・発表者）】木村汎（日文研教授）
【話題】日本—ベレストロイカのモデル?—

第6回

【開催日】1992年4月16日
【話者（評者・発表者）】飯田経夫（日文研教授）
【話題】近年の日本経済について

第7回

【開催日】1992年5月21日
【話者（評者・発表者）】埴原和郎（日文研教授）
【話題】日本人の“顔”

第8回

【開催日】1992年6月18日
【話者（評者・発表者）】上垣外憲一（日文研助教授）
【話題】雨森芳洲の近代性

第9回

【開催日】1992年7月16日
【話者（評者・発表者）】杉本良夫（ラトロブ大学教授）
【話題】オーストラリアにおける日本研究

第10回

【開催日】1992年9月17日
【話者（評者・発表者）】李栄九（日文研客員教授／韓国中央大学教授）
【話題】俳句の翻訳と国際化の可能性について—韓国の場合を中心にして—

第11回

【開催日】1992年10月15日
【話者（評者・発表者）】山折哲雄（日文研教授）
【話題】日本の首相はなぜ靖国神社に参拝したがるか?

第12回

【開催日】1992年11月19日
【話者（評者・発表者）】新井満（作家）
【話題】エリック・サティと私

第13回

【開催日】1993年1月21日
【話者（評者・発表者）】梅原猛（日文研所長）
【話題】学問と創作の接点—中世の魅力—

第14回

【開催日】1993年2月18日
【話者（評者・発表者）】鈴木貞美（日文研助教授）
【話題】日本近代文学史を書き直す

第15回

【開催日】1993年3月18日
【話者（評者・発表者）】安場保吉（大阪大学教授）
【話題】徳川時代の遺産—日本の近代化へ向けて—

第16回

【開催日】1993年4月15日
【話者（評者・発表者）】グレン・フック（シェフィールド大学日本研究所教授）
【話題】『ジャパン・プロブレム』再考

第17回

【開催日】1993年5月20日
【話者（評者・発表者）】セルチュク・エセンベル（日文研客員助教授／ボスボラス大学助教授）
【話題】19世紀における生活文化の近代化—明治日本とオスマン・トルコの比較—

第18回

【開催日】1993年6月17日
【話者（評者・発表者）】芳賀徹（日文研教授）
【話題】文明としての徳川日本

第19回

【開催日】1993年7月22日
【話者（評者・発表者）】河合隼雄（日文研教授）、ポール・マッカーシー（日文研客員教授／駿河台大学教授）
【話題】梅原猛作『中世小説集』をめぐって

第20回

【開催日】1993年9月16日
【話者（評者・発表者）】杉本秀太郎（日文研教授）
【話題】徳川の女性風流入—太田垣蓮月の歌と絵—

第21回

【開催日】1993年10月21日
【話者（評者・発表者）】辻惟雄（日文研教授）
【話題】日本美術とアニミズム

第22回

【開催日】1993年11月18日
【話者（評者・発表者）】久野昭（日文研教授）
【話題】假名（かな）の造形

第23回

【開催日】1994年1月20日
【話者（評者・発表者）】白幡洋三郎（日文研助教授）
【話題】世界をめぐる日本の生活文化

第24回

【開催日】1994年2月17日
【話者（評者・発表者）】アール・マイナー（日文研客員教授／プリンストン大学教授）
【話題】垣間見の文学—引喩の諸性格—

第25回

【開催日】1994年3月17日
【話者（評者・発表者）】尾本惠市（日文研教授）
【話題】遺伝子から見た日本人

第26回

【開催日】1994年4月21日
【話者（評者・発表者）】安田喜憲（日文研教授）
【話題】蛇と魔女

第27回

【開催日】1994年5月19日
【話者（評者・発表者）】園田英弘（日文研教授）
【話題】首都とミヤコ

第28回

【開催日】1994年6月16日
【話者（評者・発表者）】アントニー・V・リーマン（日文研客員教授／トロント大学教授）
【話題】無駄のない小品—井伏鱒二の『鯉』—

第29回

【開催日】1994年7月21日
【話者（評者・発表者）】栗山茂久（日文研助教授）
【話題】筋肉質の身体の起源

第30回

【開催日】1994年9月22日
【話者（評者・発表者）】落合恵美子（日文研助教授）
【話題】養子と厄介—歴史人口学から見た徳川農民の一生—

第31回

【開催日】1994年11月17日
【話者（評者・発表者）】上垣外憲一（日文研助教授）
【話題】西洋ローマン主義歌曲と山田耕筰

第32回

【開催日】1995年1月19日
【話者（評者・発表者）】早川閑多（日文研助教授）
【話題】浮世絵春画の意味するもの—枕詞から枕絵へ—
【コメンテーター】中西進（日文研教授）

第33回

【開催日】1995年2月16日
【話者（評者・発表者）】レジン・ダイアン・ジョンソン（日文研客員助教授／ハーバード大学助教授）
【話題】「光あれよ」と戯作者唐來参和は言われました
【コメンテーター】辻惟雄（日文研教授）

第34回

【開催日】1995年3月16日
【話者（評者・発表者）】崔博光（日文研来訪研究員／成均館大学校教授）
【話題】朝鮮通信使から見た徳川のエロス
【コメンテーター】芳賀徹（日文研教授）

第35回

【開催日】1995年4月20日
【話者（評者・発表者）】千田稔（日文研教授）
【話題】道と風景
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）

第36回

【開催日】1995年5月18日
【話者（評者・発表者）】マイヤー・P・ゲラシモア（ロシア科学アカデミー東洋学研究所研究員／日文研客員教授）
【話題】川端康成作品の多次元性
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研助教授）

第37回

【開催日】1995年6月15日
【話者（評者・発表者）】アリソン・トキタ（日文研客員助教授／モナシュ大学助教授）
【話題】清元節：語り物の口頭性と文学性
【コメンテーター】津田順子（総合研究大学院大学大学院生）

第38回

【開催日】1995年7月20日
【話者（評者・発表者）】小野芳彦（日文研助教授）
【話題】にわか人類学者の調査行—アフリカを中心に—
【コメンテーター】森岡正博（日文研助手）

第39回

【開催日】1995年9月21日
【話者（評者・発表者）】石井紫郎（日文研教授）
【話題】『家』をめぐって
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研助教授）

第40回

【開催日】1995年10月19日
【話者（評者・発表者）】ポーリン・ケント（日文研助手）
【話題】日本研究のルーツ『菊と刀』
【コメンテーター】福井七子（関西大学文学部助教授）

第41回

【開催日】1995年11月16日
セミナー①
【話者（評者・発表者）】ハルトムート・O・ロータモンド（日文研客員教授／フランス国立高等研究院教授）
【話題1】成仏狩
【コメンテーター】山折哲雄（日文研教授）
セミナー②

【話者（評者・発表者）】ジョン・シャーキー（日文研客員助教授／パークレイズ・ド・ズート・ウェド調査員）
【話題Ⅱ】 両世界大戦の間における英・日貿易競争について
【コメンテーター】 柏岡富英（日文研助教授）

第42回

【開催日】 1996年1月18日
【話者（評者・発表者）】 村松増美（日文研情報システム検討委員会専門委員／(株)サイマル・インターナショナル会長）
【話題】 国際社会における日本人のユーモアとその果たす役割

第43回

【開催日】 1996年2月15日
【話者（評者・発表者）】 井波律子（日文研教授）
【話題】 中国庭園小史
【コメンテーター】 巖安生（日文研客員教授／北京外国語学院教授）

第44回

【開催日】 1996年3月21日
【話者（評者・発表者）】 光田和伸（日文研助教授）
【話題】 付き合いは付き合い―連歌の魅惑―
【コメンテーター】 早川閑多（日文研助教授）

第45回

【開催日】 1996年5月23日
【話者（評者・発表者）】 郭永喆（日文研客員教授／漢陽大学校文科大学学長）
【話題】 韓国における日本研究
【コメンテーター】 芳賀徹（日文研教授）

第46回

【開催日】 1996年6月20日
【話者（評者・発表者）】 ヘルベルト・ブルチョウ（日文研客員教授／カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）
【話題】 祭りにみる日本の宗教
【コメンテーター】 山折哲雄（日文研教授）

第47回

【開催日】 1996年7月18日
【話者（評者・発表者）】 黒須里美（日文研助手）
【話題】 明治戸籍にみるライフコース：出生から離家まで
【コメンテーター】 友部謙一（徳山大学経済学部助教授）

第48回

【開催日】 1996年9月19日
【話者（評者・発表者）】 稲賀繁美（日文研客員助教授／三重大学人文学部助教授）
【話題】 テオドル・デュレと明治大正の日本美術 ―ジャポニズムの周辺と美術における東西交渉―
【コメンテーター】 バトリシア・フィスター（日文研客員助教授）

第49回

【開催日】 1996年10月17日
【話者（評者・発表者）】 ジャン・ジャック・オリガス（日文研客員教授／フランス国立東洋語東洋文化研究所教授）
【話題】 世紀の境目の明治文学―徳富蘆花と画家コロオー―
【コメンテーター】 鈴木貞美（日文研教授）

第50回

【開催日】 1996年11月21日
【話者（評者・発表者）】 ガボール・パコシ（日文研客員教授／ハンガリー科学アカデミー上級研究員）
【話題】 ハンガリーの体制転換
【コメンテーター】 飯田経夫（日文研教授）

第51回

【開催日】 1996年12月19日
【話者（評者・発表者）】 リュドミラ・エルマコワ（日文研客員教授／ロシア科学アカデミー東洋学研究所極東文学課長）
【話題】 『日本書紀』 ―文化の選択と文学性―
【コメンテーター】 千田稔（日文研教授）

第52回

【開催日】 1997年1月16日
【話者（評者・発表者）】 山本學（上野学園大学国際文化学部教授／元駐アルゼンチン大使）
【話題】 外交と民主主義―ラテン・アメリカ、アジア、日本―
【コメンテーター】 木村汎（日文研教授）

第53回

【開催日】 1997年2月20日
【話者（評者・発表者）】 王曉秋（日文研客員教授／北京大学教授）
【話題】 近代中日文化交流の先駆者羅森
【コメンテーター】 園田英弘（日文研教授）

第54回

【開催日】 1997年4月17日
【話者（評者・発表者）】 バトリシア・フィスター（日文研客員助教授）
【話題】 近世日本美術とジェンダーとフェミニニティー
【コメンテーター】 早川閑多（日文研助教授）

第55回

【開催日】 1997年5月29日
【話者（評者・発表者）】 山田奨治（日文研助教授）
【話題】 神話としての弓と禪
【コメンテーター】 黒須里美（日文研助手）

第56回

【開催日】 1997年6月26日
【話者（評者・発表者）】 安田喜憲（日文研教授）
【話題】 長江文明の探求―アニミズム世界の再発見―
【コメンテーター】 鶴田欣也（日文研客員教授／ブリティッシュコロンビア大学教授）

第57回

【開催日】 1997年7月24日
【話者（評者・発表者）】 青木淳（日文研外来研究員／日本学術振興会特別研究員）
【話題】 秘められた祈り―像内納入品にみる中世からの伝言―
【コメンテーター】 早川閑多（日文研助教授）

第58回

【開催日】 1997年9月25日
【話者（評者・発表者）】 姜信杓（日文研客員教授／仁済大学教授）
【話題】 日文研：批判的な目で

第59回

【開催日】 1997年10月30日
【話者（評者・発表者）】 セオドア・ウィリアム・グーセン（日文研客員助教授／ヨーク大学準教授）
【話題】 日本とアメリカのフォークソング

第60回

【開催日】 1997年11月27日
【話者（評者・発表者）】 鶴田欣也（日文研客員教授／ブリティッシュコロンビア大学教授）
【話題】 変身願望と外国語―パーソナルな視点から―

第61回

【開催日】 1998年1月22日
【話者（評者・発表者）】 スミエ・ジョーンズ（日文研客員教授／インディアナ大学教授）
【話題】 女らしさの東西

第62回

【開催日】 1998年2月19日
【話者（評者・発表者）】 金禹昌（日文研客員教授／高麗大学校文科大学教授）
【話題】 京都の詩人：京都の鄭芝溶

第63回

【開催日】 1998年4月16日
【話者（評者・発表者）】 ヒュー・シャビーロ（日文研客員助教授／ネヴァダ州立大学助教授）
【話題】 描かれた身体―中国と日本における―

第64回

【開催日】 1998年5月21日
【話者（評者・発表者）】 園田英弘（日文研教授）
【話題】 大快楽主義を快楽する

第65回

【開催日】 1998年6月18日
【話者（評者・発表者）】 エドウィナー・パーマー（日文研客員教授／カンタベリー大学シニアレクチャー）
【話題】 風土記の中の「荒ぶる神」

第66回

【開催日】 1998年7月16日
【話者（評者・発表者）】 島崎博（日文研客員教授／レスブリッジ大学教授）
【話題】 カナダからの手紙：日本フットライトの誕生

第67回

【開催日】 1998年7月30日
【話者（評者・発表者）】 ウィリアム・ハワード・ケリー（オックスフォード大学研究員）
【話題】 社会人類学から見たカラオケ

第68回

【開催日】 1998年9月17日
【話者（評者・発表者）】 北田克治（第38次日本南極地域観測隊昭和基地調理担当越冬隊員／日文研赤おに店長）
【話題】 南極の赤おに

第69回

【開催日】 1998年10月22日
【話者（評者・発表者）】 落合仁司（同志社大学教授）
【話題】 ギリシャ正教の聖山アトスから帰って

第70回

【開催日】 1998年11月19日
【話者（評者・発表者）】 田桓（日文研客員教授／中国社会科学院教授）
【話題】 日中政治家比較 ―有能―無能と権威―

第71回

【開催日】 1999年1月28日
【話者（評者・発表者）】 アファマット・モハメッド・ファトヒ・モスタファ（日文研客員助教授／カイロ大学講師）
【話題】 寅さん in CAIRO ―日本文化を語る寅さん―

第72回

【開催日】 1999年2月18日
【話者（評者・発表者）】 ヘスング・チュン・コー（日文研客員教授／イーストロック研究所所長／イエール大学名誉教授）
【話題】 東アジア文化の中のKorean芸術 ―「東西文化所見」墨彩畫展

第73回

【開催日】 1999年4月15日
【話者（評者・発表者）】 河合隼雄（日文研所長）
【話題】 源氏物語の構図

第74回

【開催日】 1999年5月20日
【話者（評者・発表者）】 シーラ・スミス（日文研客員助教授／ボストン大学助教授）
【話題】 「国」か「東京」か：日本政府と沖縄基地問題

第75回

【開催日】 1999年6月17日
【話者（評者・発表者）】 アフメット・メテ・トゥンジョク（中東工科大学教授／京大学客員教授）
【話題】 トルコ・日本・西洋―歴史的比較研究―

第76回

【開催日】 1999年9月16日
【話者（評者・発表者）】 金知見（日文研客員教授／韓国仏教教育大学大学院長）
【話題】 華嚴経と女性

第77回

【開催日】 1999年11月18日
【話者（評者・発表者）】 エミリア・ガデレワ（日文研中核的研究機関研究員）
【話題】 日本神話におけるスサノヲ命

第78回

【開催日】 2000年1月20日
【話者（評者・発表者）】 李応寿（日文研客員助教授／韓国世宗大学校副教授）
【話題】 玄界灘を渡った川上音二郎

第79回

【開催日】 2000年3月16日

【話者（評者・発表者）】ジャン＝ノエル・アレキサンドル・ロベール（日文研客員教授／フランスパリ国立高等研究院教授）
【話題】仏教学の意味
第80回
【開催日】2000年4月20日
【話者（評者・発表者）】森洋久（日文研助教授）
【話題】音
第81回
【開催日】2000年5月25日
【話者（評者・発表者）】アレキサンダー・ニコラエヴィッチ・メシェリヤコフ（日文研客員助教授／ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員）
【話題】律令国家と情報—情報量推定方法について—
第82回
【開催日】2000年6月22日
【話者（評者・発表者）】周紹泉（日文研客員教授／中国社会科学院大学院教授）
【話題】生きる歴史の化石—徽州から見る中国明清社会—
【通訳】劉建輝（日文研助教授）
第83回
【開催日】2000年7月27日
【話者（評者・発表者）】金貞禮（日文研客員助教授／国立全南大学校副教授）
【話題】三・八・六世代と半開きのシャッター
第84回
【開催日】2000年9月21日
【話者（評者・発表者）】リュドミラ・アレクサンドロブナ・ホロドヴィッチ（日文研客員助教授／ソフィア大学助教授）
【話題】深沢七郎の小説における民俗テーマと伝統的な東洋観念
第85回
【開催日】2000年10月12日
【話者（評者・発表者）】辛容泰（日文研客員教授／東国大学校日本文化研究所研究員）
【話題】おもしろい古アジア文字（漢字）ばなし
第86回
【開催日】2000年11月16日
【話者（評者・発表者）】北澤一利（日文研外来研究員／北海道教育大学釧路校助教授）
【話題】からだの文明開化—養生術から健康法へ—
第87回
【開催日】2001年1月18日
【話者（評者・発表者）】園田英弘（日文研教授）
【話題】チュラロンコン大学VS. タマサート大学—「タイの東大」はどこか？—
第88回
【開催日】2001年2月15日
【話者（評者・発表者）】蔡敦達（日文研客員助教授／同済大学外国語学院日本学研究所助教授）
【話題】中国の寺観庭園およびその日本への影響
第89回
【開催日】2001年4月19日

【話者（評者・発表者）】坂井セシル（パリ第7大学東洋語科主任、日本語科教授）
【話題】日本文化の受容—フランスにおける日本文学の場合—
【コメンテーター】稲賀繁美（日文研助教授）
第90回
【開催日】2001年5月31日
【話者（評者・発表者）】周維宏（北京日本学研究中心教授／東京大学東洋文化研究所外国人研究員）
【話題】日中農村工業化比較研究について
第91回
【開催日】2001年6月21日
【話者（評者・発表者）】佐藤卓己（日文研助教授）
【話題】戦時期日本における大衆雑誌の公共性
第92回
【開催日】2001年7月19日
【話者（評者・発表者）】パトリシア・フィスター（日文研助教授）
【話題】尼門跡寺院の開山様—文智尼と元瑠尼、その宗教活動と創造性—
第93回
【開催日】2001年9月20日
【話者（評者・発表者）】リース・モートン（ニューキャッスル大学教授）
【話題】与謝野晶子の『みだれ髪』と関西文化
第94回
【開催日】2001年10月25日
【話者（評者・発表者）】アレクサンダー・ボビン（日文研客員助教授／ハワイ大学準教授）
【話題】日琉祖語と韓国祖語の同源問題：『語彙』対『形態論』
第95回
【開催日】2001年11月15日
【話者（評者・発表者）】鄭恵卿（日文研外国人研究員／世宗大学校日語日文学科副教授）
【話題】日本の女性語はどうなるか—研究の過去・現在・未来—
第96回
【開催日】2001年12月20日
【話者（評者・発表者）】白幡洋三郎（日文研教授）、園田英弘（日文研教授）
【話題】グローバル時代にむけて文明間の対話は可能か
テキスト：山折哲雄著「文明を考える」「本の旅人」（10～12月号、角川書店、2001年）
第97回
【開催日】2002年1月24日
【話者（評者・発表者）】井上章一（日文研助教授）
【話題】文明の生態史観VS.海洋史観
テキスト：梅棹忠夫編『文明の生態史観はいま』第2章、第3章（梅棹忠夫氏と川勝平太氏との対談の部分）（中央公論新社、2001年）
第98回
【開催日】2002年2月21日
【話者（評者・発表者）】中川毅（日文研助手）
【話題】カミとヒトのあいだ
テキスト：小松和彦著『神になった人々』（淡交社、2001年）

第99回
【開催日】2002年4月18日
【話者（評者・発表者）】森洋久（日文研助教授）
【話題】森の文明は可能か
テキスト：安田喜憲著『日本よ、森の環境国家たれ』第1章「人類文明史の二類型区分」（中央公論新社、2002年）
第100回
【開催日】2002年5月16日
【話者（評者・発表者）】光田和伸（日文研助教授）
【話題】グーテンベルクを超えて
テキスト：合庭惇著『印刷博物誌』第2部12章「超—印刷の世界」（編集：凸版印刷株式会社、印刷博物誌編集委員会、発行：凸版印刷株式会社、発売：株式会社紀伊國屋書店、2001年）
第101回
【開催日】2002年6月20日
【話者（評者・発表者）】落合恵美子（日文研助教授）
【話題】羞恥心の考現学
テキスト：井上章一著『パンツが見える。：羞恥心の現代史』（朝日新聞社、2002年）
第102回
【開催日】2002年7月18日
【話者（評者・発表者）】渡邊雅子（日文研助教授）
【話題】武士道は日本の未来の原理たりうるか？
テキスト：笠谷和比古著『武士道と現代—江戸に学ぶ日本再生のヒント—』p.78～107（産経新聞ニュースサービス、発売：扶桑社、2002年）
第103回
【開催日】2002年9月19日
【話者（評者・発表者）】園田英弘（日文研教授）
【話題】文明と自然は対立的か
テキスト：伊東俊太郎著『文明と自然—対立から統合へ—』第1部「文明と自然」（刀水書房、2002年）
【応答者】伊東俊太郎（日文研名誉教授／麗澤大学教授）
第104回
【開催日】2002年11月21日
【話者（評者・発表者）】千田稔（日文研教授）
【話題】国民的大衆雑誌考—『キング』の時代を読む—
テキスト：佐藤卓己著『「キング」の時代—国民大衆雑誌の公共性—』「はじめに」、第3部第1章「ラジオ的雑誌」の同調機能（岩波書店、2002年）
第105回
【開催日】2003年1月23日
【話者（評者・発表者）】濱田陽（日文研研究機関研究員）
【話題】グローバリズム再考
テキスト：猪木武徳著『自由と秩序—競争社会の二つの顔—』第4部第10章「グローバリズム—日本にとって何か?問題か—」（中央公論新社、2001年）
第106回
【開催日】2003年4月24日
【話者（評者・発表者）】マルクス・リュッターマン（日文研助教授）
【話題】文化 Round Table
テキスト：白幡洋三郎著『知らなきや恥ずかしい日本文化』『はじめに』『目次』『文字』（第2章13項p.34）「年賀状」（第5章46項p.106）「和」（第8章79項p.178）（ワニブックス、2003年）

第107回
【開催日】2003年5月22日
【話者（評者・発表者）】劉建輝（日文研助教授）
【話題】訳者と語る『三国志演義』の面白さ
テキスト：羅貫中作・井波律子訳『三国志演義』全7巻 解説（読みどころ）の部分（筑摩書房2002～2003年）
第108回
【開催日】2003年6月19日
【話者（評者・発表者）】王成（日文研外国人研究員／首都師範大学助教授）
【話題】明治期日本における《修養》—漱石とその周辺—
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）
第109回
【開催日】2003年7月17日
【話者（評者・発表者）】陳暉（日文研外国人研究員／中国社会科学院亜太日本研究所研究員教授）
【話題】女性と仏教 信仰の熱情—祈りと形—
【コメンテーター】パトリシア・フィスター（日文研助教授）
第110回
【開催日】2003年9月18日
【討論者】フレデリック・クレインス（日文研助手）、パトリシア・フィスター（日文研助教授）
【話題】尼門跡と尼僧の美術
第111回
【開催日】2003年10月16日
【討論者】川勝平太（日文研教授）、園田英弘（日文研教授）
【話題】海洋アジアと世界一周
テキスト：川勝平太著『経済史入門』（日本経済新聞社、2003年）、園田英弘著『世界一周の誕生：グローバリズムの起源』（文藝春秋、2003年）
第112回
【開催日】2003年11月20日
【討論者】早川開多（日文研教授）、関周植（日文研外国人研究員／嶺南大学校教授）
【話題】春画—秘めたる笑いの世界と日本の風流—
第113回
【開催日】2003年12月18日
【対話】千田稔（日文研教授）、栗山茂久（日文研助教授）
【話題】地名の巨人 吉田東伍—大日本地名辞書の誕生—
テキスト：千田稔著『地名の巨人 吉田東伍—大日本地名辞書の誕生』第6章「地誌の思想」（角川書店、2003年）
第114回
【開催日】2004年4月22日
【話者（評者・発表者）】園田英弘（日文研教授）
【話題】季差の視角—地球縦断の文明学—
【コメンテーター】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）
第115回
【開催日】2004年5月27日
【討論者】池内恵（日文研助教授）、白幡洋三郎（日文研教授）
【話題】アラブ政治の今を読む—日本問題としての中東—
テキスト：池内恵著『アラブ政治の今を読む』（中央公論新社、2004年）
※上記著書への書評（朝日・毎日・週刊文春・週刊朝日等）の検討

第116回
【開催日】2004年6月17日
【話者（評者・発表者）】今谷明（日文研教授）
【話題】王権と都市の比較史
【討論者】笠谷和比古（日文研教授）

第117回
【開催日】2004年6月24日
【パネリスト】ジェームス・R・パーソロミュウ（日文研来訪研究員／オハイオ州立大学教授）、細川周平（日文研助教授）
【話題】国際文化を考える
日本における音楽と医学のいわゆる近代化について

第118回
【開催日】2004年7月22日
【話者（評者・発表者）】王述坤（日文研外国人研究員／東南大学教授）
【話題】国際文化を考える
生命放棄の光と影：日、中国人の自殺原因の比較分析

第119回
【開催日】2004年9月16日
【話者（評者・発表者）】ミハエル・キンスキ（ベルリンフンボルト大学日本語・日本文化研究所教員、研究員）
【話題】国際文化を考える
「礼」は飲食に始まる―江戸時代の食事作法について―

第120回
【開催日】2004年10月21日
【話者（評者・発表者）】ホー・ホアン・ホア（日文研外国人研究員／ベトナム国立社会人文科学院日本研究センター教授）
【話題】国際文化を考える
フエと京都の「美食」―ベトナム・日本の古都文化を比較して―

第121回
【開催日】2004年11月18日
【話者（評者・発表者）】呉咏梅（日文研外国人研究員／北京日本学研センター専任講師）
【話題】国際文化を考える
中国若者のみた日本のテレビドラマを巡って

第122回
【開催日】2004年12月16日
【話者（評者・発表者）】渡邊雅子（日文研助教授）
【話題】国際文化を考える
学校作文から学術論文まで―「書くスタイル」をめぐる文化と教育比較―
【パネリスト】栗山茂久（日文研教授）、イアン・ジェームズ・マクマレン（日文研外国人研究員／オックスフォード大学ペンブロークカレッジ教授）、ノエル・ジョン・ピニングトン（日文研外国人研究員／アリゾナ大学助教授）

第123回
【開催日】2005年1月20日
【話者（評者・発表者）】李漢燮（日文研外国人研究員／高麗大学校日語日文学科教授）
【話題】国際文化を考える
韓国における日本研究―日本語学・日本文学の研究文献データベース分析を通して―

第124回
【開催日】2005年2月17日

【話者（評者・発表者）】ロムアルド・フシチャ（ワルシャワ大学東洋学研究所日韓学科教授／東京大学文学部外国人研究員）
【話題】国際文化を考える
理論言語学における日本語学の意義

第125回
【開催日】2005年4月21日
【話者（評者・発表者）】アグネシカ・ヘレナ・コズィラ（日文研外国人研究員／ワルシャワ大学助教授）
【話題】国際文化を考える
西田幾多郎と現代物理学

第126回
【開催日】2005年5月26日
【話者（評者・発表者）】ルチアーナ・ガリアーノ（日文研外国人研究員／ヴェニス大学助教授）
【話題】国際文化を考える
松平頼則（1907～2001）―雅楽と現代音楽―

第127回
【開催日】2005年6月23日
【話者（評者・発表者）】アレクサンダー・マーシャル・ヴィーシー（ストーンヒル大学助教授／日本学術振興会外国人特別研究員）
【話題】国際文化を考える
近世における森林管理と出入りについて―在地寺院を中心に―

第128回
【開催日】2005年7月21日
【話者（評者・発表者）】園田英弘（日文研教授）
【話題】社会科学は文学をどう捉えるか
テキスト：猪木武徳著『文芸にあらわれた日本の近代―社会科学と文学のあいだ』（有斐閣、2004年10月）
【討論者】猪木武徳（日文研教授）

第129回
【開催日】2005年9月22日
【話者（評者・発表者）】セルゲイ・ラプチェフ（日文研外国人研究員／マクシム・ゴリキエ文学学院助教授）
【話題】縄文・弥生文化と東南アジアの交流及び沖縄先史文化という結節点
【コメンテーター】宇野隆夫（日文研教授）

第130回
【開催日】2005年10月27日
【話者（評者・発表者）】白幡洋三郎（日文研教授）
【話題】『禪という名の日本丸』について
テキスト：山田奨治著『禪という名の日本丸』（弘文堂、2005年）
【討論者】山田奨治（日文研助教授）

第131回
【開催日】2005年11月17日
【話者（評者・発表者）】牛村圭（日文研助教授）
【話題】日本の「戦後」再考―対日戦犯裁判から日本文化論へ―
【コメンテーター】井上章一（日文研教授）

第132回
【開催日】2006年1月26日
【話者（評者・発表者）】猪木武徳（日文研教授）
【話題】書評『武士道と日本型能力主義』
【コメンテーター】笠谷和比古（日文研教授）

第133回
【開催日】2006年2月23日
【話者（評者・発表者）】鈴木貞美（日文研教授）
【話題】日本人の身体観と身体感 ―フレデリック・クレインス著『江戸時代における機械論的身体観の受容』によせて―
【コメンテーター】フレデリック・クレインス（日文研助手）

第134回
【開催日】2006年3月23日
【話者（評者・発表者）】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）
【話題】日本武道の国際普及に関する諸問題
【コメンテーター】山田奨治（日文研助教授）

第135回
【開催日】2006年4月20日
【話者（評者・発表者）】牛村圭（日文研助教授）
【話題】書評　鈴木貞美著『日本の文化ナショナリズム』（平凡社、2005年12月）
【コメンテーター】鈴木貞美（日文研教授）

第136回
【開催日】2006年5月25日
【話者（評者・発表者）】細川周平（日文研教授）
【話題】書評　池内恵著『書物の運命』（文藝春秋、2006年4月）
【コメンテーター】池内恵（日文研助教授）

第137回
【開催日】2006年6月22日
【話者（評者・発表者）】安田喜憲（日文研教授）
【話題】報告「アニミズム・ルネッサンス―『魔女の文明史』『龍の文明史』『山岳信仰と日本人』三部作の企図と成果―」
【コメンテーター】井上章一（日文研教授）

第138回
【開催日】2006年7月20日
【話者（評者・発表者）】猪木武徳（日文研教授）
【話題】書評　「中国の奇人と異才が大集合！」
テキスト：井波律子著『奇人と異才の中国史』（岩波新書、2005年2月）、井波律子著『中国の隠者』（文春新書、2001年3月）
【コメンテーター】井波律子（日文研教授）

第139回
【開催日】2006年10月19日
【話者（評者・発表者）】川勝平太（日文研教授）
【話題】国土づくりについて―今年刊の拙著をもとに―
テキスト：『「美の国」日本をつくる』（日経ビジネス人文庫、2006年1月）、『環状道路の時代』（日経BP社、2006年4月）、『文化力―日本の底力』（ウェッジ、2006年9月）
【コメンテーター】今谷明（日文研教授）

第140回
【開催日】2006年11月16日
【話者（評者・発表者）】松田利彦（日文研助教授）
【話題】書評　井上章一著『夢と魅惑の全体主義』（文春新書526、文藝春秋、2006年9月）
【コメンテーター】井上章一（日文研教授）

第141回
【開催日】2006年12月21日

【話者（評者・発表者）】テモテ・カーン（日文研助教授）
【話題】書評　園田英弘著『忘年会』（文藝春秋、2006年）
【コメンテーター】園田英弘（日文研教授）

第142回
【開催日】2007年1月25日
【話者（評者・発表者）】劉建輝（日文研助教授）
【話題】書評　小松和彦著『神になった人びと―日本人にとって「靖国の神」とは何か―』（光文社、2006年）
【コメンテーター】小松和彦（日文研教授）

第143回
【開催日】2007年2月22日
【話者（評者・発表者）】マルクス・リュッターマン（日文研助教授）
【話題】書評　牛村圭著『「戦争責任」論の真実―戦後日本の知的怠慢を断ず―』（PHP研究所、2006年8月）
【コメンテーター】牛村圭（日文研助教授）

第144回
【開催日】2007年4月19日
【話者（評者・発表者）】新井菜穂子（日文研准教授）
【話題】ネットワークの現場から見た知の共有と独占

第145回
【開催日】2007年5月24日
【話者（評者・発表者）】磯前順一（日文研准教授）
【話題】〈日本の宗教学〉再考―学説史から学問史へ―

第146回
【開催日】2007年6月21日
【話者（評者・発表者）】栗山茂久（日文研外国人来訪研究員／ハーバード大学東アジア文明言語学科・科学史学科教授）
【話題】知的感性のゆくえ―iMovies（パソコンで作成できる映画）の性格と文化的意義―

第147回
【開催日】2007年7月19日
【話者（評者・発表者）】呂莉（日文研外国人研究員／中国社会科学院外国文学研究所助教授）
【話題】柿本人麻呂と中国文学

第148回
【開催日】2007年10月18日
【話者（評者・発表者）】宇野隆夫（日文研教授）
【話題】考古学GISの実践

第149回
【開催日】2007年11月15日
【話者（評者・発表者）】千田稔（日文研教授）
【話題】改変された平城京―史書に書かれなかった事実―

第150回
【開催日】2008年1月24日
【話者（評者・発表者）】稲賀繁美（日文研教授）
【話題】東アジア近代文明史の問い直しに向けて：北米滞在帰朝報告

第151回
【開催日】2008年2月21日
【話者（評者・発表者）】瀧井一博（日文研准教授）

【話題】明治憲法史と伊藤博文
第152回
【開催日】2008年4月17日
【話者（評者・発表者）】マイク・モラスキー（日文研外国人研究員／ミネソタ大学アジア言語・文学学科准教授）
【話題】ジャズ喫茶研究の諸問題―歴史観から方法論まで―
第153回
【開催日】2008年5月22日
【話者（評者・発表者）】細川周平（日文研教授）、稲賀繁美（日文研教授）、瀧井一博（日文研准教授）、磯前順一（日文研准教授）
【話題】コルマル（仏）・セミナー（2008年3月）を振り返って
第154回
【開催日】2008年6月19日
【話者（評者・発表者）】山田奨治（日文研准教授）
【話題】『〈海賊版〉の思想―18世紀英国の永久コピーライト闘争―』について
【コメンテーター】池内恵（日文研准教授）
第155回
【開催日】2008年10月16日
【話者（評者・発表者）】アリソン・トキタ（日文研外国人研究員／モナシュ大学准教授）
【話題】日韓関係にとつての「韓流」ブームと東アジアにおけるソフトパワーの争い
第156回
【開催日】2008年11月13日
【話者（評者・発表者）】松田利彦（日文研准教授）
【話題】書評 『遠きにありてつくるもの―日系ブラジル人の思い・ことば・芸能―』
【討論者】細川周平（日文研教授）
第157回
【開催日】2008年12月18日
【話者（評者・発表者）】山田奨治（日文研准教授）
【話題】書評 『春画の見かた―10のポイント―』
【討論者】早川開多（日文研教授）
第158回
【開催日】2009年1月22日
【話者（評者・発表者）】瀧井一博（日文研准教授）
【話題】書評 牛村圭、日暮吉延著『東京裁判を正しく読む』（文春新書：660）
【討論者】牛村圭（日文研教授）
第159回
【開催日】2009年2月19日
【話者（評者・発表者）】ジョン・ブリーン（日文研准教授）
【話題】「山王祭りの原点：日吉神社における近代化の一齣」
第160回
【開催日】2009年4月16日
【話者（評者・発表者）】早川開多（日文研教授）
【話題】書評 光田和伸著『恋の隠し方』（青草書房、2008年7月）
【討論者】光田和伸（日文研准教授）

第161回
【開催日】2009年6月18日
【話者（評者・発表者）】倉本一宏（日文研教授）
【話題】私はこうして生きてきました―研究生生活、今日までそして明日から―
第162回
【開催日】2009年7月16日
【話者（評者・発表者）】末本文美士（日文研教授）
【話題】仏教写本を見る愉しみ
第163回
【開催日】2009年9月17日
【話者（評者・発表者）】戸部良一（日文研教授）
【話題】軍人はなぜ政治化したのか―日本陸軍の場合―
第164回
【開催日】2009年10月15日
【話者（評者・発表者）】井上章一（日文研教授）、牛村圭（日文研教授）、ジョン・ブリーン（日文研准教授）
【話題】書評 猪木武徳著『大学の反省』（N T T出版、2009年4月）を読む
【応答】猪木武徳（日文研所長）
第165回
【開催日】2009年11月12日
【話者（評者・発表者）】白幡洋三郎（日文研教授）、小松和彦（日文研教授）、瀧井一博（日文研准教授）
【話題】日文研25年史の編纂―その中間報告―
第166回
【開催日】2009年12月17日
【話者（評者・発表者）】郭南燕（日文研准教授）
【話題】人間性のかげらを求めて―石井部隊や九大生体解剖事件における個人的責任を考える―
第167回
【開催日】2010年1月21日
【話者（評者・発表者）】森洋久（日文研准教授）
【話題】情報という分野
第168回
【開催日】2010年2月18日
【話者（評者・発表者）】榎本渉（日文研准教授）
【話題】9～14世紀東シナ海交流の素描
第169回
【開催日】2010年4月22日
【話者（評者・発表者）】宇野隆夫（日文研教授）
【話題】書評 宇野隆夫編著『ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む』（勉誠出版、2010年3月）
【コメンテーター】倉本一宏（日文研教授）、森洋久（日文研准教授）
第170回
【開催日】2010年6月17日
【話者（評者・発表者）】荒木浩（日文研教授）
【話題】〈フキダシ〉からのぞく日本中世文学の世界―夢とことばの表現論のために―
第171回
【開催日】2010年7月22日

【話者（評者・発表者）】伊東貴之（日文研教授）
【話題】中国近世思想史の再構成―拙著『思想としての中国近世』を素材として―
第172回
【開催日】2010年9月16日
【話者（評者・発表者）】佐野真由子（日文研准教授）
【話題】安政四年十月二十一日、米国使節の登城・將軍拝謁をめぐって―「幕末」について考えるために―
第173回
【開催日】2010年11月18日
【話者（評者・発表者）】フレデリック・クレインス（日文研准教授）
【話題】書評 フレデリック・クレインス著『十七世紀のオランダ人が見た日本』（臨川書店、2010年7月）
【コメンテーター】白幡洋三郎（日文研教授）、榎本渉（日文研准教授）
第174回
【開催日】2010年12月16日
【話者（評者・発表者）】笠谷和比古（日文研教授）
【話題】「北方領土」問題をめぐる歴史的省察
第175回
【開催日】2011年1月20日
【話者（評者・発表者）】鈴木貞美（日文研教授）
【話題】書評 鈴木貞美著『「文藝春秋」とアジア太平洋戦争〈東アジア叢書〉』（武田ランダムハウスジャパン、2010年5月）
【コメンテーター】戸部良一（日文研教授）、マルクス・リュッターマン（日文研准教授）
第176回
【開催日】2011年2月17日
【話者（評者・発表者）】榎本渉（日文研准教授）
【話題】書評 榎本渉著『僧侶と海商たちの東シナ海』（講談社選書メチエ、2010年10月）
【コメンテーター】末本文美士（日文研教授）、劉建輝（日文研准教授）
第177回
【開催日】2011年4月21日
【司会者】荒木浩（日文研教授）
【話題】日文研25年史座談会III 国際交流の展望
【座談会話者】猪木武徳（日文研所長）、細川周平（日文研教授）、山田奨治（日文研教授）、磯前順一（日文研准教授）、劉建輝（日文研准教授）、佐野真由子（日文研准教授）、テモテ・カーン（日文研助教）
第178回
【開催日】2011年5月19日
【司会者】松田利彦（日文研准教授）
【話題】日文研25年史座談会IV 文献、データベース、出版
【座談会話者】宇野隆夫（日文研教授）、白幡洋三郎（日文研教授）、末本文美士（日文研教授）、早川開多（日文研教授）、パトリシア・フィスター（日文研教授）、ジョン・ブリーン（日文研教授）、フレデリック・クレインス（日文研准教授）、光田和伸（日文研准教授）
第179回
【開催日】2011年6月16日
【話者（評者・発表者）】安田喜憲（日文研教授）
【話題】新たな日本文明の原理を求めて：東日本大震災と原発事故に思う

第180回
【開催日】2011年7月21日
【話者（評者・発表者）】倉本一宏（日文研教授）
【話題】世界記憶遺産に推薦が決まった『御堂関白記』自筆本（11世紀）の裏に『後深心院関白記』（14世紀）を写した近衛信尹（16世紀）
第181回
【開催日】2011年9月22日
【話者（評者・発表者）】劉建輝（日文研准教授）
【話題】可視化される「帝国」・パッケージされる「外地」―日文研所蔵外地関連地図、絵葉書について―

Nichibunken Evening Seminarの記録

第1回

【開催日】1995年7月6日
【発表者】Bijay Anand MISRA（都市計画建築研究学院教授／日文研客員教授）
【テーマ】Comprehensive Urban Development and Community Participation-Priorities and Needs (Experience of Japan for Asian Cities)

第2回

【開催日】1995年9月7日
【発表者】William Harry SAMONIDES（カンザス大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】Expanding the Canon: The Life and Works of Kōami Nagashige (1599–1651)

第3回

【開催日】1995年11月2日
【発表者】Peter BERTON（南カリフォルニア大学名誉教授／日文研客員教授）
【テーマ】Psychological Dimensions of Japanese Negotiating Behavior

第4回

【開催日】1995年12月14日
【発表者】Satu P. LIMAYE（日本国際問題研究所研究員／上智大学客員教授）
【テーマ】Sushi and Samosas: Japan’s Relations with India

第5回

【開催日】1996年1月11日
【発表者】Mary C.BRINTON（シカゴ大学準教授）
【テーマ】High School Graduates’Transition to Work in the Age of “Hollowing out”: A Comparative Study

第6回

【開催日】1996年2月8日
【発表者】Stephen J. ANDERSON（国際大学グローバル・コミュニケーションセンター助教授）
【テーマ】The Internet, NTT Reform, and the Network Era

第7回

【開催日】1996年3月14日
【発表者】Pauline KENT（日文研助手）
【テーマ】Ruth Benedict’s Research on Enemy Japan

第8回

【開催日】1996年4月18日
【発表者】Jay RUBIN（ハーバード大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】The World’s First Truly Superficial Study of *Nō*

第9回

【開催日】1996年5月9日
【発表者】栗山茂久（日文研助教授）
【テーマ】Interpreting the Japanese Complaint of *Katakori* (Stiff Shoulders)

第10回

【開催日】1996年6月6日
【発表者】Wiliam E. STESLICKЕ（関西学院大学教授）
【テーマ】Health Care Policy in the UK and Japan: Comparative Studies

第11回

【開催日】1996年7月4日
【発表者】Lieth D. MORTON（ニューカッスル大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】The Year of the Two Helens: 1995 and Debate over “Fictionality” in Australian Writing

第12回

【開催日】1996年9月5日
【発表者】Herbert E. PLUTSCHOW（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授／日文研客員教授）
【テーマ】The Fear of Evil Spirits in Literature and the Arts

第13回

【開催日】1996年10月3日
【発表者】Michele F. MARRA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】The Field of Modern Japanese Aesthetics: A Few Hermeneutical Strategies

第14回

【開催日】1996年11月7日
【発表者】Carl LE GRAND（ストックホルム大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Looking at the Japanese Labour Market from a Scandinavian Point of View

第15回

【開催日】1996年12月5日
【発表者】姜信杓（仁済大学校教授／日文研客員教授）
【テーマ】Kyoto, *Dae-Dae*（对待）Cultural Grammar, and Buddhist Anthropology

第16回

【開催日】1997年1月9日
【発表者】John R. WALLACE（ウィスコンシン大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】Reading Romance in Heian Period Literary Prose

第17回

【開催日】1997年2月6日
【発表者】Dennis HIROTA（京都浄土真宗翻訳シリーズ翻訳家／パークレー仏教研究所教授／日文研客員教授）
【テーマ】Conceiving Reality in Pure Land Buddhist Thought

第18回

【開催日】1997年3月6日
【発表者】Royall TYLER（オーストラリア国立大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Reading and Translating *Genji monogatari*

第19回

【開催日】1997年4月3日
【発表者】Jan SYKORA（カレル大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】Notion of Market in Tokugawa Intellectual Milieu

第20回

【開催日】1997年5月8日
【発表者】黒須里美（日文研助手）
【テーマ】“*Mukoyoshi*”: Adoption and Marriage among Peasants in Pre-industrial Japan

第21回

【開催日】1997年6月12日
【発表者】Roger PULVERS（京都造形芸術大学教授）
【テーマ】Miyazawa Kenji: Rebel with a Cause

第22回

【開催日】1997年7月10日
【発表者】Richard John LYNN（アルバータ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Huang Zunxian (1848–1905) and His Association with Meiji Era *Bunjin*— Centering on “This Culture of Ours”

第23回

【開催日】1997年7月23日
【発表者】Mark MORRIS（ケンブリッジ大学レクチャラー／日文研客員教授）
【テーマ】Sartre, Beauvior and the Japanese Intellectual Field

第24回

【開催日】1997年9月11日
【発表者】鶴田欣也（ブリティッシュコロンビア大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Life as Chaos—Akutagawa Ryunosuke and His Three Mothers

第25回

【開催日】1997年10月9日
【発表者】Vidiadhar Surajprasad NAIPAUL（作家）、山本伸（四日市短期大学助教授）
【テーマ】V. S. Naipaul and His Writings

第26回

【開催日】1997年11月13日
【発表者】Theodore William GOOSSEN（ヨーク大学準教授／日文研客員助教授）
【テーマ】The Hero’s Journey in Shiga Naoya’s *A Dark Night’s Passing* and Murakami Haruki’s *The Hard-Boiled Wonderland and the End of the World*

第27回

【開催日】1997年12月11日
【発表者】Carl Anthony MOSK（ヴィクトリア大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Osaka and Tokyo

第28回

【開催日】1998年1月8日
【発表者】Sumie A. JONES（インディアナ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】Powerful Concubines and Authoritative Virgins: Women in Edo Culture

第29回

【開催日】1998年2月5日
【発表者】金禹昌（高麗大学校教授／日文研客員教授）
【テーマ】Three Beginnings and Poetics of Decreation: Random Reflections on Asian Aesthetics

第30回

【開催日】1998年3月5日
【発表者】Chris WILSON（オーストラリア国立大学研究員／日文研客員助教授）
【テーマ】Tokugawa Japan and Early-Modern England: Reflection on Population, Economy and Society

第31回

【開催日】1998年4月2日
【発表者】Hugh SHAPIRO（ネバダ大学助教授／日文研客員助教授）
【テーマ】Nervousness and the Assimilation of Nerves into Japanese and Chinese Medicine

第32回

【開催日】1998年5月7日
【発表者】Edward J. SHULTZ（ハワイ大学教授／日文研客員教授）
【テーマ】To Be or Not to Be: The Samurai Tradition in Korea and Japan

第33回

【開催日】1998年6月4日
【発表者】Michael PIETRUSEWSKY（ハワイ大学マノア校教授／日文研客員教授）
【テーマ】Japanese from Jomon to Meiji Times: Biological Relationships and Origins Based on Multivariate Studies of Skulls

第34回

【開催日】1998年7月2日
【発表者】Piet HUT（プリンストン高等研究所教授／日文研客員教授）
【テーマ】A Comparison of Three World Views: Natural Science, Husserlian Phenomenology and Tibetan Dzog Chen

第35回

【開催日】1998年9月3日
【発表者】Madeline R. MOORE（ミルズ大学客員教授／日文研客員教授）
【テーマ】Virginia Woolf and Kamiya Miyeko: Narrative, Illusion, and Identity

第36回

【開催日】1998年11月5日
【発表者】王克非（北京外国語大学教授／日文研客員助教授）
【テーマ】Translation Cultures in Modern China and Japan: A Comparative Understanding

第37回

【開催日】1998年12月17日
【発表者】Bruno RHYNER（チューリッヒ大学レクチャラー／日文研客員助教授）
【テーマ】Two Japanese Psychotherapies and an American Offspring

第38回

【開催日】1999年2月4日
【発表者】Helmar KRUPP（フラウンホーファー研究所システム技術革新センター元所長／日文研客員教授）

【テーマ】Can Social Theory Account for the Risks of World Society?

第39回

【開催日】1999年3月25日

【発表者】Dharma AGRAWAL (インド国立科学アカデミープロジェクト研究員／日文研客員教授)

【テーマ】Indus Civilisation : Its Global Legacy

第40回

【開催日】1999年4月22日

【発表者】Sunil GUPTA (アルハバード博物館学芸員／日文研外来研究員)

【テーマ】The Early Monsoon Trade in the Indian Ocean : A Review of Archaeological Evidence, 3000B.C.-A.D.300

第41回

【開催日】1999年9月9日

【発表者】長谷川治清 (シェフィールド大学教授／関西学院大学客員教授)

【テーマ】Japanese Management as Seen from Britain

第42回

【開催日】1999年10月7日

【発表者】James C. BAXTER (日文研教授)

【テーマ】Recent and Current Studies of Japan in the United States: Reflections of a Rip Van Winkle

第43回

【開催日】1999年11月11日

【発表者】Timothy D. KERN (日文研助教授)、Anna Maria THRÄNHARDT (ルーバンカトリック大学客員教授／日文研客員教授)

【テーマ】From Japanology to Japanese Studies and Beyond: Trends in German Scholarship

第44回

【開催日】1999年12月2日

【発表者】Alexandre N. MECHTCHERIAKOV (ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員／日文研客員助教授)

【テーマ】Japanese Studies in Current Russia : Inheritance and Inheritors

第45回

【開催日】2000年1月13日

【発表者】Jean-Noël Alexandre ROBERT (フランス国立社会科学高等研究院教授／日文研客員教授)、稲賀繁美 (日文研助教授)

【テーマ】État présent des études japonaises en France (Present State of the Japanese Studies in France)

第46回

【開催日】2000年2月10日

【発表者】陶徳民 (関西大学教授)、楊曉捷 (カルガリー大学準教授／日文研客員助教授)

【テーマ】Changing Chinese Attitudes toward the Study of Japan: A Historical Perspective

第47回

【開催日】2000年3月24日

【発表者】L. M. CULLEN (ダブリン大学トリニティカレッジ教授)

【テーマ】Japanese Studies in Ireland

第48回

【開催日】2000年4月13日

【発表者】Pekka KORHONEN (ユワスクラ大学教授／日文研客員助教授)、Lyudmila HOLODOVICH (ソフィア大学助教授／日文研客員助教授)、Bart GAENS (日文研中核の研究機関研究員)

【テーマ】Japanese Studies in Finland, Bulgaria, and Belgium

第49回

【開催日】2000年5月11日

【発表者】Royall TYLER (オーストラリア国立大学教授／日文研来訪研究員)、Timothy D. KERN (日文研助教授)、鈴木貞美 (日文研教授)

【テーマ】Japanese Studies in Australia, Canada, and Egypt

第50回

【開催日】2000年6月15日

【発表者】Daniel I. OKIMOTO (スタンフォード大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Prospects for the Japan American Security Alliance in the 21st Century

第51回

【開催日】2000年7月13日

【発表者】Knut SCHULZ (ベルリン自由大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Medieval Guilds and New Religious Movement: A Comparison between Europe and Japan

第52回

【開催日】2000年9月14日

【発表者】Richard RUBINGER (インディアナ大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Who can't Read and Write? Illiteracy in Meiji Japan

第53回

【開催日】2000年10月5日

【発表者】Jay RUBIN (ハーバード大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Invisible and Insane: Literal Translation from the Japanese

第54回

【開催日】2000年11月2日

【発表者】Kalpakam SANKARNARAYAN(K. J. ソーマイヤ仏教学センター所長／日文研客員教授)

【テーマ】Heian Buddhism with Indian Perspective

第55回

【開催日】2000年12月7日

【発表者】David WAYNFORTH (ニューメキシコ大学助教授／日文研客員助教授)

【テーマ】Understanding Human Behavior Using Evolutionary Theory

第56回

【開催日】2001年1月11日

【発表者】Pavel M. DOLUKHANOV (ニューキャッスル大学考古学部リーダー／日文研客員教授)

【テーマ】When and How North-Eastern Asia Was Populated by Modern Humans?

第57回

【開催日】2001年2月8日

【発表者】Paul GRONER (ヴァージニア大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Reflections on the Role of Buddhist Precepts in Medieval Japan

第58回

【開催日】2001年3月1日

【発表者】Wolfgang SCHAMONI (ハイデルベルク大学主任教授／日文研客員教授)

【テーマ】Autobiography in the Edo-Period — Forms and Functions

第59回

【開催日】2001年4月5日

【発表者】PAI Hyung Il (カリフォルニア大学サンタバーバラ校準教授／日文研客員助教授)

【テーマ】Collecting Japan's Treasures and Monuments—Colonialism, Nationalism and the History of Cultural Properties Management in the Korean Peninsula (1911-1943)

第60回

【開催日】2001年5月10日

【発表者】Judith RABINOVITCH (モンタナ州立大学教授／日文研客員教授)

【テーマ】Exploring the *Kanshi Tanzaku* (漢詩短冊) : The Chinese Poetry Tradition and Japanese Life in 19th Century Kyoto

第61回

【開催日】2001年6月7日

【発表者】Jan SYKORA (カレル大学助教授／西南学院大学国際交流基金特別研究員)

【テーマ】The Role of Institutions in the Making of Economic Society: Lessons from Early Modern Japan

第62回

【開催日】2001年7月5日

【発表者】Alexander VOVIN (ハワイ大学準教授／日文研客員助教授)

【テーマ】Do Birds Sit on *Torii*?

第63回

【開催日】2001年9月6日

【発表者】Chigusa KIMURA-STEVEN (カンタベリー大学準教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】Terrorism in the Art and Lives of Mishima Yukio and Oe Kenzaburo

第64回

【開催日】2001年10月4日

【発表者】Ekkehard MAY (フランクフルト大学名誉教授／日文研客員教授)

【テーマ】Toward a New Understanding of *Haiku* in the West

第65回

【開催日】2001年11月1日

【発表者】Henry D. SMITH II (コロンビア大学教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】The Recurring Problem of the 47th *Ronin* : A New Look at the Ako Incident and Its Historiography

第66回

【開催日】2001年12月6日

【発表者】Barbara MIRIELLO (サイコセラピスト／センターフォーインナーワーク所長／日文研客員助教授)

【テーマ】*Zen* and Clinical Psychology: The Buddhist Roots of Sandplay (*Hakoniwa*) Therapy

第67回

【開催日】2002年2月7日

【発表者】Patricia FISTER (日文研助教授)

【テーマ】Art by Nuns at Imperial Buddhist Convents in Japan

第68回

【開催日】2002年3月7日

【発表者】Massimiliano TOMASI (ウェスタンワシントン大学助教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】Academic Debate, Political Activism, and Student Oratory: Three Aspects of Public Speaking in Meiji and Taisho Japan

第69回

【開催日】2002年4月11日

【発表者】Donald F. McCALLUM (カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】Is the Kibi Pond Site Kudara Odera? Problems in the Royal Patronage of Buddhism in Seventh-Century Japan

第70回

【開催日】2002年5月2日

【発表者】Matthew Philip McKELWAY (ニューヨーク大学助教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】*Rakuchu Rakugai zu* : The State of Research and Recent Discoveries

第71回

【開催日】2002年6月6日

【発表者】Tamara Kern HAREVEN (デラウェア大学教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】The Silk Weavers of Nishijin: Family and Work in a Changing Traditional Industry

第72回

【開催日】2002年7月4日

【発表者】Thorsten BOTZ (フランス社会科学高等研究院助教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】The “I” and the “Thou” : Comparing Mikhail Bakhtin and Nishida Kitaro

第73回

【開催日】2002年9月5日

【発表者】Alexia BORO (カ・フォスカリ大学助手／日文研外国人研究員)

【テーマ】Compromise and Eclecticism: Modern Illusions in Meiji Tokyo Architecture

第74回

【開催日】2002年10月3日

【発表者】Susan Lynn BURNS (シカゴ大学準教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】Illness as Identity: “Leprosy Literature” and the Hygienic Nation

第75回

【開催日】2002年11月7日

【発表者】William S. SEWELL (セントメアリー大学助教授／日文研外国人研究員)

【テーマ】Modernity at Work: Making Theory Concrete in Colonial Manchuria
第76回
【開催日】2002年12月5日
【発表者】王淑英（香港中文大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Changing Culture of Teaching in Japan
第77回
【開催日】2003年2月6日
【発表者】David HOWELL（プリンストン大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Chasing Bad Guys in Late Tokugawa Japan
第78回
【開催日】2003年3月6日
【発表者】Louis CULLEN（ダブリン大学トリニティーカレッジ教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Bureaucratic Evolution, Paperwork, and Record-keeping under <i>Gaiatsu</i> , 1808–1858
第79回
【開催日】2003年4月10日
【発表者】Richard H. OKADA（プリンストン大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Ex-posing the Mimetic Phallacy: Yi Yang-ji’s “Yu Hee”
第80回
【開催日】2003年5月8日
【発表者】Alexander BENNETT（日文研助手）
【テーマ】The Search for F. J. Norman: Western Kendo Pioneer
第81回
【開催日】2003年6月5日
【発表者】Inge Maria DANIELS（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート客員講師／日文研外来研究員）
【テーマ】 <i>Engimono</i> : Luck, Agency, and the Interdependence of People and Things in Japan
第82回
【開催日】2003年7月3日
【発表者】David RIGGS（カリフォルニア大学サンタバーバラ校講師／日文研外来研究員）
【テーマ】The Way of Walking in Meditation: The Creation of an Ancient Tradition of <i>Sōtō Zen</i>
第83回
【開催日】2003年9月4日
【発表者】Maureen DONOVAN（オハイオ州立大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Globalization of Information: Its Impact on Japanese Studies
第84回
【開催日】2003年10月2日
【発表者】William Roger LAFLEUR（ペンシルバニア大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Core Problem of Bioethics: Why Both Hans Jonas and Japanese Views Deserve International Attention

第85回
【開催日】2003年11月6日
【発表者】Rien T. SEGERS（フローニンゲン大学日本研究センター所長／日文研外国人研究員）
【テーマ】Reinterpreting Japan: The Search for a New Cultural Identity
第86回
【開催日】2003年12月11日
【発表者】李貞徳（台湾中央研究院歴史語言研究所副研究員／日文研外国人研究員）
【テーマ】Then China, Now Japan: Reading “Women’s Medicine” of <i>Ishinpō</i> in Different Contexts
第87回
【開催日】2004年4月7日
【発表者】Bijay Anand MISRA（都市計画建築研究学院名誉教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Changing Notion of Community and Participatory Urban Development in Japan
第88回
【開催日】2004年5月6日
【発表者】Constantine Nomikos VAPORIS（メリーランド大学準教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Rethinking Edo Culture: Alternate Attendance and Tokugawa Japan
第89回
【開催日】2004年6月10日
【発表者】Hugh CLARKE（シドニー大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Early Cultural Contacts between Japan and Australia
第90回
【開催日】2004年7月8日
【発表者】James R. BARTHOLOMEW（オハイオ州立大学教授／日文研外来研究員）
【テーマ】Japan and the Nobel Science Prizes: The First Half-Century, 1901–1949
第91回
【開催日】2004年9月2日
【発表者】Diane RIGGS（総合研究大学院大学元研究生／カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士課程）
【テーマ】Hand-sewn Buddhist Robes in Contemporary Japan and the Rhetoric of Authenticity
第92回
【開催日】2004年10月7日
【発表者】Frederik CRYNS（日文研助手）
【テーマ】The Nervous System as Apprehended by Japanese Scholars of Western Medicine in the Edo Period
第93回
【開催日】2004年11月4日
【発表者】Noel John PINNINGTON（アリゾナ大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Use of Legendary Material in Medieval Noh <i>Hidensho</i>

第94回
【開催日】2004年12月2日
【発表者】Roy Anthony STARRS（オタゴ大学シニア・レクチャラー／日文研外国人研究員）
【テーマ】Lafcadio Hearn as Japanese Nationalist
第95回
【開催日】2005年1月13日
【発表者】Jacques E.C. HYMANS（スミスカレッジ助教授）
【テーマ】A Good Rate of Exchange: International Influences on the Iconography of the Yen
第96回
【開催日】2005年2月3日
【発表者】Agnieszka Helena KOZYRA（ワルシャワ大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Nishida Kitarō and Zen
第97回
【開催日】2005年3月3日
【発表者】Mats Arne KARLSSON（ストックホルム大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Strindberg & Akutagawa—Suitable Cases for Treatment?
第98回
【開催日】2005年4月7日
【発表者】Ian James McMULLEN（オックスフォード大学ペンブロークカレッジ教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Worship of Confucius in Tokugawa Japan
第99回
【開催日】2005年5月11日
【発表者】Bjorn E. BERGLUND（ルンド大学名誉教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Environmental Archaeology in Southern Scandinavia: Interdisciplinary Research during the 20th Century
第100回
【開催日】2005年6月9日
【発表者】Luciana GALLIANO（ヴェニス大学助教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Buddhist Affects in Contemporary Music
第101回
【開催日】2005年7月7日
【発表者】呉咏梅（北京日本学研究中心専任講師／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Care of the Elderly in Japan: Lives of Residents in <i>Kotobuki</i> Home
第102回
【開催日】2005年9月8日
【発表者】Norma Absing RESPICIO（フィリピン大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Production Processes and Materials in the Textile Cultures of Japan and the Philippines
第103回
【開催日】2005年10月6日

【発表者】Alexander Marshall VESEY（ストーンヒル大学助教授／日文研外来研究員）
【テーマ】Seeing the Forest for the Trees: Temples, Timber and Truculence in Early Modern Japan
第104回
【開催日】2005年11月10日
【発表者】韓錫政（東亜大学校教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】The Diffusion of the High Modern State: From Manchunkuo to South Korea
第105回
【開催日】2005年12月8日
【発表者】Markus RÜTTERMANN（日文研助教授）
【テーマ】Remarks on the Concept of Epistolary Etiquette (<i>Shosatsurei</i>) in Premodern Japan
第106回
【開催日】2006年2月9日
【発表者】Mauricio MARTINEZ（ロス・アンデス大学、エクステルナド大学教授／日文研外来研究員）
【テーマ】A Latin American View of Japanese Performing Arts: Towards a Web-Encyclopedia of Japanese Performing Arts in Spanish
第107回
【開催日】2006年3月9日
【発表者】William Puck BRECHER（南カリフォルニア大学助手／日文研外来研究員）
【テーマ】Down and Out in Negishi: Secular Reclusion as Civil Society in Edo
第108回
【開催日】2006年4月6日
【発表者】Andrew GERSTLE（ロンドン大学東洋アフリカ学院教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Representing the “Female” Body in <i>Kabuki</i>
第109回
【開催日】2006年5月11日
【発表者】Charles Shiro INOUYE（タフツ大学教授／日文研外国人研究員）
【テーマ】Figurality and the Development of Modern Consciousness
第110回
【開催日】2006年6月8日
【発表者】Rebecca CORBETT（シドニー大学大学院生／総合研究大学院大学研究生）
【テーマ】Women in the History of <i>Chanoyu</i>
第111回
【開催日】2006年7月6日
【発表者】James C. BAXTER（日文研教授）
【テーマ】Recent Trends in Scholarship on Japan in the United States of America
第112回
【開催日】2006年9月7日
【発表者】Brian POWELL（オックスフォード大学ケブルカレッジ名誉フェロー／日文研外国人研究員）

【テーマ】What Language Do You Expect from the Stage in Japan? Kinoshita Junji's <i>Shigosen no matsuri — Requiem on the Great Meridian</i> (with Video Clips)	【発表者】Cynthia Neri ZAYAS (フィリピン大学国際研究センター 準教授／日文研外国人研究員)	【開催日】2008年10月2日	【発表者】郭南燕 (日文研海外研究交流室准教授)	【テーマ】The Method of Tsugaru Shamans in Osabe Hideo's Literature: Towards a New Relation between Japan and Asia	【開催日】2009年7月2日
第113回	第123回	第132回	第141回	第150回	第159回
【開催日】2006年10月5日	【開催日】2007年10月4日	【開催日】2008年11月6日	【開催日】2009年9月3日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】稲賀繁美 (日文研教授)	【発表者】JamesBASKIND(日文研海外研究交流室プロジェクト研究員)	【発表者】David HUGHES (ロンドン大学東洋アフリカ学院教授／日文研 外国人研究員)	【発表者】XunLI (日文研外来研究員)	【発表者】Mark OMBRELLO (ノートルダム女子大学講師／ハワイ大学 歴史学博士候補／総合研究大学院大学研究生)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Arts and Crafts in Modern Kyoto: Facing the West	【テーマ】The Science of Karma: The Congruence of Buddhism and 19th Century Evolutionary Thought in the Writings of Lafcadio Hearn	【テーマ】The Heart's Home Town: Traditional Folk Song in Modern Japan	【テーマ】Multiproxy Evidence of Tropical Holocene Climate Variability and Anthropogenic Interference from a Lake Record in Bali	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第114回	第124回	第133回	第142回	第151回	第160回
【開催日】2006年11月2日	【開催日】2007年12月6日	【開催日】2008年12月4日	【開催日】2009年10月1日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Josef A. KYBURZ (フランス国立科学研究センター教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】Hugh DE FERRANTI (ニューイングランド大学助教授／日文研 外国人研究員)	【発表者】真鍋乃理子 (ニューヨーク市立大学非常勤講師／日文研外来 研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Mark OMBRELLO (ノートルダム女子大学講師／ハワイ大学 歴史学博士候補／総合研究大学院大学研究生)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Eloquent Bones: On Maruyama Ōkyo's "Skeleton Sitting in Meditation over the Sea"	【テーマ】Music on the Periphery of <i>Modan Raifu</i> : Traces of Music- making among the Okinawan and Korean Communities of Interwar Osaka	【テーマ】The Adaptation of Western Genres in Japanese Popular Music: Evolution of Musical Style and Text Setting in Children's Songs and Hip-Hop	【テーマ】Architecture & Photography: Longing for the Past and Reconstructing the Future	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第115回	第125回	第134回	第143回	第152回	第161回
【開催日】2006年12月7日	【開催日】2008年2月7日	【開催日】2009年1月15日	【開催日】2009年10月1日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Mark RAVINA (エモリー大学準教授／日文研外来研究員)	【発表者】PAI HyungIl (カリフォルニア大学サンタバーバラ校准教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】Thomas LAMARRE (マクギル大学教授)	【発表者】Yona SIDERER (エルサレム・ヘブライ大学上級講師／日文研 外国人研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】The Last Samurai: The Mythical Suicide of Saigo Takamori	【テーマ】Visualizing an Ancient Land Near, Yet Far: Imperialist Nostalgia and the Production of Tourist Images in Colonial Korea	【テーマ】The Theatre of Species: Race and Animals in Wartime Animation	【テーマ】Kume Kunitake and Kume Keichiro: Father and Son, Advocators of Western Science and Art	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第116回	第126回	第135回	第144回	第153回	第162回
【開催日】2007年2月8日	【開催日】2008年3月6日	【開催日】2009年2月5日	【開催日】2009年12月3日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Galen AMSTUTZ (龍谷大学教授)	【発表者】Gilles Jean-Pierre CAMPAGNOLO (フランス国立科学研究 センター研究員 (准教授)／日文研外国人研究員)	【発表者】Felix KAPUTU (ルブンバシ大学教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Yona SIDERER (エルサレム・ヘブライ大学上級講師／日文研 外国人研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Shin Buddhism and Economic Growth in Premodern Japanese History: Can the Relationship be 'Religiously' Interpreted?	【テーマ】Archives of Western Social Scientists in Japanese Collections, with Special Reference to the Kansai Area	【テーマ】Shamanism in Context: <i>Itako</i> (Northern Japan) and <i>Mikishi</i> (Democratic Republic of Congo)	【テーマ】Kume Kunitake and Kume Keichiro: Father and Son, Advocators of Western Science and Art	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第117回	第127回	第136回	第145回	第154回	第163回
【開催日】2007年3月1日	【開催日】2008年4月3日	【開催日】2009年3月12日	【開催日】2009年12月3日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】大森恭子 (ハミルトン大学助教授／日文研外来研究員)	【発表者】Gunilla LINDBERG-WADA (ストックホルム大学主任教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】Kuldeep Kumar BHAN (マハラジャ・サヤジラオ大学教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】Yona SIDERER (エルサレム・ヘブライ大学上級講師／日文研 外国人研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】The Art of the Bluff among Japanese Migrants: Popular Literary Modernism in the 1920s	【テーマ】An Arctic Passage to the Far East: The Visit of the Swedish Vega Expedition to Japan in 1879	【テーマ】Past and Present: Stone Bead Making in India	【テーマ】Ideals of Feminine Beauty: Portrayal in Ukiyo-e and Indian Miniature Painting	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第118回	第128回	第137回	第146回	第155回	第164回
【開催日】2007年4月5日	【開催日】2008年5月8日	【開催日】2009年4月2日	【開催日】2010年2月4日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Mary Elizabeth BERRY (カリフォルニア大学パークレー校 教授／日文研外来研究員)	【発表者】Brian O. RUPPERT (イリノイ大学准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】河名サリ (マサチューセッツ大学ボストン校助教授／日文研 外国人研究員)	【発表者】AnuJINDAL (日文研外国人研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Celebrating Work in Pictures: A New Subject for Edo Society	【テーマ】Rereading Those Lines: Rethinking Japanese Buddhism through Examining Bunin (Appointments Works)	【テーマ】Cramming the Canon: Contemporary <i>Gakushū Manga</i> and the Possibilities of Edutainment	【テーマ】Ideals of Feminine Beauty: Portrayal in Ukiyo-e and Indian Miniature Painting	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第119回	第129回	第138回	第147回	第156回	第165回
【開催日】2007年5月10日	【開催日】2008年6月5日	【開催日】2009年5月14日	【開催日】2010年3月4日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】井口かをり (日文研海外研究交流室プロジェクト研究員)	【発表者】汪宏倫 (台湾中央研究院社会学研究所副研究員／日文研 外国人研究員)	【発表者】Mauricio MARTINEZ (日文研外国人研究員)	【発表者】蔡慧玉 (中央研究院台湾史研究所研究員／日文研外来 研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】On <i>Geidan</i> : An Anthropological Approach	【テーマ】The Ticklish Triangle: Reflections on Nationalisms in Japan, China and Taiwan since the 1990s	【テーマ】What is Japanese Performing Arts? The Process of Constructing an Image	【テーマ】Voices from Nara at the Chinese Court: Poetry and Diplomacy in Eighth-century East Asia	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第120回	第130回	第139回	第148回	第157回	第166回
【開催日】2007年6月7日	【開催日】2008年7月3日	【開催日】2009年6月4日	【開催日】2010年4月8日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Ioulia KARALIGIANNAKOPOULOU (アテネ大学教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】William TYLER (オハイオ州立大学准教授／日文研外国入 研究員)	【発表者】Michel DALISSIER (中国日本チベット文明研究センター 研究員／日文研外国人研究員)	【発表者】許南麟 (ブリティッシュ・コロンビア大学教授／日文研外国入 研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Hinduism and Shintoism: A Comparative Study	【テーマ】 <i>Bad Boy of the Gods</i> : Readings from a Translation-in-Progress of <i>Aratama</i> , Ishikawa Jun's Novel of 1964	【テーマ】Sakabe Megumi, A Scenic Philosophy	【テーマ】Voices from Nara at the Chinese Court: Poetry and Diplomacy in Eighth-century East Asia	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第121回	第131回	第140回	第149回	第158回	第167回
【開催日】2007年7月5日	【開催日】2008年7月3日	【開催日】2009年6月4日	【開催日】2010年4月8日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日
【発表者】Rajendra TOMAR (ジャワハルラル・ネルー大学客員教授／ 日文研外国人研究員)	【発表者】William TYLER (オハイオ州立大学准教授／日文研外国入 研究員)	【発表者】Michel DALISSIER (中国日本チベット文明研究センター 研究員／日文研外国人研究員)	【発表者】Wiebke DENECKE (コロンビア大学バーナードカレッジ 助教授／日文研外来研究員)	【発表者】Murielle HLADIK (サン・テチエンヌ国立建築高等研究院 准教授／日文研外国人研究員)	【発表者】Theodore F.COOK (ウィリアム・バターソン大学教授／日文研 外国人研究員)
【テーマ】Hinduism and Shintoism: A Comparative Study	【テーマ】 <i>Bad Boy of the Gods</i> : Readings from a Translation-in-Progress of <i>Aratama</i> , Ishikawa Jun's Novel of 1964	【テーマ】Sakabe Megumi, A Scenic Philosophy	【テーマ】Voices from Nara at the Chinese Court: Poetry and Diplomacy in Eighth-century East Asia	【テーマ】Monsters and Micronesia: Japanese Conceptualizations of the South Seas as a Supernatural Space	【テーマ】Soldiers and Society in Japan: Exploring the Issues
第122回	第132回	第141回	第150回	第159回	第168回
【開催日】2007年9月6日	【開催日】2008年7月3日	【開催日】2009年6月4日	【開催日】2010年4月8日	【開催日】2009年11月5日	【開催日】2010年9月3日

第149回
【開催日】2010年6月10日
【発表者】Phillip HARRIES (オックスフォード大学 クイーンズカレッジフェロー／日文研外国人研究員)
【テーマ】The Function of Place Names in Early <i>Waka</i> : Some Comparisons with English, Welsh and Anglo-Welsh Poetry

第150回
【開催日】2010年7月1日
【発表者】Jeffrey ANGLES (ウェスタン・ミシガン大学准教授／日文研外国人研究員)
【テーマ】Rethinking <i>Shonen'ai</i> : Uses of History in Edogawa Ranpo's Writing about the Love of Boys

第151回
【開催日】2010年9月2日
【発表者】Micah L. AUERBACK (ミシガン大学准教授／日文研外来研究員)
【テーマ】Buddhist Chaplaincy during the Russo-Japanese War

第152回
【開催日】2010年10月14日
【発表者】Aida SULEYMENOVA (極東国立総合大学准教授／日文研外国人研究員)
【テーマ】Modern Japanese Literature and Russian Poet-immigrants : A Case of Eastern Diaspora

第153回
【開催日】2010年12月9日
【発表者】Boyka Elit TSIGOVA (「聖クリメント・オフリドスキ」ソフィア大学教授／日文研外国人研究員)
【テーマ】Japanese Studies in Bulgaria: The 20th Anniversary of the "Japanese Studies" Major at St. Kliment Ohridski Sofia University

第154回
【開催日】2011年2月3日
【発表者】趙曉寰 (オタゴ大学准教授／日文研外来研究員)
【テーマ】Chinese and Japanese Ghost Drama: A Comparative Study with Special Reference to Japanese Noh Plays and Chinese <i>Zaju</i> (Variety Plays)

第155回
【開催日】2011年3月3日
【発表者】Noriko THUNMAN (ヨーテボリ大学教授／日文研外来研究員)
【テーマ】Writing in between Language and Culture: Some Cases in Contemporary Japanese Literature

第156回
【開催日】2011年4月7日
【発表者】太田雄三 (マッギル大学教授／日文研外来研究員)
【テーマ】When Did the Japanese Start Writing Books on Japan in English? The Strengths and Weaknesses of the First Generation of Native Japan Interpreters

第157回
【開催日】2011年5月12日
【発表者】Anton Luis SEVILLA (アテネオ・デ・マニラ大学講師／総合研究大学院大学大学院生)
【テーマ】Self and Society in Ethics of Emptiness: As Seen in a

Preliminary Examination of Hisamatsu Shin'ichi and Watsuji Tetsuro
第158回
【開催日】2011年6月2日
【発表者】Vijay Suryakant TENNETI (英語・外国語大学准教授／日文研外来研究員)
【テーマ】Studying Translations —Then and Now

第159回
【開催日】2011年7月7日
【発表者】Cynthia VIALLE (ライデン大学研究員／日文研外国人研究員)
【テーマ】"To Capture Their Favor": Gift-giving by the Dutch East India Company

第160回
【開催日】2011年9月8日
【発表者】Daniel ROH (東アジア平和投資プログラム代表／日文研外国人研究員)
【テーマ】Desire and the Civilization: A Political-Economy Inquiry into the Japanese Mind

その他のシンポジウムの記録

ミニシンポジウム
【開催日】2008年3月8日
【主催者】鈴木貞美 (日文研教授)
【テーマ】石川淳『荒魂』をめぐって

ミニ国際シンポジウム
【開催日】2008年3月28日
【研究代表者】劉建輝 (日文研准教授)
【テーマ】中国東北地方文化の再検証

大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究「文化の往還」国際シンポジウム
【開催日・会場】2007年3月27日～29日・日文研
【研究代表者】鈴木貞美 (日文研教授)
【テーマ】「満州学」の再編―新たな共同研究の可能性を探る―

大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究「東アジア近代史資料の再構築」国際研究集会
【開催日・会場】2007年10月16日～18日・北京大学勺園七号楼
【連携研究者】鈴木貞美 (日文研教授)
【テーマ】東アジアにおける近代諸概念の生成と展開

大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究「東アジア近代史資料の再構築」国際研究集会
【開催日・会場】2008年3月26日・日文研
【研究代表者】合庭惇 (日文研教授)
【テーマ】日中歴史研究資料資源の再開発を考える

特定研究シンポジウム
第1回
【開催日】1997年2月7日～8日
【主催者】上垣外憲一 (日文研助教授)
【テーマ】環太平洋圏における日本文化の成立過程とその展開―近代以前のアイヌ民族像…日本人、中国人、西洋人の見たアイヌ民族―

第2回
【開催日】1997年2月20日～21日
【主催者】上垣外憲一 (日文研助教授)
【テーマ】環太平洋圏における日本文化の成立過程とその展開―近代東アジア・日本相互イメージの研究―

第3回
【開催日】1997年3月17日～19日
【主催者】鈴木貞美 (日文研教授)
【テーマ】日本文化のセルフイメージの動態に関する学際的研究―人種・民族・国家、その研究の現在―

第5章

教育活動

1.大学共同利用機関を基盤とした大学院へ

大学共同利用機関は、個々の大学では維持が難しい施設や設備、大学間で共有することによってより有効に使われる情報、ある分野の研究についてネットワークの中心点としての役割を果たす組織、などを集約したもので、わが国の大学の研究者が共同で利用することを目的とした高等研究機関を目指すものである。こうした大学共同利用機関を中心にした研究機関を基盤として、わが国初の大学院だけの大学＝総合研究大学院大学が1988（昭和63）年10月に設立された（1989年4月から第一期生を受け入れ）。

総合研究大学院大学が基盤とする大学共同利用機関は、1971（昭和46）年発足の高エネルギー物理学研究所（現 高エネルギー加速器研究機構）を皮切りに、順次、自然科学系、人文科学系の大学共同利用機関が誕生していった。人文科学系では、1972（昭和47）年に創設された国文学研究資料館が最初である。2004（平成16）年4月の法人化以降は、「自然科学研究機構」、「人間文化研究機構」、「情報・システム研究機構」、「高エネルギー加速器研究機構」の4機構、16機関が設置されている。

日文研は、こうした4機構のうち、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国立国語研究所、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館とともに、人間文化研究機構の一翼を担っている。

大学共同利用機関である日文研が総合研究大学院大学の基盤機関のひとつとして、「国際日本研究専攻」を担い、文化科学研究科に参加することになったのは1992（平成4）年4月であった。これにより、日文研は研究機関としてだけでなく、教育機関（大学院教育）としての機能も併せ持つことになったのである。

2.「国際日本研究」に特化した専門大学院

(1) 総合性を備えた研究者の育成をめざして

日文研が総合研究大学院大学の基盤機関として担う教育・研究指導分野（専攻）は、「国際日本研究」である。

本専攻は、共通必修科目として「日本研究基礎論」「学際研究論」「論文作成指導」を置き、国際的な立場から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っている。また、選択科目では、日文研の特質を生かして、シンポジウムや各種セミナー、共同研究会等の計画運営に参加することにより、その運営方法を体験実習していく。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の専攻を横断しうる総合性を備えた研究者の育成をめざしている。

(2) 複数教員指導体制

本専攻の指導上の特色は、主任指導教員のほかに2人の副主任指導教員を選び、複数教員指導体制をとっているところにある。しかも、学生は指定された指導教員以外の専攻教員や外国人研究員に随時相談することもできる。

また、教員が主宰する共同研究への参画や基礎領域研究などでの研鑽、その他のセミナーに参加することができ、こうした日文研（国際日本研究専攻）独特の研究環境のなか、学生は博士の学位取得をめざしている。

学位授与・取得状況は下記のとおりであり、1994（平成6）年以來18年間で51人（課程博士37人、論文博士14人）の学術博士が誕生した。

国際日本研究専攻における学位授与と学位取得状況（2011年9月30日現在）

●国際日本研究専攻の学位

国際日本研究専攻を修了した者には、博士の学位（学術）が授与された。

●年度別学位授与者数

年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	計
課程博士	1	2	4	2	3	1	1	3	2	4	6	0	0	3	1	3	1	0	37
論文博士	0	0	4	1	3	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	14	
計	1	2	8	3	6	2	1	4	2	4	7	1	1	3	1	3	1	1	51

●課程博士（1992年度入学）

氏名	論文題目	学位授与日
青木 淳	像内納入品資料に見る中世的「結衆」の特質 ―快慶作例を中心とする結縁交名の総合的研究―	1995年3月23日
禹鍾泰	異類婚譚にみる人格統合の象徴化―日本と韓国―	1996年3月21日

●課程博士（1993年度入学）

氏名	論文題目	学位授与日
銭国紅	世界像の形成―徳川日本と中国―	1996年3月21日
小林博行	食の思想・安藤昌益	1996年9月30日
津田順子	神歌の伝承と変成―沖縄県宮古島狩俣集落の事例から―	1997年3月24日

●課程博士（1994年度入学）

氏名	論文題目	学位授与日
小那覇・マリア・セシリア	アルゼンチンの日本人移民の歴史―自由移民と日系社会形成―	1997年3月24日
多田伊織	日本靈異記の研究	1997年3月24日
嘉本伊都子	「国際結婚」の歴史社会学的研究―1636～1899―	1997年9月30日
鈴木則子	日本近世社会と病―癩医学の展開をめぐる―	1997年9月30日

●課程博士（1995年度入学）

氏名	論文題目	学位授与日
加藤善朗	当麻曼茶羅講讃と中世浄土教	1999年3月24日
土居浩	無縁墓地の系譜	1999年3月24日
バルト・ガーンズ	The Organization of Merchant Houses in Tokugawa Japan ―a Comparison with the Low Countries―	1999年3月24日

●課程博士（1996年度入学）

氏名	論文題目	学位授与日
申昌浩	韓国的ナショナリズム形成における宗教と政治 ―東学・親日仏教・改新教（プロテスタント）の分析を通じて―	2000年3月24日
尾鍋智子	絶対透明の探究：遠藤高環著『写法新術』の研究	2001年9月28日
平井晶子	家とライフコースの歴史社会学 ―近世東北農村の歴史人口学的分析―	2002年3月22日

●課程博士（1997年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
戦晓梅	富岡鉄斎の画風についての思想的、藝術的考察 ―鉄斎画の賛文研究を通じて―	2001年3月23日
武内恵美子	歌舞伎演奏者の楽師論的研究―近世上方を中心として―	2004年9月30日

●課程博士（1998年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
唐権	海を越えた艶事―中国と日本の人的交流1684～1894―	2002年3月22日
小川順子	チャンバラ映画における「殺陣」	2004年3月24日
松村薫子	糞掃衣の研究―福田会の事例を中心に―	2004年3月24日
片平幸	〈日本庭園〉像の形成と解釈の葛藤： 英語圏の眼差しと日本側の応答（1868～1940）	2004年9月30日

●課程博士（1999年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
森本一彦	半檀家にみる「家」の歴史的展開―宗門改帳の数量的分析―	2003年3月24日
伊藤奈保子	インドネシア宗教史における鑄造像・法具の展開 ―日本との比較―	2004年9月30日

●課程博士（2000年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
永松敦	日本における狩猟民俗の生成と変遷に関する歴史民俗学的研究	2003年3月24日
伊東章子	科学・技術をめぐる言説の歴史的展開とナショナル・アイデンティティの変容―両大戦間期以降を概観して―	2003年9月30日
ウリケル・バハドゥルボアチ	NAPOLEON WARS AND INTERNATIONAL SYSYTEM: WITH SPECIAL REFERENCE TO THE OTTOMAN EMPIRE AND JAPAN	2005年3月24日

●課程博士（2001年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
那須浩郎	The origin and dispersal of agriculture in China and Japan -Archaeobotanical study of Chengtoushan site, Hunan, China-	2004年3月24日
岩井茂樹	歌道と茶道における恋歌の諸問題 ―その歴史的展開と社会的背景について―	2004年9月30日
中谷正和	物質文化から見た先史東アジアの調理技術―農耕社会成立期における中国大陸沿岸部と日本列島の事例を中心として―	2005年3月24日
武藤秀太郎	近代日本の社会科学と東アジア	2008年3月19日

●課程博士（2003年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
李偉	大名庭園の空間構成に関する研究 ―江戸時代の庭園における「眺望」―	2008年3月19日
堀まどか	野口米次郎―「二重国籍」詩人の生涯と作品世界―	2009年9月30日
戸矢理衣奈	「東京銀座資生堂」：福原信三と企業イメージの構築	2010年9月30日

●課程博士（2004年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
酒井順一郎	清国人日本留学生に於ける教育文化交流 ―宏文学院を中心にして―	2008年3月19日
澤田晴美	近代日本文化における伝統演劇と近松門左衛門 ―アカデミズム・劇評・役者の身体―	2009年3月24日

●課程博士（2005年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
中野洋平	信濃巫女の研究 ―近世日本における民間宗教者の存在形態とその形成―	2010年3月24日

●課程博士（2006年度入学）		
氏名	論文題目	学位授与日
梅定娥	「満洲国」文化人古丁の思想的変遷をさぐる ―翻訳、創作、出版―	2010年3月24日

●論文博士		
氏名	論文題目	学位授与日
王勇	聖徳太子と中国文化―歴史を動かした慧思後身説―	1996年9月30日
シワニ・ナンディ	Socio-Technological Issues of Technology Transfer : A Specific Case Study of the Maruti-Suzuki Collaboration	1997年3月24日
マノジ・L・シュレスタ	企業の多国籍化と技術移転―ポスト雁行形態の経営戦略―	1997年3月24日
鈴木貞美	梶井基次郎研究	1997年3月24日
伊藤賢次	東アジアにおける日本企業の経営 ―経営のグローバル化と「日本的経営」の移転―	1998年3月24日
北川勝彦	日本―南アフリカ通商関係史研究	1999年3月24日
胡口靖夫	近江朝と渡来人―百済鬼室氏を中心として―	1999年3月24日
高田康孝	生活文化と世相の変容にかんする研究 ―20世紀日本における高度経済成長期を中心にして―	1999年3月24日

●論文博士		
氏名	論文題目	学位授与日
濱口恵俊	日本研究原論―「関係体」としての日本人と日本社会―	1999年9月30日
チャオ埴原三鈴	Japan Literacy in Australia -A Changing Demand over Eighty Years-	2001年9月28日
北川淳子	The Nature and Development of Chestnut (Castanea crenata) and Horse Chestnut (Aesculus turbinata) Culture in Japan	2004年9月30日
岡村敬二	日満文化協会の歴史―創設から解散まで―	2006年3月24日
香川雅信	日本人の妖怪観の変遷に関する研究 ―近世後期の「妖怪娯楽」を中心に―	2006年9月29日
山口欧志	古代社会の景観考古学的研究 ―遺跡のデジタルドキュメンテーションと景観分析―	2011年9月30日

第6章

普及活動

国際日本文化研究センターが行おうとする研究活動、研究協力活動は、いうまでもなく、日本の社会との緊密な結びつきとその強い支持があつてこそ円滑に推進されるものである。そのためには、まず何よりも日文研の活動内容を広く一般に理解してもらふようにすることが大切である。日文研では、市民の立場から理解されやすいようにさまざまな工夫を凝らした普及活動を実施し、日文研の姿を知ってもらおうと努力している。

普及活動は、広く一般の人々に伝わるように、①公開講演会（学術講演会）、公開セミナーのような「聞く・聴く」こと、②学術雑誌（日本語と英語）の刊行といった「読む」こと、③施設や活動内容の一般公開などの「見る・観る」ことなどを通して実施している。

また、早くから「出前授業」のような学童に向けた普及活動なども開発し、地域社会への貢献活動にも力を注いでいる。

1. 公開講演会／公開セミナー／公開シンポジウム等

(1) 公開講演会（学術講演会）

公開講演会には、いくつかの種類がある。「国際研究集会」に代表されるような国際的で大規模な研究集会や記念行事の一環として同時開催される場合や、関東圏の人々への普及活動として開催する「東京講演会」、そして日文研内に講堂が竣工されて設備が整ったことにともない、定期的に開催されるようになった「学術講演会」などがある。

最初の公開講演会は、1988（昭和63）年3月9日に、第1回国際研究集会のメインイベントとして京都会馆を会場に開催された。講演者は、日文研の一般社会へ向けた初めての公開講演会であり、クロード・レヴィ＝ストロース（コレージュ・ド・フランス名誉教授）、ドナルド・キーン（日文研教授）、梅原猛（日文研所長）という著名な文化研究者を並べた。その後、国際研究集会のたびに集会のテーマに則した公開講演会が、ほぼ毎年開催されるようになっていった。

東京講演会は、1991（平成3）年6月27日の初開催以降、毎年1回、西日本以外での情報の中心地である東京での日本研究の発信という意味も込めて開催されてきた。総合テーマ「日本文化を考える」の下、日文研教員と日文研で研究している外国人研究者による講演が行われ、日本文化研究の国際性をアピールしている。

学術講演会は、京都・桂坂の日文研内の講堂で年間3回から4回の頻度で、一般市民向けに開催されている。初回は1995（平成7）年1月21日に開催され、梅原猛所長自らが「京の神と仏」という演題で講演した。以降、恒例行事として定着し、固定ファンも多くなっている。

(2) 公開セミナー

たんなる口頭のための講演ではなく、文化・芸術・芸能などの実演を伴ったものが公開セミナーである。原則として外部から出演者を招待し、そのパフォーマンス（映写、演奏、演舞、展示、時には講演などと多種多様）を素材に、教員が司会進行を務め、実演を含むより豊かな体験を通して日本文化の理解を深めてもらおうとして試みられてきたものであった。1994（平成6）年4月から2003（平成15）年12月まで、37プログラムが実施された。

(3) 公開シンポジウム等

シンポジウムは、通常は研究活動の一環として位置づけられるため、研究者や関連の専門家のみで開催されることが多い。しかし近年では、テーマの社会性や普遍性などから聴衆者として積極的に一般市民の参加を求めるようになってきた。日文研が実施してきたこうした公開型のシンポジウム等には、以下のようなものがある。

伝統的な日本文化が継承されている京都という立地特性を生かして、伝統文化芸術

の研究プロジェクトを発足させて、その研究成果発表として市民参加の公演会なども開催してきた。

また、同じ京都市に所在する大学共同利用機関である総合地球環境学研究所（地球研）とのコラボレーションで、地球環境と人間文化との連関を追究する合同シンポジウムを2008年6月から毎年実施している。

2. 出版活動

(1) 定期刊行物の発行

普及活動のもう一つの柱が、各種の出版活動である。そのなかで、研究成果を定期的に発表している定期刊行物には次のようなものがある。

◇(紀要)『日本研究』

1989（平成元）年創刊、通常年2回刊行である。当初は紀要としての性格をもち、専任教員、客員教員、共同研究員、外国人日本研究者等の研究成果の発表の場とされてきたが2002（平成14）年からは、担当編集者の査読によって合格した原著論文を掲載している。

◇JAPAN REVIEW: Journal of the International Research Center for Japanese Studies

1990（平成2）年創刊、年1回刊行。過去と現在の日本文化の研究に関わっている方の優れた研究論文、研究ノート、書評のほか、日本関連の貴重な原稿の翻訳等を収録する英文学術誌。審査委員による査読を経て掲載している。

◇『日文研』

1988（昭和63）年創刊、年2回発行。日文研の和文広報誌。専任教員や外国人研究員等のエッセイ、日文研の研究活動、研究協力活動の報告、共同研究便りなどを掲載している。

◇Nichibunken Newsletter

1988（昭和63）年創刊、年4回発行。日文研の研究活動、研究協力活動に関するエッセイ、催しものなどの情報を、世界中の日本研究機関に提供する英文広報誌である。

(2) シリーズ刊行物の刊行

◇日文研叢書

専任教員、客員教員等の執筆による個人研究や共同研究の成果をまとめた論文集のほか、貴重資料集成なども含まれる。

◇共同研究報告書

共同研究の総括報告書は、かなりの割合で商業出版社によって刊行されている。しかし、「日文研叢書」として通し番号がついた共同研究報告書は、商業出版も含まれるが、編集は日文研が独自に行って出版したものである。

◇国際研究集会報告書

国際研究集会において発表・討議された内容を収録した報告書。

◇海外シンポジウム報告書

海外で行われた国際シンポジウムの内容を取りまとめた報告書。

◇「日文研フォーラム」報告書

「日文研フォーラム」で発表された外国人研究者の口述を記録・編集した報告書。

3.一般公開／出前授業

(1) 一般公開

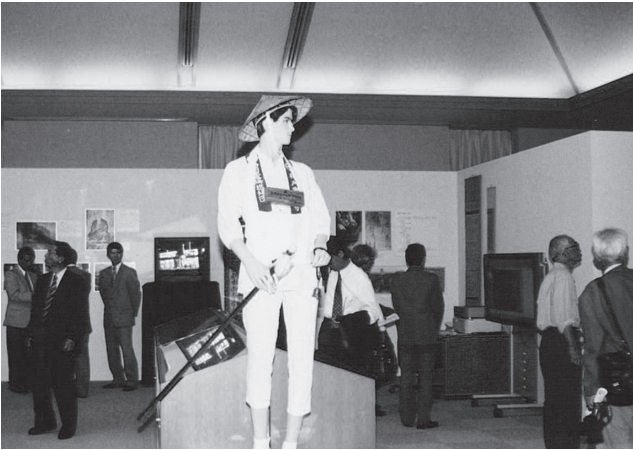
一般の方々への日文研の活動内容紹介を、施設の公開や展示、講演などを織り交ぜ、毎年10月下旬から11月初旬の1日を「オープンハウス」形式で実施している。1991（平成3）年から始まった年中行事で、公開施設は講堂、図書館、展示室、セミナー室など。講堂では日本文化講演会、展示室では珍しい書籍や資料の展示などが行われてきた。近年は、ミニシンポジウムやプレゼントコーナーを設けたりして、さまざまな工夫を凝らした企画が登場するようになっていく。

(2) 出前授業

日文研施設に隣接している京都市立桂坂小学校に、教員が出向いて授業サービスをする社会貢献活動である。桂坂小学校の当時の校長の依頼がきっかけで、1996（平成8）年秋から始まった。対象は、5～6年生で、8～10人の日文研教員（時には外国人研究員も含む）がそれぞれの専門に関する研究成果や研究のエピソードなどを分かりやすく講義している。地域の子どもたちに、学ぶ楽しさを体験してもらうとともに、こうした活動をととして日文研が一般市民に一層身近に感じられることを願っている。



一般公開 所蔵資料の展示(1992年)



一般公開研究活動展示「四国遍路の世界」(1999年)



一般公開小学生の来場者の質問に答える赤澤教授(1999年)



一般公開教員によるセンター施設案内(2010年)



桂坂小学校出前授業千田教授(2006年)



桂坂小学校出前授業井上教授(2008年)

東京講演会の記録

開催場所は、すべて東京・有楽町マリオン。

第1回

【開催日】1991年6月27日

【発表者・テーマ】梅原猛（日文研所長）「森の文化と日本」、飯田経夫（日文研教授）「日本の経済と文化」、エドワード・サイデンステッカー（コロンビア大学名誉教授）「世界文学の中の源氏物語」

【司会】中西進（日文研教授）

第2回

【開催日】1992年5月28日

【発表者・テーマ】河合隼雄（日文研教授）「物語における男性と女性」、アドリアナ・ボスカロ（ヴェニス大学教授）「The Enchantment of a Myth—Tanizaki’s fictional West—（幻の西洋をあこがれて ―谷崎潤一郎の世界―）」、埴原和郎（日文研教授）「日本人の起源」

【司会】中西進（日文研教授）

第3回

【開催日】1993年6月5日

【発表者・テーマ】中西進（日文研教授）「永遠について」、ベルナール・フランク（コレージュ・ド・フランス教授）「法隆寺金堂の勢至菩薩と鎌倉初期の宗教」、山折哲雄（日文研教授）「親鸞と道元」

【司会】久野昭（日文研教授）

第4回

【開催日】1994年6月4日

【発表者・テーマ】速水融（日文研教授）「文化の人口 ―歴史人口学の世界―」、オーテス・ケーリ（同志社大学名誉教授）「京住み45年」、梅原猛（日文研所長）「法然について」

【司会】杉本秀太郎（日文研教授）

第5回

【開催日】1995年6月9日

【発表者・テーマ】園田英弘（日文研教授）「首都とミヤコ」、セップ・リンハルト（ウィーン大学教授／日文研客員教授）「日本文化の遊びの性格」、芳賀徹（日文研教授）「女たちの大正・昭和」

【司会】杉本秀太郎（日文研教授）

第6回

【開催日】1996年6月13日

【発表者・テーマ】ジェイ・ルービン（ハーバード大学教授／日文研客員教授）「村岡上図春圃樹」、木村汎（日文研教授）「共産主義の復活? ―大統領選とロシア―」

【司会】飯田経夫（日文研教授）

第7回

【開催日】1997年6月7日

【発表者・テーマ】陳生保（上海外国語大学教授／日文研客員教授）「上海と日本の作家たち」、尾本恵子（日文研教授）「日本人の由来を探る」

【司会】千田稔（日文研教授）

第8回

【開催日】1998年6月13日

【発表者・テーマ】ビン・シン（アルバータ大学教授／日文研客員教授）

「東西文化における明治日本の意義」、千田稔（日文研教授）「卑弥呼、あなたの邪馬台国は」

【司会】園田英弘（日文研教授）

第9回

【開催日】1999年5月29日

【発表者・テーマ】エドウィン・A・克蘭ストン（ハーバード大学教授／日文研客員教授）「標準／豹準：詩歌の訳」、石井紫郎（日文研教授）「神の裁きと人の裁き―神判と拷問の間について考える―」

【司会】井波律子（日文研教授）

第10回

【開催日】2000年6月3日

【発表者・テーマ】赤澤威（日文研教授）「モンゴロイドの潮流と日本人」、アレキサンダー・ニコラエヴィッチ・メシュリヤコフ（ロシア科学アカデミー上級研究員、日文研客員助教授）「日本とロシア文化の対比―体験私論―」

【司会】小松和彦（日文研教授）

第11回

【開催日】2001年6月2日

【発表者・テーマ】ポール・グローナー（ヴァージニア大学宗教学科教授、日文研外国人研究員）「仏教の戒律とは何か」、鈴木貞美（日文研教授）「レモンの爆弾はゆっくり破裂した―梶井基次郎生誕百年に寄せて―」

【司会】頼富本宏（日文研教授）

第12回

【開催日】2002年6月1日

【全体テーマ】『日本文明のフロンティア』

【発表者・テーマ】山折哲雄（日文研所長）「宗教と日本文明」、安田喜憲（日文研教授）「森と日本文明 ―森の環境国家論―」、川勝平太（日文研教授）「海と日本文明―西太平洋津々浦々連合論―」

【司会】白幡洋三郎（日文研教授）

第13回

【開催日】2003年6月7日

【発表者・テーマ】デビッド・ハウエル（プリンストン大学準教授、日文研外国人研究員）「悪者たちの明治維新」、井上章一（日文研教授）「人形に日本を読む」

【司会】稲賀繁美（日文研助教授）

第14回

【開催日】2004年6月5日

【発表者・テーマ】合庭惇（日文研教授）「情報の新しい形：デジタル文化のゆくえ」、李御寧（梨花女子大学校名誉教授、日文研外国人研究員）「日本の怨（オン）、韓国の恨（ハン）―『忠臣蔵』と『春香伝』を中心に―」

【司会】マルクス・リュッターマン（日文研助教授）

第15回

【開催日】2005年7月2日

【発表者・テーマ】イアン・ジェームズ・マクマレン（オックスフォード大学ペンブロークカレッジ教授、日文研外国人研究員）「徳川時代の孔子祭」、片倉もとこ（日文研所長）「多文化国家ニッポン―文化移動の時代に―」

【司会】今谷明（日文研教授）

第16回

【開催日】2006年6月3日

【発表者・テーマ】細川周平（日文研教授）「日本語の起原はソビ語? 日系ブラジル人の幻想言語学」、アンドリュウ・ガーストル（ロンドン大学SOAS教授、日文研外国人研究員）「女形の身体を描く―浮世絵の肉体表現を問う―」

【司会】池内恵（日文研助教授）

第17回

【開催日】2008年6月7日

【発表者・テーマ】マイク・モラスキー（ミネソタ大学アジア言語・文学学科教授、日文研外国人研究員）「日本のジャズ喫茶文化―反懐古趣味の視点―」、笠谷和比古（日文研教授）「武士道と現代」

【司会】細川周平（日文研教授）



第1回東京講演会(1991年)

第18回

【開催日】2009年6月6日

【発表者・テーマ】趙政男（高麗大学校政治外交学科教授、日文研外国人研究員）「新世紀の生存論理―グローバルゼーションと民族問題―」、末本文美士（日文研教授）「日本の仏教を見直す」

【司会】宇野隆夫（日文研教授）

第19回

【開催日】2010年6月5日

【発表者・テーマ】黄自進（〈台湾〉中央研究院近代史研究所研究員（教授）、日文研外国人研究員）「蒋介石と日本―友と敵の狭間で―」、牛村圭（日文研教授）「石原莞爾と東京裁判―満州事変主役はなぜ裁かれなかったのか―」

【司会】劉建輝（日文研准教授）



第5回東京講演会(1995年)

学術講演会の記録

開催場所は、すべて日文研ホール。

第1回

【開催日】1995年1月21日

【発表者・テーマ】梅原猛（日文研所長）「京の神と仏」

【司会】芳賀徹（日文研教授）

第2回

【開催日】1995年3月2日

【発表者・テーマ】伊東俊太郎（日文研教授）「日本思想を貫くもの」、中西進（日文研教授）「現代文明と古代」

【司会】芳賀徹（日文研教授）

第3回

【開催日】1995年3月9日

【発表者・テーマ】村井康彦（日文研教授）「日本の王権」、速水融（日文研教授）「人口変動にみる近世日本」

【司会】山折哲雄（日文研教授）

第4回

【開催日】1995年7月8日

【発表者・テーマ】山田慶兒（日文研教授）「『作ること』と『作られた物』—明治維新と洋務運動にみる技術移転の二つの型—」、河合隼雄（日文研所長）「王朝文学における夢について—濱松中納言と更級日記を中心に—」

【司会】木村汎（日文研教授）

第5回

【開催日】1995年12月13日

【発表者・テーマ】落合恵美子（日文研助教授）「戦後家族への疑問」、濱口恵俊（日文研教授）「『日本らしさ』とは何か—日本研究パラダイムの革新を求めて—」

【司会】園田英弘（日文研教授）

第6回

【開催日】1996年3月22日

【発表者・テーマ】辻惟雄（日文研教授）「インド美術をかいま見る」、杉本秀太郎（日文研教授）「『平家物語』について」

【司会】芳賀徹（日文研教授）

第7回

【開催日】1996年7月16日

【発表者・テーマ】タチヤーナ・L・ソコロワ=デリュシナ（翻訳家／日文研来訪研究員）「胸より胸に—日本の恋の歌について—」、井波律子（日文研教授）「歴史と物語—『三国志』と『三国志演義』—」

【司会】光田和伸（日文研助教授）

第8回

【開催日】1997年3月14日

【発表者・テーマ】山折哲雄（日文研教授）「芭蕉について」、濱口恵俊（日文研教授）「人間（じんかん）の学としての日本研究—人間=関係体モデルの可能性—」

【司会】飯田経夫（日文研教授）

第9回

【開催日】1997年3月22日

【発表者・テーマ】山田慶兒（日文研教授）「水運儀象台—11世紀中国の天文観測時計塔—」、芳賀徹（日文研教授）「夏日漱石の美しい小島—『永日小品』を読む—」

【司会】尾本恵市（日文研教授）

第10回

【開催日】1997年7月3日

【発表者・テーマ】笠谷和比古（日文研教授）「徳川家康と京都」、石井紫郎（日文研教授）「『カエサルのは物はカエサルへ』の租税法文化」

【司会】落合恵美子（日文研助教授）

第11回

【開催日】1997年12月4日

【発表者・テーマ】小松和彦（日文研教授）「妖怪と日本文化—その変遷と意味を探る—」、赤澤威（日文研教授）「起源—現代人と日本人と—」

【司会】栗山茂久（日文研助教授）

第12回

【開催日】1998年3月10日

【発表者・テーマ】鶴田欣也（ブリティッシュ・コロンビア大学名誉教授／日文研客員教授）「谷崎潤一郎の美の世界—西洋巡礼と日本帰帰—」、飯田経夫（日文研教授）「経済学の終わり」

【司会】木村汎（日文研教授）

第13回

【開催日】1998年7月9日

【発表者・テーマ】白幡洋三郎（日文研教授）「かくされた庭園の『美』」、鈴木貞美（日文研教授）「谷崎潤一郎を読み直す—なぜ、文学史は書き換えられなければならないか—」

【司会】山田奨治（日文研助教授）

第14回

【開催日】1998年11月26日

【発表者・テーマ】川勝平太（日文研教授）「ガーデンアイランズ（庭園の島）日本」、頼富本宏（日文研教授）「マンダラ思想の再解釈—共生の可能性を求めて—」

【司会】光田和伸（日文研助教授）

第15回

【開催日】1999年3月23日

【発表者・テーマ】井波律子（日文研教授）「中国古典小説のヒロイン像」、尾本恵市（日文研教授）「自然・ヒト・文化—私の学際研究奮戦記—」

【司会】小松和彦（日文研教授）

第16回

【開催日】1999年7月6日

【発表者・テーマ】早川間多（日文研助教授）「蕪村と春信—雅俗一体—」、村松岐夫（日文研教授）「日本政治の連続と飛躍」

【司会】松田利彦（日文研助教授）

第17回

【開催日】1999年9月6日

【発表者・テーマ】井上章一（日文研助教授）「日本文化とキリスト教」、木村汎（日文研教授）「日本とロシア—なぜ遠い隣人なのか?—」

【司会】渡邊雅子（日文研助教授）

第18回

【開催日】2000年3月8日

【発表者・テーマ】光田和伸（日文研助教授）「恋の隠し方」、ジェームズ・バクスター（日文研教授）「アメリカから見た日本企業の20世紀」

【司会】劉建輝（日文研助教授）

第19回

【開催日】2000年7月14日

【発表者・テーマ】稲賀繁美（日文研助教授）「ファン・ゴッホと近代東アジア」、宇野隆夫（日文研教授）「ユーラシア大陸の中の日本海運史」

【司会】安田喜憲（日文研教授）

第20回

【開催日】2000年12月11日

【発表者・テーマ】山田奨治（日文研助教授）「デジタル社会のジャポニズム」、合庭惇（日文研教授）「情報社会の行方」

【司会】赤澤威（日文研教授）

第21回

【開催日】2001年3月7日

【発表者・テーマ】栗山茂久（日文研助教授）「『時は金なり』という文化史のなぞ」、石井紫郎（前日文研教授／総合科学技術会議議員）「日本の歴史叙述の伝統—『太平記』の世界の背景—」

【司会】渡邊雅子（日文研助教授）

第22回（河合隼雄先生退官記念講演会）

【開催日】2001年6月28日

【発表者・テーマ】河合隼雄（日文研前所長）「物語を仕掛ける悪」

【司会】小松和彦（日文研教授）

第23回

【開催日】2001年7月12日

【発表者・テーマ】渡邊雅子（日文研助教授）「納得のスタイルの日米比較」、白幡洋三郎（日文研教授）「土地の物語—『名所図会』を見る、読む、塗る—」

【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第24回（木村汎教授・頼富本宏教授退官記念講演会）

【開催日】2002年3月5日

【発表者・テーマ】頼富本宏（日文研教授）「マンダラに見る文化的変容—インド・中国・日本の心—」、木村汎（日文研教授）「ブーチンの対日政策を決めるもの」

【司会】合庭惇（日文研教授）

第25回

【開催日】2002年7月10日

【発表者・テーマ】松田利彦（日文研助教授）「戦後日本社会と『朝鮮学校』」、猪木武徳（日文研教授）「日本の大卒ホワイトカラーの人材形成—米・独と比較する—」

【司会】パトリシア・フィスター（日文研助教授）

第26回

【開催日】2003年1月16日

【発表者・テーマ】森洋久（日文研助教授）「天と地」、園田英弘（日文研教授）「地球が丸くなる時—グローバリズムの起源—」

【司会】宇野隆夫（日文研教授）

第27回

【開催日】2003年3月7日

【発表者・テーマ】テモテ・カーン（日文研助教授）「『異教徒』から『日本人』へ—変わりゆく宣教師の視線—」、井波律子（日文研教授）「中国・物語世界の道化役者（トリックスター）」

【司会】鈴木貞美（日文研教授）

第28回

【開催日】2003年4月25日

【発表者・テーマ】マルクス・リュッターマン（日文研助教授）「『畏まりました・恐れ入ります』日本修辭に於ける礼儀と恐怖の史的考察」、笠谷和比古（日文研教授）「徳川幕府四百年」

【司会】光田和伸（日文研助教授）

第29回

【開催日】2003年7月24日

【発表者・テーマ】佐藤卓己（日文研助教授）「戦後世論の古層—お盆ラジオと玉音放送—」、ジェームズ・バクスター（日文研教授）「近代日本について語る時に我々が語ること—最近のアメリカ刊行物における歴史叙述—」

【司会】千田稔（日文研教授）

第30回

【開催日】2003年12月15日

【発表者・テーマ】パトリシア・フィスター（日文研助教授）「アーティストとしての尼僧—近世尼門跡における宗教活動と芸術の接点—」、赤澤威（日文研教授）「シリアを歩んだ30年：中東の嵐を考える」

【司会】劉建輝（日文研助教授）

第31回

【開催日】2004年7月9日

【発表者・テーマ】劉建輝（日文研助教授）「近代中国文化と日本」、今谷明（日文研教授）「峰々堂と峰々城（法華山寺址）について」

【司会】フレデリック・クレインス（日文研助手）

第32回

【開催日】2004年10月22日

【発表者・テーマ】池内恵（日文研助教授）「ジハードの思想—文明間の衝突は不可避か?—」、小松和彦（日文研教授）「水木しげるの妖怪画をめぐって」

【司会】猪木武徳（日文研教授）

第33回

【開催日】2005年3月24日

【発表者・テーマ】細川周平（日文研助教授）「小唄映画の文化史—サイレント末期の流行歌と映画について—」、栗山茂久（日文研教授）「肩こりの謎—肉体の苦痛に潜む精神史—」

【司会】ジェームズ・バクスター（日文研教授）

第34回（山折哲雄先生退任記念講演会）

【開催日】2005年6月17日

【発表者・テーマ】山折哲雄（日文研前所長）「わが子を捨てたブッダ」

【司会】園田英弘（日文研副所長）

第35回

【開催日】2005年9月28日

【発表者・テーマ】山田奨治（日文研助教授）「石庭はきれい?」、稲賀繁美（日文研教授）「岡倉天心とインド」

【司会】細川周平（日文研助教授）
第36回
【開催日】2006年2月22日
【発表者・テーマ】牛村圭（日文研助教授）「『三四郎』の運動会—近代日本オリンピックへの道—」、宇野隆夫（日文研教授）「シルクロード東のハブと西のハブ—西安とサマルカンド—」
【司会】松田利彦（日文研助教授）
第37回
【開催日】2006年7月10日
【発表者・テーマ】渡邊雅子（日文研助教授）「フルビエールの丘から—リヨンの学校文化とフランスの思考表現スタイル—」、白幡洋三郎（日文研教授）「島台について—場の日本文化—」
【司会】川勝平太（日文研教授）
第38回
【開催日】2006年9月26日
【発表者・テーマ】松田利彦（日文研助教授）「選挙に行った朝鮮人—戦前の在日朝鮮人と参政権—」、園田英弘（日文研教授）「忘年会は世界にあるか」
【司会】安田喜憲（日文研教授）
第39回
【開催日】2007年2月20日
【発表者・テーマ】テモテ・カーン（日文研助教授）「『近代キリスト教』の日本受容—その一考察—」、早川閑多（日文研教授）「舟木本『洛中洛外図』に見る400年前の京都—その絵師は何を見つめ、何を描きとめたか—」
【司会】牛村圭（日文研助教授）
第40回
【開催日】2007年7月13日
【発表者・テーマ】ブラットゥ・アブラハム・ジョージ（ジャワハルラル・ネルー大学準教授／日文研外国人研究員）「宮沢賢治の作品に見られる『自己犠牲の精神』『不殺生』と『菜食主義』—インド人の観点から—」、鈴木貞美（日文研教授）「21世紀の生命観を求めて—重層する危機のなかで—」
【司会】バトリシア・フィスター（日文研准教授）
第41回
【開催日】2007年11月16日
【発表者・テーマ】新井葉穂子（日文研准教授）「科学へのまなざし—ことばの視点から日本の近代科学を考える—」、安田喜憲（日文研教授）「日本神話と長江文明」
【司会】フレデリック・クレインス（日文研准教授）
第42回（千田稔教授・今谷明教授退任記念講演会）
【開催日】2008年3月13日
【発表者・テーマ】今谷明（日文研教授）「中世史研究40年—天皇家はなぜ続いてきたのか—」、千田稔（日文研教授）「世界地図に日本像はどのように認識されてきたか」
【司会】小松和彦（日文研教授）
第43回
【開催日】2008年9月18日
【発表者・テーマ】山田奨治（日文研准教授）「『文学の所有』をめぐる、ひとつの物語」、猪木武徳（日文研所長）「福沢諭吉の倫理観における『公』と『私』」
【司会】笠谷和比古（日文研教授）

第44回
【開催日】2008年11月27日
【発表者・テーマ】マルクス・リュッターマン（日文研准教授）「マドレーヌ・ド・スキュデリ（1607～1701）と鶴殿余野子（1729～88）—近世女性作家の書簡感性をめぐって—」、バトリシア・フィスター（日文研教授）「江戸時代の比丘尼御所の世界—信仰に身を投じた四人の皇女たち—」
【司会】宇野隆夫（日文研教授）

第45回（井波律子教授・合庭惇教授退任記念講演会）
【開催日】2009年3月11日
【発表者・テーマ】合庭惇（日文研教授）「ハイデガーとマクルーハン—技術とメディアへの問い—」、井波律子（日文研教授）「中国の五大小説」
【司会】鈴木貞美（日文研教授）

第46回
【開催日】2009年9月30日
【発表者・テーマ】瀧井一博（日文研准教授）「立憲政治と政党政治—伊藤博文の遺産—」、細川周平（日文研教授）「日系ブラジル人の短歌と俳句」
【司会】山田奨治（日文研准教授）

第47回（ジェームズ・バクスター教授退任記念講演会）
【開催日】2010年3月16日
【発表者・テーマ】稲賀繁美（日文研教授）「欧米で日本陶磁器はいかに愛好されたか?—19世紀後半の趣味の変貌と、世紀末芸術の誕生—」、ジェームズ・バクスター（日文研元教授）「価値観と報酬—野球、経営、教育の日米比較—」
【司会】バトリシア・フィスター（日文研教授）

第48回
【開催日】2011年3月10日
【発表者・テーマ】倉本一宏（日文研教授）「京都・1011年—一条天皇最期の日々—」、戸部良一（日文研教授）「欧州情勢は「複雑怪奇」だったのか?—独ソ不可侵協定締結と日本—」
【司会】稲賀繁美（日文研教授）

第49回
【開催日】2011年9月29日
【発表者・テーマ】郭南燕（日文研准教授）「小笠原諸島の自然と文化—世界遺産から未来へ—」、伊東貴之（日文研教授）「明清交替と東アジア」
【司会】鈴木貞美（日文研教授）

公開講演会の記録

開催場所は、表記のないものはすべて日文研ホール。

特別公開講演会
【開催日】1988年11月24日
【発表者・テーマ】ドナルド・キーン（日文研教授）「平安時代後期物語の新しさ」
【場所】京都エミナース

公開講演会『日本の語り物、世界の語り物』
【開催日】1997年3月16日
【発表者・テーマ】李御寧（韓国梨花女子大学碩学教授）「語り物としてのパンソリ」、河合準雄（日文研所長）「物語と現代」
【司会】芳賀徹（日文研教授）

公開講演会『長江文明の探求（第1回）—稲作・土器・都市の起源—』
【開催日】1998年3月21日
【発表者・テーマ】梅原猛（日文研顧問）「長江流域における文明の発見」、厳文明（北京大学考古学系教授／日文研客員教授）「中国における稲作と土器の起源」、徐朝龍（日文研助教授）「中国における都市文明の起源」
【司会】安田喜憲（日文研教授）

公開講演会『文明のミレニアム大変動』
【開催日】2000年3月25日
【発表者・テーマ】Jörg F. W. Negendank（ボンダム地球学研究センター教授）「文明の興亡と環境変動」、安田喜憲（日文研教授）「B.C.3000年紀の長江文明の誕生」、Bas van GEEL（アムステル大学教授）「B.C.1000年紀の太陽活動は何をもたらしたか?」、Björn E. BERGLUND（ルンド大学教授）「A.D.1000年紀のヴァイキングの活躍とスカンジナビアの環境」、John R.FLENLEY（マッセー大学教授）「A.D.2000年紀に何が起こる? —イースター島からのメッセージ—」
【司会】安田喜憲（日文研教授）

公開講演会『人類文明史の再構築をめざして—長江文明の探求から—』
【開催日】2001年11月5日
【発表者・テーマ】梅原猛（日文研顧問）「長江文明の発見の意味するもの」、ハーベイ・バイス（イエール大学教授）「メソポタミア文明の人類文明史的位置」、グレゴリー・ボワセール（ペンシルバニア大学教授）「インダス文明の人類文明史的位置」、マイケル・オコーネル（アイルランド国立大学

教授）「ケルト文明の人類文明史的位置」、安田喜憲（日文研教授）「長江文明の人類文明史的位置」

パネルディスカッション：モデチャイ・スタイン（ヘブライ大学教授）、園田英弘（日文研教授）、川勝平太（日文研教授）「人類文明史の再構築—長江文明は文明か?—」、山折哲雄（日文研所長）「国際日本文化研究センターにおける文明研究の新たな展開」
【司会】安田喜憲（日文研教授）

公開講演会『日中関係の20世紀を振り返る』
【開催日】2002年1月25日
【発表者・テーマ】厳安生（北京日本学研究中心教授）「人物往還の近代—黄遵憲から創造社へ—」、山折哲雄（日文研所長）「日中関係の千年と百年」
【司会】劉建輝（日文研助教授）

公開講演会『環太平洋の環境文明史』
【開催日】2010年5月15日
【発表者・テーマ】【基調講演】鈴木寛（文部科学副大臣）「日本文明の新たな未来」、安田喜憲（日文研教授）「環太平洋の生命文明圏—長江文明から環太平洋文明へ—」、中川毅（英国・ニューカッスル大学教授）「5万枚の綿と50万粒の粒子を数える—高分解能古気候復元の最先端—」、青山和夫（茨城大学教授）「環太平洋の環境文明史—マヤ文明の興亡と歴史的教訓—」
【司会】中井徳太郎（財務省理財局計画官）、岸本吉生（経済産業省中小企業庁経営支援課長）、米延仁志（鳴門教育大学准教授）、坂井正人（山形大学教授）

公開講演会『太陽と古代文明』
【開催日】2010年12月3日
【発表者・テーマ】イングリーザ・スタイツ（ディスカバリー・プログラム研究員）「太陽・永遠の旅—先史時代スカンディナビアとドイツの宇宙観—」、マイケル・オコーネル（アイルランド国立大学教授）「アイルランドの太陽信仰」、安田喜憲（日文研教授）「長江文明の太陽信仰」、フェクリ・ハッサン（ロンドン大学名誉教授）「神々の起源—自然・政治・信仰—」、青山和夫（茨城大学教授）「マヤ文明とアステカ文明における太陽と暦」
【司会】安田喜憲（日文研教授）



特別公開講演会「平安時代後期物語の新しさ」（1988年）

公開セミナーの記録

開催場所は、すべて日文研ホール。

第1回

【主題】世界にひろがる日本美術―海外調査の成果をもとに―

【開催日／内容】

1994年4月28日 「ロシア・東ヨーロッパの日本美術コレクション」

別役恭子（日文研寄附研究部門教授）、早川閑多（日文研助教授）、
パトリシア・フィスター（日文研寄附研究部門教員）

1994年5月7日 「眼に見える日本」

別役恭子、早川閑多、白幡洋三郎（日文研助教授）、パトリシア・フィスター
1994年5月14日 「世界にひろがる日本美術―ジャポニズムから現代へ―」
辻惟雄（日文研教授）、芳賀徹（日文研教授）、白幡洋三郎、深井見子
（京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター）

【司会】芳賀徹

第2回

【主題】京都1200年の文化史

【開催日／内容】

1994年7月2日 「遷都とは何か」村井康彦（日文研教授）

1994年7月9日 「都市文化を考える」村井康彦

【司会】井上章一（日文研助教授）、白幡洋三郎（日文研助教授）

第3回

【主題】共同討議・都市と建築―西洋と日本を見くらべて―

【開催日／内容】

1994年11月12日

竹山聖（京大工学助教授）、若林広幸（建築家）、井上章一（日文研助教授）

1994年11月26日

内井昭蔵（建築家・京都大学教授）、出江寛（建築家）、芳賀徹（日文研教授）

【司会】芳賀徹、井上章一

第4回

【主題】唱歌にうたう日本の四季

【開催日】1995年4月22日

【内容】

講演（対談）：廣瀬量平（京都市立芸術大学音楽学部長）、芳賀徹（日文研教授）

独唱・重唱：蔵田裕行（京都市立芸術大学教授）、常森壽子（京都市立芸術大学教授）、三井ツヤ子（京都市立芸術大学助教授）、手島孝教（京都市立芸術大学助教授）

ピアノ：山上友佳子（京都市立芸術大学講師）

【司会】上垣外憲一（日文研助教授）

第5回

【主題】現代藝術とアジアI―現代美術家郭徳俊の世界―

【開催日】1995年7月22日

【内容】

講演（鼎談）：郭徳俊（現代美術作家）、建昌哲（美術評論家／多摩美術大学教授）、上垣外憲一（日文研助教授）

スライド・ビデオ上映及び作品展示

【司会】上垣外憲一

第6回

【主題】現代藝術とアジアII―映画監督 崔洋一の世界―

【開催日】1995年9月9日

【内容】

作品上映：崔洋一監督作品『月はどっちに出ている』

トークセッション：崔洋一（映画監督）、川村湊（文芸評論家・法政大学教授）、井上章一（日文研助教授）

【司会】芳賀徹（日文研教授）

第7回

【主題】現代藝術とアジアIII―わが愛するアジア美術―

【開催日】1996年2月3日

【内容】

パネルディスカッション：「日本の美術館と今後のアジア美術」酒井忠康（神奈川県立近代美術館長）、「現代アジア美術のタイプ」黒田雷児（福岡市美術館学芸員）、「アジア・日本の美術における現代性の概念」清水敏男（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）、「現代日本美術とアジア」千葉成夫（東京国立近代美術館主任研究官）

【司会】芳賀徹（日文研教授）、ジョン・クラーク（シドニー大学助教授／日文研客員助教授）

第8回

【主題】ジャズで語る映画と文学

【開催日】1996年5月25日

【内容】

ジャズ演奏：奥田章三カルテット〔（トランペット）奥田章三、（ドラムス）東敏之、（ピアノ）近秀樹、（ベース）魚谷のぶまさ]

鼎談：奥田章三、川本三郎（評論家）、鈴木貞美（日文研助教授）

【司会】井上章一（日文研助教授）

第9回

【主題】だれも文字など書いてはいない?―書之美 その原形・自然・基準・拡張―

【開催日】1996年9月7日

【内容】

講演：石川九楊（書家）

鼎談：石川九楊、杉本秀太郎（日文研教授）、井波律子（日文研教授）

【司会】白幡洋三郎（日文研教授）

第10回

【主題】今甦る縄文文化―縄文の映画・音楽・舞踏―

【開催日】1996年12月7日

【内容】

講演：「縄文文化の意味」梅原猛（日文研顧問）

縄文音楽演奏・舞踏：てん・仁智（箏演奏家）、雪雄子（舞踏家）

映画上映：縄文映画『一万年王国』（飯塚俊男監督作品）

【司会】安田喜恵（日文研教授）

第11回

【主題】近代日本の女たち―そのすがたと声―

【開催日】1997年1月18日

【内容】

講演：「マダムと女房 ―1930年代日本映画のなかの女たち―」今泉容子（筑波大学助教授）、「『太陽』のなかの女たち」張競（國學院大學助教授）、

「新しい女たちの詩歌」芳賀徹（日文研教授）

パネル討論：佐藤バーバラ（成蹊大学助教授）、辻原登（作家）、ヨコタ村上孝之（大阪大学助教授）、鈴木貞美（日文研教授）

【司会】落合恵美子（日文研助教授）

第12回

【主題】唱歌にうたう日本の風景

【開催日】1997年4月19日

【内容】

講演：廣瀬量平（京都市立芸術大学名誉教授／作曲家）

独唱・重唱：蔵田裕行（京都市立芸術大学音楽学部長）、北村敏則（京都市立芸術大学講師）、松室華子（京都市立芸術大学大学院生）、白川麻衣子（関西二期会オペラスタジオ研究生）

ピアノ演奏：山上友佳子（京都市立芸術大学講師）

【司会】上垣外憲一（日文研助教授）

第13回

【主題】江戸の舞踏会―貴婦人たちのコルセット―

【開催日】1997年9月27日

【内容】

講演：深井見子（京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター）

対談：深井見子、稲賀繁美（日文研助教授）

【司会】上垣外憲一（日文研助教授）

第14回

【主題】梁塵秘抄と平家物語の世界―今様歌と白拍子の舞―

【開催日】1997年11月15日

【内容】

講演：「やまとうたの心と形」松井榮一（京都教育大学名誉教授）

今様歌・白拍子舞：石原さつき（日本今様謡舞学会会長／二代目家元／日本今様謡舞学会会員）

創作演奏・舞踊：坂田美子（薩摩琵琶演奏家）、川勝康智也（せんしょう流三世）、千月玄秋（楽匠六代目）

【司会】早川閑多（日文研助教授）

第15回

【主題】シルクロードの音色

【開催日】1998年2月7日

【内容】

演奏等：プーリー・アナビアン（イランの民族楽器・サントゥール演奏家）、涂善祥（中国琵琶演奏家）、矢野留美（ソプラノ歌手）

講演：プーリー・アナビアン「サントゥールの歴史とペルシャの文化」、涂善祥「中国琵琶の響きは国境を越えて」

【司会】千田稔（日文研教授）

第16回

【主題】日本文化としての将棋

【開催日】1998年3月14日

【内容】

講演：「将棋の文化と21世紀の日本」米長邦雄（日本将棋連盟棋士九段／永世棋聖）

ビデオ・講演：「『ふたりっ子』のめざしたもの ―制作の意図と裏話―」、二瓶互（NHK大阪放送局芸能部チーフ・プロデューサー）

【司会】尾本恵子（日文研教授）

第17回

【主題】表現に国境はあるのか

【開催日】1998年5月9日

【内容】

映画上映：『萌の朱雀』

対談：仙頭直美（旧姓：河瀬）（映画監督）、井上章一（日文研助教授）

【司会】井上章一

第18回

【主題】夢か現か女形

【開催日】1998年8月8日

【内容】

講演（スライド）：「上方の役者絵―七代目・八代目片岡仁左衛門の絵姿―」松平進（甲南女子大学教授）

実演：「女形ができるまで―化粧から着付けまで―」「舞踊『藤娘』」片岡孝二郎（歌舞伎俳優）

【司会】早川閑多（日文研助教授）

第19回

【主題】今、花開く華道の美―華と音のファンタジー―

【開催日】1998年10月24日

【内容】

講演：「奥深き華の世界 ―嵯峨御流の華と美―」広安俊道（大覚寺事務長）

実演：「華の誕生 ―解説を添えて―」野口清楓（嵯峨御流華道総司所事務長）、長谷川喜州（嵯峨御流華道総司所理事）、「献華式 ―華道儀礼の神秘―」大本山大覚寺門跡・嵯峨御流華道総司所一同

【司会】頼富本広（日文研教授）

第20回

【主題】落語の魅力

【開催日】1999年2月20日

【内容】

講演：桂文喬（落語家）

対談：桂文喬、井上章一（日文研助教授）

【司会】井上章一

第21回

【主題】愛する人に『スロー・グッドバイ』 ―老いを美しく生きるために―

【開催日】1999年4月17日

【内容】

映画上映：『ユキエ』

講演：松井久子（映画監督）

コメント：シワニ・ナンディ（日文研共同研究員）

【司会】落合恵美子（日文研助教授）

第22回

【主題】仮面が踊る、仮面と戯れる ―韓国国のボンサン（鳳山）タルチュム―

【開催日】1999年11月6日

【内容】

講演：金基洙（韓国人間文化財：鳳山仮面舞踊保存会会員）

実演：鳳山仮面舞踊保存会（韓国重要無形文化財）

【司会】李応寿（日文研客員助教授）

第23回

【主題】講談とは何か

【開催日】1999年12月18日

【内容】

講演：「講談師が語る講談史」旭堂小南陵（講談師）

実演：「神道講釈『安倍晴明伝 幻術合戦の巻』」旭堂小南陵

鼎談：「講談よもやま話」旭堂小南陵、森田憲司（奈良大学教授）、小松和彦（日文研教授）

【司会】小松和彦

第24回
【主題】現代に響く中世の笑い
【開催日】2000年2月5日
【内容】
講演：「狂言ってこんなものですよ」大藏彌太郎（狂言師）
実演1：狂言『茶壺』大藏千太郎、大藏基誠、宮本昇、竹内寛
実演2：狂言『寝音曲』大藏彌太郎、大藏吉次郎、竹内寛
着付体験：狂言装束着付
【司会】テモテ・カーン（日文研助教授）

第25回
【主題】童謡の天体
【開催日】2000年5月13日
【内容】
講演：阪田寛夫（作家）
実演：川口京子（歌い手）、石川高（雅楽演奏家（笙））、中村仁美（雅楽演奏家（箏篋））、平井裕子（雅楽演奏家（横笛・ピアノ））
特別出演：河合隼雄（日文研所長（フルート））
【司会】森洋久（日文研助教授）

第26回
【主題】東西の息づかい―義太夫とピアノ曲の場合―
【開催日】2000年9月2日
【内容】
実演：（義太夫）「仮名手本忠臣蔵『裏門の段』」竹本駒輝（浄瑠璃）、鶴澤三寿々（三味線）
（ピアノ演奏）[J.S.バッハ 平均率クラヴィア曲集より その他]河野美砂子（ピアノ）
（三味線・ピアノ演奏）『川』鶴澤三寿々（三味線）、森洋久（ピアノ）
（義太夫）「仮名手本忠臣蔵『身売りの段』」竹本駒輝（浄瑠璃）、鶴澤三寿々（三味線）
座談会：竹本駒輝、鶴澤三寿々、河野美砂子、竹本春之助（口上）、森洋久
【司会】森洋久（日文研助教授）

第27回
【主題】古流弓術の世界
【開催日】2001年1月27日
【内容】
講演：「古流弓術の世界」入江康平（筑波大学教授）
実演：（演武）「日置流敵前射法」
1.腰矢単身 森俊男（筑波大学助教授）
2.腰矢組弓 佐藤明（東北大学助教授）、加賀勝（岡山大学助教授）、松尾牧則（国際武道大学講師）、松田義城（筑波大学学生）
座談会：入江康平、森俊男、佐藤明、加賀勝、松尾牧則
【司会】山田奨治（日文研助教授）

第28回
【主題】伝統の食文化
【開催日】2001年5月12日
【内容】
講演・実演：「料理と京文化」栗栖正博（京料理『たん熊』第三代目当主／池坊短期大学講師）、「和菓子と京文化」太田達（京菓子『老松』第四代目当主／京都女子大学講師）
鼎談：「食から見た日本文化」栗栖正博、太田達、早川聞多（日文研助教授）
【司会】木村汎（日文研教授）

第29回
【主題】音から探る縄文文化

【開催日】2001年10月6日
【内容】
講演：「縄文人にとっての音」廣瀬量平（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長）
対談：「日本各地に残る石笛を中心として」上杉紅童（高崎芸術短期大学客員教授）、廣瀬量平
実演：「縄文人のきいた音、奏でた音」廣瀬量平、上杉紅童、榑谷隆男（札幌篠路高等学校教諭）、辻健太郎（洗足学園大学）、千葉航（洗足学園）
【司会】笠谷和比古（日文研教授）

第30回
【主題】日本の伝統的食文化
【開催日】2002年3月23日
【内容】
第一部：「生間流式庖丁『神巖の鯉』」（庖丁人）小西將清（萬亀楼若主人）、（解説）小西重義（萬亀楼主人／生間流29代家元）
第二部：講演：「京料理以前の京料理―徳川時代における伝統的食文化―」エリック・ラス（カンザス大学助教授）
展示・解説：「小西家所蔵『寛永二条城行幸献立絵巻』」笠谷和比古（日文研教授）
【司会】笠谷和比古

第31回
【主題】着物に込められた日本の伝統文化
【開催日】2002年5月18日
【内容】
第一部：「歌や小説に表された着物」
第二部：「四季十二ヶ月と着物」
西田郁子（呉服に志田 若女将）、五十嵐猛（呉服に志田 取締役販売部長）
【司会】早川聞多（日文研教授）、山田奨治（日文研助教授）

第32回
【主題】剣をもって人を活かす：柳生新陰流兵法の世界
【開催日】2002年10月26日
【内容】
講演：「柳生新陰流兵法の歴史と特色」柳生延春（柳生新陰流第21世宗家）
演武：「柳生制剛流拔刀」「柳生新陰流兵法」柳生新陰流一門
【司会】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

第33回
【主題】若者達が造り出す和の世界―津軽の響き―
【開催日】2002年12月7日
【内容】
第一部：演奏・唄・トーク「津軽三味線・津軽民謡」
第二部：演奏「和の音色」来世楽～Rasera～京極あつこ（津軽三味線・唄）、京極ゆか（津軽三味線・唄）
独奏（こま）植木陽史（和太鼓・三味線）、瀧川佳宏（和太鼓・尺八）、原口朋丈（和太鼓・篠笛）、川口真満（琴）
【司会・トーク】井上章一（日文研教授）

第34回
【主題】
新町家山村流の上方舞―『葵上』から見えてくるもの―
【開催日】2003年1月25日
【内容】
第一部：実演「新町家山村流の『葵上』―初代山村友五郎の振付から―」（舞）山村嘉子（山村流新町家五世）、（演奏）杵屋禄三、杵屋禄宣、

（解説）山田和人（同志社大学教授）
第二部：トーク「上方舞と能」吉浪壽晃（能楽師）、山村嘉子、杵屋禄三、杵屋禄宣、佐藤卓己（日文研助教授）
【司会】佐藤卓己

第35回
【主題】武道の源流を訪ねる
【開催日】2003年5月17日
【内容】
講演：「天真正の由来と総合武術」大竹利典（天真正伝香取神道流師範）
演武：「居合術・剣術・棒術・薙刀術」天真正伝香取神道流（皆伝）京増重利、（免許）荒野祥司、（免許）成毛弘、（目録）土井研二、（目録）土井和子
【司会】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

第36回
【主題】痴果をみつめながら、生きることをみつめる
【開催日】2003年10月11日



第8回公開セミナー「ジャズで語る映画と文学」（1996年）

【内容】
講演：松井久子（映画監督）
映画上映：『折り梅』
【司会】井上章一（日文研教授）

第37回
【主題】宇宙と日本舞踊―イタリア、ドイツ、スイス公演を終えて―
【開催日】2003年12月6日
【内容】
第一部
舞：「鳥の歌」西川千麗（日本舞踊家）
対談：「日本文化と宇宙観」平林久（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部教授）、アレキサンダー・ベネット（日文研助手）
第二部
対談「ヨーロッパにおける日本舞踊の受容」西川千麗、平林久、アレキサンダー・ベネット
【司会】アレキサンダー・ベネット



第24回公開セミナー「現代に響く中世の笑い」（2000年）

文明研究プロジェクト公開講演会の記録

『「文明衝突」の回避の条件』

【開催日】2002年2月28日

【発表者・テーマ】山内昌之（東京大学大学院総合文化研究科教授）
「『文明の対話』におけるイスラーム世界」、中西輝政（京都大学総合人間学部教授）「21世紀の国際政治と文明対立」、川勝平太（日文研教授）
「日本文明—その可能性を探る—」

パネルディスカッション：山内昌之、中西輝政、川勝平太、（司会）園田英弘（日文研教授）、稲賀繁美（日文研助教授）

【場所】日文研ホール

【司会】園田英弘（日文研教授）

『環境と文明—21世紀における日本の役割—』（読売新聞社と共催）

【開催日】2002年5月11日

【発表者・テーマ】レスター・ブラウン（アース・ポリシィ・インスティテュート所長）「エコ経済：地球のための経済を構築する」

パネルディスカッション：レスター・ブラウン、梅原猛（日文研顧問）、

日高敏隆（総合地球環境学研究所所長）、山折哲雄（日文研所長）

【コーディネーター】園田英弘（日文研教授）

【場所】国立京都国際会館



シンポジウム「環境と文明—21世紀における日本の役割—」（2002年）



伝統文化芸術総合研究プロジェクト公演会の記録

開催場所は、すべて日文研ホール。

公演会『上原まり・須田誠舟 連琵琶(つればわ)—清盛(平家物語より)—』

【開催日】2005年10月13日

【内容】

趣旨説明：笠谷和比古（日文研教授）

実演：『清盛（平家物語より）連琵琶』（筑前琵琶）上原まり、（薩摩琵琶）須田誠舟、（横笛）西川浩平

【司会】笠谷和比古

講演会『邦楽と西洋音楽を超えて』

【開催日】2008年2月15日

【内容】

発表者・テーマ：笠谷和比古（日文研教授）「伝統文化と現代—多元的グローバリズムを目指して—」

ワークショップ：能管と西洋管弦楽との統合、そして超越（作曲／楽曲解説）

武内基朗（作曲家）、（コメンテーター）藤田隆則（京都市立芸術大学准教授）・細川周平（日文研教授）、（コーディネーター）笠谷和比古

【司会】フレデリック・クレインス（日文研准教授）

公演会『能楽囃子と西洋管弦楽との饗宴』

【開催日】2009年2月25日

【内容】

第一部：能楽囃子の伝統的演奏〔囃子方：（笛）杉信太郎、（小鼓）曾和尚靖、（大鼓）谷口有辞、（太鼓）前川光範、作曲：武内基朗〕

第二部：能楽囃子と西洋管弦楽との協奏

【趣旨説明・司会】笠谷和比古（日文研教授）



公演会「上原まり・須田誠舟連琵琶—清盛(平家物語より)—」（2005年）

公演会『二人のマリアと葵上』

【開催日】2009年11月27日

【内容】

趣旨説明：笠谷和比古（日文研教授）

鼎談：「二人のマリアと葵上における女性像」古澤佑峯（地歌舞古澤流家元）、上村敏文（日文研客員准教授／ルーテル学院大学准教授）、

笠谷和比古

実演：舞踊劇『マグダラのマリアと葵上』（新作）（舞）古澤佑峯、（演出・構成）上村敏文、（作曲）原夕輝、（披露）林香純（薫香・香雅流宗匠）、

（笛）雲竜、（ディジュリドゥ）KNOB、（アフリカ民族楽器）yasuski、

（協力）大内山香雅（薫香・香雅流家元）

【司会】笠谷和比古

音楽セミナー『謡曲と西洋管弦楽との協奏の試み —『平家物語』『祇園精舎』を主題として—』

【開催日】2010年2月17日

【内容】

第一部：（解説）笠谷和比古（日文研教授）／謡曲による『平家物語』『祇園精舎』

第二部：武内基朗（作曲家）／謡曲と西洋管弦楽による『平家物語』『祇園精舎』

【司会】笠谷和比古

公演会『能楽と西洋管弦楽との協奏—能「小鍛冶」を題材に—』

【開催日】2011年2月23日

【内容】

第一部：（解説）笠谷和比古（日文研教授）／能の構成と音楽的性格

第二部：竹内基朗（作曲家）／西洋管弦楽法による能「小鍛冶」



公演会「能楽囃子と西洋管弦楽との饗宴」（2009年）

日文研・地球研合同シンポジウムの記録

開催場所は、記載のないものはすべて日文研ホール。

第1回

【開催日】2008年6月21日

【講演会名】「山川草木の思想」―地球環境問題を日本文化から考える―

【発表者・テーマ】

講演：梅原猛（哲学者／日文研顧問）「天台本覚論と環境問題」

問題提起：佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）「地球環境問題の根源は農にある」

パネルディスカッション：「地球環境問題と日本」〔パネリスト〕門川大作

（京都市長）、小林隆彰（比叡山延暦寺長蘆）、猪木武徳（日文研所長）、

立本成文（総合地球環境学研究所所長）、小松和彦（日文研教授）

【場所】シルクホール（京都産業会館）

【司会】秋道智彌（総合地球環境学研究所副所長）

第2回

【開催日】2009年5月9日

【講演会名】『京都の文化と環境―水と暮らし―』

【発表者・テーマ】宇野隆夫（日文研教授）「京都盆地の地形環境を読む」、

白幡洋三郎（日文研教授）「京の庭園と水」、谷口真人（総合地球環境学

研究所教授）「京の人と水―涌水・地下水―」、秋道智彌（総合地球環境

学研究所教授）「京の水と暮らし」

ディスカッション：宇野隆夫、白幡洋三郎、谷口真人、秋道智彌

【司会】佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）

第3回

【開催日】2010年5月22日

【講演会名】『京都の文化と環境―森や林―』

【発表者・テーマ】山田勇（京都大学名誉教授／総合地球環境学研究所

共同研究員）「地球の森世界からみるモリの日本」、末本文美士（日文研

教授）「近代日本の自然観を反省する」

ディスカッション：山田勇、末本文美士、小松和彦（日文研副所長）、藤原

潤子（総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員）、村上由美子

（総合地球環境学研究所プロジェクト研究員）

【司会】秋道智彌（総合地球環境学研究所副所長）

第4回

【開催日】2011年5月21日

【講演会名】『環境問題はなぜ大事か―文化から見た環境と環境から見た文化―』

【発表者・テーマ】猪木武徳（日文研所長）「貿易と環境問題」、立本成文

（総合地球環境学研究所所長）「持続可能な発展を再考する：復旧・復興・

新興」、荒木浩（日文研教授）「煙たい月は泣いているのか?」、阿部健一

（総合地球環境学研究所教授）「人のいる自然・人のいない自然」

パネルディスカッション：〔パネリスト〕猪木武徳、荒木浩、立本成文、阿部

健一、〔討論進行〕佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所副所長）

【司会】白幡洋三郎（日文研教授）



第1回日文研・地球研合同シンポジウム
「山川草木の思想」(2008年)



第2回日文研・地球研合同シンポジウム
「京都の文化と環境―水と暮らし―」(2009年)

特別開催講演会の記録

開催場所は、記載のないものはすべて日文研ホール。

日文研講演会『能と文楽における「悲劇」―比較の立場から―』

【開催日】1989年5月27日

【発表者】アンドリュー・ガーストル（オーストラリア国立大学助教授／日文研

客員助教授）、ゲスト：竹本住大夫（人間国宝・人形浄瑠璃文楽大夫）

【場所】京都大学楽友会館

【司会】久野昭（日文研教授）

日文研講演会『「世界の古典としての「日本の古典」―説話文学を中心に―』

【開催日】1989年6月20日

【発表者】ロイヤル・タイラー（オスロ大学助教授／日文研客員教授）

【場所】国際交流基金 京都支部

【司会】久野昭（日文研教授）

国際日本文化研究センター創立10周年記念講演会

【開催日】1997年5月24日

【発表者・テーマ】梅原猛（日文研顧問）「歌舞伎と私」、ロイヤル・

タイラー（オーストラリア国立大学教授／日文研客員教授）「紫林細葉―

ある翻訳者のみた「源氏物語」―」

【司会】石井紫郎（日文研教授）

河合華雄所長朝日賞受賞記念講演会

【開催日】1998年3月26日

【発表者・テーマ】河合華雄（日文研所長）「臨床心理と日本文化」

【司会】石井紫郎（日文研教授）

梅原猛先生文化勲章受章記念講演会

【開催日】2000年2月17日

【発表者・テーマ】梅原猛（日文研顧問）「法然の哀しみ」

【司会】千田稔（日文研教授）

福岡講演会

【開催日】2000年11月29日

【発表者・テーマ】劉建輝（日文研助教授）「大陸アジアに開かれた日本」、

川勝平太（日文研教授）「海洋アジアに開かれた日本」

【場所】福岡市役所講堂

【司会】園田英弘（日文研教授）

速水融教授・河合華雄所長文化功労者顕彰記念講演会

【開催日】2001年2月14日

【発表者・テーマ】速水融（日文研名誉教授）「歴史人口学との出会い」、

河合華雄（日文研所長）「心理療法とイニシエーション」

【司会】笠谷和比古（日文研教授）

特別講演会『障害者への武道普及の可能性』

【開催日】2003年8月4日

【発表者・テーマ】

ポンタス・ヨハンソン（スウェーデン身体障害者武道協会設立者）「障害者

と武道」、村井正直（社会福祉法人わらしべ会理事長・医学博士）「脳性麻

痺で寝たきりになった身障児・者と柔道のであい」、松井完太郎（国際武道

大学助教授）「『日本における障害者への武道指導講習会』報告を通じて」

【司会】アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

日文研法人化記念シンポジウム 東アジア文明圏を考える

【開催日】2004年9月22日

【内容】「アジア人の元気の源」

挨拶：山折哲雄（日文研所長）

講演：邱国洪（中華人民共和国駐大阪総領事）「中日関係の未来は光明」、

稲盛和夫（京セラ株式会社名誉会長）「21世紀の日中の友好と経済発展」、

梅原猛（日文研顧問）「東アジア文明圏の意義」

司会：安田喜憲（日文研副所長）

【開催日】2004年9月23日

【内容】「アジア人の心の故郷」

講演：山折哲雄（日文研所長）「日・中・韓のブッダロード」、石川九楊（書

家／京都精華大学文字文明研究所所長）「東アジア・書字の文明」、李御寧

（元韓国文化大臣／日文研外国人研究員）「日・中・韓―『梅の文化圏』―」

司会：川勝平太（日文研副所長）

公開シンポジウム 21世紀の環境・経済・文明

【開催日】2005年3月27日

【内容】

問題提起：深野弘行（経済産業省大臣官房審議官（地球環境問題

担当））

基調講演：石弘之（北海道大学公共政策大学院教授）「21世紀のエコ

トピアとテクノトピア」

パネルディスカッション：今なぜ環境と経済そして文明なのか？

〔パネリスト〕石田秀輝（東北大学大学院環境科学研究科教授）

「ネイチャーミックスリーとエコトピア」、船橋洋一（朝日新聞コラムニスト）

「東アジア共同体―海からの視点―」、安田喜憲（日文研教授）「イースター島

モデルを超えて」

【司会】岸本吉生（経済産業省環境経済室長）

東京シンポジウム 斉藤次郎「二萌自叙伝」刊行記念―「雨ニモマケズ」の心を探る―

【開催日】2005年5月12日

【内容】

挨拶：山折哲雄（日文研所長）

シンポジウム：〔パネリスト〕赤坂憲雄（東北芸術工科大学教授／同学東北

文化研究センター所長）、武田清子（国際基督教大学名誉教授）、中村稔

（詩人／（財）日本近代文学館理事長）

【場所】有楽町朝日ホール

【司会】川勝平太（日文研副所長）

埴原和郎先生追悼講演会『「日本人の起源」埴原理論を検証して』

【開催日】2005年10月19日

【発表者・テーマ】尾本恵市（日文研名誉教授）「埴原の二重構造説とその

後の展開」、佐々木高明（元国立民族学博物館館長）「日本文化の多重構

造といくつもの日本」、梅原猛（日文研顧問）「アイヌ文化と日本文化」

【司会】井上章一（日文研教授）

国際日本文化研究センター創立20周年記念講演会

【開催日】2007年5月21日

【発表者・テーマ】梅原猛（日文研顧問）「20年をふり返って」、ロナルド・

ドーア（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス特別研究員）「日本近代化

論再訪」

【司会】井上章一（日文研教授）

片倉もとこ先生退任記念講演会
【開催日】2008年5月29日
【発表者・テーマ】片倉もとこ（日文研前所長）「『らーは』の世界―フィールド・ワークの旅から―」
【司会】白幡洋三郎（日文研副所長）
速水融名誉教授文化勲章受章記念講演会
【開催日】2010年6月11日
【発表者・テーマ】速水融（日文研名誉教授）「人類の遺産―徳川日本の宗門改帳―」
【司会】笠谷和比古（日文研教授）



日文研講演会「能と文楽における『悲劇』―比較の立場から―」（1989年）



福岡講演会「日本文化を考える」（2000年）



第1回学術講演会（1995年）



速水融教授・河合隼雄所長文化功労者顕彰記念講演会（2001年）



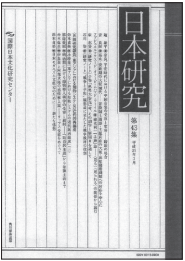
法人化記念シンポジウム「東アジア文明圏を考える」（2004年）



片倉もとこ先生退任記念講演会（2008年）

出版活動の記録

日本研究



第1号

【発行年月日】1989年5月21日

【著者名／論文名】

梅原猛／アニミズム再考

久野昭／隠国の旅

村井康彦／王権の継受—不改常典をめぐる—

中西進／引喩と暗喩—源氏物語における白氏文集、「凶宅」など—

杉本秀太郎／補説・植物的なもの—私の方法—

早川閑多／蕪村の親鸞

白幡洋三郎／遊びをせんとや生まれけむ—近代のスポーツと日本人の身体論・序論—

上垣外憲一／雨森芳州の比較文明論とヨーロッパ18世紀の寛容の思想

安田喜憲／インダス文明の盛衰と縄文文化

山折哲雄／〈研究ノート〉方法としての「もどき」—折口信夫の場合—

井上章一／美人研究への覚え書き

森岡正博／〈書評〉辻哲夫『日本の科学思想』

第2号

【発行年月日】1990年3月10日

【著者名／論文名】

久野昭／戌亥の風

中西進／引喩と暗喩（2）—源氏物語における白氏文集、「上陽白髮人」など—

青山玄／円空造仏の動機について

朱捷／「見立て」と「配合」

山下悦子／コンタイの恋愛論と転向作家達—1920年代後半の恋愛遊戯（ラブゲーム）—

森岡正博／もうひとつの世界・もうひとりの私—ソラリス、銀河鉄道、世界の終り—

鈴木貞美／文芸表現論の方へ

安田喜憲／〈研究展望〉日本文化風土論の地平

井上章一、森岡正博／〈研究ノート〉売春と臓器移植における交換と贈与
村井康彦／〈研究資料〉もどって来た『喫茶養生記』

安田喜憲／〈書評〉森岡正博著『生命学への招待 バイオエシックスを超えて』

第3号

【発行年月日】1990年9月30日

【著者名／論文名】

速水融／近世奈良東向北町の歴史人口学

笠谷和比古／徳川幕府の大名改易政策を巡る一考察（1）

光田和伸／俳諧と見立て—芭蕉前後—

森岡正博／文化位相とは何か—文化位相学基礎論（1）—

久野昭／六道の辻

中西進／引喩と暗喩（3）—源氏物語における白氏文集、「李夫人」など—

田名部雄一／〈研究展望〉食物忌避現象の自然及び社会的背景

早川閑多／〈研究ノート〉江戸絵画の多様性とタイプ論の試み

北村四郎／〈共同研究報告〉中国植物に関する日本の研究

鈴木貞美／〈書評〉“THE BODHISATTVA or Samantabhadra A NOVEL BY ISHIKAWA JUN William Jefferson Tyler, Translator”

第4号

【発行年月日】1991年3月30日

【著者名／論文名】

久野昭／海界の彼方

安田喜憲／スギと日本人

笠谷和比古／徳川幕府の大名改易政策を巡る一考察（2）

犬飼公之／人間と成る

成惠卿／エズラ・パウンドと能—出会い、そして展開—

中西進／引喩と暗喩（4）—源氏物語における白氏文集、「長恨歌」（1）—

柏岡富英／〈研究ノート〉「言いわけ」の比較文化論（1）—序説（1）—

森岡正博／〈研究資料〉1980年代の「いのち」論

塚本洋太郎／〈共同研究報告〉日本の本草書と園芸書

第5号

【発行年月日】1991年10月15日

【著者名／論文名】

古東哲明／他界からの視線

久野昭／ある少女の旅

森岡正博／電子メディアと匿名性のコミュニティ

佐藤知己／アイヌ語千歳方言における自称詞と対称詞について

中西進／引喩と暗喩（5）—源氏物語における白氏文集、「長恨歌」（2）—

田名部雄一／〈研究展望〉ヒトと他の動物との共生の歴史

鈴木貞美／〈研究ノート〉日本の小説話法の特異性をめぐって

—曾根博義「小説の方法」批判—

北川勝彦／〈書評〉W.G. ビーズリー著、杉山伸也訳『日本帝国主義

1894～1945—居留地制度と東アジア—』

第6号

【発行年月日】1992年3月31日

【著者名／論文名】

正木晃／聖空間の自然I

黒須里美／弘化三年ヒノエウマー文化と人口の地域性—

白幡洋三郎／福沢諭吉の運動会—近代のスポーツと日本人の

身体観（続）—

中西進／引喩と暗喩（6）—源氏物語における白氏文集、「琵琶引」など—

北川浩之／〈技術報告〉炭素14年代測定法—少量試料の炭素14年代測定—

早川閑多／〈研究ノート〉蕪村筆『夜色樓臺図』覚書 —「魅力」の語り方を求めて—

小野芳彦／〈研究ノート〉文科系の計算機利用 I —選挙制度のシミュレーション—

日置弘一郎、長谷川伸子／〈研究ノート〉美人の効能 —井上章一「美人論」を手かりに—

濱口恵俊／〈書評〉村上泰亮・公文俊平・佐藤誠三郎著『文明としてのイエ社会』再読

山折哲雄／〈書評〉網野善彦著『日本論の視座—列島の社会と国家—』

第7号

【発行年月日】1992年9月30日

【著者名／論文名】

河合隼雄／『風土記』と昔話

久野昭／日矛の鏡

上垣外憲一／仏教のレトリックと和歌の自然観

園田英弘／京都図の思想—洛中と洛外の間—

笠谷和比古／徳川家康の征夷大將軍任官と慶長期の国制

岡村敬二／北京近代科学図書館の〈日本〉

柏岡富英／〈研究ノート〉「言いわけ」の比較文化論（2）—民族の発明—

井上章一、森岡正博／〈研究ノート〉鎮魂の系譜学

真柳誠、友部和弘／〈研究資料〉中国医籍渡来年代総目録（江戸期）

第8号

【発行年月日】1993年5月30日

【著者名／論文名】

木村汎／日本—ペレストロイカのモデル？—

李栄九／芭蕉俳論における物

青木孝夫／『曾根崎心中』に見る〈他界観〉について

別役恭子／『婚怪草紙絵巻』の風刺に関する一考察

中西進／引喩と暗喩（7）—源氏物語における白氏文集、「生離別」など—
正木晃／聖空間の自然II 密教世界（1）—月やはものを思はする—

小野芳彦／文科系の計算機利用II —データ入力ของผู้ใช้ 인터フェース（歴史人口学の場合）—

梅原猛／〈埴原和郎教授退官記念〉埴原和郎氏のこと

尾本恵市／〈埴原和郎教授退官記念〉埴原和郎氏の学問的業績

埴原和郎／〈埴原和郎教授退官記念〉私版・日文研創世記

第9号

【発行年月日】1993年9月30日

【著者名／論文名】

源了圓／幕末・維新时期における『海国図志』の受容—佐久間象山を中心として—

ツベタナ・クリステヴァ／—人称の文学形式—日本の日記文学とヨーロッパに於ける自伝文学の伝統—

阿満利磨／近世日本における〈現世主義〉の成立

吉田孝次郎／祇園会と渡米懸装染織品

中西進／引喩と暗喩（8）—源氏物語における白氏文集、「薔薇正開」など—

小野芳彦／文化系の計算機利用III —旧字体活字の文書の自動読み取りの改良—

片桐圭子／〈研究ノート〉『ニューヨーク・タイムズ』に見る幕末・維新时期の日本—対日認識の変遷とその背景を中心に—

長田俊樹／ムンダ民族誌ノート（1）—序説—

速水融／〈研究資料〉明治前期人口統計年表 附 幕末国別人口表

山折哲雄／〈書評〉“RENNYO：The Second Founder of Shin Buddhism —With a Translation of his letters, by Minor L. Rogers and Ann T. Rogers”

第10号

【発行年月日】

1994年8月31日

【著者名／論文名】

梅原猛／序

園田英弘／総論 世界の日本研究

正田正博／韓国における日本研究

魯義／中国における日本研究

林文月／台湾の日本研究—日本文学研究を中心として—

ジョセファー・M・サニエル／フィリピンにおける日本研究 —主にフィリピン

大学（U.P.）に関して—

正田正博／タイにおける日本研究

イ・ケット・スラジャヤ／インドネシアにおける日本研究の現状と将来

サウィトリ・ウィシュワナタン／インドの日本研究

セルチュク・エセンベル／トルコの日本研究

アハマド・M・ファトヒ／エジプトの日本研究

ペーター・バンツァー／ドイツ・オーストリアにおける日本学の現状

河合満朗／西ドイツにおける日本研究

森由美／オーストリアにおける日本研究

河合満朗／フランスにおける日本研究

フォスコ・マライーニ／イタリアの日本研究

森由美／オランダにおける日本研究

オローフ・リディーン／デンマークの日本研究

河合満朗／イギリスにおける日本研究

セップ・リンハルト／改革後の東ヨーロッパの日本研究

ヴラースタ・ヴィンケルホフ・フェローパー／チェコスロバキアにおける

日本研究

ツベタナ・クリステワ／ブルガリアにおける日本研究

W・コタンスキ／ポーランドにおける日本認識及びその文化研究への

アプローチ

アナトリー・V・ショーミン／ロシアにおける日本研究 —過去と現在の研究の中心と特徴—

ユリア・ミハイロバ、イリーナ・レベデバ、ネリー・レシチェンコ／ソ連の日本研究（文学・経済学・歴史学）

森由美／ブラジルにおける日本研究

白井祥子／米国における日本研究

河合満朗／カナダにおける日本研究

正田正博／オーストラリアにおける日本研究

新堀通也／「日本研究」研究のわく組—科学社会学からの試論—

小野沢永秀／ロシア・旧ソ連における日本研究の特質

中山茂／世界における日本学の成立とそれからの離脱

山野井敦徳／米国の日本研究を取り巻く環境について—組織・市場・キャリア形式を中心に—

藤津滋生／外国語による日本研究文献の書誌学的研究

岡村敬二／〈ニッポン図書目録〉の系譜

（資料編）1994年8月30日

世界の日本研究機関

藤津滋生／年表・海外における日本研究 [1～1867]

藤津滋生／年表・海外における日本研究 [1868～1945]

第11号

【発行年月日】1994年9月30日

【著者名／論文名】

中西進／引喩と暗喩（9）—源氏物語における白氏文集、「予与微之云々」など—

上垣外憲一／明治前期日本人の朝鮮観

多田伊織／〈研究ノート〉揚雄論

B・G・ボロノバ／〈研究ノート〉セルゲイ・ニコラエビッチ・キターエフとその日本美術コレクション—美術館へ至るまでの困難な道のり—

杉本秀太郎／〈共同研究報告〉共同研究報告 序

羽生清／〈共同研究報告〉衣のデザインにみる見立て意識—図から地への移りゆき—

川井ゆう／〈共同研究報告〉花を衣装になぞらえるということ —変化する菊人形の見立て—

朱捷／〈共同研究報告〉永遠なる混沌における移ろう秩序—見立て・

世阿弥・ポストモダン—

笠谷和比古／〈フォーラム〉日本型組織をめぐる諸問題 —平山朝治氏の批判に込めて—

第12号
【発行年月日】1995年6月30日
【著者名／論文名】
村井康彦／国庁神社の登場―惣社の系譜―
巖紹鑒／日本古「伝奇」『浦島子伝』の研究 ―日本文化における神話から小説への軌跡についての研究（その1）―
笠谷和比古／〈フォーラム〉日本型組織をめぐる諸問題（その2）―平山朝治氏の批判に応えて―
落合恵美子／〈研究展望〉近代家族論の曲がり角（1）
下野敏見／〈共同研究報告〉琉球文化圏の墓制と祖霊祭
伊従勉／〈共同研究報告〉祭場の赤い天蓋と白い天幕 ―沖繩久高島の年中祭祀祭場にみる琉球王国祭祀祭場舗設の影―
吉田和男／〈共同研究報告〉日本型システムとその分析的視点
高木正朗／〈共同研究報告〉家族分類スキームと宗門改帳
第13号
【発行年月日】1996年3月31日
【著者名／論文名】
埴原和郎／再考・奥州藤原氏四代の遺体
福井七子／〈研究ノート〉『菊と刀』誕生の背景
李均洋／〈研究ノート〉日・中両民族の雷神思想の源流（その1）
鈴木貞美／〈共同研究報告〉創刊期『太陽』論説欄をめぐるって
坪内祐三／〈共同研究報告〉編集者大橋乙羽
大和田茂／〈共同研究報告〉『太陽』創刊号の反響
銭嶋／〈共同研究報告〉日清戦争直後における対中国観及び日本人のセルフイメージ―『太陽』第一巻を通して―
金子務／〈共同研究報告〉『太陽』創刊期に見る科学技術観
石田秀実／〈共同研究報告〉19世紀末日本における科学主義と国家主義の結びつき―『太陽』の記事をフィルターとして―
相原和邦／〈共同研究報告〉『太陽』と「女」―創刊期の様相―
〈共同研究報告・資料〉『太陽』第一巻執筆者一覧
長田俊樹／序
家本太郎／大野説の問題点―文法的特徴に関して―
見玉望／ドラヴィダ言語学の立場から
山下博司／大野晋博士の所謂「日本語＝タミル語同系説」に寄せて―
一タミル学徒の雑感―
長田俊樹／「日本語＝タミル語同系説」の周辺をめぐるって
第14号
【発行年月日】1996年7月31日
【著者名／論文名】
木村汎／交渉研究序説（その1）
芳賀徹／秋田蘭画の不思議―小田野直武とその同時代世界―
廖育群／江戸時代の脚気について
千田稔／日本古代の王権と道路―大和・河内東西道に関して―
山田慶兒／錬金術者のユートピア ―偽葛洪の夢と幻想の地理的世界像
尾本恵市／アイヌの遺伝的起源
山田慶兒／物に対する ―牡蠣・雷斧
長田俊樹／〈研究ノート〉ムンダ民族誌ノート（2）―農耕民・狩猟採集民・職人―
第15号
【発行年月日】1996年12月27日
【著者名／論文名】
ジョン・クラーク／日本絵画にみられる中国像―明治後期から敗戦まで―
銭国紅／洋上の対話―世界に向かう中日知識人の精神構造―
河合隼雄／『浜松中納言物語』と『更級日記』の夢
朱捷／「にほひ」にみる日本人の嗅覚
山折哲雄／〈研究ノート〉「捨身飼虎」の変容

李均洋／〈研究ノート〉日・中両民族の雷神思想の源流（その2）―神話史と宗教史の黎明―
中川成美／〈共同研究報告〉国民国家の形成と『太陽』―海外情報欄をとおして―
藤本寿彦／〈共同研究報告〉『太陽』誌上における〈農業〉欄
林正子／日清・日露両戦役間の日本におけるドイツ思想・文化受容の一面―総合雑誌『太陽』掲載の樗牛・潮風・鷗外の言説を中心に―
大野晋／〈フォーラム〉「タミル語＝日本語同系説に対する批判」を検証する
第16号
【発行年月日】1997年9月30日
【著者名／論文名】
千田稔／古代王権論と文芸者の射程―磐余について―
笠谷和比古／徳川家康の源氏改姓問題
井上章一／初期擬洋風建築の天守閣形状塔屋に関する一考案
山田慶兒／龍谷大学大宮図書館所蔵縮像儀―図・説および模型―について
園田英弘／華族論
白幡洋三郎／新「日本文化」論―序説―
安田喜憲／東西の神話にみる森のころ
早川聞多／鈴木春信の見立絵の構造―『今様妻鑑』の絵解き―
光田和伸／毬子―『野ざらし紀行』から―
井波律子／露伴初期
芳賀徹／漱石の実験工房―『永日小品』一篇の読みの試み―
森岡正博／優生保護法改正をめぐる生命倫理
木村汎／交渉の構造と過程―交渉研究序説（その2）―
飯田経夫／ケインズ経済学と大衆民主主義
長田俊樹／ムンダ語族比較言語学研究序論
第17号
【発行年月日】1998年2月27日
【著者名／論文名】
王秀文／桃の民俗誌―そのシンボリズム（その1）―
デニス・ヒロタ／親鸞思想と解釈
鈴木貞美／西田幾多郎『善の研究』を読む―生命主義哲学の形成―
W・コタンスキ／古代歌謡の解説
陳生保／森鷗外と中国文化―その漢詩から見て―
郭永喆／韓国開化期教科書における漢字語研究 ―「漢字語使用実態」の調査及び「日本語の関与に依る漢字語」の確定を中心に―
鈴木貞美／〈共同研究報告〉「総合雑誌『太陽』の総合的研究」中間報告―その3序
小田三千子／〈共同研究報告〉『太陽』英文欄―英学者としての神田乃武を巡って―
佐藤バーバラ／〈共同研究報告〉「総合化された」雑誌におけるジェンダーの表象―『太陽』『家庭欄』をめぐるって―
三谷憲正／〈共同研究報告〉『太陽』における《朝鮮観》―ある〈奇妙な情熱〉について―
林正子／〈共同研究報告〉『太陽』文芸欄主筆期の高山樗牛―個人主義的国家主義から絶対主義的個人主義への必然性―
長田俊樹／比較言語学・遠隔系統論・多角比較 ―大野教授の反論を読んで―
山下博司／大野晋氏のご批判に答えて ―「日本語＝タミル語同系説」の手法を考える―
第18号
【発行年月日】1998年9月30日
【著者名／論文名】
木下尚子／日本列島の古代貝文化試論

千田稔／オオクニヌシからアメノヒボコへ
高文漢／五山文筆僧中巖円月の世界
ヤン・シーコラ／江戸時代の経済思想における市場原理の概念についての一考察
王曉秋、（訳）張麟麟、木田知生／傳雲龍の日本研究の業績と特色―『遊歴日本図経』を中心に―
須藤真志／「交渉学」からみた日米交渉失敗の原因 ―木村論文を参照した一試論―
譚晶華／「山の音」の創作への再認識
大形徹／〈研究ノート〉〈茅〉について―その呪術的効用をめぐるって―
佐藤正幸／〈共同研究報告〉日本における紀年認識の比較史的考察
呂順長／〈共同研究報告〉明治末期日本人の中国人日本留学に対する認識
ベルナール・フランク（訳）仏蘭久淳子／〈講演録〉法隆寺金堂西の間阿弥陀三尊像についての考察
第19号
【発行年月日】1999年6月30日
【著者名／論文名】
山田獎治／神話としての弓と禪
霍巍／三段式神仙鏡とその相関問題についての研究 ―その日中文化交流史における位置づけを考える―
時田アリソン／―中節から常磐津節へ―語り物の音楽の変容と連続性―
孫才喜／太宰治『斜陽』論―かず子と「蛇」をめぐるって―
アハマド・M・F・モスタファ／『愛玩』生活能力を欠いた一家と回復への期待―安岡章太郎の「戦後」の始まり―
王秀文／桃の民俗誌―そのシンボリズム（その2）―
高木正朗、森田潤司／〈共同研究報告〉飢餓と栄養供給 ―19世紀中期東北地方の一農村―
山本準／〈共同研究報告〉身分の変化と家族構造・人口構造の変動―奈良県吉野郡十津川村風屋、1738～1859―
磯田道史／〈共同研究報告〉藩士社会の養子と階層移動 ―長門国清末藩の分析―
高橋美由紀／〈共同研究報告〉都市化する郡山上町―人口増加の内容―
森本修馬／〈共同研究報告〉統計分析を目的とした近世史料のデータベース化―入力・データ利用インターフェース―
竹村民郎／〈共同研究報告〉19世紀中葉日本における海洋帝国構想の諸類型―創刊期『太陽』に関連して―
リース・モートン／〈共同研究報告〉総合雑誌『太陽』と『女學雑誌』に見られる恋愛観―1895年～1905年―
林正子／〈共同研究報告〉『太陽』における金子筑水の〈新理想主義〉―ドイツ思想・文化受容と近代日本精神論―
長田俊樹／〈研究ノート〉ムンダ民族誌ノート（3）―稲作文化・畑作文化・複合生業論―
第20号
【発行年月日】2000年2月29日
【著者名／論文名】
山田獎治／類似性の科学と模倣の情報文化論序説
張從軍、（訳）岡部孝道／鯨と渡来人
杜勤／日本神話の弁証法的思考に関する一考察―老荘思想との関連を中心に―
長田俊樹／農耕儀礼と動物の血（上） ―『播磨国風土記』の記述とその引用をめぐるって―
王秀文／桃の民俗誌―そのシンボリズム（その3）―
銭国紅／徳川時代の知識人と「世界」
丘培培／俳諧の確立と『莊子』 ―日本詩歌古典重視の伝統の観点からの分析―
鈴木貞美／中里介山における仏教思想
廣重友子／『上海』試論

アハマド・M・F・モスタファ／被占領者の屈辱 ―安岡章太郎『ハウス・ガード』・『ガラスの靴』をめぐるって―
第21号
【発行年月日】2000年3月30日
【著者名／論文名】
李曉／喫茶と養生についての中日比較 ―唐・宋と鎌倉・南北朝を中心として―
北政巳／日本・スコットランド文化交流史―明治のジャポニズムと英国グラスゴウ―
長田俊樹／農耕儀礼と動物の血（下） ―『播磨国風土記』の記述とその引用をめぐるって―
楊曉捷／芸と鬼のあいだ―『長谷雄草紙』覚書―
川部裕幸／痘瘡絵の文献的研究
増田弘／松本治一郎の公職追放
田中秀臣、中村宗悦／〈研究ノート〉戦時下の生活雑誌 ―『時局月報』と『国防国民』―
白木利幸／〈共同研究報告〉宥辨真念と四国遍路
原秀成／〈共同研究報告〉大正デモクラシーと明治文化研究会―日本国憲法をうんだ言論の力―
第22号
【発行年月日】2000年10月31日
【著者名／論文名】
ガデレワ・エミリア／日本神話におけるスサノヲ
笠谷和比古／豊臣七将の石田三成襲撃事件―歴史認識生成のメカニズムとその陥穽―
李応寿／玄界灘を渡った川上音二郎
王秀文／桃をめぐる蓬莱山・崑崙山・桃源郷の比較民俗学的研究
坪内玲子／〈共同研究報告〉萩藩藩士における家系の継承と人口学的要因
小田亮／〈共同研究報告〉日本人における配偶相手の好みにみられる性差―結婚相手募集広告の分析から―
武光誠／〈研究ノート〉弁官宣旨と上卿
高橋周／〈研究ノート〉エトロフ問題の歴史的起源 ―19世紀初頭の漁業経営―
多田伊織／〈研究資料〉調査報告 ―雲南香港訪書録
第23号
【発行年月日】2001年3月31日
【著者名／論文名】
蔡敦達／日本の禅院における中国的要素の摂取―十鏡を中心として―
村山聡／記録され続けた世帯と個人の年齢―近世ドイツとの比較における徳川日本―
唐権／「遊興都市」長崎へ―江戸時代における中国人の日本旅行に関する研究1684～1830―
戸塚隆子／石川啄木の「永遠の生命」
岩井洋／〈近代）―記憶装置の誕生―
原秀成／雑誌の法と博文館―整えられる近代―
長田俊樹／〈研究展望〉はたしてアーリヤ人の侵入はあったのか？ヒンドゥー・ナショナリズムの台頭のなかで―言語学・考古学・インド文献学―
横谷一子／〈研究ノート〉『隔冥記』以前の鳳林承章の文化的動向
朴孟洙／〈研究ノート〉近代日本と韓国（北朝鮮）における東学思想及び甲午農民戦争に関する先行研究の到達点と問題点―甲午農民戦争百周年以前までの研究を中心に―
第24号
【発行年月日】2002年2月28日
【著者名／論文名】
木村汎／カリニングラードと北方領土―相異点と類似点―

早川聞多／蕪村の手紙（序論）
パトリシア・フィスター／実相院蔵馬郎婦観音像の名付けの変遷
細川周平／「日本的ジャズ」をめぐって
松田利彦／近代日本植民地における「憲兵警察制度」に見る「統治様式」の遷移—朝鮮から関東州・「満洲国」へ—
安田喜憲／魚食の文明・肉食の文明
山田奨治／テレビ・コマーシャルと文化研究
マルクス・リュッターマン／日本中近世の書簡文化における「面」と「行」の意味—非言語的な記号群による「礼」を中心に—
渡邊雅子／日・米・仏の国語教育を読み解く —「読み書き」の歴史社会学的考察—

第36号

【発行年月日】2007年9月28日
岩井茂樹／二宮金次郎「負薪読書図」源流考—「朱買臣図」からの展開—
西横偉／響き合うテキスト（3）異国の師の面影—豊子愷の「林先生」と漱石の「クレイグ先生」、魯迅の「藤野先生」—
ブラット・アブラハム・ジョージ／宮沢賢治の作品に見られる「非暴力主義」「自己犠牲の精神」と「菜食主義」の一考察—インド人の観点から—
平井晶子／〈研究ノート〉核家族社会イギリスと直系家族社会日本の親族関係—比較研究への覚書—
《国際日本文化研究センター創立20周年記念特集(続)》
池内恵／井筒俊彦の主要著作に見る日本的イスラーム理解
園田英弘／東アジアのモザイク・ユニット—グローバル時代の新しい視点—
光田和伸／連歌の「詠み方」と「読み方」—宗祇一座『水無瀬三吟』『湯山三吟』を矩として—

第37号

【発行年月日】2008年3月31日
【著者名／論文名】
陸留弟／茶芸と茶道における諸要素 —中国茶芸の歴史、文化、習慣、特徴と日本茶道の型・気・美・禅—
王維坤／西安で発見された在唐日本留学生・井真成墓誌の最新研究—井真成墓誌に関する研究 後篇—
武内恵美子／近世大坂の説教讀語芝居における演奏者
ジェームズ・パスキンド／ラフカディオ・ハーンの仏教観—19世紀科学思想との一致論を中心として—
姜鶯燕／〈研究ノート〉近世中後期における武士身分の売買について—『藤岡屋日記』を素材に—
平松隆門／〈研究ノート〉一柳満喜子の生涯に関する一考察
鈴木貞美／〈共同研究報告〉共同研究「出版と学芸ジャンルの編成と再編成」報告（1）
鈴木貞美／〈共同研究報告〉東アジアにおける学芸諸概念とその編成史—国際共同研究とその方法の提案—
リース・モートン／〈共同研究報告〉19世紀末における恋愛文学の編成—人情本から小説へ—
吉岡亮／〈共同研究報告〉現実を投影? 構成する演劇 —明治10年代の演劇と文明論、社会改良論、自由民権論の交錯—
目野由希／〈共同研究報告〉明治「史談」、その読者
竹村民郎／〈共同研究報告〉公衆衛生と「花苑都市」の形成 —近代大阪における結核予防に関連して—

第38号

【発行年月日】2008年9月30日
鈴木堅弘／海女にからみつく蛸の系譜と寓意 —北斎画「蛸と海女」からみる春画表現の「世界」と「趣向」—
戸矢理衣奈／「東京銀座資生堂」の誕生 —福原信三と銀座イメージの

構築—
竹村民郎／1925年近代中国東北部（旧満洲）で開催された大連勧業博覧会の歴史的考察—視聴化された満蒙—
梅定娥／古丁における翻訳—その思想的変遷をさぐる—
堀まどか／野口米次郎のラジオと刊行書籍に見る「戦争詩」—『宣戦布告』と『八紘頌一百篇』を中心に—
中川智寛／異郷での彷徨—「上海」の一解法—
翟新／松村謙三グループ：自民党政権の対中バイブ—1959～1972—
〈翻訳〉秋沢美枝子、〈解題〉山田奨治／〈研究資料〉オイゲン・ヘリゲル著「日本民族の生活と文化における伝統」全訳と解題
鈴木貞美／〈共同研究報告〉共同研究「出版と学芸ジャンルの編成と再編成」報告（2）
依岡隆見／〈共同研究報告〉ドイツ・ハイクの生成と俳句再評価
甘露純規／〈共同研究報告〉歴史書の剽窃—田口卯吉「支那開化小史」偽版訴訟事件の考察—
小谷野敦／〈共同研究報告〉岡田美知代と花袋「蒲団」について
鈴木貞美／〈共同研究報告〉和辻哲郎の哲学観、生命観、芸術観—『ニイチェ研究』をめぐって—

第39号

【発行年月日】2009年3月31日
【著者名／論文名】
アレキサンダー・ヴォヴィン／琉球語、上代日本語と周辺の諸言語—再構と接点の諸問題—
佐野真由子／幕臣筒井政憲における徳川の外交 —米国総領事出府問題への対応を中心に—
西横偉／響き合うテキスト（4）幼時体験の光と影 —豊子愷「憶儿时（幼時の思い出）」と夏目漱石『硝子戸の中』—
千葉慶／日米安保体制と裕次郎映画 —戦後日本映画における「植民地的主体」意識の臨界点をめぐって—
小暮修三／〈研究ノート〉海女の表象—『ナショナル ジオグラフィック』に見るオリエンタリズムと観光海女の相互関係—

第40号

【発行年月日】2009年11月30日
【著者名／論文名】
磯田道史／藩政改革の伝播—熊本藩宝暦改革と水戸藩寛政改革—
姜鶯燕／徳川幕府の旗本の持参金養子に関する一考察 —江戸時代前中期を中心に—
高文勝／国民政府と満蒙問題
山田奨治／「百鬼夜行絵巻」編集の系譜—情報学からの解明—
森田登代子／歌舞伎衣裳にみられる歴史的・社会的事象の受容—「馬簾つき四天」「小忌衣」「蝦夷錦」「厚司」を事例として—
木佐敬久／十二のベアを推理する —国芳「唐土廿四孝」の制作過程について—
王小林／憶良の述作と敦煌願文
戸矢理衣奈／広告としての資生堂パーラー—交際様式の変容と「パーラー（洋間）」—
フレデリック・クレインス／〈研究資料〉ボンベの日本史観
鈴木貞美／〈共同研究報告〉小特集「東アジアにおける知的システムの近代的再編成」（1）
東晴美／〈共同研究報告〉劇評ジャンルの文化史—近代への転換—
鈴木貞美／〈共同研究報告〉明治期日本の啓蒙思想における「自由・平等」—福沢諭吉、西周、加藤弘之をめぐって—
須藤達子／〈共同研究報告〉「自衛隊協力映画」というジャンル —田母神論文との共通性とマス・メディアとの関係—

第41号

【発行年月日】2010年3月31日

廣田吉崇／千宗旦の出自をめぐる「利休血脈論争」について—現代家元システムへの道程—
金廷恩／近世案内記における観光モデルコースの登場—貝原益軒著『京城勝覧』から見えるもの—
林慶花／歌で習う「国語」—植民地期朝鮮における唱歌と言語教育—
鈴木堅弘／春画と衣装
山梨淳／映画『殉教血史 日本二十六聖人』と平山政十—1930年代前半期日本カトリック教会の文化事業—
李哲権／隠喩から流れ出るエクリチュール—老子の水の隠喩と漱石の書く行為—
吉本弥生／「絵画の約束」論争—「印象」から「象徴」に向かう時代のなかで—
アフマド・M・F・モスタファ／「家族団欒図」—父親の再婚と“敗戦”の終焉—
多田伊織／〈史料紹介〉『医心方』所引『僧深方』輯佚—東アジアに伝播した仏教医学の諸相—

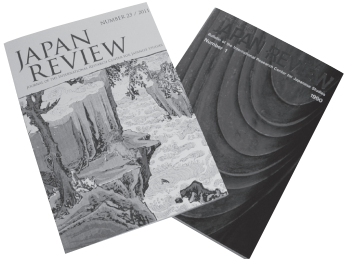
第42号

【発行年月日】2010年9月30日
近藤好和／布衣始について
山梨淳／ジョルジュ・ビゴーと明治中期のカトリック教会—在日フランス人における反教権主義について—
黄自進／蒋介石の人格形成と日本
板倉則衣／〈研究ノート〉伊勢斎宮の選定に関する小考
鈴木貞美／〈共同研究報告〉小特集「東アジアにおける知的システムの近代的再編成」（2）
佐藤一樹／〈共同研究報告〉再布置される文体ヒエラルキー—正史と戯作の変体漢文—
鈴木貞美／〈共同研究報告〉江戸川乱歩、眼の戦慄—小説表現のヴィジュアルィーをめぐって—

第43号

【発行年月日】2011年3月31日
趙維平／奈良、平安時代における中国音楽の受容と変容—踏歌の場合—
菅良樹／嘉永・安政期の大坂城代—常陸国土浦藩・土屋寅直の大坂、兵庫開港問題への対応を中心に—
アブドゥエルマクスード・オラービ・ムハマド・ワーイル／横光利一『上海』論—〈見る〉〈見られる〉の関係から読む—
康志賢／〈研究ノート〉合巻『色男大安売』考、その翻字と解題Ⅲを通して
石川肇／〈研究ノート〉“戦争と平和”観形成に果たした戦争教材の役割
鈴木貞美／〈共同研究報告〉小特集「東アジアにおける知的システムの近代的再編成」（3）
権藤愛順／〈共同研究報告〉明治期における感情移入美学の受容と展開—「新自然主義」から象徴主義まで—
吉本弥生／〈共同研究報告〉伊藤尚と阿部次郎の感情移入説—リップス受容をめぐって—
鈴木貞美／〈共同研究報告〉日本モダニズム文藝史のために—新たな構想—

Japan Review



Vol. 1, 1990
【Contents】
MURAKAMI Yasusuke “Two Types of Civilization: Transcendental and Hermeneutic”
HANIHARA Kazuro “Emishi,Ezo and Ainu:An Anthropological Perspective”
C.Andrew GERSTLE “The Concept of Tragedy in Japanese Drama”
SONODA Hidehiro “The Decline of the Japanese Warrior Class, 1840-1880”
YASUDA Yoshinori “Monsoon Fluctuations and Cultural Changes During the Last Glacial Age in Japan”
Royall TYLER “Kōfukuji and the Mountains of Yamato”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover Illustration”
Vol. 2, 1991
【Contents】
HANIHARA Kazuro “Dual Structure Model for the Population History of the Japanese”
Adrian C. MAYER “Recent Succession Ceremonies of the Emperor of Japan”
TSURUTA Kinya “KINKAKUJI :Reality and Betrayal”
MORIOKA Masahiro “The Concept of <i>Inochi</i> : A Philosophical Perspective on the Study of Life”
KUNO Akira “The Structure of ‘ <i>Urami</i> ’”
Wybe KUITERT “Georg Meister: A Seventeenth Century Garadener and His Reports on Oriental Garden Art”
YASUDA Yoshinori “Influences of the Vast Eruption of Kikai Caldera Volcano in the Holocene Vegetational History of Yakushima, Southern Kyushu, Japan”
UMEHARA Takeshi “The Japanese View of the ‘Other World’: Japanese Religion in World Perspective”
Marius B. JANSEN “The Opening of Japan”
YAMADA Keiji “Formation of Prototype for Chinese Medicine”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover Illustration”
Vol. 3, 1992
【Contents】
Mikotaj MELANOWICZ “The Power of Illusion: Mishima Yukio and <i>Madame de Sade</i> ”
Satya Bhushan VERMA “Haiku in India”
Beatrice M. BODART-BAILEY “The Most Magnificent Monastery and Other Famous Sights: The Japanese Paintings of Engelbert Kaempfer”
Karel FIALA “First Contacts of Czechs and Slovaks with Japanese Culture (Up to World War I): The Major Publications and Personalities”
KUROSU Satomi “The Ecology of the Extended Family in Japan”
Pauline KENT “Shame as a Social Sanction in Japan:Shameful

Behaviour as Perceived by the Voting Public”
HANIHARA Kazuro “Current Trends in Physical Anthropology in Japan”
IIDA Tsuneo “On the Egalitarian Aspects of the Japanese Economy and Society”
Willem Van ZEIST “The Origin and Development of Plant Cultivation in the Near East”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover Illustration”

Vol. 4, 1993
【Contents】
HANIHARA Kazuro,HANIHARA Tsunehiko,KOIZUMI Kiyotaka “Biological Relationship between the Jomon-Ainu and Pacific Population Groups”
ISHIDA Hajime “Cranial Nonmetric Variation of Circum-Pacific Populations with Special Reference to the Pacific Peoples”
ISHIDA Hajime “Limb Bone Characteristics in the Hawaiian and Chamorro Peoples”
HANIHARA Tsunehiko “Dental Affinities among Polynesian and Circum-Polynesian Populations”
SUZUKI Takao “Paleopathological and Paleoepidemiological Investigation of Human Skeletal Remains of Early Hawaiians from Mokapu Site,Oahu Island, Hawaii”
Sytze BOTTEMA “The Palaeoenvironment of Prehistoric Man in the Near East:Some Aspects of Palynological Research”
AKIMA Toshio “The Origins of the Grand Shrine of Ise and the Cult of the Sun Goddess Amaterasu Ōmikami”
Livia MONNET “Connaissance Delicieuse or the Science of Jealousy: Tsushima Yuko’s Story ‘Kikumushi’ (The Chrysanthemum Beetle)”
Georges METAILIE “Sources for Modern Botany in China during Qing Dynasty”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover ”

Vol. 5, 1994
【Contents】
Olof G. LIDIN “Ogyu Sorai’s Civil Society (Seidan) ”
Tzvetana KRISTEVA “the pillow hook (the Pillow Book as an ‘open work’) ”
Martin COLLCUTT “Religion in the Formation of the Kamakura Bakufu: as Seen through the <i>Azuma kagami</i> ”
Willy Vande WALLE “Japan: From Petty Kingdom to Buddha Land”
Maja MILČINSKI “Rethinking the Truths”
SUZUKI Sadami “Three Themes and a Few Points of View -for Rewriting of Japanese Modern and Contemporary Cultural and Literary History”
Selçuk ESENBEL “The Anguish of Civilized Behavior: The Use of Western Cultural Forms in the Everyday Lives of the Meiji Japanese and the Ottoman Turks During the Nineteenth Century”
KOJIMA Hiroshi “Determinants of First Marital Formation in Japan: Does the Sibling Configuration Matter?”
YAMAORI Tetsuo “Book Review Amino Yoshihiko, <i>Nihon ron no Shiza:rettō</i> no shakai to kokka (A New Standpoint on Nihon-ron: <i>Society and the State on the Archipelago</i>). Shogakkukan, 1990.”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover”

Vol. 6, 1995
François MACÉ “Mythe et Légitimité”
E. Patricia TSURUMI “Whose History Is It Anyway ? And Other Questions Historians Should be Asking. In This Case About

the Cotton and Silk Thread Factory Women of Meiji Japan”
Michail V. USPENSKY “An Orthodox Icon by Yamashita Rin —the Japanese Painter of the Meiji Period”
Anthony V. LIMAN “Miyazawa Kenji’s Singing Landscape : ‘The Wind Child Matasaburo”
Mark Cody POULTON “Metamorphosis :Fantasy and Animism in Izumi Kyoka”
Vladislav N. GOREGLIAD “The Space Category in the Medieval Japanese Literature”
Pauline KENT “An Appendix to the Chrysanthemum and the Sword: A Bibliography”
ITO Shuntaro “La Transformation de l’épistémologie et la notion du lieu (ba,chōra)”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover”

Vol. 7, 1996
KUROSU Satomi “Leaving Home in a Stem Family System: Patterns of Children’s Migration in the Late-Nineteenth Century South-Tama”
SUZUKI Sadami “Tanizaki Jun’ichirō as Cultural Critic”
Pauline KENT “Misconceived Configurations of Ruth Benedict”
KIMURA Hiroshi “The Russian Decision-Making Process Toward Japan”
Regine JOHNSON “Tōrai Sanna and the Creation of Difference”
William H. SAMONIDES “Patronizing Images: Kōdai-in and Toyotomi Hideyoshi at Kodai-ji”
Bijay Anand MISRA “What Next for Japan’s Cities? How One Looks at the Future?: Some Problems and Possibilities.”
YANABU Akira “The Tennō System as the Symbol of the Culture of Translation”
John SHARKEY “Attitudes of the Japanese Iron and Steel Industry to Indian Pig Iron Imports,1919–1929”
Alison TOKITA “Anne Boyd and Asian Music:The Formation of a Composer”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover ”

Vol. 8, 1997
Patricia FISTER “Feminine Perceptions in Japanese Art of the Kinsei Era”
Jay RUBIN “Nō for Commuters”
Mark Cody POULTON “The Language of Flowers in the Nō Theatre”
Hartmut O. ROTERMUND “Le Poème comme Moyen d’Interprétation des <i>Setsuwa</i> ”
Leith MORTON “The Concept of Romantic Love in the <i>Taiyō</i> Magazine 1895-1905”
Mohan WIJAYARATNA “Funerary Rites in Japanese and Other Asian Buddhist Societies”
SAEKI Junko “From <i>Nanshoku</i> to Homosexuality: a Comparative study of Mishima Yukio’s <i>Confessions of a Mask</i> ”
Editor : YASUDA Yoshinori “Changes in the Environment and Civilizations in Turkey and Syria”
INOUE Katsuhiro / SAITO Makoto “Climatic Changes in the Konya Basin, Turkey, Estimated from Physicochemical, Mineralogical, and Geochemical Characteristics of Its Lacustrine Sediments”
KITAGAWA Hiroyuki / YASUDA yoshinori “Sedimentary Facies of a 60.85 m Core From Konya Basin, Turkey”
NARUSE Toshiro / KITAGAWA Hiroyuki / MATSUBARA hisashi “Lake Level Changes and Development of Alluvial Fans in Lake Tuz and the Konya Basin During the Last 24,000 Years on

the Anatolian Plateau, Turkey”
IKEYA Motoji / OKA Toshihide / OMURA Tetsuji / OKAWA Makio / TAKENO Sestuo “Evaluation of Environment Using Electron Spin Resonance (ESR):Microscope Images of Gypsum (CaSO ₄ ・2H ₂ O) Microcrystals in Borehole Cores at Konya Basin, Turkey”
TAKAHASHI Manabu “Geo-Environmental Analysis in the Recent Alluvial Plains of the Large Menderes and the Small Menderes”
NISHIMURA Mitsugu / MITAMURA Osamu / Ahmet YAINTUS / YASUDA Yoshinori “Fluctuations in Hige Molecular Fatty Acid as an Indicator of Paleoclimatic Change in a Turkish Lake Sediment Core”
KITAGAWA Hiroyuki / NISHIMURA Mitsugu / NAKAMURA Toshio / YASUDA yoshinori “Radiocarbon Dating of Plant Remains and Lipids in Core Sediments from Lake Kestel,turkey”
KASHIMA Kaoru / MATSUBARA Hisashi / Catherine KUZUCUOĞLU / Mustafa KARABIYIKOĞLU “Diatom Assemblages From Inland Saline Lakes in the Central Part of Turkey — Their Application for Quantitative Reconstructions of Paleosalinity Changes During the Late Quaternaly —”
YASUDA Yoshinori “The Rise and Fall of Olive Cultivation in Northwestern Syria —Palaeoecological Study of Tell Mastuma —”
HONGO Hitomi “Patterns of Animal Husbandry, Environment, and Ethnicity in Central Anatolia in the Ottoman Empire Period: faunal Remains from Islamic Layers at Kaman-Kalehöyük”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover ”

Vol. 9, 1997
KAWAI Hayao “A Perspective on Archetypes and the Japanese Consciousness The Elder, Youth, Male, and Female Archetypes”
YAMAORI tetsuo “The Image of ‘Rōjo’ of Elderly Women in Japanese Legend”
HAMAGUCHI Eshun “A Methodological Basis for Japanese Studies — With Regard to ‘Relatum’ as its Foundation —”
OMOTO Keiichi “The Rise and Fall of the Biological Concept of Race”
ISHII Shiro “Zur Anwendung Des Feudalismus-Begriffs Auf Die Japanische Geschichte”
SUZUKI Sadami “Nishida Kitarō as Vitalist,Part 1 — The Ideology of the Imperial Way in Nishida’s <i>The Problem of Japanese Culture</i> and the Symposia on ‘The World-Historical Standpoint and Japan”
KAMIGAITO Ken’ichi “Nakaraï Tosui’s Novel, <i>Kosafukukaze (The Wind Blowing Yellow Sand)</i> ”
KURIYAMA Shigehisa “The Historical Origins of <i>Katakori</i> ”
OCHIAI Emiko “Decent Housewives and Sensual White Women — Representations of Women in Postwar Japanese Magazines —”
KUROSU Satomi “Adoption as an Heirship Strategy?: A Case from a Northeastern Village in Pre-Industrial Japan”
KASHIOKA Tomihide “The Eu’s New Stance Vis-À-Vis Japan and the Us: Is OU-Bei a Valid Expression Today?”
XU Chaolong “Viewing the Reconstruction of the Framework of Chinese Civilisation”
KITAGAWA Hiroyuki “Radiocarbon Dating at the International Research Center for Japanese Studies”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover ”

Vol. 10, 1998
【Contents】
John R. WALLACE “Anxiety of Erotic Longing and Murasaki

Shikibu's Aesthetic Vision”
Michele MARRA “Nativist Hermeneutics: The Interpretative Strategies of Motoori Norinaga and Fujitani Mitsue”
KINOSHITA Futoshi “Mortality Crises in the Tokugawa Period —A View from Shūmon Aratame—Chō in Northeastern Japan
Richard John LYNN “Huang Zunxian 黄遵憲 (1848–1905) and His Association with Meiji Era Japanese Literati (Bunjin 文人)”
INAGA Shigemi “Théodore Duret, Kuroda Jūtarō et Feng Zikai: Biographie de Van Gogh et sa répercussion en Asie de l’Est”
ISHII Satoshi “Developing a Buddhist <i>En</i> -Based Systems Paradigm for the Study of Japanese Human Relationships”
IMA-IZUMI Yoko “A Land Where Femmes Fatales Fear to Tread: Eroticism and Japanese Cinema”
Peter BERTON “How Unique is Japanese Negotiating Behavior?”
Royall TYLER “Staging Two Unperformed Nō Plays by Zeami: Matsura and Furu”
TAKEMURA Tamio “The Embryonic Formation of a Mass Consumption Society, and Innovation, in Japan During the 1920s”
Shivani NANDI “Transferring Corporate Japan Overseas: Suzuki in India”
TSUDA Yukio “Critical Studies on the Dominance of English and the Implications for International Communication”
TAKAHASHI Junichi “English Dominance in Whaling Debates A Critical Analysis of Discourse at the International Whaling Commission”
Royall TYLER “There is No Such Thing as Nō”
HAYAKAWA Monta “Explanation of the Cover”
Vol. 11, 1999
【Contents】
Martin N. MORRIS “From the Ground Up: The Reconstruction of Japanese Historic Buildings from Excavated Archaeological Data”
Edward J. SHULTZ “Ch’oe Ch’unghŏn and Minamoto Yoritomo”
Vinh SINH “Nguyen-Truong-To and the Quest for Modernization in Vietnam”
TSURUTA Kinya “The Defeat of Rationality and the Triumph of Mother ‘Chaos’: Akutagawa Ryūnosuke’s Journey”
Madeline MOORE “Virginia Woolf and Kamiya Miyeko: Narrative, Illusion, and Identity”
INAGA Shigemi “Miyazaki Hayao’s Epic Comic Series: <i>Nausicaä in the Valley of the Wind</i> : An Attempt at Interpretation”
HAMANO Kiyoshi “Marriage Patterns and the Demographic System of Late Tokugawa Japan: Based on Two Case Studies of Contemporary Demographic Registers”
Mary Louise NAGATA “Balancing Family Strategies With Individual Choice: Name Changing in Early Modern Japan”
Vol. 12, 2000
【Contents】
HASEGAWA Harukiyo “Globalization, ‘Japanization’ and Convergence?”
Glenn D. HOOK “Globalization, East Asian Regionalization, and Japan’s Role in Euro-Asian Interregionalization”
KIMURA Hiroshi “Japan as a Model for Russia”
ISHII Shiro “Beyond Paradoxology”
SONODA Hidehiro “The Theory of Japanese Culture and the Theory of Reverse Absence”
OCHIAI Emiko “Debates over the <i>Ie</i> and the Stem Family: Orientalism East and West”
INOUE Shoichi “Interpretation of Ancient Japanese Architecture:

Focusing on Links with World History”
SHIMAZAKI, Hiroshi Tanaka “The Emergence of Japanese Hutterites”
Emilia GADELEVA “Susanoo : One of the Central Gods in Japanese Mythology”
Bart GAENS “Family, Enterprise, and Corporation : The Organization of Izumiya-Sumitomo in the Tokugawa Period”
Maryellen T. MORI “Three Tales of Doll-Love by Edogawa Ranpo”
Vol. 13, 2001
【Contents】
Edwina PALMER “Calming the Killing <i>Kami</i> : The Supernatural, Nature and Culture in <i>Fudoki</i> ”
Jeffrey ANGLES “Watching Commoners, Performing Class : Images of the Common People in <i>The Pillow Book of Sei Shōnagon</i> ”
Mark MELI “ ‘Aware’ as a Critical Term in Classical Japanese Poetics”
Mary Louise NAGATA “Images of the Family on Stage in Early Modern Japan”
Pekka KORHONEN “The Geography of Okakura Tenshin”
INAGA Shigemi “Mediators, Sacrifice, and Forgiveness: Laurens van der Post’s Vision of Japan in the P.O.W. Camp in Reference to TAKEYAMA Michio and Ghost Plays of the Noh Theater”
ISHII Satoshi “The Japanese Welcome-Nonwelcome Ambivalence Syndrome toward <i>Marebito /Ijin /Gaijin</i> Strangers : It’s Implications for Intercultural Communication Research”
Vol. 14, 2002
【Contents】
NAKAMURA Naofumi “Railway Systems and Time Consciousness in Modern Japan”
TAKEMURA Tamio “The Time Revolution of the Railways in the 1920s : The Impact of the Changeover to Automatic Couplers”
MORISHITA Tōru “Time in an Early Modern Local Community”
SUZUKI Jun “Two Time Systems, Three Patterns of Working Hours”
HASHIMOTO Takehiko “Punctuality and the Introduction of Scientific Management to Japan”
NISHIMOTO Ikuko “Teaching Punctuality : Inside and Outside the Primary School”
ITŌ Midori “Hani Motoko and the Spread of Time Discipline into the Household”
HASEGAWA Kai “Time in <i>Saigiki</i> ”
UCHIDA Hoshimi “The Spread of Timepieces in the Meiji Period”
ARAI Yoshio “Time and Space in the Farming Village : A Time Geographical Approach”
KURIYAMA Shigehisa “The Enigma of ‘Time is Money’”
Vol. 15, 2003
【Contents】
Gina L. BARNES “Origins of the Japanese Islands: The New ‘Big Picture’ ”
Paul GRONER “Jitsudo Ninkū on Ordinations”
INAGA Shigemi “The Making of Hokusai’s Reputation in the Context of Japonisme”
Richard John LYNN “Huang Zunxian and His Association with Meiji Era Japanese Literati (Bunjin): The Formation of the Early Meiji Canon of Kanshi”
Detlev SCHAUWECKER “Verbal Subversion and Satire in Japan, 1937-1945, as Documented by the Special High Police”
TSUSHIMA Michiko “In Search of Lost Language: Kora Rumiko and the Aphasiac Experience”

Pavel M. DOLIKHANOV “Archaeology and languages in Prehistoric Northern Eurasia”
Alexander N. MESHERYAKOV “On the Quantity of Written Data Produced by the <i>Ritsuryō</i> State”
Vol. 16, 2004
【Contents】
Henry D. SMITH II “The Trouble with Terasaka: The Forty-Seventh Rōnin and the Chūshingura Imagination”
David E. RIGGS “The Life of Menzan Zuihō, Founder of Dōgen Zen”
IMAI Yūko “Changes in French Tastes for Japanese Ceramics”
INAGA Shigemi “Sister Nivedita and Her <i>Kali The Mother, The Web of Indian Life</i> , and Art Criticism: New Insights into Okakura Kakuzō’s Indian Writings and the Function of Art in the Shaping of Nationality”
Massimiliano TOMASI “Studies of Western Rhetoric in Modern Japan: The Years between Shimamura Hōgetsu’s <i>Shin bijigaku</i> (1902) and the End of the Taishō Era”
Susan L. BURNS “Making Illness into Identity: Writing ‘Leprosy Literature’ in Modern Japan”
Bill SEWELL “Reconsidering the Modern in Japanese History: Modernity in the Service of the Prewar Japanese Empire”
Thorsten BOTZ-BORNSTEIN “The ‘I’ and the ‘Thou’: A Dialogue between Nishida Kitarō and Mikhail Bakhtin”
Vol. 17, 2005
【Contents】
Constantine N. VAPORIS “Lordly Pageantry: The Daimyo Procession and Political Authority”
Frederik CRYNS “Translation of Western Embryological Thought in the Edo Period: Tsuboi Shindō and Malpighi’s Observations of Fertilized Eggs”
De-min TAO “Negotiating Language in the Opening of Japan: Luo Sen’s Journal of Perry’s 1854 Expedition”
Anne SOKOLSKY “No Place to Call Home: Negotiating the ‘Third Space’ for Returned Japanese Americans in Tamura Toshiko’s ‘Bubetsu’(Scorn)”
Robert TIERNEY “The Colonial Eyeglasses of Nakajima Atsushi”
Vol. 18, 2006
【Contents】
Royall TYLER “ <i>Sagoromo</i> and <i>Hamamatsu</i> on <i>Genji</i> : Eleventh-Century Tales as Commentary on <i>Genji monogatari</i> ”
Noel John PINNINGTON “Models of the Way in the Theory of Noh”
Markus RÜTTERMANN “‘So That We Can Study Letter-Writing’: The Concept of Epistolary Etiquette in Premodern Japan”
Louis CULLEN “Tokugawa Population: The Archival Issues”
Roy STARRS “Lafcadio Hearn as Japanese Nationalist”
Luciana GALLIANO “Manfred Gurlitt and the Japanese Operatic Scene (1939–1972)”
Sergey LAPTEFF “Relationships between Jōmon Culture and the Cultures of the Yangtze, South China, and Continental Southeast Asian Areas”
Vol. 19, 2007
【Contents】
Hitomi TONOMURA “Birth-giving and Avoidance Taboo: Women’s Body versus the Historiography of <i>Ubuya</i> ”
Edwina PALMER “Out of Sunda? Provenance of the Jōmon

Japanese”
Anders CARLQVIST “A Natural Treasury: Plants and Animals in <i>Izumo fudoki</i> ”
Massimiliano TOMASI “The Rise of a New Poetic Form: The Role of Shimamura Hōgetsu in the Creation of Modern Japanese Poetry”
INAGA Shigemi “Les Taces d’une blessure créatrice: Yagi Kazuo entre la tradition japonaise et l’avant-garde occidentale”
James C. BAXTER “Japanese Private Sector Banks, 1931–1945: A Business Perspective”
USHIMURA Kei “Pal’s ‘Dissentient Judgment’ Reconsidered: Some Notes on Postwar Japan’s Responses to the Opinion”
Vol. 20, 2008
【Contents】
Gina L. BARNES “The Making of the Japan Sea and the Japanese Mountains: Understanding Japan’s Volcanism in Structural Context”
Björn E. BERGLUND “Satoyama, Traditional Farming Landscape in Japan, Compared to Scandinavia”
Agnieszka KOZYRA “Nishida Kitarō’s Logic of Absolutely Contradictory Self-Identity and the Problem of Orthodoxy in the Zen Tradition”
Alexander R. BAY “Beriberi, Military Medicine, and Medical Authority in Prewar Japan”
Jeremy D. PHILLIPPS “Creating Modern Cityscapes and Modern Civilians: The Urban Planning Law and the 1927 Hikoso Fire Reconstruction in Kanazawa”
Takanori HOSHINO “Transition to Municipal Management:Cleaning Human Waste in Tokyo in the Modern Era”
Angela YIU “Atarashikimura: The Intellectual and Literary Contexts of a Taishō Utopian Village”
Mats KARLSSON “Kurahara Korehito’s Road to Proletarian Realism”
Evgeny S. BAKSHEEV “Becoming Kami? Discourse on Postmortem Ritual Deification in the Ryukyus”
Vol. 21, 2009
【Contents】
James MCMULLEN “Courtier and Confucian in Seventeenth-Century Japan: A Dialogue on the <i>Tale of Genji</i> between Nakanoin Michishige and Kumazawa Banzan”
Judith N. Rabinovitch / Timothy R. BRADSTOCK “Paulownia Leaves Falling: The Kanshi Poetry of Inaga Nanpo (1865–1901)”
Reiko TOMII “‘International Contemporaneity’ in the 1960s: Discoursing on Art in Japan and Beyond”
INAGA Shigemi “The Interaction of Bengali and Japanese Artistic Milieus in the First Half of the Twentieth Century (1901–1945) : Rabindranath Tagore, Arai Kanpō, and Nadlal Bose”
Louis M. CULLEN “Statistics of Tokugawa Coastal Trade and Bakumatsu and Early Meiji Foreign Trade, Part 1 : Coastal Trade in Tokugawa Times”
Chavalin SVETANANT “Revealing Linguistic Power: Discourse Practice toward ‘Youth’ in Japanese and Thai Newspapers”
Yoko HIRATA “Oscar Wilde and Honma Hisao, the First Translator of <i>De Profundis</i> into Japanese”
Vol. 22, 2010
【Contents】
Matthew STAVROS “The Sanjō bōmon Temple-Palace Complex: The First Locus of Ashikaga Authority in Medieval Kyoto”

W. Puck BRECHER “Kōetsumura: Of Rhythms and Reminiscence in Hon’ami Kōetsu’s Commune”
Louis M. CULLEN “Statistics of Tokugawa Coastal Trade and Bakumatsu and Early Meiji Foreign Trade, Part 2: Trade in Bakumatsu and Early Meiji Times”
Philip FLAVIN “ <i>Meiji shinkyoku</i> : The Beginnings of Modern Music for the Koto”
Charles EXLEY “The Crypt in the City: Satō Haruo’s Monument to E. A. Poe”
Michel DALISSIER “Nishida Kitarō and Chinese Philosophy: Debt and Distance”
Mohammad Reza SARKAR ARANI, FUKAYA Keisuke, James P. LASSEGARD “‘Lesson Study’ as Professional Culture in Japanese Schools: An Historical Perspective on Elementary Classroom Practices”
ODAGIRI Takushi “Maeda Ai’s Predicate Theory”
OGATA Takayuki, LI Wei, YAMADA Shōji “A Mapping and Geographical Analysis of Japanese Gardens in the Kyoto Basin”
Vol. 23, 2011
【Contents】
Patricia FISTER “Sanmi no Tsubone: Ashikaga Wife, Imperial Consort, Buddhist Devotee and Patron”
Naoko Frances HIOKI “Visual Bilingualism and Mission Art: A Reconsideration of ‘Early Western-Style Painting’ in Japan”
Bernard FAURE “From Bodhidharma to Daruma: The Hidden Life of a Zen Patriarch”
TANIMURA Reiko “Practical Frivolities: The Study of <i>Shamisen</i> among Girls of the Late Edo Townsman Class”
Gerald GROEMER “The ‘Masters of Sacred Dance’ in Eastern Japan during the Edo Period”
KOKAZE Hidemasa “The Political Space of Meiji 22 (1889): The Promulgation of the Constitution and the Birth of the Nation”
IMAIZUMI Yoshiko “The Making of a Mnemonic Space: Meiji Shrine Memorial Art Gallery 1912–1936”
Roman ROSENBAUM “Towards a Graphical Representation of Japanese Society in the Taishō Period: <i>Jiji</i> Manga in <i>Shinseinen</i> ”
KAWANA Sari “Romancing the Role Model: Florence Nightingale, <i>Shōjo</i> Manga, and the Literature of Self-Improvement”
James Mark SHIELDS “Smashing the Mirror of Yamato: Sakaguchi Ango, Decadence and a (Post-metaphysical) Buddhist Critique of Culture”

日文研叢書



第1集
『プーシキン美術館所蔵日本美術品図録』(Catalogue of Japanese Art in The Pushkin State Museum of Fine Arts)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1993年)

第2集
『エルミタージュ美術館所蔵日本美術品図録』(Catalogue of Japanese Art in The State Hermitage Museum)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1993年)

第3集
『日本人の他界観』／久野昭編 (1994年)

第4集
『ナープルステク博物館所蔵日本美術品図録』(Catalogue of Japanese Art in The Náprstek Museum)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1994年)

第5集
『プラハ国立美術館所蔵日本美術品図録』(Catalogue of Japanese Art in The National Gallery, Prague)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1994年)

第6集
『フェレンツ・ホップ東洋美術館所蔵日本美術品図録』(Catalogue of Japanese Art in The Ferenc Hopp Museum of Eastern Asiatic Arts)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1995年)

第7集
『足利將軍若宮八幡宮参詣絵巻』村井康彦、下坂守著 (1995年)

第8集
『ムンダ人の農耕文化と食事文化 民族言語学的考察 ―インド文化・稲作文化・照葉樹林文化―』長田俊樹著 (1995年)

第9集
『現代生命論研究』早川聞多、森岡正博編 (1996年)

第10集
『制約に基づく日本語の構造の研究』郡司隆男編 (1996年)

第11集
『海外浮世絵所在索引』(Index of Ukiyo-e in Western Collections)
国際日本文化研究センター・海外日本美術調査プロジェクト編 (1996年)

第12集
『日本文化の深層と沖繩』山折哲雄編 (1996年)

第13集
『日本―南アフリカ通商関係史研究』北川勝彦著 (1997年)

第14集
『日本人と英語―英語化する日本の学際的研究―』津田幸男編 (1998年)

第15集
『市場制度の動態』飯田経夫、柏岡富英編 (1998年)

第16集
『日本人の労働と遊び・歴史と現状』セップ・リンハルト、井上章一編 (1998年)

第17集
『日本人はキリスト教をどのように受容したか』山折哲雄、長田俊樹編 (1998年)

第18集
『詳注・煤煙』佐々木英昭編注 (1999年)

第19集
『遣迎院阿弥陀如来像像内納入品資料』青木淳編 (1999年)

第20集
『モンゴロイド系諸民族の初期映像記録 ―シベリア・北海道・樺太篇―』佐々木史郎、赤澤威著 (1999年)

第21集
『ムンダ人の農耕儀礼 アジア比較稲作文化論序説―インド・東南アジア・日本―』長田俊樹著 (2000年)

第22集
『文学における近代―転換期の諸相―』井波律子、井上章一編 (2001年)

第23集
『四国遍路の研究』頼富本宏、白木利幸著 (2001年)

第24集
『日文研所蔵 近世艶本資料集成I』
・菱川師宣1『男女相性和蜈縁』
・菱川師宣2『床の置物』
・菱川師宣3『花の小かぐれ』
早川聞多編 栗山茂久、パトリシア・フィスター訳 (2002年)

第25集
『韓国的民族主義の成立と宗教―東学・親日仏教・改新教(プロテスタント)の分析を通じて―』申昌浩著 (2002年)

第26集
『日本の語り物 口頭性・構造・意義』
時田アリソン、薦田治子編 (2002年)

第27集
『武器の進化と退化の学際的研究―弓矢編―』
石井紫郎、宇野隆夫、赤澤威編 (2002年)

第28集
『日文研所蔵 近世艶本資料集成II』
菱川師宣4『好色いと柳』

鈴木春信1『今様妻鑑』 早川聞多編　栗山茂久、パトリシア・フィスター訳（2003年）
第29集 『森幸安の描いた地図』辻垣見一、森洋久編著（2003年）
第30集 『日本の政治経済とアジア諸国』（上巻：政治秩序篇・下巻：政治経済篇） 村松岐夫、白石隆編（上巻）　村松岐夫、恒川恵市編（下巻）（2003年）
第31集 『日本語系統論の現在』アレキサンダー・ボビン、長田俊樹共編 ケリー・ラッセル英文編集（2003年）
第32集 『吉田東伍　前期論考・随筆選』千田稔、渡辺史生編（2003年）
第33集 『日文研所蔵　近世艶本資料集成III』 川嶋信清1『江食三の里』 磯田湖龍斎1『風竜十二季の栄花』 北尾重政1『笑本春の曙』 早川聞多編　栗山茂久、パトリシア・フィスター訳（2004年）
第34集 『東寿院阿弥陀如来像像内納入品資料』青木淳編（2005年）
第35集 『小学校で椅子に座ることー〈もの〉と〈身体〉からみる日本の近代化ー』 西村大志著（2005年）
第36集 『表現における越境と混淆』井波律子、井上章一編（2005年）
第37集 『桂坂謡曲談義ー高砂・定家・三井寺・弱法師・鞍馬天狗ー』 ジェイ・ルービン、田代慶一郎、西野春雄編（2006年）
第38集 『連歌の発想ー連想語彙用例辞典と、そのネットワークの解析ー』 山田奨治、岩井茂樹編著（2006年）
第39集 『恋歌の歴史ー日本における恋歌観の変遷ー』岩井茂樹著（2007年）
第40集 『近世艶本資料集成IV』月岡雪鼎1『女令川おへし文』 アンドリュース・ガーストル著　早川聞多編（2007年）
第41集 『日本の住まいと風土性』オギュスタン・ベルク編（2007年）
第42集 『古代東アジア交流の総合的研究』王維坤、宇野隆夫編（2008年）
第43集 『旅と日本発見ー移動と交通の文化形成力ー』白幡洋三郎編（2009年）

第44集 『日文研所蔵　近世艶本資料集成V』月岡雪鼎2『艶道日夜女宝記』 早川聞多編集・翻刻　アンドリュース・ガーストル解説・英訳（2010年）
第45集 『石川淳と戦後日本』ウィリアム・J・タイラー、鈴木貞美編著（2010年）
第46集 『明治期「新式貸本屋」目録の研究』浅岡邦雄、鈴木貞美編（2010年）
第47集 『「近代の超克」と京都学派　近代性・帝国・普遍性』 酒井直樹、磯前順一編（2010年）
第48集 『「Japan To-day」研究ー戦時期「文藝春秋」の海外発信ー』 鈴木貞美編（2011年）

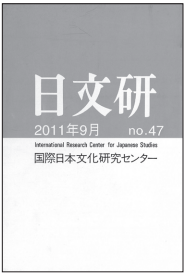
NICHIBUNKEN MONOGRAPH


（タイトル／著者／発行元／発行年）
第1集 “The Origins of Acupuncture, Moxibustion, and Decoction” 山田慶兒著（日文研、1998年）
第2集 “Islands or Security? Japanese-Soviet Relations under Brezhnev and Andropov”木村汎著（日文研、1998年）
第3集 “The Origin and Development of Japanese-Style Organization” 笠谷和比古著（日文研、2000年）
第4集 “The Shunga of Suzuki Harunobu: <i>Mitate-e</i> and Sexuality in Edo” 早川聞多著（日文研、2001年）
第5集 “The Kanshi Poems of the Ozasa Tanzaku Collection: Late Edo Life through the Eyes of Kyoto Townsmen” Judith N.RABINOVITCH and Timothy R. BRADSTOCK著（日文研、2002年）
第6集 “The Transfiguration of <i>Miyako</i> and The Emergence of Urbanity in Japan” 園田英弘著（日文研、2003年）
第7集 “Wandering Spirits and Temporary Corpses: Studies in the History of Japanese Religious Tradition” 山折哲雄著（日文研、2004年）
第8集 “The Concept of ‘Literature’ in Japan” 鈴木貞美著（日文研、2006年）
第9集 “Shots in the Dark：Japan, Zen, and the West” 山田奨治著（The University of Chicago Press、日文研、2009年）
第10集 “Japanese Mythology ” 磯前順一 著 （Equinox Publishing Ltd.、2009年）
第11集 “Population and Family in Early-Modern Central Japan” 速水融著（日文研、2010年）
第12集 “Governance and Policing of Colonial Korea: 1904-1919” 松田利彦著（日文研、2011年）

特別研究関係出版物


（タイトル（編著）／発行元／発行年）
『世界の日本研究 第1号』（日文研、1990年12月）
『世界の日本研究 第2号』（日文研、1991年5月）
『世界の日本研究 第3号』（日文研、1991年9月）
『世界の日本研究 第4号』（日文研、1992年9月）
『世界の日本研究 第5号』（日文研、1993年9月）
『世界の日本研究 第6号』（日文研、1994年3月）
『世界の日本研究 2000』（日文研海外研究交流室、2001年3月）
『世界の日本研究 2001ーコリアにおける日本研究の現在ー』（日文研海外研究交流室、2002年7月）
『世界の日本研究 2002ー日本統治下の朝鮮：研究の現状と課題ー』（日文研海外研究交流室、日本語・韓国語版2003年3月、英語版2009年9月）
『世界の日本研究 2003　The Study of Japan in Autsralia -A Unique Development over Eigthy Years』（Misuzu Hanihara CHOW）（日文研海外研究交流室、2003年5月）
『世界の日本研究 2004ー内側から見た日本：在住外国人研究者の視点ー』（James C. BAXTER）（日文研海外研究交流室、2004年11月）
『世界の日本研究 2005ー在外コリアンのディアスポラと国際ネットワーク戦略ー』（日文研海外研究交流室、2006年8月）
『世界の日本研究 2006ー比較：在住日本研究者が語る日本の美術と音楽ー』（Patricia FISTER and HOSOKAWA Shûhei）（日文研海外研究交流室、2007年3月）
『世界の日本研究 2007ーコミュニケーションを考えるー』日文研海外交流室編（日文研海外研究交流室、2007年2月）
『世界の日本研究 2008ー日本の仏教学者：21世紀の仏教学に向けてー』（James BASKIND）（日文研海外研究交流室、2009年3月）
『世界の日本研究 2010　日本語で書くー文学創作の喜びと苦しみー』郭南燕編（日文研海外研究交流室、2011年3月）

日 文 研



1988(昭和63)年創刊(年2回刊行)。第46号まで刊行(2011年9月現在)。
日文研の教員、共同研究員、外国人研究員等の活動状況の報告書である。

NICHIBUNKEN NEWSLETTER



1988 (昭和63) 年4月創刊 (年4回刊行)。以来、第83号までを発行してい
る。日文研の研究活動、研究協力活動に関するエッセイ、催し物などの情
報を世界中の日本研究機関等に提供している。

日 文 研 所 蔵 図 書 目 録

(タイトル／編著／発行／発行年)

『日本語図書所蔵目録：1993年12月現在』(31,160冊収録) 日文研情報管
理施設資料課編 (日文研、1994年10月)

『外国語図書所蔵目録：1993年12月現在』(22,730冊収録) 日文研情報管
理施設資料課編 (日文研、1994年10月)

『国際日本文化研究センター所蔵日本関係欧文図書目録 ―1900年以前刊
行分―』(1,057冊収録
(Catalogue of Pre-1900 Printed Books on Japan in European
Languages in the Library of the International Research Center for
Japanese Studies) 松田清・白幡洋三郎編 (日文研、1998年3月)
(創立10周年記念事業)

『宗田文庫目録 書籍篇』日文研編 (日文研、2001年3月)

『宗田文庫目録 図版篇』日文研編 (日文研、2002年3月)

『廣重徹旧蔵図書目録』日文研編 (日文研、2002年3月)

『高橋虔旧蔵図書目録』日文研編 (日文研、2005年3月)

『野間文庫目録』日文研編 (日文研、2005年3月)

『間文庫目録』日文研編 (日文研、2006年3月)

『日中文庫目録』日文研編 (劉建輝) (日文研、2011年3月)

海外日本研究機関一覧

(タイトル／編著／発行／発行年)

『海外日本研究機関一覧 1995年版』日文研編 (日文研、1996年3月)

『海外日本研究機関一覧 2000年版』日文研編 (日文研、2001年3月)

『海外日本研究機関一覧 2005年版』日文研編 (日文研、2006年3月)

そ の 他

『所蔵古写真カタログ―その1―』日文研編 (日文研、2000年3月)

『海外日本像集成 第1冊 1854～1870』白幡洋三郎編 (日文研、2007年
3月)

『海外日本像集成 第2冊 1871～1877』白幡洋三郎編 (日文研、2007年3
月)

『異邦人のまなざし 第1輯～第7輯』日文研編 (日文研、2007年5月～
2009年8月)

その他の普及活動の記録

一般公開

1991年度

【講演会】「大枝の風土と歴史」村井康彦 (日文研教授)

【展示】「外国語で書かれた日本研究図書」

【実施日】1991年11月1日

1992年度

【講演会】「『道草』と自己実現」河合隼雄 (日文研教授)

【展示】「外国語で書かれた日本研究図書」

【実施日】1992年11月4日

1993年度

【講演会】「ロシアはどこへ行くのか―エリツィンの命運と今後の日露関
係―」木村汎 (日文研教授)

【展示】「描かれ、写された日本」(短冊、古地図、比較文化映像資料)、
「海外日本美術品データベース公開」

【実施日】1993年11月4日

1994年度

【講演会】「あそびを考える」中西進 (日文研教授)

【展示等】写真展示「描かれ、写された日本」(写真帖)、「秋の大原野」
(浅野喜市写真展)、貴重書展示「外国語で書かれた日本研究図書」、
データベース公開「情報に触れてみよう」

【実施日】1994年11月1日

1995年度

【講演会】「蝶からヒトへ」尾本恵市 (日文研教授)

【展示等】「外国人が見た昔の日本―洋書、古地図、古写真の展示―」、
「京の庭園」(浅野喜市写真展)、「インターネットを使ってみよう!」(イン
ターネットの実体験)

【実施日】1995年11月8日

1996年度

【講演会】「日本詩歌の幸福―読むことのよこび―」芳賀徹 (日文研教
授)

【展示等】「古写真で見る昔の日本」、「京の花ごよみ」(浅野喜市写真展
示)、「インターネットを使ってみよう!」(インターネットの実体験)、「教
官紹介―『日文研な人たち』」

【実施日】1996年11月5日

1997年度

【SCS公開討論会】「学術的研究に対するマルチメディアの活用」パネリス
ト:尾本恵市 (日文研教授)、山田奨治 (日文研助教授) (司会)、黒須里
美 (日文研助手)、村上征勝 (統計数理研究所教授)、近藤喜美夫 (メ
ディア教育開発センター教授)、久保正敏 (国立民族学博物館助教授)

【講演会】「『ヴェニスの商人』の裁判と『大岡裁き』―屁理屈の比較法文
化―」石井紫郎 (日文研教授)

【展示等】「日文研の活動状況」(日文研発行の出版物等)、「旅行記と絵
図・古写真でたどる昔」(おみやげ写真帖、さし絵等)、「インターネットと
CG体験コーナー」、「パソコンによるデータベースの公開」(歴史法令、古
写真等)

【実施日】1997年11月6日

1998年度

【SCS公開討論会】「文化としての科学技術―ロボット研究開発を例として
―」パネリスト:石井紫郎 (日文研教授) (司会)、井上章一 (日文研助教
授)、中島尚正 (東京大学工学系研究科長)、新井民夫 (東京大学教授)、
井上博允 (東京大学教授)、浅田稔 (大阪大学教授)、水野博之 (元松下
電器副社長)、平井和雄 (本田技研)

【講演会】「リストラの社会史―武士とサラリーマン―」園田英弘 (日文研
教授)

【展示等】「日文研の活動状況」(日文研発行の出版物等)、「パソコンに
よるデータベースの公開」、「日文研所蔵貴重資料の紹介」(貴重書、宗
田文庫、岡崎写真、古地図、眼鏡絵等)、「研究活動の紹介」(「ユーラシ
ア社会の人口、家族構造比較史研究」)、「インターネットとパソコンによ
るカレンダー作り」、「施設案内」

【実施日】1998年11月6日

1999年度

【SCS公開討論会】「野球と日本文化」パネリスト:石井紫郎 (日文研教
授)、ジェームズ・バクスター (日文研教授)、早川聞多 (日文研助教授)、
池井優 (慶応大学教授)、杉本尚次 (関西学院大学教授)、中牧弘允 (国
立民族学博物館教授)、平野裕一 (東京大学助教授)

【講演会】「忠臣蔵と武士道」笠谷和比古 (日文研教授)

【研究紹介】「研究活動の紹介」(パネル、ビデオ等)、「長江文明の探
求」、「四国遍路の世界」、「コンピューター画像の魅力―日本文化探究
の新しい試み―」、「江戸時代初期の洛中洛外散歩」、「平面画像の三次
元モデル構築」

【展示等】「日文研所蔵貴重資料の紹介」、「インターネット体験とカレン
ダー作り」、「施設案内」

【実施日】1999年10月14日

2000年度

【公開討論会】「日蘭交流400年」パネリスト:松田清 (京都大学教授)、勝
盛典子 (神戸市立博物館学芸員)、笠谷和比古 (日文研教授)、稲賀繁美
(日文研助教授)

【ビジュアル講演会】「飛鳥の女帝―推古と斉明―」千田稔 (日文研教授)
【研究活動の紹介】「武器の進化・退化の学際的研究」(復元弓矢展示
等)、「モンゴロイドの潮流から日本を視る」(パネル展示等)、「平安人物
志」(短冊展示等)、「デジタル時代の日本文化研究」(コンピュータ画像)、
「デジタルアーカイブの現在」(コンピュータ画像)、「地理情報システムを応
用した地図の時代重ねによる歴史的景観の復元」(コンピュータ画像)

【日文研所蔵貴重資料の紹介】「鳥瞰図への招待」、「日蘭交流の軌跡」、
「パソコンによるカレンダー作り」、「施設案内」

【実施日】2000年10月28日

2001年度

【SCS公開討論会】「異界ルネッサンス」パネリスト:小松和彦 (日文研教
授)、山田奨治 (日文研助教授)、香川雅信 (兵庫県立歴史博物館学芸
員)、常充徹 (国立歴史民俗博物館助教授)、島村恭則 (国立歴史民俗
博物館助手)、山田慎也 (国立歴史民俗博物館助手)

【講演会】「師と弟子」山折哲雄 (日文研所長)

【研究紹介】「大英帝国・英連邦の文明論的研究―日本との比較を中心
に―」、「総合雑誌『太陽』の学際的研究」、「類似性の科学と模倣の情
報文化に関する研究」、「文化資料とビジュアルデータベース―京都の古
地図―」、「京都の古地図と歴史情報の新しいデータベース」

【所蔵資料の展示】「京の歳時記―都年中行事画帖より―」、「日伊交流

の軌跡―日本におけるイタリア年によせて―」

【その他】「日文研各専任教官の研究活動紹介」、「パソコンによるカレンダー作り」、「日文研案内ツアー」

【実施日】2001年10月30日

2002年度

【画像データベースの紹介】「日本研究資料の可視化」合庭惇（日文研教授）、光田和伸（日文研助教授）、早川閑多（日文研教授）

【講演会】「学問を楽しむ」山折哲雄（日文研所長）

【研究活動紹介】「画像と音声による日文研各専任教官の研究活動紹介」

【所蔵資料の展示】「朝鮮半島を旅する―日韓交流年に寄せて―」、「縮緬本」

【その他】「共同研究の紹介」、「パソコンによるカレンダー作り」、「所内案内ツアー」

【実施日】2002年11月12日

2003年度

【データベースの紹介・解説】「日文研のデータベースは面白い」合庭惇（日文研教授）、早川閑多（日文研教授）、森洋久（日文研助教授）

【研究発表】「ヌードの歴史」井上章一（日文研教授）

【講演会】「日文研と私」梅原猛（日文研顧問）

【研究活動紹介】「画像と音声による日文研各専任教官の研究活動紹介」、「共同研究のパネル展示」

【所蔵資料の展示】「新収資料展示」（妖怪絵巻、司馬江漢の参考書、蘭学のルーツをたどる―野間コレクションの資料を中心に―）

【その他】「パソコンによるカレンダー作り」、「所内案内ツアー」

【実施日】2003年10月17日

2004年度

【データベースの紹介】「データベースで再現する歴史的空間」早川閑多（日文研教授）、森洋久（日文研助教授）

【ミニシンポジウム】「コマーシャルのなかの日本文化」パネリスト：山田奨治（日文研助教授）、呉咏梅（日文研外国人研究員）、コメンテーター：アレキサンダー・ベネット（日文研助手）

【講演会】「徒然草逍遥―『恋の隠し方』その後―」光田和伸（日文研助教授）

【研究活動紹介】「画像と音声による日文研専任教員の研究活動紹介」、「共同研究のパネル展示」

【所蔵資料の展示】「ブラング文庫《雑誌コレクション》マイクロフィッシュ―1945～1949 占領期日本の刊行物―」

【その他】「パソコンによるカレンダー作り」、「所内案内ツアー」

【実施日】2004年11月19日

2005年度

【データベースの紹介】「貴重書データベースへのいざない」早川閑多（日文研教授）

【ミニシンポジウム】「昭和戦前期における東アジアのツーリズム―修学旅行を中心に―」パネリスト：鄭在貞（日文研外国人研究員）、劉建輝（日文研助教授）、司会：園田英弘（日文研教授）

【講演会】「日本人の異文化観―イスラーム理解をめぐって―」片倉もとこ（日文研所長）

【研究活動紹介】「画像と音声による日文研専任教員の研究活動紹介」、「共同研究のパネル展示」

【所蔵資料の展示】「伊能忠敬〈大日本沿海輿地全図〉全8図―フランスで発見された伊能中国の原寸複製―」

【その他】「カレンダープレゼントコーナー」、「教員による日文研案内ツアー」、「教員の書籍販売」

【実施日】2005年11月25日

2006年度

【デジタルの地図っておもしろい】「GIS：地理情報システムの紹介」新井業穂子（日文研助教授）、「考古学GISを楽しむ」宇野隆夫（日文研教授）

【ミニシンポジウム】「アジアから見た日本のイメージ」パネリスト：張哲俊（日文研外国人研究員）、松田利彦（日文研助教授）

【講演会】「日本のデモクラシー：その問題点を探る」猪木武徳（日文研教授）

【研究活動紹介】「画像と音声による日文研専任教員の研究活動紹介」、「共同研究のパネル展示」

【所蔵資料の展示】「江戸の人が描いた世界と日本―海野文庫より―」

【その他】「カレンダープレゼントコーナー」、「教員による所内案内ツアー」、「教員の書籍販売コーナー」

【実施日】2006年10月25日

2007年度

【文化資料研究企画室セミナー】「絵入源氏物語（承応版源氏物語）データベースの紹介」合庭惇（日文研教授）

【ミニシンポジウム】「『終戦』の記憶を問い直す―世界の中の日本―」話し手：佐藤卓己（京都大学准教授）、聞き手：池内恵（日文研准教授）

【講演会】「桂離宮にエロスを読む」井上章一（日文研教授）

【所蔵資料の展示】「酒吞童子をめぐる物語」

【その他】「カレンダープレゼントコーナー」、「施設ガイド」、「教員の書籍販売コーナー」

【特別企画】「日文研を撮る」フォトコンテスト

【実施日】2007年10月25日

2008年度

【特別企画】「教員の新著・研究をめぐって―一般参加者との歓談会―」井上章一（日文研教授）、小松和彦（日文研教授）

【文化資料研究企画室セミナー】「古事類苑データベースの紹介」早川閑多（日文研教授）

【ミニシンポジウム】「世界から見た日本研究」ひろたまさき（大阪大学名誉教授）、桂島宣弘〔立命館大学教授）、小松和彦（日文研教授）、磯前順一（日文研准教授）（司会）

【講演会】「西洋人の見た日本」フレデリック・クレインス（日文研准教授）

【所蔵資料の展示】「フランス人の見た日本―日仏交流150周年記念―」

【その他】「カレンダープレゼントコーナー」、「センター施設案内」、「教員の書籍販売コーナー」、「共同研究のパネル展示」

【実施日】2008年10月30日

2009年度

【文化資料研究企画室セミナー】「日文研古地図データベースの紹介―京都の古地図」早川閑多（日文研教授）、森洋久（日文研准教授）

【特別企画】「教員の新著・研究をめぐって―一般参加者との歓談会―」松田利彦（日文研准教授）

【海外研究交流室教員によるミニシンポジウム】「画像が語る近世、近代の民俗と宗教」ジョン・ブリーン（日文研准教授）、郭南燕（日文研准教授）、テモテ・カーン（日文研助教）（司会）

【講演会】「他者と出会うために―日本文化の論じ方」磯前順一（日文研准教授）

【所蔵資料の展示】「京都の古地図と名所図会」

【その他】「教員によるセンター施設案内」、「カレンダープレゼントコーナー」、「共同研究のパネル展示」、「教員の書籍販売コーナー」

【実施日】2009年10月29日

2010年度

【文化資料研究企画室セミナー】「日本文化と妖怪」小松和彦（日文研副所長）、早川閑多（日文研教授）、森洋久（日文研准教授）

【シンポジウム】「近代国家の文化と暴力」ジョン・ブリーン（日文研准教

授）、佐野真由子（日文研准教授）、瀧井一博（日文研准教授）、山田奨治（日文研准教授）（司会）

【日文研木曜セミナー特別企画】「私の日本研究」発表者：猪木武徳（日文研所長）、早川閑多（日文研教授）、倉本一宏（日文研教授）、瀧井一博（日文研准教授）、井上章一（日文研教授）（司会）

【所蔵資料の展示】「絵巻物・錦絵にみる日本の妖怪」

【その他】「教員によるセンター施設案内」、「カレンダープレゼントコーナー」、「共同研究のパネル展示」、「教員の書籍販売コーナー」

【実施日】2010年10月21日

出前授業

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
7月2日	梅原猛	6年生	社会	古代文明、特に中国文明
7月9日	山折哲雄	6年生	国語	宮沢賢治の世界
7月11日	河合隼雄	6年生	道徳	人命の尊重、助け合い
7月12日	尾本恵市	6年生	理科	蝶、昆虫の世界
9月30日	井波律子	5年生	社会	三国志の世界
10月2日	芳賀徹	5年生	国語	俳句の世界
10月8日	木村汎	5年生	社会	交渉とは
11月12日	山田慶兒	5年生	理科	時の成立
12月6日	安田喜憲	5年生	社会	森の話

【小学生に授業】（1998年、小学館文庫）

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
11月4日	園田英弘	6年生	社会	都市と農村
11月5日	千田稔	6年生	社会	近辺の古墳について
11月5日	小松和彦	6年生	社会	鬼の話
11月7日	早川閑多	5年生	美術	江戸時代の絵
11月11日	井上章一	5年生	社会	お店の人形
11月19日	鈴木貞美	6年生	国語	ものの見方、文章の読み方
12月4日	石井紫郎	5年生	社会	スポーツのルールと社会のルール
12月5日	落合恵美子	6年生	社会	家族の話
12月12日	赤澤威	5年生	理科	ヒトの起源について

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月9日	村松岐夫	6年生	社会	政治の仕組み
10月22日	時田アリソン	5年生	音楽	浪花節（なにわぶし）まで
10月29日	頼富本宏	5年生	道徳	共生とはなんだろう
11月4日	川勝平太	6年生	社会	戦争と平和
11月10日	白幡洋三郎	5年生	社会	修学旅行の起源
11月11日	笠谷和比古	5年生	社会	徳川吉宗
11月16日	栗山茂久	6年生	算数	数の話
11月24日	山田奨治	6年生	算数	みえないものをみる
11月27日	光田和伸	6年生	理科	きのこと人間

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月12日	稲賀繁美	6年生	美術	画家ヴァン・ゴッホと日本のはなし
11月9日	宇野隆夫	5年生	社会	火おこしから産業革命まで―人類のエネルギー利用史―
11月9日	グラディスラブ・ゴレグリアード	5年生	社会	鎖国時代ロシアにおける日本水夫
11月24日	テモテ・カーン	5年生	社会	狂言の中の子ども達
11月25日	ジェームズ・バクスター	5年生	社会	スポーツマンシップ（運動競技の精神にかなうこと）
11月26日	松田利彦	5年生	社会	朝鮮学校って何？
11月29日	渡邊雅子	6年生	国語	四コママンガの話
11月30日	劉建輝	6年生	国語	漢字をたのしむ
11月30日	李応寿	6年生	社会	昔話で国際親善を考える

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月6日	辛容泰	6年生	音楽	誰でも一流歌手になれる
10月12日	井上章一	6年生	社会	海をこえた日本文化
10月17日	笠谷和比古	6年生	社会	関ヶ原合戦と近世の日本
10月25日	合庭惇	5年生	社会	情報の話
10月26日	河合隼雄	5年生	道徳	君ならどうする
10月30日	蔡敦達	5年生	社会	蘇州庭園の話
11月14日	早川閑多	6年生	美術	絵の中の人間
11月24日	園田英弘	6年生	国語	Samuraiとはなにか
11月27日	森洋久	5年生	音楽	みんなでケチャをしよう

2001年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月9日	山折哲雄	6年生	道徳	子供とは？
10月24日	佐藤卓己	5年生	社会	メディアの影響力
11月12日	千田稔	5年生	社会	地名の話 (桂坂からアジアを見る)
11月16日	蔣立峰	6年生	社会	中国のネットワークに見える 『小皇帝』と希望工程
12月10日	井波律子	6年生	国語	中国の怪談
12月10日	木村汎	6年生	社会	北方領土問題
12月12日	落合恵美子	5年生	社会	江戸時代の家族
12月12日	バトリシア・フィスター	5年生	美術	サンタクロースって どんな人

2002年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
9月17日	安田喜憲	6年生	総合学習	モアイはなぜ 倒れたのか？
10月25日	マルクス・リュッターマン	5年生	社会	言葉と歴史
11月13日	光田和伸	5年生	国語	日本のゲーム「連歌」
11月19日	猪木武徳	5年生	社会	貨幣のはたらき
11月19日	鈴木貞美	6年生	国語	心の表現—小川国夫 「物と心」をめぐって—
11月28日	栗山茂久	6年生	社会	歴史とは？
12月2日	赤澤威	6年生	社会	ネアンデルタール人て、 どんな人
12月9日	小松和彦	5年生	国語	日本の昔話を楽しむ

2003年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月9日	稲賀繁美	6年生	総合学習 (美術)	画家ゴッホと日本
10月30日	白幡洋三郎	5年生	社会	江戸時代の本を読む
11月27日	松田利彦	6年生	社会	朝鮮学校って何？
11月28日	渡邊雅子	6年生	社会	フランスの小学校って どんなところ？
12月3日	川勝平太	5年生	社会	日本の顔と首都
12月8日	山田奨治	5年生	国語	テレビが使う映像のことば
12月11日	テモテ・カーン	5年生	社会	「狂言」のこどもたち —昔からあるのに今も 生き生きしている—
12月19日	劉建輝	6年生	社会	中国文化と日本

2004年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
10月15日	細川周平	6年生	音楽	「はたるの光」って どんな歌？
10月26日	宇野隆夫	6年生	社会	そこから何が見えたか— ハイテクを使って歴史を 考える—
11月17日	今谷明	5年生	社会	古銭のはなし
11月25日	ジェームズ・バクスター	6年生	社会	過去のとらえ方と 自分の見方
11月29日	森洋久	6年生	音楽	インドネシアの楽器 ウジョを演奏しよう
11月30日	早川閑多	5年生	美術	「浮世絵」(おもしろい絵)
12月10日	井上章一	5年生	音楽	ジャズピアノ入門
12月21日	バトリシア・フィスター	5年生	美術	日本美術について

2005年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月9日	牛村圭	6年生	社会	オリンピックと近代日本
12月12日	金容儀	6年生	社会	韓国の食べもの
12月13日	セルゲイ・ラブチュフ	6年生	社会	カンボジアの人々の 生活と文化
1月13日	オギュスタン・ベルク (辺留久)	5年生	社会	「風土」とは何か
1月18日	合庭惇	6年生	社会	情報が飛んてくる
1月19日	周維宏	5年生	国語	言葉が語る文化 —日本語と中国語—
1月25日	アレクシンダー・ベネット	5年生	道徳	武道は何かでやるのか？
2月1日	園田英弘	5年生	社会	地球は本当に丸いか

2006年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月18日	フレデリック・クレインス	6年生	社会	日本とオランダ
1月9日	安田喜憲	5年生	社会	モアイが語る
1月18日	井波律子	6年生	社会	西遊記について
1月23日	千田稔	5年生	社会	学校って何だろう？
1月25日	新井菜穂子	5年生	社会	お話を伝える
1月26日	笠谷和比古	6年生	社会	武士道
1月29日	鈴木貞美	6年生	理科	人は遺伝か環境か

2007年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月3日	猪木武徳	6年生	道徳	多数決で決めるということ
12月4日	マルクス・リュッターマン	5年生	道徳	クリスマス物語
12月13日	磯前順一	6年生	—	闇を見つめる力
1月9日	白幡洋三郎	5年生	社会	日本の公園・世界の公園
1月15日	山田奨治	6年生	社会	日本のマンガ・ 世界のマンガ
1月16日	光田和伸	5年生	社会	明智光秀・ 愛宕山へのぼる
1月30日	小松和彦	5年生	社会	昔話を楽しむ
2月5日	瀧井一博	6年生	社会	明治の国づくり

2008年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月16日	井上章一	6年生	社会・音楽	世界の中の日本
12月22日	稲賀繁美	6年生	社会	ヴァン・ゴッホと宮澤賢治
1月9日	宇野隆夫	6年生	社会	ハイテクでシルクロード を研究する
1月13日	早川閑多	6年生	社会	絵で見る400年前の 京都の町と人々
1月28日	テモテ・カーン	5年生	体育	ブルームボール・ホッケー
2月9日	郭南燕	5年生	社会	ニュージーランドの 小学生について
2月10日	ジョン・ブリン	5年生	社会	神社の話
2月13日	劉建輝	5年生	社会	支え合う近代 —日中二百年の歴史—

2009年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月7日	松田利彦	5年生	社会	朝鮮学校って何？
12月9日	細川周平	6年生	国語	手塚治虫の世界
1月13日	倉本一宏	6年生	社会	平安京のはじまりと秦氏
1月19日	末木文美士	6年生	国語	こころのひみつ
1月20日	牛村圭	5年生	国語	比較文化の楽しみ
1月21日	バトリシア・フィスター	5年生	社会	尼僧たちと御所文化
1月26日	森洋久	5年生	社会	地図の話
1月27日	戸部良一	6年生	社会	歴史を学ぶおもしろさ

2010年度

実施日	担当者	担当学年	科目	テーマ
12月9日	荒木浩	6年生	国語	〈心〉と文字
12月9日	フレデリック・クレインス	5年生	社会	日本とオランダ
12月15日	鈴木貞美	6年生	国語	楽しい賢治、悲しい賢治
12月16日	安田喜憲	5年生	環境	モアイとナマハゲ どっちがえらい
12月20日	山田奨治	6年生	国語	マンガは世界に どう伝わったのか
1月13日	伊東貴之	5年生	社会	かるたで学ぶ日本の歴史
1月21日	佐野真由子	5年生	社会	万国博覧会と日本人
1月26日	榎本渉	6年生	社会	日本に伝わった 漢字の読み

第7章

運営と組織

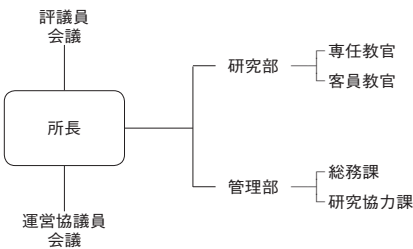
日文研の研究・研究協力、教育、普及など多面的な活動実績が、どのような組織形態により、どのような人々により、どのような方策で実現されたものなのか。日文研の研究活動と研究協力活動がスムーズに展開されるためには、管理部門を中核とする強力な運営支援が不可欠であった。「裏方」ともいえる重要な研究支援の活動状況の主な経緯を辿ってみた。

研究活動にとって大きな波乱をもたらしたのは、1992（平成4）年4月から総合研究大学院大学文化科学研究科に組み入れられて大学院教育を開始したこと、組織形態が2004（平成16）年4月に法人化されて大学共同利用機関法人となったことが挙げられる。

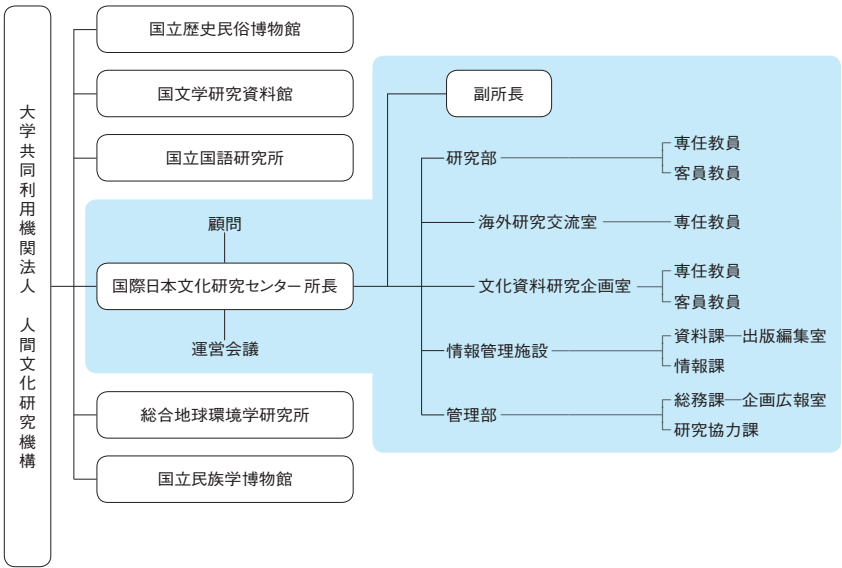
また、反対に変わらないよき伝統として特筆されるべきことは、研究組織としての独立性と自由な研究風土が遵守されていることである。教員（現在は他の国立大学法人及び大学共同利用機関法人と同様に「教授」「准教授」「助教」と呼称している）は、研究部として一括りでの独立組織のまま保たれ、大学にみられる部門制や教授会のような一種の統制下にある組織が存在せず、職位はともかく、研究者に上下関係のしがらみはない。ここでは、運営と組織は、あくまでもこうした研究者たちの活動推進のために機能しているのである。

■組織図

1987年（設立時）



2011年（現在）



1.運営組織

(1) 所長と運営協議員会議、評議員会議

国際日本文化研究センターは、1987（昭和62）年5月21日、文部省（当時）管轄の国立研究機関である大学共同利用機関として創設された。文科系の大学共同利用機関としては、国文学研究資料館、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館などに次いで4番目、全体としては12番目の設立であった。

この日から、日文研は、政令に定められた「所務」として、日本文化に関する国際的及び学際的な総合研究並びに世界の日本研究者に対する研究協力を、所長の「掌理」によって行うことが義務づけられた。

所長は、「運営協議員会議」（後に「運営協議員会」現在、「運営会議」）に対して研究計画および研究協力に関する事項、その他の所務運営に関する重要事項について諮問することができることになっていた。運営協議員会議の委員会メンバーの約半数は、所内教官（当時の呼称、現在は「教員」）が占めていた。実質的な日文研の運営組織として機能していたのであった。

一方、事業計画や、その他の管理運営に関することは、所外の大学学長など学識経験者で構成する「評議員会議」（後に「評議員会」）の助言を受けると規定されていた。

この二重のチェック体制は、当時の大学や国立研究機関、公益法人などでは通常のことであった。それが、国立大学の法人化に伴って大学共同利用機関も法人化されるに及んで、むしろ運営協議員会にあたる機能が拡充されつつ、自ら管理運営も担うことになっていった。

したがって、2004（平成16）年度以降は評議員会を廃して運営協議員会に代わる「運営会議」が唯一の所長諮問機関となった。顧問制度は法人化以降も引き続き、所長に対する助言を担うことになった。運営会議委員は、所外有識者11人、所内教員10人で構成されている。

なお、所長の業務が煩雑になった場合の補佐役として副所長を置くことができることになっていたが、指名はなかった。この役務は、2001（平成13）年5月の山折哲雄所長時代から、対外活動の際に必要な研究部調整主幹が名乗ってもよいとされた。実際に制度として正式に導入されたのは猪木武徳所長時代からで、2010（平成22）年4月、初代副所長には小松和彦教授が就いた。日文研を取りまく社会的環境が、近年急速に複雑化したことの現れであった。

(2) 研究部

日文研創設と同時に誕生した部門が、「研究部」と「管理部」であった。

専任および客員教員で構成される研究部には、所長が任命した若干名の研究調整主幹が配置され、研究調整主幹は研究活動、研究協力活動について企画し、各種の調整を行った。研究部内での研究者同士の関係はオープンであり、上下関係や指揮・命令系統で機能するものではない。したがって、それぞれの役割やさまざまな決定、ルールなどはすべて「調整」によって行われた。

研究調整主幹は、大きく運営・総務、資料・情報、研究・国際の3部門それぞれに分かれて、1人ずつの専任教授で担当するのが近年の慣行となっている。

研究部の教員は、個人研究の追究のほか、共同研究に関してテーマの設定、代表者の選定、幹事の選定、共同研究班員の人選などの計画の具体化、研究協力活動に関する情報収集・整理・提供、海外担当地域の選定、活動の具体的方法の検討などを行わなければならない。そして、個人研究のほか、部内で決められた各種の研究活動、研究協力活動を実践していくのである。

このほかに、研究部には客員外国人研究員が多数所属している。外国人研究員は、教員枠とは別に設定されていて受け入れ形態は2種類ある。招聘期間が3カ月以上1年未満で、日文研から給与が支払われる「外国人研究員」と、外部の財団等の研究費を受けて日文研に籍を置いている「外来研究員」である。外国人研究員には、個々の研究のほかに、共同研究、レクチャー、日文研フォーラム、国際研究集会をはじめ、日文研の学術出版物においても他の研究部の教員と分け隔てなく参加し、発表するチャンスが与えられている。

現在の研究部体制は、所長・副所長各1人を除いて、専任教員29人（教授18人、准教授11人）、特任教員2人（教授1人、助教1人）、客員教員15人（教授9人、准教授6人）、特別客員教員2人（准教授）、外国人研究員15人（外来研究員を除く）である。

(3) 管理部

管理部は当初、総務課、研究協力課の2課でスタートした。総務課は、1988（昭和63）年4月に庶務課、会計課に改組された。

管理部門で特筆すべきこととして、研究協力課の存在とその管掌領域が挙げられる。大学や研究所などにみられる「教務」「研究支援」など、研究活動を事務的にバックアップする組織はこれまでも存在した。しかし、日文研の場合は従来の同種の組織とはまったく異なっていた。研究協力課は、まさに日文研の主要活動領域たる「研究協力」のカテゴリーに属するあらゆる事務作業を、国内外を問わず集約的に実施する組織として編成された。創設初年度には、まず「日文研フォーラム」を起ち上げ、年度末には第1回国際研究集会を担当教官の指導の下、滞りなく成功させている。

その後、法人化などの状況により総務・財務（会計）の分離・統合を経て、現在は総務課として一本化している。

管理部職員は幹部も含めて事務系22人、技術系1人である。

(4) 情報管理施設

研究協力活動の重要な一翼を担うのが、情報システムの開発と運営管理である。その専門機構として、情報システムの開発研究からメンテナンス、情報発信まで担う情報管理施設は、まず資料課（1988年4月）、そして情報課（1992年4月）が設置されて、早々と体制を整えた。これにより、日本文化に関する資料の収集・整理・分析・保管が推進され、研究者への資料提供が飛躍的にスムーズになった。その活動の成果は、先に第4章「研究協力活動」のなかでふれたとおりである。

この施設の中心的な役割は、担当教官（施設長）の指導の下、資料情報システムの開発を推進することにあった。日本研究資料専門官、画像情報専門官の登用なども積極的に試みて、日文研独自のデータベース開発に傾注した。この施設なくして、今日の「日文研所蔵稀本・資料データベース」「研究支援データベース」などの多彩で高度なデータベースの構築は不可能であった。現在、情報管理施設では、事務系9人、技術系2人の職員が配置され、新たな開発課題の挑戦とメンテナンス、そして研究者の利用促進に取り組んでいる。

2.企画開発組織

研究および研究協力活動が進展するにつれて、当初計画どおりの組織形態のままであるは所期の目的を十分に達成することは難しい状況が出てきた。それは、主として研究協力活動の推進に関わっていた。海外研究交流は対象が広く、地域間格差が大きいため、継続的な時間と組織的対応が必要であることが分かってきた。また、情報の収集・整理・提供を円滑に推進するにあたって極めて重要な情報システムの開発においても、

文化資料の複雑性に対応するには相当のノウハウ蓄積が不可欠であることが明らかになった。

そこで、こうした新たな課題に応えるべく、恒常的な企画開発型の新組織を設置する計画が立てられた。「海外研究交流室」と「文化資料研究企画室」である。

(1) 海外研究交流室の設置

日文研にとって最も注力すべき課題は、外国人の日本文化研究者に対してどのように対応すれば、研究交流と研究協力の実を上げていけるかという点にあった。当初構想した10箇所の国・地域に区分しての交流も、単にある特定の地域に日本人の専任教員を割り振っただけでは何も進まない。地域によって、日本への関心度、日本文化への理解度には格段の差があり、また、担当する研究者自身の問題関心がその地域に対して喚起されないということも多かった。

こうした現実を踏まえ、情報として広範囲に、かつ的確に把握した上で、国・地域に最も合致した日本研究体制を築き上げることを目的に、1998（平成10）年4月、教授、助教授などにより発足したのが海外研究交流室であった。事務は管理部がバックアップした。そして、実践していったのが「日本研究会」の組織化など国際的ネットワークの形成、巡回または恒常的な海外シンポジウムの推進など、研究交流促進を図り、日本研究情報の提供、研究相談の推進であった。この海外研究交流室の組織化で、ようやく当初計画の「地域割り担当者制」の建前論から脱却し、より実践的な「研究交流をベースにした研究協力」へと転換することができた。海外における日本研究協力活動が、これ以降ようやく根づくことができたといえよう。

現在の体制は、専任教授2人、専任准教授2人である。（室長は、研究部教授が兼任）

(2) 文化資料研究企画室の設置

高度化する日本文化研究に資する「方法とシステム」を企画・立案し、新しい日本文化研究資料の開発のために、1999（平成11）年4月に設置された。情報処理施設が編成されたことを前提に、その基本的な方向づけを行うことが最大の課題である。特に、文化資料の新しい活用形態の理論・方法の確立、既存資料のデジタル化、インターネット化、新文化資料の発掘・収集、新研究媒体（3次元モデル）の制作等を課題として掲げて活動している。

現在の体制は、専任教授1人、専任准教授1人、特別客員准教授2人である。



法人化に伴い玄関には「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構」のプレートが掲げられた（2004年）

第3部
資料



評議員

氏名	在任期間			所属
伊藤鄭爾	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	元工学院大学長
稲田献一	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	大阪大学名誉教授
井上和子	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	神田外語大学長
上山春平	1987年 10月	1日～1995年	9月30日	京都市立芸術大学長
梅棹忠夫	1987年 10月	1日～1995年	9月30日	国立民族学博物館顧問
Otis CARY	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	同志社大学名誉教授
神谷不二	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	東洋英和女学院大学教授
木田宏	1987年 10月	1日～1995年	9月30日	新国立劇場運営財団理事長
桑原武夫	1987年 10月	1日～1988年	4月10日	京都大学名誉教授
小山弘志	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	元国文学研究資料館長
佐藤正二	1987年 10月	1日～1988年	2月 1日	前国際交流基金理事長
鈴木尚	1987年 10月	1日～1989年	9月30日	東京大学名誉教授
土田直鎮	1987年 10月	1日～1993年	1月24日	国立歴史民俗博物館長
中川秀恭	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	大妻女子大学長
西島安則	1987年 10月	1日～1991年	12月15日	京都大学長
西原春夫	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	早稲田大学法学部教授
林屋辰三郎	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	財団法人美術院理事長
福井謙一	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	基礎化学研究所長
司馬遼太郎	1987年 10月	1日～1989年	9月30日	作家
本間長世	1987年 10月	1日～1993年	9月30日	東京女子大学現代文化学部教授
鹿取泰衛	1988年 2月	1日～1993年	9月30日	国際交流基金顧問
河野健二	1989年 10月	1日～1993年	9月30日	京都市社会教育総合センター所長
陳舜臣	1989年 10月	1日～1995年	9月30日	作家
源了圓	1989年 10月	1日～1995年	9月30日	東北大学名誉教授
井村裕夫	1992年 2月	1日～1999年	9月30日	科学技術会議議員
浅尾新一郎	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	国際交流基金顧問
猪瀬博	1993年 10月	1日～2000年	10月11日	学術情報センター所長
岩田慶治	1993年 10月	1日～1997年	9月30日	国立民族学博物館名誉教授
上田正昭	1993年 10月	1日～1997年	9月30日	大阪女子大学長
大石慎三郎	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	学習院大学名誉教授
小木新造	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	東京都江戸東京博物館顧問
児玉実英	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	同志社女子大学学芸学部特別任用教授
佐々木高明	1993年 10月	1日～1997年	9月30日	前国立民族学博物館長
佐野陽子	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	東京国際大学商学部教授
高坂正堯	1993年 10月	1日～1996年	5月15日	京都大学大学院法学研究科教授

※所属は任期終了時の所属

氏名	在任期間			所属
長倉三郎	1993年 10月	1日～1995年	9月30日	財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長
中根千枝	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	東京大学名誉教授
山口昌男	1993年 10月	1日～1999年	9月30日	札幌大学長
Josef KREINER	1993年 10月	1日～1997年	2月28日	ドイツ日本研究所長
石井米雄	1995年 10月	1日～2001年	9月30日	神田外語大学長
瀬戸内寂聴	1995年 10月	1日～1997年	9月30日	作家
大崎仁	1995年 10月	1日～2001年	9月30日	国立学校財務センター所長
日高敏隆	1995年 10月	1日～2001年	9月30日	総合地球環境学研究所長
廣田榮治	1995年 10月	1日～2001年	9月30日	岡崎国立共同研究機構分子科学研究所名誉教授
藤澤令夫	1995年 10月	1日～2001年	9月30日	京都大学名誉教授
三谷太一郎	1997年 3月	1日～2001年	9月30日	成蹊大学法学部教授
Michel WASSERMAN	1997年 3月	1日～2001年	9月30日	立命館大学国際関係学部教授
石毛直道	1997年 10月	1日～2004年	3月31日	国立民族学博物館名誉教授
川又良也	1997年 10月	1日～2004年	3月31日	大阪国際大学法政経学部教授
後藤明生	1997年 10月	1日～1999年	8月 2日	作家／近畿大学文芸学部長
中川徹子	1997年 10月	1日～2001年	9月30日	聖心女子大学名誉教授
加賀乙彦	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	作家
片倉もとこ	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	中央大学総合政策学部教授
黒田日出男	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	東京大学史料編さん所附属画像史料解析センター教授
佐原真	1999年 10月	1日～2001年	9月30日	国立歴史民俗博物館長
谷泰	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	大谷大学文学部教授
長尾真	1999年 10月	1日～2003年	12月15日	京都大学総長
中村桂子	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	JT生命誌研究館長
八田英二	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	同志社大学長
藤井宏昭	1999年 10月	1日～2004年	3月31日	国際交流基金理事長
上野千鶴子	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	東京大学大学院人文社会系研究科教授
肥塚隆	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	大阪大学総合学術博物館長
小平桂一	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	総合研究大学院大学長
佐藤禎一	2001年 10月	1日～2003年	1月31日	日本学術振興会理事長
末松安晴	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	国立情報学研究所長
埴原和郎	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	東京大学名誉教授
Carl Bradley BECKER	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
本田和子	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	お茶の水女子大学長
宮地正人	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	国立歴史民俗博物館長
鷲田清一	2001年 10月	1日～2004年	3月31日	大阪大学大学院文学研究科教授

※評議員会は
2004年3月31日をもって廃止

運営協議員

氏名	在任期間			所属
飛鳥井雅道	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		京都大学人文科学研究所教授
飯田経夫	1987年 10月	1日～1998年 3月31日		日文研教授
石井米雄	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		上智大学アジア文化研究所教授
石川榮吉	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		東京都立大学名誉教授
市川惇信	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		国立環境研究所長
伊東俊太郎	1987年 10月 1993年 10月	1日～1989年 9月30日 1日～1995年 9月30日		東京大学教養学部教授 日文研教授
大石慎三郎	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		学習院大学経済学部教授
加藤秀俊	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		放送教育開発センター所長
河合隼雄	1987年 10月	1日～1994年 3月31日		日文研教授
佐々木高明	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		国立民族学博物館長
Donald KEENE	1987年 10月	1日～1989年 1月10日		日文研教授
中西進	1987年 10月	1日～1995年 3月31日		日文研教授
中根千枝	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		東京大学名誉教授
埴原和郎	1987年 10月	1日～1993年 3月31日		日文研教授
三谷太一郎	1987年 10月	1日～1993年 9月30日		東京大学大学院法学政治学研究科教授
村井康彦	1987年 10月	1日～1995年 3月31日		日文研教授
久野昭	1989年 10月	1日～1994年 3月31日		日文研教授
杉本秀太郎	1989年 10月	1日～1996年 3月31日		日文研教授
中岡哲郎	1989年 10月	1日～1995年 9月30日		大阪経済大学経営学部教授
濱口恵俊	1989年 10月	1日～1997年 3月31日		日文研教授
村上泰亮	1989年 10月	1日～1991年 3月31日		日文研教授
山折哲雄	1989年 10月	1日～1997年 3月31日		日文研教授
山田慶兒	1989年 10月	1日～1997年 3月31日		日文研教授
速水融	1991年 10月	1日～1995年 3月31日		日文研教授
五百旗頭眞	1993年 10月	1日～1997年 9月30日		神戸大学法学部教授
猪木武徳	1993年 10月 2002年 4月	1日～1995年 9月30日 1日～2004年 3月31日		大阪大学経済学部教授 日文研教授
小泉格	1993年 10月	1日～1999年 9月30日		北海道大学大学院理学研究科教授
小山修三	1993年 10月	1日～1999年 9月30日		国立民族学博物館教授
阪上孝	1993年 10月	1日～1999年 9月30日		京都大学人文科学研究所教授
高谷好一	1993年 10月	1日～1999年 9月30日		滋賀県立大学人間文化学部教授
竹市明弘	1993年 10月	1日～1999年 9月30日		岡崎学園国際短期大学長
田代和生	1993年 10月	1日～1997年 9月30日		慶應義塾大学文学部教授
村上陽一郎	1993年 10月	1日～1997年 9月30日		国際基督教大学教養学部教授
木村汎	1994年 4月	1日～1998年 3月31日		日文研教授
芳賀徹	1994年 4月	1日～1997年 3月31日		日文研教授

氏名	在任期間			所属
尾本恵市	1995年 4月	1日～1999年 3月31日		日文研教授
園田英弘	1995年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
辻惟雄	1995年 4月	1日～1996年 3月31日		日文研教授
安田喜憲	1995年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
大橋勇雄	1995年 10月	1日～2001年 9月30日		一橋大学大学院経済学研究科教授
田中優子	1995年 10月	1日～2001年 9月30日		法政大学第一教養部教授
井波律子	1996年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
千田稔	1996年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
石井紫郎	1997年 4月	1日～2000年 3月31日		日文研教授
笠谷和比古	1997年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
白幡洋三郎	1997年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
鈴木貞美	1997年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
大嶽秀夫	1997年 10月	1日～2004年 3月31日		京都大学大学院法学研究科教授
加藤尚武	1997年 10月	1日～2004年 3月31日		鳥取環境大学長
脇田晴子	1997年 10月	1日～2004年 3月31日		滋賀県立大学人間文化学部教授
赤澤威	1998年 4月	1日～2002年 3月31日		日文研教授
小松和彦	1998年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
川勝平太	2001年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授
川北稔	1999年 10月	1日～2004年 3月31日		大阪大学大学院文学研究科教授
佐々木克	1999年 10月	1日～2004年 3月31日		京都大学人文科学研究所教授
瀬戸口烈司	1999年 10月	1日～2004年 3月31日		京都大学大学院理学研究科教授
土居範久	1999年 10月	1日～2004年 3月31日		中央大学理工学部情報工学研究科教授
松原正毅	1999年 10月	1日～2004年 3月31日		国立民族学博物館地域研究企画交流センター教授
頼富本宏	1999年 4月	1日～2002年 3月31日		日文研教授
村松岐夫	2000年 4月	1日～2001年 3月31日		日文研教授
佐伯啓思	2001年 10月	1日～2004年 3月31日		京都大学大学院人間・環境学研究科教授
藤井貞和	2001年 10月	1日～2004年 3月31日		東京大学大学院総合文化研究科教授
合庭惇	2002年 4月	1日～2004年 3月31日		日文研教授／文化資料研究企画室教授

※運営協議員会は
2004年3月31日をもって廃止

運営会議委員

氏名	在任期間	所属
合庭 惇	2004年 7月 1日～2008年 3月31日	文化資料研究企画室教授
池端 雪浦	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	東京外国語大学長
稲賀 繁美	2004年 7月 1日～2006年 3月31日 2007年 4月 1日～	研究部教授
井上 章一	2004年 7月 1日～	研究部教授
猪木 武徳	2004年 7月 1日～2008年 3月31日	研究部教授
上野 千鶴子	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	東京大学大学院人文社会系研究科教授
小倉 和夫	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	国際交流基金理事長
片倉 もとこ	2004年 7月 1日～2005年 5月20日	中央大学総合政策学部教授
川勝 平太	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	研究部教授
黒田 日出男	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	立正大学文学部教授
白幡 洋三郎	2004年 7月 1日～	研究部教授
千田 稔	2004年 7月 1日～2007年 3月31日	研究部教授
園田 英弘	2004年 7月 1日～2007年 3月31日	研究部教授
田中 優子	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	法政大学社会学部教授
長田 豊臣	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	立命館大学総長
中西 進	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	京都市立芸術大学長
埴原 和郎	2004年 7月 1日～2004年 10月10日	東京大学名誉教授
早川 聞多	2004年 7月 1日～2006年 3月31日 2007年 4月 1日～	文化資料研究企画室教授
安田 喜憲	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	研究部教授
頼富 本宏	2004年 7月 1日～2006年 3月31日	種智院大学長
鷺田 清一	2004年 7月 1日～2008年 3月31日	大阪大学総長
村井 康彦	2005年 2月 7日～2006年 3月31日	京都市美術館館長
塩谷 隆英	2005年 6月 28日～2010年 3月31日	財団法人経済調査会会長
宇野 隆夫	2006年 4月 1日～	研究部教授
熊倉 功夫	2006年 4月 1日～2010年 3月31日	財団法人林原美術館長
ツベタナ I. クリステワ	2006年 4月 1日～2010年 3月31日	国際基督教大学人文科学科教授
小松 和彦	2006年 4月 1日～	研究部教授
島 蘭 進	2006年 4月 1日～2008年 3月31日	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授
鈴木 貞美	2006年 4月 1日～	研究部教授
竹内 洋	2006年 4月 1日～	関西大学人間健康学部長
戸部 良一	2006年 4月 1日～2009年 3月31日 2010年 4月 1日～	防衛大学校国際関係学科教授 研究部教授
錦 仁	2006年 4月 1日～	新潟大学大学院現代社会文化研究科教授
細川 周平	2006年 4月 1日～2010年 3月31日	研究部教授
宮 一穂	2006年 4月 1日～	京都精華大学デザイン学部教授
宮本 又郎	2006年 4月 1日～	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授

氏名	在任期間	所属
米本 昌平	2006年 4月 1日～2010年 3月31日	東京大学先端科学技術研究センター特任教授
荒このみ	2008年 4月 1日～	立命館大学文学部客員教授
坂井 東洋男	2008年 4月 1日～2010年 3月31日	京都産業大学長
牛村 圭	2008年 4月 1日～2010年 3月31日	研究部教授
劉建輝	2008年 4月 1日～2010年 3月31日	研究部准教授
川北 稔	2009年 4月 1日～	佛教大学特任教授
馬田 綾子	2010年 4月 1日～	梅花女子大学文化表現学部教授
大原 謙一郎	2010年 4月 1日～	大原美術館理事長
久保 文明	2010年 4月 1日～	東京大学大学院法学政治学研究科教授
佐藤 洋一郎	2010年 4月 1日～	総合地球環境学研究所副所長
多田 一臣	2010年 4月 1日～	東京大学大学院人文社会系研究科教授
倉本 一宏	2010年 4月 1日～	研究部教授
末末 文美士	2010年 4月 1日～	研究部教授

顧問・役職員

氏名	在任期間
●顧問	
梅原猛	1995年 5月 21日～
●海外研究交流顧問	
ロナルド・ドーア	2006年 4月 1日～2008年 3月31日
●所長	
梅原猛	1987年 5月 21日～1995年 5月20日
河合隼雄	1995年 5月 21日～2001年 5月20日
山折哲雄	2001年 5月 21日～2005年 5月20日
片倉もとこ	2005年 5月 21日～2008年 3月31日
猪木武徳	2008年 4月 1日～
●副所長	
小松和彦	2010年 4月 1日～
●研究調整主幹	
埴原和郎	1987年 5月 21日～1991年 3月31日
村井康彦	1988年 4月 8日～1991年 3月31日
中西進	1989年 5月 29日～1992年 3月31日
河合隼雄	1991年 4月 1日～1994年 3月31日
飯田経夫	1991年 4月 1日～1994年 3月31日
山田慶兒	1992年 4月 1日～1995年 3月31日
山折哲雄	1994年 4月 1日～1997年 3月31日
芳賀徹	1994年 4月 1日～1997年 3月31日
木村汎	1995年 4月 1日～1998年 3月31日
石井紫郎	1997年 4月 1日～2000年 3月31日
千田稔	1997年 4月 1日～2000年 3月31日
園田英弘	1998年 4月 1日～2001年 3月31日 2005年 5月 21日～2007年 3月31日
小松和彦	2000年 4月 1日～2004年 3月31日
鈴木貞美	2000年 4月 1日～2003年 3月31日
白幡洋三郎	2001年 4月 1日～2004年 3月31日 2008年 4月 1日～2010年 3月31日
安田喜憲	2003年 4月 1日～2005年 5月20日
稲賀繁美	2004年 4月 1日～2005年 5月20日 2010年 4月 1日～
川勝平太	2004年 4月 1日～2005年 5月20日
猪木武徳	2005年 5月 21日～2008年 3月31日
井上章一	2005年 5月 21日～2008年 3月31日 2009年 4月 1日～
細川周平	2007年 4月 1日～2009年 3月31日
宇野隆夫	2008年 4月 1日～2010年 3月31日
早川聞多	2010年 4月 1日～

氏名	在任期間
●情報管理施設長	
埴原和郎	1988年 4月 8日～1988年 9月30日
濱口恵俊	1988年 10月 1日～1992年 3月31日
速水融	1992年 4月 1日～1995年 3月31日
尾本恵市	1995年 4月 1日～1998年 3月31日
赤澤威	1998年 4月 1日～2001年 3月31日
井波律子	2001年 4月 1日～2004年 3月31日
合庭惇	2004年 4月 1日～2008年 3月31日
鈴木貞美	2008年 4月 1日～2010年 3月31日
早川聞多	2010年 4月 1日～
●管理部長	
秦明夫	1987年 5月 21日～1991年 3月31日
北尾美成	1991年 4月 1日～1994年 3月31日
大原勇	1994年 4月 1日～1996年 1月19日
工藤祥雅	1996年 1月 20日～1996年 2月 8日 （事務取扱）
川本幸彦	1996年 2月 9日～2000年 3月31日
若林茂樹	2000年 4月 1日～2001年 9月30日
内山博之	2001年 10月 1日～2004年 3月31日
宗近誠一郎	2004年 4月 1日～2006年 3月31日
竹内新也	2006年 4月 1日～2007年 9月30日
佐久間研二	2007年 10月 1日～2009年 7月13日
丹沢広行	2009年 7月 14日～
●文化資料研究企画室	
赤澤威	1999年 4月 1日～2001年 3月31日
井波律子	2001年 4月 1日～2004年 3月31日
合庭惇	2004年 4月 1日～2008年 3月31日
鈴木貞美	2008年 4月 1日～2010年 3月31日
森洋久	2010年 4月 1日～
●海外研究交流室長	
園田英弘	1998年 4月 9日～1999年 3月31日
石井紫郎	1999年 4月 1日～2000年 3月31日
鈴木貞美	2000年 4月 1日～2003年 3月31日
小松和彦	2003年 4月 1日～2004年 3月31日
川勝平太	2004年 4月 1日～2005年 5月20日
猪木武徳	2005年 5月 21日～2007年 3月31日
細川周平	2007年 4月 1日～2009年 3月31日
宇野隆夫	2009年 4月 1日～2010年 3月31日
山田奨治	2010年 4月 1日～

名誉教授

氏名	称号授与年月日
埴原和郎○	1993年 4月 1日
河合隼雄○	1994年 4月 1日
久野昭	1994年 4月 1日
伊東俊太郎	1995年 4月 1日
中西進	1995年 4月 1日
速水融	1995年 4月 1日
村井康彦	1995年 4月 1日
梅原猛	1995年 5月 21日
杉本秀太郎	1996年 4月 1日
濱口恵俊○	1997年 4月 1日
芳賀徹	1997年 4月 1日
山折哲雄	1997年 4月 1日
山田慶兒	1997年 4月 1日
飯田経夫○	1998年 4月 1日
尾本恵市	1999年 4月 1日
石井紫郎	2001年 1月 6日
木村汎	2002年 4月 1日
赤澤威	2004年 4月 1日
今谷明	2008年 4月 1日
片倉もとこ	2008年 4月 1日
千田稔	2008年 4月 1日
合庭惇	2009年 4月 1日
井波律子	2009年 4月 1日
○印は故人	

氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
梅原猛	1987年 5月 21日	所長	1995年5月20日任期満了 1995年5月21日名誉教授称号授与 1995年5月21日顧問就任
埴原和郎	1987年 5月 21日	教授	1993年3月31日停年退職 1993年 4月1日名誉教授称号授与 1993年 4月1日京都文化短期大学教授就任
中西進	1987年 5月 21日	教授	1995年3月31日停年退職 1995年4月1日名誉教授称号授与 1995年4月1日帝塚山学院大学教授就任
井上章一	1987年 5月 21日	助教授	2002年10月16日教授昇任
園田英弘	1987年 5月 21日	助教授	1994年4月1日教授昇任 2007年4月7日逝去
上垣外憲一	1987年 5月 21日	助教授	1997年8月1日教授昇任 1998年3月31日退職 1998年4月1日帝塚山学院大学教授就任
白幡洋三郎	1987年 5月 21日	助教授	1996年4月1日教授昇任
Donald KEENE	1987年 5月 25日	教授	1989年1月10日任期満了退職
村井康彦	1987年 10月 1日	教授	1995年3月31日退職 1995年4月1日名誉教授称号授与 1995年4月1日滋賀県立大学教授就任
早川聞多	1987年 11月 1日	助教授	2001年10月1日教授昇任
杉本秀太郎	1988年 4月 1日	教授	1996年3月31日停年退職 1996年4月1日名誉教授称号授与
久野昭	1988年 4月 8日	教授	1994年3月31日退職 1994年4月1日名誉教授称号授与 1994年4月1日中京女子大学教授就任
安田喜憲	1988年 4月 8日	助教授	1994年4月1日教授昇任
山折哲雄	1988年 10月 1日	教授	1997年3月31日停年退職 1997年4月1日名誉教授称号授与 2001年5月21日所長就任 2005年5月20日任期満了
村上泰亮	1988年 10月 1日	教授	1991年3月31日退職 1991年4月1日国際大学教授就任
濱口恵俊	1988年 10月 1日	教授	1997年3月31日停年退職 1997年4月1日名誉教授称号授与 1997年4月1日滋賀県立大学教授就任
森岡正博	1988年 10月 1日	助手	1997年3月31日退職 1997年4月1日大阪府立大学助教授就任

※助教授は2007年4月から准教授

専任教員

専任教員

氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
山田慶兒	1989年 4月 1日	教授	1997年3月31日停年退職 1997年4月1日名誉教授称号授与
飯田経夫	1989年 4月 1日	教授	1998年3月31日停年退職 1998年4月1日名誉教授称号授与 1998年4月1日中部大学教授就任
笠谷和比古	1989年 4月 1日	助教授	1996年4月1日教授昇任
柏岡富英	1989年 4月 1日	助教授	1998年3月31日退職 1998年4月1日京都女子大学教授就任
鈴木貞美	1989年 4月 1日	助教授	1996年10月1日教授昇任
速水融	1989年 10月 1日	教授	1995年3月31日停年退職 1995年4月1日名誉教授称号授与 1995年4月1日麗澤大学教授就任
小野芳彦	1989年 10月 1日	助教授	1996年3月16日北海道大学教授へ転出
Pauline KENT	1989年 10月 1日	助手	1996年3月31日退職 1996年4月1日龍谷大学助教授就任
伊東俊太郎	1989年 12月 1日	教授	1995年3月31日退職 1995年4月1日名誉教授称号授与 1995年4月1日麗澤大学教授就任
河合隼雄	1990年 6月 1日	教授	1994年3月31日停年退職 1994年4月1日名誉教授称号授与 1995年5月21日所長就任 2001年5月20日任期満了
黒須里美	1990年 7月 1日	助手	1999年3月31日退職 1999年4月1日麗澤大学助教授就任
佐藤知己	1990年 10月 1日	助手	1991年10月1日北海道教育大学助手へ転出
木村汎	1991年 4月 1日	教授	2002年3月31日定年退職 2002年4月1日名誉教授称号授与 2002年4月1日拓殖大学教授就任
北川浩之	1991年 4月 1日	助手	1999年4月1日名古屋大学助教授へ転出
芳賀徹	1991年 5月 1日	教授	1997年3月31日停年退職 1997年4月1日名誉教授称号授与 1997年4月1日大正大学教授就任
辻惟雄	1992年 10月 1日	教授	1996年3月31日退職 1996年4月1日千葉市美術館館長就任
長田俊樹	1992年 10月 1日	助手	2001年3月31日退職 2001年4月1日京都造形芸術大学教授就任

氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
尾本恵市	1993年 4月 1日	教授	1999年3月31日停年退職 1999年4月1日名誉教授称号授与 1999年4月1日桃山学院大学教授就任
栗山茂久	1994年 4月 1日	助教授	2004年4月1日教授昇任 2005年6月30日退職 2005年7月1日ハーバード大学教授就任
落合恵美子	1994年 4月 1日	助教授	2003年4月1日京都大学大学院助教授へ転出
井波律子	1995年 4月 1日	教授	2009年3月31日定年退職 2009年4月1日名誉教授称号授与
千田稔	1995年 4月 1日	教授	2008年3月31日定年退職 2008年4月1日名誉教授称号授与 2008年4月1日立命館大学教授就任
光田和伸	1995年 4月 1日	助教授	
石井紫郎	1995年 4月 2日	教授	2001年1月5日退職 2001年1月6日名誉教授称号授与 2001年1月6日内閣府総合科学技術会議議員就任
徐朝龍	1996年 4月 1日	助教授	1998年3月31日退職
山田奨治	1996年 10月 1日	助教授	2011年4月1日教授昇任
小松和彦	1997年 4月 1日	教授	
赤澤威	1997年 4月 1日	教授	2004年3月31日定年退職 2004年4月1日名誉教授称号授与 2004年4月1日高知工科大学教授就任
稲賀繁美	1997年 4月 1日	助教授	2004年4月1日教授昇任
川勝平太	1998年 4月 1日	教授	2007年3月31日退職 2007年4月1日静岡文化芸術大学学長就任
村松岐夫	1998年 4月 1日	教授	2001年3月31日併任期間満了 ※京都大学大学院教授。上記期間中は日文研教授として併任
頼富本宏	1998年 4月 1日	教授	2002年3月31日退職 2002年4月1日種智院大学学長就任
松田利彦	1998年 10月 1日	助教授	
渡邊雅子	1998年 10月 1日	助教授	2007年4月30日退職 2007年5月1日名古屋大学大学院准教授就任

専任教員

氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
Timothy Dale KERN	1999年 1月 1日	助教授	2007年12月31日任期満了退職 2008年7月1日助教採用 2011年6月30日任期満了退職
James Craig BAXTER	1999年 4月 1日	教授	2009年8月31日退職 2009年9月1日桜美林大学教授就任
劉建輝	1999年 4月 1日	助教授	
宇野隆夫	1999年 10月 1日	教授	
森洋久	1999年 10月 1日	助教授	2005年9月30日任期満了退職 2005年10月1日大阪市立大学助教授就任 2009年8月1日准教授採用
合庭惇	2000年 4月 1日	教授	2009年3月31日定年退職 2009年4月1日名誉教授称号授与
中川毅	2000年 4月 1日	助手	2003年3月31日任期満了退職
Patricia Jean FISTER	2001年 4月 1日	助教授	2007年8月16日教授昇任
佐藤卓己	2001年 4月 1日	助教授	2004年4月1日京都大学大学院助教授へ転出
猪木武徳	2002年 4月 1日	教授	2001年6月1日から2002年3月31日まで併任（大阪大学大学院教授） 2008年4月1日所長就任
Alexander BENNETT	2002年 4月 1日	助手	2006年3月31日任期満了退職 2006年4月1日帝京大学専任講師就任
Markus RÜTTERMANN	2002年 10月 16日	助教授	
Frederik CRYNs	2003年 4月 1日	助手	2006年3月31日任期満了退職 2006年10月1日助教採用
今谷明	2004年 4月 1日	教授	2008年3月31日定年退職 2008年4月1日名誉教授称号授与 2008年4月1日都留文科大学学長就任
細川周平	2004年 4月 1日	助教授	2006年4月1日教授昇任
池内恵	2004年 4月 1日	助教授	2008年9月30日退職 2008年10月1日東京大学准教授就任
牛村圭	2005年 3月 28日	助教授	2007月8月16日教授昇任

氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
片倉もとこ	2005年 5月 21日	所長	2008年3月31日退職 2008年4月1日 名誉教授称号授与
新井菜穂子	2006年 4月 1日	助教授	2009年3月31日任期満了退職
磯前順一	2007年 4月 1日	准教授	
瀧井一博	2007年 10月 1日	准教授	
郭南燕	2008年 8月 1日	准教授	
John BREEN	2008年 9月 1日	准教授	2011年4月1日教授昇任
戸部良一	2009年 4月 1日	教授	
末木文美士	2009年 4月 1日	教授	
倉本一宏	2009年 4月 1日	教授	
榎本渉	2010年 1月 1日	准教授	
荒木浩	2010年 4月 1日	教授	
伊東貴之	2010年 4月 1日	教授	
佐野真由子	2010年 4月 1日	准教授	

寄附研究部門教員・特任研究員

寄付研究部門（海外日本美術情報（長谷工））			
氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
別役恭子	1991年 4月 1日	寄附研究部門教授	1996年3月30日退職
Patricia Jean FISTER	1991年 10月 1日	寄附研究部門教員	1995年1月1日寄附研究部門助教授、1996年3月31日任期満了退職
特任研究員			
氏名	就任年月日	職名	就任後の異動
尾形洋一	2010年 8月 1日	特任助教	2011年 3月31日任期満了退職、国立公文書館アジア歴史資料センターへ就職
井村哲郎	2011年 4月 1日	特任教授	
小都晶子	2011年 4月 1日	特任助教	

氏名	職名	在任期間		所属・職
河合隼雄	教授	1987年	5月 21日～1990年 3月 31日	京都大学教育学部教授
杉田繁治	教授	1987年	5月 21日～1992年 3月 31日	国立民族学博物館教授
中根千枝	教授	1987年	5月 21日～1994年 3月 31日	東京大学名誉教授
田代和生	教授	1988年	4月 8日～1994年 3月 31日	慶応義塾大学文学部教授
三谷博	助教授	1988年	5月 1日～1990年 3月 31日	東京大学教養学部助教授
上野千鶴子	助教授	1988年	7月 1日～1992年 3月 31日	京都精華大学人文学部助教授
小松和彦	助教授	1989年10月	1日～1990年 3月 31日	大阪大学文学部助教授
寶来聰	助教授	1989年10月	1日～1992年 3月 31日 (1989年10月1日～1991年6月15日助手)	国立遺伝学研究所助教授
上田正昭	教授	1990年	7月 1日～1991年 5月 31日	京都大学教養部教授
宇佐美齊	助教授	1990年	7月 1日～1992年 3月 31日	京都大学人文科学研究所助教授
北川勝彦	教授	1990年	7月 1日～1993年 3月 31日 (1990年7月1日～1992年8月31日助教授)	四国学院大学教養部教授
木村幸弘	助教授	1990年	7月 1日～1992年 3月 31日	(勸中近東文化センター主任研究員)
村松岐夫	教授	1990年	7月 1日～1993年 3月 31日	京都大学法学部教授
金兎曉嗣	教授	1991年10月	1日～1996年 3月 31日 (1991年10月1日～1993年6月30日助教授)	大阪市立大学文学部教授
山口昌男	教授	1991年10月	16日～1994年 3月 31日	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
稲垣直樹	助教授	1992年	4月 1日～1994年 3月 31日	京都大学総合人間学部助教授
正木晃	助教授	1992年	4月 1日～1995年 3月 31日	中京女子大学助教授

※助教授は2007年4月から准教授

客員教員

客員教員

氏名	職名	在任期間	所属・職
松田清	教授	1992年 4月 1日～1999年 3月31日	京都大学総合人間学部教授 (1992年4月1日～1994年3月31日助教授)
宮田登	教授	1992年 4月 1日～1995年 3月31日	神奈川大学経済学部教授
吉村作治	助教授	1992年 4月 1日～1995年 3月31日	早稲田大学人間科学部助教授
安場保吉	教授	1992年 9月 1日～1992年 12月31日	大阪大学経済学部教授
郡司隆男	助教授	1992年 9月 1日～1995年 3月31日	大阪大学大学院言語文化研究科助教授
米山俊直	教授	1992年 9月 1日～1994年 3月31日	京都大学総合人間学部教授
松井孝典	助教授	1992年 9月 1日～1995年 3月31日	東京大学大学院理学系研究科助教授
鎌田東二	助教授	1992年11月 1日～1995年 3月31日	武蔵丘短期大学助教授
千田稔	教授	1992年11月 1日～1995年 3月31日	奈良女子大学文学部教授
田畑千秋	助教授	1993年 1月 1日～1995年 3月31日	大分大学教育学部助教授
中岡哲郎	教授	1993年 1月 1日～1997年 3月31日	大阪経済大学経営学部教授
佐伯順子	助教授	1993年 4月 1日～1996年 3月31日	帝塚山学院大学文学部助教授
坂部恵	教授	1993年 4月 1日～1995年 3月31日	東京大学文学部教授
日置弘一郎	助教授	1993年 4月 1日～1996年 3月31日	京都大学経済学部助教授
江頭淳夫	教授	1993年10月 1日～1995年 3月31日	慶応義塾大学環境情報学部教授
上田紀行	助教授	1994年 4月 1日～1997年 3月31日	東京工業大学工学部助教授
川勝平太	教授	1994年 4月 1日～1997年 3月31日	早稲田大学政治経済学部教授

氏名	職名	在任期間	所属・職
酒井シヅ	教授	1994年 4月 1日～1997年 3月31日	順天堂大学医学部教授
吉崎昌一	教授	1994年 4月 1日～1997年 3月31日	静修女子大学国際文化学科教授
高橋晃子	助教授	1994年 7月 1日～1997年 3月31日	神戸女子大学家政学部教授
赤坂憲雄	教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	東北芸術工科大学教養部教授 (1995年4月1日～1997年3月31日助教授)
石田秀実	教授	1995年 4月 1日～1996年 3月31日	九州国際大学経済学部教授
稲賀繁美	助教授	1995年 4月 1日～1997年 3月31日	三重大学人文学部助教授
岡部あおみ	助教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	パリ国立高等美術学校客員教授
斎藤成也	助教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	国立遺伝学研究所助教授
佐藤知己	助教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	北海道大学文学部助教授
速水融	教授	1995年 4月 1日～2000年 3月31日	麗澤大学国際経済学部教授
樋口隆康	教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	奈良県立橿原考古学研究所長
山口昌男	教授	1995年 4月 1日～1998年 3月31日	札幌大学文化学部長
佐々木英昭	助教授	1996年 4月 1日～1999年 3月31日	名古屋工業大学工学部助教授
津田幸男	教授	1996年 4月 1日～1997年 3月31日	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
寺澤薫	助教授	1996年 4月 1日～1999年 3月31日	奈良県立橿原考古学研究所総括研究員
中西寛	助教授	1996年 4月 1日～1999年 3月31日	京都大学大学院法学研究科助教授
吉田忠	教授	1996年 4月 1日～1999年 3月31日	東北大学東北アジア研究センター教授

客員教員

氏名	職名	在任期間		所属・職
大月隆寛	助教授	1997年 4月 1日	～2000年 3月 31日	民俗学者・元国立歴史民俗博物館助教授
大橋良介	教授	1997年 4月 1日	～2000年 3月 31日	京都工芸繊維大学工学学部教授
小泉和子	教授	1997年 4月 1日	～1998年 3月 31日	(有)小泉和子生活史研究所代表取締役
東元春夫	教授	1997年 4月 1日	～2000年 3月 31日	京都女子大学宗教・文化研究所教授
松居竜五	助教授	1997年 4月 1日	～2000年 3月 31日	駿河台大学現代文化学部助教授
鷺田清一	教授	1997年 4月 1日	～1999年 3月 31日	大阪大学文学部教授
岩井洋	助教授	1997年 7月 1日	～2000年 3月 31日	関西国際大学短期大学部助教授
竹村恵二	助教授	1997年 7月 1日	～2000年 3月 31日	京都大学大学院理学研究科助教授
青木健一	教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	東京大学大学院理学系研究科教授
石弘之	教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
大嶋仁	教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	福岡大学人文学部教授
佐藤洋一郎	助教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	静岡大学農学部助教授
柴山哲也	助教授	1998年 4月 1日	～1999年 3月 31日	朝日新聞社客員
原正一郎	助教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	国文学研究資料館研究情報部助教授
山室信一	教授	1998年 4月 1日	～2001年 3月 31日	京都大学人文科学研究所教授 (1998年4月1日～1998年4月30日助教授)
戸塚隆子	助教授	1999年 4月 1日	～2002年 3月 31日	日本大学国際関係学部助教授
橋本毅彦	助教授	1999年 4月 1日	～2000年 3月 31日	東京大学大学院工学系研究科助教授

氏名	職名	在任期間		所属・職
原田信男	教授	1999年 4月 1日	～2002年 3月 31日	札幌大学女子短期大学部教授
御厨貴	教授	1999年 4月 1日	～2002年 3月 31日	政策研究大学院大学大学院政策研究科教授
吉田元	教授	1999年 4月 1日	～2002年 3月 31日	種智院大学仏教学部教授
内田忠賢	助教授	1999年 5月 1日	～2002年 3月 31日	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授
關一敏	助教授	1999年 5月 1日	～2002年 3月 31日	九州大学大学院人間環境学研究院助教授
神内俊郎	教授	1999年 7月 1日	～2002年 3月 31日	(株)日立製作所金融・流通システムグループ 試作開発センタ長
Pauline KENT	助教授	2000年 4月 1日	～2003年 3月 31日	龍谷大学国際文化学部助教授
Kenneth L. RICHARD	教授	2000年 4月 1日	～2003年 3月 31日	県立長崎シーボルト大学国際情報学部教授
今谷明	教授	2000年 4月 1日	～2001年 3月 31日	横浜市立大学国際文化学部教授
菅谷文則	教授	2000年 4月 1日	～2003年 3月 31日	滋賀県立大学人間文化学部教授
西原大輔	助教授	2000年 4月 1日	～2003年 3月 31日	駿河台大学法学部助教授
水内俊雄	助教授	2000年 8月 1日	～2003年 3月 31日	大阪市立大学大学院文学研究科助教授
村山聡	助教授	2000年 8月 1日	～2003年 3月 31日	香川大学教育学部助教授
谷井俊仁	助教授	2000年10月 1日	～2003年 3月 31日	三重大学人文学部助教授
浅野豊美	助教授	2001年 4月 1日	～2002年 3月 31日	中京大学教養部助教授
猪瀬直樹	教授	2001年 4月 1日	～2004年 3月 31日	作家
北川浩之	助教授	2001年 4月 1日	～2004年 3月 31日	名古屋大学大学院環境学研究科助教授

客員教員

氏名	職名	在任期間		所属・職
白石さや	教授	2001年 4月 1日	～2004年 3月 31日	東京大学大学院教育学研究科教授
辻本雅史	教授	2001年 4月 1日	～2004年 3月 31日	京都大学大学院教育学研究科教授
長田俊樹	教授	2001年 4月 1日 2003年11月 1日	～2003年 9月 30日 ～2004年 3月 31日	京都造形芸術大学芸術学部教授 総合地球環境学研究所教授
村松岐夫	教授	2001年 4月 1日	～2002年 3月 31日	京都大学大学院法学研究科教授
井佐原均	教授	2002年 4月 1日	～2004年 3月 31日	(独)通信総合研究所情報通信部門 けいはんな情報通信融合研究センター 自然言語グループグループリーダー
川島真	助教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	北海道大学大学院法学研究科助教授
川村邦光	教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	大阪大学大学院文学研究科教授
北澤一利	助教授	2002年 4月 1日	～2004年 3月 31日	北海道教育大学教育学部釧路校助教授
佐藤友美子	教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	サントリー(株)不易流行研究所部長
徐光輝	助教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	龍谷大学国際文化学部助教授
高木侃	教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	専修大学法学部教授
田中貴子	助教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	京都精華大学人文学部助教授
玉井哲雄	教授	2002年 4月 1日	～2005年 3月 31日	千葉大学工学部教授
小野谷敦	助教授	2003年 4月 1日	～2006年 3月 31日	著述業
北岡伸一	教授	2003年 4月 1日	～2004年 3月 31日	東京大学大学院法学政治学研究科教授
佐藤洋一郎	教授	2003年 4月 1日 (2003年4月1日～2003年9月30日助教授)	～2006年 3月 31日	総合地球環境学研究所教授
錦仁	教授	2003年 4月 1日	～2006年 3月 31日	新潟大学人文学部教授

氏名	職名	在任期間		所属・職
西横偉	助教授	2003年 4月 1日	～2006年 3月 31日	熊本大学文学部助教授
原武史	教授	2003年 4月 1日 (2003年4月1日～2004年3月31日助教授)	～2006年 3月 31日	明治学院大学国際学部教授
林洋子	助教授	2003年 4月 1日	～2006年 3月 31日	京都造形芸術大学芸術学部助教授
今橋理子	助教授	2004年 4月 1日	～2007年 3月 31日	学習院女子大学国際文化交流学部助教授
奥住啓介	教授	2004年 4月 1日	～2006年 3月 31日	(助)データベース振興センター事務局長
木岡伸夫	教授	2004年 4月 1日	～2005年 3月 31日	関西大学文学部教授
佐藤卓己	助教授	2004年 4月 1日	～2006年 3月 31日	京都大学大学院教育学研究科助教授
濱名篤	教授	2004年 4月 1日	～2007年 3月 31日	関西国際大学長
山辺規子	教授	2004年 4月 1日 (2004年4月1日～2005年3月31日助教授)	～2007年 3月 31日	奈良女子大学文学部教授
吉沢英成	教授	2004年 4月 1日	～2007年 3月 31日	甲南大学経済学部教授・(学)甲南大学理事長
遠山敦子	教授	2004年 5月 1日	～2007年 3月 31日	元文部科学大臣・ (助)新国立劇場運営財団理事長
青木淳	助教授	2005年 4月 1日	～2008年 3月 31日	多摩美術大学造形表現学部准教授
加藤祐三	教授	2005年 4月 1日	～2008年 3月 31日	元横浜市立大学長・ 横浜市立大学名誉教授
金恵信	助教授	2005年 4月 1日	～2008年 3月 31日	学習院大学文学部非常勤講師
近藤功行	教授	2005年 4月 1日	～2006年 3月 31日	沖縄キリスト教学院大学人文学部教授
鈴木敏昭	教授	2005年 4月 1日	～2008年 3月 31日	金沢大学非常勤講師
西川幸治	教授	2005年 4月 1日	～2008年 3月 31日	元滋賀県立大学長・京都大学名誉教授

客員教員

氏名	職名	在任期間		就任時の所属・職	
林田明	教授	2005年	4月 1日～2008年 3月31日	同志社大学工学部教授	
檜垣樹里	助教授	2005年	7月19日～2008年 3月31日	早稲田大学国際教養学部准教授	
阿部武司	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	大阪大学大学院経済学研究科教授	
岩渕功一	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	早稲田大学国際教養学部教授 (2006年4月1日～2008年3月31日助教授)	
斎藤光	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	京都精華大学人文学部教授	
杉山洋	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	奈良文化財研究所企画部展示企画室長	
鈴木禎宏	助教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	お茶の水女子大学生生活科学部准教授	
孫江	助教授	2006年	4月 1日～2007年 3月31日	静岡文化芸術大学文化政策学部助教授	
徳田和夫	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	学習院女子大学国際文化交流学部教授	
本野英一	教授	2006年	4月 1日～2009年 3月31日	早稲田大学政治経済学部教授	
奥住啓介	特別客員教授	2006年	4月 1日～2008年 3月31日	(財)日本情報処理開発協会 データベース振興センター参事	
望月和彦	教授	2007年	4月 1日～2010年 3月31日	桃山学院大学経済学部教授	
Friedrich Detlev SCHAU-WECKER	教授	2007年	4月 1日～2010年 3月31日	元関西大学外国語教育研究機構教授	
川勝平太	教授	2007年	4月 1日～2008年 3月31日	静岡文化芸術大学長	
落合恵美子	教授	2007年	4月 1日～2009年 3月31日	京都大学大学院文学研究科教授	
佐野真由子	准教授	2007年	4月 1日～2010年 3月31日	静岡文化芸術大学文化政策学部准教授	
中島岳志	准教授	2007年	4月 1日～2010年 3月31日	北海道大学公共政策大学院准教授	

氏名	職名	在任期間		就任時の所属・職	
大嶋仁	教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	福岡大学人文学部教授	
奥野卓司	教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	関西学院大学社会学部教授	
上垣外憲一	教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	大手前大学総合文化学部教授	
末本文美士	教授	2008年	4月 1日～2009年 3月31日	東京大学大学院人文社会系教授	
千葉慶	准教授	2008年	4月 1日～2011年3月 31日	明治大学非常勤講師	
平野共余子	准教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	フリーランス・ライター	
磯田道史	准教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	茨城大学人文学部准教授	
喜多千草	特別客員教授	2008年	4月 1日～2011年 3月31日	関西大学総合情報学部教授 (2008年4月1日～2009年3月31日特別客員准教授)	
古田島洋介	教授	2009年	4月 1日～	明星大学人文学部教授	
片山杜秀	准教授	2009年	4月 1日～	慶応義塾大学法学部准教授	
橋本順光	准教授	2009年	4月 1日～	大阪大学大学院文学研究科准教授	
上村敏文	准教授	2009年	4月 1日～2011年 3月31日	ルーテル学院大学総合人間学部准教授	
森洋久	特別客員准教授	2009年	4月 1日～2009年 7月31日	大阪市立大学大学院文学研究科准教授	
酒井哲哉	教授	2010年	4月 1日～	東京大学大学院総合文化研究科教授	
高橋伸彰	教授	2010年	4月 1日～	立命館大学国際関係学部教授	
林淳	教授	2010年	4月 1日～	愛知学院大学文学部教授	
近藤好和	教授	2010年	4月 1日～	國學院大學文学部兼任講師 他	

客員教員

氏名	職名	在任期間	就任時の所属・職
森勇一	准教授	2010年 4月 1日～	金城学院大学薬学部講師
齋藤俊文	特別客員 准教授	2010年 4月 1日～	九州大学大学院芸術工学研究院准教授
浦田義和	教授	2011年 4月 1日～	佐賀大学文化教育学部教授
張競	教授	2011年 4月 1日～	明治大学国際日本学部教授
依岡隆児	教授	2011年 4月 1日～	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授
中村和恵	教授	2011年 4月 1日～	明治大学法学部教授
多田伊織	准教授	2011年 4月 1日～	京都大学人文科学研究所非常勤講師 他
小川原正道	准教授	2011年 4月 1日～	慶應義塾大学法学部准教授
木村朗子	准教授	2011年 4月 1日～	津田塾大学学芸学部准教授
辻垣晃一	准教授	2011年 4月 1日～	京都府立東鶴高等学校教諭

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Fosco MARAINI	教授	1987年11月16日～ 1988年6月30日	フィレンツェと京都における文化人類学の手法による比較研究	イタリア	イタリア日本研究学会会長
Engelbert JORISSEN	助教授	1987年12月1日～ 1988年3月15日	16～17世紀における日欧文化交渉史	西ドイツ	(ケルン大学教授資格候補者)
Royall TYLER	教授	1988年7月1日～ 1989年6月30日	中世説話文学における「人称」の研究	アメリカ	オスロ大学上級講師
卞立強	教授	1988年11月1日～ 1989年4月30日	18世紀を中心とする東アジア文化交流の研究	中国	北京大学常務副主任
Clarence Andrew GERSTLE	助教授	1988年11月4日～ 1989年5月31日	浄瑠璃における歴史観の研究	米国	オーストラリア国立大学上級講師
汪向荣	教授	1989年5月8日～ 1989年11月7日	近代における中日両国の文化関係	中国	中国中日関係史研究会常務理事
Ian Hideo LEVY	助教授	1989年6月1日～ 1990年5月31日	和歌史における自我の研究	米国	スタンフォード大学準教授
李御寧	教授	1989年8月1日～ 1989年12月31日	江戸時代における演劇の空間論の研究	韓国	梨花女子大学校教授
Grant K. GOODMAN	教授	1989年10月1日～ 1990年9月30日	インドと日本のナショナリズムの比較研究	米国	カンザス大学教授
馬興国	助教授	1989年11月17日～ 1990年11月16日	中日文学交流史の研究	中国	遼寧大学副教授
Karel FIALA	助教授	1990年4月1日～ 1991年3月31日	平家物語の文章型の研究	チェコスロバキア	チェコスロバキア科学アカデミー常任研究員
Mikotaj MELANOWICZ	教授	1990年11月16日～ 1991年11月15日	日本文学における時間意識に関する研究	ポーランド	ワルシャワ大学教授
Jürgen BERNDT	教授	1990年11月21日～ 1991年10月31日	世界文学における日本文学	ドイツ	フンボルト大学教授
王曉平	助教授	1990年12月1日～ 1991年11月30日	文学を通して見られる個人性の中日文学による比較研究	中国	天津師範大学助教授
Satya Bhushan VERMA	教授	1991年1月7日～ 1992年1月6日	日本の文化史に関する研究	インド	ジャワハルラル・ネルー大学教授
Beatrice Marianne BODART-BAILEY	助教授	1991年3月4日～ 1992年2月29日	ケンペルから見た17世紀日本の研究	ドイツ	オーストラリア国立大学助教授
Savitri VISHWANATHAN	教授	1991年6月3日～ 1992年5月31日	日本の政治・外交史に関する研究	インド	デリー大学教授

※「就任時の所属・職」は申請時のもの

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Libuše BOHÁČKOCÁ	教授	1991年10月11日～ 1992年9月30日	日本とチェコスロバキアの文化 交流史―特に美術品を中心に―	チェコスロ バキア	ナプルステク 博物館部長
Ilari Heikki Johannes TYRNI	教授	1991年11月1日～ 1992年10月31日	現代日本の企業経営と労働 形態に関する研究	フィンランド	タンペレ大学教授
王勇	助教授	1991年12月1日～ 1992年11月30日	日本文化史における日中交流の 研究	中国	杭州大学 日本文化研究センター 所長
KIM Le Chun	教授	1991年12月6日～ 1992年11月30日	現代日本小説に関する研究	ロシア	ロシア科学アカデミー 教授
William Donald JOHNSTON	助教授	1992年1月10日～ 1993年1月9日	19世紀の日本における家族の 研究	米国	ウェゼリアン大学 助教授
李栄九	教授	1992年3月1日～ 1993年2月28日	連歌俳諧の美学	韓国	中央大学校教授
Laurel Louise CORNELL	助教授	1992年3月1日～ 1992年8月31日	イエ概念の再検討―徳川日本 の農民家族―	米国	インディアナ大学 助教授
Rodica Livia MONNET	助教授	1992年6月16日～ 1993年5月15日	文化・政治とエロチシズム理論 ―ポスト・モダン日本における フィクションの状況―	スイス	ミネソタ大学 準教授
姜希雄	教授	1992年9月1日～ 1993年8月31日	10世紀の日本と高麗―中国文明 から受けた衝撃の比較研究―	米国	ハワイ大学 マノア校教授
Martin Charles COLLCUTT	教授	1992年9月2日～ 1993年8月31日	中世・近世日本の民衆文化と 宗教	イギリス	プリンストン大学 教授
Tzvetana Ilieva KRISTEVA	教授	1992年11月3日～ 1993年10月31日	日本文学、とくに古典文学の 記号論的研究	ブルガリア	ソフィア大学教授
Olof Gustav LIDIN	教授	1992年12月1日～ 1993年11月30日	日欧の日本研究の現状と課題 に関する比較研究	デンマーク	コペンハーゲン大学 教授
Maja MILČINSKI	助教授	1993年1月10日～ 1994年1月9日	中国儒教と日本の伝統思想との 比較研究	スロヴェニア	リュブリャーナ大学 助教授
Selcuk Ayse ESENBEL	助教授	1993年2月21日～ 1993年8月20日	明治期日本とオスマントルコの 近代化における西洋文化及び 固有文化の利用	トルコ	ボスボラス大学 助教授
Willy Freddy VANDE WALLE	教授	1993年4月1日～ 1994年2月6日	日本とベルギーとの文化交流史 の研究	ベルギー	ルーヴァン・カトリック 大学教授
金容雲	教授	1993年6月1日～ 1993年11月30日	日韓比較科学史・文化史研究	韓国	漢陽大学校教授
Paul Francis McCARTHY	教授	1993年6月1日～ 1994年3月31日	谷崎潤一郎研究	米国	駿河台大学教授

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Earl MINER	教授	1993年9月1日～ 1994年2月28日	比較詩学研究	米国	プリンストン大学 教授
劉建輝	助教授	1993年9月1日～ 1994年8月31日	文学を中心とする1920～1930年代 の日中文化交流の研究	中国	南開大学副教授
Augustin BERQUE	教授	1993年10月5日～ 1994年4月4日	日本の科学と文明研究	フランス	フランス国立社会 科学高等研究院 教授
François MACÉ	教授	1993年11月1日～ 1994年10月31日	豊臣秀吉の葬送儀礼について	フランス	フランス国立東洋言語 文化研究学院教授
賈蕙萱	助教授	1994年1月1日～ 1994年12月31日	中国と日本の風俗の比較研究	中国	北京大学助教授
Anthony Venceslas LIMAN	教授	1994年1月10日～ 1994年7月9日	近代日本の物語における風景の ナラトロジー	カナダ	トロント大学教授
毛昭晰	教授	1994年4月1日～ 1994年6月30日	稲作文化の起源と伝播に関する 日中比較研究	中国	杭州大学教授
Patricia Elizabeth TSURUMI	教授	1994年4月1日～ 1994年12月31日	明治期日本における「女性」社会 構造のイデオロギー的変容	カナダ	ヴィクトリア大学教授
嚴紹壘	教授	1994年4月1日～ 1995年3月31日	日中における神話から小説への 発展の軌跡の研究	中国	北京大学教授
Michail Vladimirovich USPENSKY	助教授	1994年4月1日～ 1995年3月31日	歌川国芳の版画及び四条派 版画の研究	ロシア	ロシア国立エルミター ージュ美術館 上級学芸員
John SHARKEY	助教授	1994年4月16日～ 1996年3月31日	20世紀における日本の貿易と世界市場 ／1920年代における日本の貿易と インドの経済国家主義	イギリス	パークレイズ・ド・ ズート・ウェッド調査員
王家驊	教授	1994年6月3日～ 1995年5月31日	日本人の「経・権」観―日中儒学 の比較―	中国	南開大学教授
Regine Diane JOHNSON	助教授	1994年7月1日～ 1995年6月30日	江戸期の戯作の研究	米国	ハーバード大学 助教授
Maya Petrovna GERASIMOVA	教授	1994年7月10日～ 1995年6月30日	川端康成における想像力	ロシア	ロシア科学アカデミー 東洋学研究所 研究員
Michel Louis CARTIER	教授	1994年11月5日～ 1995年3月31日	東北アジアの人口および経済史 の比較研究	フランス	フランス国立社会 科学高等研究院 主任教授
William Harry SAMONIDES	助教授	1994年12月10日～ 1995年12月9日	17世紀日本における家元制の 研究	米国	マサチューセッツ大学 助教授
Alison Isobel Rae TOKITA	助教授	1995年1月1日～ 1995年6月30日	日本の伝統音楽（語り物）の 研究	オーストラリア	モナシュ大学 助教授

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Bijay Anand MISRA	教授	1995年2月12日～1995年12月31日	都市部再開発の政策と戦略—日本とアジアの比較研究—	インド	都市計画建築研究学院教授
廖育群	助教授	1995年4月1日～1996年3月31日	日本医学の形成・交流および特長	中国	中国科学院自然科学史研究所副研究員
Sepp LINHART	教授	1995年4月5日～1996年3月31日	現代日本における労働と遊び	オーストリア	ウィーン大学教授
嚴安生	教授	1995年5月10日～1996年3月31日	清代文人から留日第二世代にかけての「東洋」理想像の世界	中国	北京外国語学院教授
Hartmut Otto ROTERMUND	教授	1995年7月1日～1995年12月31日	近世の修験道	フランス	フランス国立高等研究院教授
彭飛	助教授	1995年7月1日～1996年6月30日	日中・神話伝承の比較研究	中国	日本学術振興会外国人特別研究員
John Anthony CLARK	助教授	1995年7月3日～1996年2月10日	大正期の美術	イギリス	シドニー大学助教授
Peter BERTON	教授	1995年9月1日～1995年12月31日	日本政治の心理学的・精神分析学的側面	米国	南カリフォルニア大学名誉教授
Jay RUBIN	教授	1995年9月4日～1996年7月31日	能楽研究	米国	ハーバード大学教授
Mohan WIJEYARATNA	教授	1995年10月1日～1996年3月31日	仏教における死をめぐる儀礼・慣習・観念	フランス	コレージュ・ド・フランスインド文化研究所研究員
Vera LINHARTOVA	教授	1995年11月1日～1996年4月30日	明末・徳川初期における禪文化の再興—とくに黄檗僧と徳川美術—	フランス	国立ギメ美術館主任学芸員
Herbert PLUTSCHOW	教授	1996年1月1日～1996年12月31日	日本文明史	スイス	カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
Lyudmila M. ERMAKOVA	教授	1996年1月1日～1996年12月31日	古事記・日本書紀の研究及び翻訳	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋学研究所極東文学課長
Leith Douglas MORTON	教授	1996年1月10日～1996年7月20日	日本近・現代文学「詩・小説」史および大正思想総論	オーストラリア	ニューカッスル大学教授
Mark Cody POULTON	助教授	1996年1月12日～1996年7月31日	アニミズムと芸術—折口信夫における日本の芸能と文学の宗教的起源—	カナダ	ヴィクトリア大学助教授
方克立	教授	1996年2月27日～1996年5月26日	「和魂洋才」と「中体西洋」の異同について	中国	中国社会科学院院長
王秀文	助教授	1996年3月21日～1997年3月19日	日本の民間信仰の研究	中国	遼寧師範大学日本文化教育研究所所長

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Gabor BAKOS	教授	1996年4月1日～1997年3月31日	日本の技術政策とイノベーション・システム	ハンガリー	ハンガリー科学院経済学研究所上級研究員
郭永喆	教授	1996年4月1日～1997年3月31日	韓国開化期における和製漢字語の渡来	韓国	漢陽大学校文科大学学長
王宝平	助教授	1996年4月1日～1997年3月31日	江戸期に於ける中国絵画文献の日本への流布と浸透	中国	杭州大学助教授
Patricia Jean FISTER	助教授	1996年4月1日～1997年3月31日	日本美術史における女性	米国	国際日本文化研究センター寄附研究部門教員
譚晶華	教授	1996年6月1日～1996年9月30日	日本近代文学の研究	中国	上海外国語大学副学長
陳生保	教授	1996年7月1日～1997年6月30日	森鷗外評伝	中国	上海外国語大学教授
Michele MARRA	助教授	1996年7月1日～1997年6月30日	徳川期文人・画人の言語観及び詩作の意識	イタリア	カリフォルニア大学ロサンゼルス校助教授
Carl Magnus LE GRAND	教授	1996年7月21日～1997年7月20日	日本における熟練と勤労態度	スウェーデン	ウーメオ大学教授
王曉秋	教授	1996年8月1日～1997年7月31日	19世紀中日比較思想史研究	中国	北京大学教授
Alex Arthur KERR	助教授	1996年8月1日～1996年12月31日	日本と東アジアの比較文化論	米国	(有)麓庵代表取締役
銭国紅	助教授	1996年8月1日～1997年2月10日	日中知識人に見るアジア像の形成	中国	国際文理大学準備室副主任
Jean-Jacques ORIGAS	教授	1996年8月29日～1996年11月28日	鷗外、漱石における近代散文の成立と変容	フランス	フランス国立東洋言語文化研究学院教授
John WALLACE	助教授	1996年9月26日～1997年7月31日	平安朝文学における「愛」—ポストモダン文学との対比において—	米国	ウィスコンシン大学助教授
姜信杓	教授	1996年10月1日～1997年9月30日	古都におけるコスモロジーの比較研究—京都・ソウル・北京—	韓国	仁済大学校教授
Dennis Yukio HIROTA	教授	1996年10月1日～1997年4月30日	日本浄土教の研究	米国	パークレー仏教研究所準教授
Royall TYLER	教授	1997年1月7日～1998年1月6日	源氏物語の研究	オーストラリア	オーストラリア国立大学教授
Jan SÝKORA	助教授	1997年1月7日～1997年12月25日	江戸時代における日本経済思想の比較史的研究	チェコ共和国	カレル大学助教授

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
程広林	助教授	1997年2月11日～ 1998年2月10日	中国現代文学における日本留学作家と欧米留学作家の比較研究	中国	中国社会科学院教授
高文漢	教授	1997年4月1日～ 1998年3月31日	五山文学の研究	中国	山東大学教授
高崇文	助教授	1997年4月1日～ 1998年3月31日	日中考古学の文化比較研究	中国	北京大学助教授
Patricia Jean FISTER	助教授	1997年4月1日～ 1998年3月31日	日本美術史における女性	米国	国際日本文化研究センター外国人研究員
Mark Robert MORRIS	教授	1997年5月1日～ 1997年7月31日	戦後日本におけるサルトルの受容について	米国	ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ レクチャラー
Richard John LYNN	教授	1997年5月1日～ 1997年7月31日	黄遵憲の日本滞在及び近代早期日中文学交流	米国	アルバータ大学教授
鶴田欣也	教授	1997年5月1日～ 1998年3月31日	近代日本小説における叙情的想像力	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学教授
Theodore William GOOSSEN	助教授	1997年5月1日～ 1998年4月30日	近代日本文学における「自然」の変容	カナダ	ヨーク大学準教授
Michael PIETRUSEWSKY	教授	1997年7月1日～ 1998年6月30日	アジア・太平洋地域の人類集団の形態人類学的研究—とくに日本人集団を中心として—	米国	ハワイ大学マノア校教授
Hugh L. SHAPIRO	助教授	1997年7月1日～ 1998年6月30日	民国期中国における日本医療文化の影響	米国	ネヴァダ州立大学リーノ校助教授
Christopher C.B. WILSON	助教授	1997年7月1日～ 1998年6月30日	ユーラシア社会における人口再生産のパターンと決定要因	イギリス	オーストラリア国立大学社会科学研究所研究員
Carl Anthony MOSK	教授	1997年8月1日～ 1997年12月31日	日本における都市化と経済発展（1880～1970）	米国	ビクトリア大学教授
Feza Ayse GÜNERGUN	助教授	1997年8月1日～ 1997年10月31日	トルコと日本における近代科学技術の導入	トルコ	イスタンブール大学助教授
張従軍	助教授	1997年8月4日～ 1998年3月31日	中国東部の先史文化と日本との比較研究	中国	山東省文物局弁公室主任
Sumie A. JONES	教授	1997年8月26日～ 1998年8月25日	江戸のレトリック	米国	インディアナ大学教授
金禹昌	教授	1997年9月9日～ 1998年3月8日	東アジアの近代文学	韓国	高麗大学校教授
巖文明	教授	1997年10月6日～ 1998年6月30日	稲作の起源に関する考古学的研究	中国	北京大学教授

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
葛剣雄	教授	1997年11月2日～ 1998年3月31日	明治期に楊守敬が ² 中国に将来した日本の漢籍についての研究	中国	復旦大学中国歴史地理研究所所長
王克非	助教授	1998年1月5日～ 1999年1月4日	近代中国・日本における翻訳文化	中国	北京外国語大学教授
Edward John SHULTZ	教授	1998年1月12日～ 1998年7月11日	東アジア諸国の文化特性をめぐる比較史的研究	米国	ハワイ大学西オアフ校教授
田恒	教授	1998年1月20日～ 1999年1月19日	国際化と政治構造の転換—日中の比較—	中国	中国社会科学院アジア太平洋・日本研究所教授
Edwina PALMER	教授	1998年4月1日～ 1998年6月30日	日本古代風土記の研究	イギリス／ ニュージーランド	カンタベリー大学シニアレクチャラー
Alison Isobel Rae TOKITA	助教授	1998年4月1日～ 1999年3月29日	日本の語り物—口頭性・機構・意味—	オーストラリア	モナシュ大学日本研究センター所長
霍巍	教授	1998年4月9日～ 1999年3月31日	日中の稲作文化の比較研究	中国	四川大学教授
島崎博	教授	1998年4月20日～ 1998年8月28日	旧国鉄の分割・民営化にともなう廃線利用にみた日本人の創造性	カナダ	レスブリッジ大学教授
Sinh VINH	教授	1998年4月20日～ 1998年8月31日	東アジアにおける近代化・啓蒙運動の比較研究—明治日本のベトナム近代化運動への影響—	カナダ	アルバータ大学教授
Bruno RHYNER	助教授	1998年5月1日～ 1999年4月30日	現代日本人の個性化における仏教の役割	スイス	チューリッヒ大学東アジア研究所講師
Piet HUT	教授	1998年5月4日～ 1998年8月3日	個人主義の比較文化的研究	オランダ	プリンストン高等研究所教授
Dharma Pal AGRAWAL	教授	1998年5月4日～ 1999年5月3日	考古学的時間についての比較研究—日本・長江・インダスの諸文明の比較—	インド	インド国立科学アカデミープロジェクト研究員
Madeline Roberta MOORE	教授	1998年7月1日～ 1998年9月30日	神谷美恵子とヴァージニア・ウルフ	米国	ミルズ大学客員教授
金春美	教授	1998年7月1日～ 1999年2月26日	日韓近代文学の比較文学的研究—1910年～1950年—	韓国	高麗大学校教授
李曉	助教授	1998年7月1日～ 1999年6月30日	中日茶道文化の比較研究	中国	山東大学助教授
Ahmed Mohamed Fathy MOSTAFA	助教授	1998年8月1日～ 1999年7月31日	戦時下の日本と安岡章太郎文学の視点・展開	エジプト	カイロ大学文学部専任講師
Sheila Anne SMITH	助教授	1998年8月1日～ 1999年7月31日	沖縄における米軍基地に対する地方の政治的抗議	米国	ボストン大学国際関係学部助手

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Hesung Chun KOH	教授	1998年9月1日～1999年3月31日	18世紀における中国・日本・朝鮮・ベトナムの親族構造に関する比較研究	米国	イエール大学名誉教授
Edwin Augustus CRANSTON	教授	1998年9月1日～1999年8月31日	和歌アンソロジー第二巻の翻訳・編集	米国	ハーバード大学教授
劉蘭華	助教授	1998年9月1日～1999年2月28日	長江流域における古代土器の研究	中国	中国文物研究所古文献部副主任
William Jefferson TYLER	助教授	1998年9月1日～1999年8月25日	モダニズム—日本散文文芸におけるモダニズム研究1930年代を中心に—	米国	オハイオ州立大学助教授
Aileen GATTEN	教授	1998年9月15日～1999年1月14日	平安時代古写本の研究	米国	ミシガン大学日本研究センター研究員
杜勤	助教授	1998年10月1日～1999年3月31日	中日間の非言語的メッセージに関する比較研究	中国	華東師範大学助教授
Klaus KRACHT	教授	1998年11月5日～1999年9月30日	日本文化における儀礼の研究	ドイツ	ベルリン・フンボルト大学教授
Helmar KRUPP	教授	1998年12月1日～1999年2月28日	システム工学・技術革新と日本の将来	ドイツ	フラウエンホーファー研究所元所長
楊林	助教授	1999年1月10日～1999年4月9日	現代科学技術による長江文明の考古学	中国	中国歴史博物館考古部副主任
金知見	教授	1999年2月1日～2000年1月31日	日本の仏教研究	韓国	韓国仏教教育大学大学院院長
宋敏	教授	1999年3月1日～1999年11月30日	比較—古代日本と韓国文化—	韓国	国民大学校教授
李応寿	助教授	1999年3月1日～2000年2月29日	海峡を渡った演劇人たち—近代韓日比較文化論—	韓国	世宗大学校副教授
Jean-Noël Alexandre ROBERT	教授	1999年4月1日～2000年3月31日	日本天台宗の教義史	フランス	フランス国立高等研究院教授
幸子 滝 REECE	助教授	1999年4月1日～1999年7月31日	箱庭療法における象徴的表現に関する日米の比較研究	米国	ユング派分析家箱庭療法トレーニングコンサルタント
Maria VOJVODICH	助教授	1999年4月1日～1999年9月30日	セルビア語—日本語辞典編纂の為の基礎研究—	ユーゴスラビア	モンテネグロ共和国政府民営化推進部外資担当課長
Dung Duy NGUYEN	助教授	1999年4月1日～2000年3月31日	ベトナム・日本関係のアジアにおける役割と影響—太平洋協力関係の現在と未来—	ベトナム	ベトナム日本研究センター副所長
Vladislav Nikanorovich GOREGLIAD	教授	1999年4月10日～2000年4月8日	江戸時代の在露日本人	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋研究所極東部長

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
梁嶸	教授	1999年5月1日～2000年4月30日	江戸時代における漢方診断技術の日本化	中国	北京中医薬大学教授
Xiao-Jie YANG	助教授	1999年5月1日～2000年4月30日	絵巻物注釈への試み—マルチメディア技術の発達を手掛りに—	カナダ	カルガリー大学準教授
John Tadao TERAMOTO	助教授	1999年7月15日～2000年6月30日	江戸末期における身体像の研究	米国	カンザス大学助教授
侯楊方	助教授	1999年8月1日～2000年7月31日	徳川時代の人口についての研究	中国	復旦大学中国歴史地理研究所講師
金貞禮	助教授	1999年8月1日～2000年7月31日	松尾芭蕉の紀行文の研究—『おくのほそ道』を中心に—	韓国	国立全南大学校副教授
Anna Maria THRÄNHARDT	教授	1999年9月1日～2000年3月31日	日独両国における家族形態に関する比較研究	ドイツ	ルーヴァン・カトリック大学客員教授
周紹泉	教授	1999年9月1日～2000年8月31日	中世後期における中国徽州・日本近江の商人家族—比較史の視点から—	中国	中国社会科学院歴史研究所教授
Alexandre Nikolaevich MECHTCHERIAKOV	助教授	1999年9月1日～2000年6月30日	『続日本紀』のロシア語訳のための基本的研究	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員
Ari Pekka KORHONEN	助教授	1999年10月1日～2000年8月31日	「アジア」という概念について	フィンランド	ユワスクラ大学教授
Lyudmila Alexandrovna HOLODOVITCH	助教授	1999年12月20日～2000年12月19日	日本文学と民俗の関係	ロシア	ソフィア大学助教授
蔡敦達	助教授	2000年4月5日～2001年3月31日	日本庭園に及ぼす中国文化の影響	中国	同済大学助教授
Daniel Iwao OKIMOTO	教授	2000年4月9日～2000年7月8日	東アジアの経済危機	米国	スタンフォード大学教授
Knut Karl Johann SCHULZ	教授	2000年4月26日～2000年7月25日	手工業職人団体の日欧比較研究	ドイツ	ベルリン自由大学教授
Jay RUBIN	教授	2000年6月1日～2001年3月31日	生きている劇場としての能—謡曲の多角的研究—	米国	ハーバード大学教授
David Charles WAYNFORTH	助教授	2000年6月1日～2001年5月23日	ヒトの配偶者選択	イギリス	ニューメキシコ大学助教授
Richard RUBINGER	教授	2000年7月1日～2001年6月30日	日本近世・近代におけるリテラシー	米国	インディアナ大学教授
Kalpakam SANKARNARAYAN	教授	2000年7月1日～2001年6月30日	インドと日本の文化的交流	インド	K. J. ソーマイヤ仏教学センター所長

外国人研究員

氏名	職位	招聘期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
辛容泰	教授	2000年7月3日～ 2001年7月2日	古代韓国・日本文化形成に関する研究—言語地理学・歴史民俗学的見地から—	韓国	東国大学校教授
Pavel DOLUKHANOV	教授	2000年8月2日～ 2001年2月1日	先史人類の移動・拡散についての考古・民族・言語学的研究	イギリス	ニューキャッスル大学考古学部リーダー
Paul Sheldon GRONER	教授	2000年8月15日～ 2001年8月14日	日本仏教思想史	米国	ヴァージニア大学教授
Mary Johns PICONE	助教授	2000年8月31日～ 2001年1月9日	妖怪テキストとその絵画的表現の相互作用の研究	イタリア	フランス国立社会科学高等研究院助教授
Gina Lee BARNES	教授	2000年9月1日～ 2001年1月31日	東アジアにおける国家形成に関する考古学的研究	米国	ダーラム大学教授
Judith Nancy RABINOVITCH	教授	2000年9月1日～ 2001年5月31日	平安人物志における漢詩研究	米国	モンタナ州立大学教授
Wolfgang SCHAMONI	教授	2000年10月1日～ 2001年3月31日	江戸時代の自伝の研究—ジャンルの問題との関連において—	ドイツ	ハイデルベルグ大学主任教授
李卓	教授	2000年10月1日～ 2001年9月30日	養子の制と日本人の血縁観	中国	南開大学教授
Vasant Shiyram SHINDE	助教授	2000年10月2日～ 2001年4月1日	初期南・東アジア文明の比較研究	インド	デカン大学助教授
裴炯逸	助教授	2000年11月1日～ 2001年6月30日	植民地時代下の朝鮮文化遺産管理の歴史	韓国	カリフォルニア大学準教授
Ekkehard MAY	教授	2001年3月1日～ 2002年2月28日	蕉門俳諧の研究	ドイツ	フランクフルト大学教授
蔡鳳書	教授	2001年3月1日～ 2002年2月28日	日中比較文化からみた日本考古学の研究	中国	山東大学教授
Barbara MIRIELLO	助教授	2001年3月1日～ 2002年2月28日	臨床的抑うつ—西洋(アメリカ)医学的見方と東洋(日本)「身体マンダラ思想」の比較研究—	米国	センターフォーインナーワーク所長
Alexander VOVIN	助教授	2001年4月14日～ 2002年3月31日	日本語系統論の現在	米国	ハワイ大学準教授
蔣立峰	教授	2001年9月1日～ 2001年12月8日	13世紀の前後における騎馬文明のグローバルな発展と中日両国の政治文化に対するその影響	中国	中国社会科学院日本研究所副所長

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
徐蘇斌	2001年4月1日～ 2002年3月31日	近代中国産業技術における日本の影響	中国	清華大学元講師
Henry DeWitt SMITH	2001年5月1日～ 2001年12月15日	日本伝説における忠臣蔵の近代化	米国	コロンビア大学教授
官文娜	2001年6月1日～ 2002年3月31日	中日親族制度の比較研究	中国	武漢大学 中国伝統文化研究センター 客員教授
李光潸	2001年7月1日～ 2002年6月30日	胎生論についての禅心理学的研究	韓国	東西心理学研究所 所長
鄭惠卿	2001年7月1日～ 2002年6月30日	日本の言語文化研究—古代から現代まで—	韓国	世宗大学校副教授
Matthew Philip McKELWAY	2001年7月1日～ 2002年6月30日	「洛中・洛外図」—中世後期日本の都市絵画—	米国	ニューヨーク大学 助教授
Chigusa KIMURA-STEVEN	2001年7月3日～ 2002年1月31日	世界文学としての日本文学	ニュージーランド	カンタベリー大学 準教授
Massimiliano TOMASI	2001年9月1日～ 2002年3月29日	日本のモダニズムにおけるレトリック	イタリア	ウェスタン・ワシントン大学 助教授
John Evelyn LOWE	2001年10月1日～ 2001年12月31日	ヨーロッパ及び米国における日本関連出版物—16世紀から今日まで—	イギリス	執筆業
魯義	2001年10月12日～ 2002年10月11日	中日両国民間における相互認識についての比較研究	中国	北京外国問題研究会 副秘書長、東北亜研究センター主任
Alexia BORO	2001年10月28日～ 2002年9月19日	日本近代の都市発達史	イタリア	カ・フォスカリ大学 東アジア学部助手
金采洙	2001年12月16日～ 2002年8月16日	近現代日本人の文化意識と民族意識との関連様相及びその形成要因に関する研究	韓国	高麗大学校教授
Donald Fredrick McCALLUM	2002年2月1日～ 2002年7月31日	日本の7世紀の四大寺の研究	カナダ	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校教授
金文吉	2002年3月1日～ 2003年2月28日	近代朝鮮における開化思想の形成と日本	韓国	釜山外国語大学校 教授
Tamara Kern HAREVEN	2002年4月1日～ 2002年6月30日	西陣絹織物業における家族と労働	米国	デラウェア大学教授
厳安生	2002年4月1日～ 2002年8月31日	大正時代の日本留学に見られる「あわい」の構造	中国	北京外国語大学 専任教授
Thorsten BOTZ	2002年4月1日～ 2003年3月30日	「私と汝」西田とバフチンの比較研究	ドイツ	フランス国立社会科学高等研究院助教授

外国人研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Eduard KLOPFENSTEIN	2002年4月2日～ 2003年3月31日	1920～1970年の50年間にわたる日本文学・日本文化の連続性・不連続性	スイス	チューリッヒ大学教授
Louis Michael CULLEN	2002年5月1日～ 2003年4月30日	近世・近代日本の内政と外交	アイルランド	ダブリン大学 トリニティーカレッジ教授
Markus RÜTTERMANN	2002年6月1日～ 2002年10月15日	日本中・近世社会における書札礼	ドイツ	フンボルト大学助教授
Susan Lynn BURNS	2002年6月12日～ 2003年6月11日	奇妙な身体文化史—日本における「奇形」と「障害」—	米国	シカゴ大学準教授
鄭在書	2002年7月1日～ 2003年6月30日	中・韓・日古代道教文化の比較	韓国	梨花女子大学校教授
David Luke HOWELL	2002年7月1日～ 2003年6月30日	明治初期の政治と民俗	米国	プリンストン大学準教授
王瀝	2002年7月1日～ 2003年6月30日	古代生物の遺伝的多様性の研究	中国	中国科学院 遺伝学研究所教授
Richard Hideki OKADA	2002年8月1日～ 2003年7月31日	在日韓国人作家とエスニシティーの問題	米国	プリンストン大学 準教授
王淑英	2002年9月1日～ 2002年12月31日	教師と教育方法の比較歴史社会学的研究—日本と中国—	中国	香港中文大学助教授
William Shaw SEWELL	2002年9月1日～ 2003年6月30日	近代中国東北部(旧満州)文化に関する総合研究	米国	セントメアリー大学 助教授
Boyka Elitova TSIGOVA	2002年9月1日～ 2003年8月31日	俳句における普遍妥当性の部面	ブルガリア	ソフィア大学準教授
林容澤	2002年9月1日～ 2003年8月31日	日本近代詩と金素雲及び『朝鮮詩集』	韓国	仁荷大学校副教授
朴銓烈	2002年12月1日～ 2003年11月30日	日本芸能の精神世界について	韓国	中央大学校教授
Le Choon KIM	2002年12月3日～ 2003年3月31日	満州国と白系ロシア亡命	ロシア	ロシア科学アカデミー 世界文学研究所 首席研究員
王成	2003年4月1日～ 2004年3月31日	修養の時代の読者と漱石文学	中国	首都師範大学助教授
陳暉	2003年4月1日～ 2004年3月31日	東アジア家族の変遷	中国	中国社会科学院 亚太日本研究所教授
Evgeny Sergeevich BAKSHEEV	2003年4月1日～ 2004年3月31日	生と死の間の識閥に関する日本的・スラブ的見解の比較研究	ロシア	国立ロシア文化研究所 研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Rien Theodor SEGERS	2003年6月1日～ 2003年11月30日	現代日本の文化的アイデンティティー	オランダ	フローニンゲン大学 教授
William Roger LaFLEUR	2003年6月21日～ 2003年12月22日	H・ヨナスと日本—生命倫理学の国際化—	米国	ペンシルベニア大学 教授
李貞徳	2003年8月1日～ 2003年12月31日	伝統中国医学及び日本医学における月経概念	中国	台湾中央研究院 歴史語言研究所 副研究員
Maureen Hildegarde DONOVAN	2003年8月1日～ 2004年7月31日	日本に関する研究資料のオンライン・ガイド	米国	オハイオ州立大学 準教授
Constantine Nomikos VAPORIS	2003年8月1日～ 2004年7月22日	参勤交代と日本文化	米国	メリーランド大学 準教授
張翔	2003年8月29日～ 2004年8月28日	「封建・郡県」論を巡った中国と日本における思想連環—漢字文化圏における他国認識と自国改革—	中国	復旦大学教授
Bijay Anand MISRA	2003年9月1日～ 2004年5月31日	地方都市共同体—構成地域の開発と自然災害対策の必要性の変化における共同体の発展と統合—	インド	都市計画建築研究学院 名誉教授
閔周植	2003年9月1日～ 2004年8月31日	日本における風流の美意識	韓国	嶺南大学校教授
王述坤	2003年9月1日～ 2004年8月31日	日本近代における文学と社会の対流	中国	東南大学教授
Victor Victorovich RYBIN	2003年9月15日～ 2004年9月14日	喜多川歌麿の「百千鳥狂歌合はせ」の詩学的言語学的研究	ロシア	サンクトペテルブルグ 大学助教授
李御寧	2003年10月1日～ 2004年9月30日	日韓文化における象徴とイメージの比較研究	韓国	中央日報社顧問
Jutta HAUSSER	2003年10月1日～ 2004年3月31日	日本の語り物の伝統におけるアウトサイダー—変化する生活感覚における模範としての鬼—	ドイツ	ミュンヘン大学 助教授
色音	2003年12月1日～ 2004年11月30日	日本東北地方における巫女の宗教人類学的研究	中国	中国社会科学院 民族研究所教授
金仁徳	2003年12月1日～ 2004年11月27日	戦間期日本における帝国主義文化と植民地文化の衝突様相の研究—在日韓国人社会の文化様相を中心に—	韓国	韓国国立中央博物館 学芸研究師
李漢燮	2004年3月1日～ 2005年2月28日	19世紀以後韓中日三国における新文明語彙の創出と交流について	韓国	高麗大学校教授
Hugh Denis Blake CLARKE	2004年4月1日～ 2004年6月30日	日豪文化交流史の研究	オーストラリア	シドニー大学教授
Mats Arne KARLSSON	2004年4月1日～ 2005年3月31日	日本型のリアリズム	スウェーデン	ストックホルム大学 助教授

外国人研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Hoa Hoang HO	2004年4月21日～ 2005年3月31日	京都(日本)とフェー(ベトナム)における食文化の美の比較	ベトナム	国立 社会人文学科学センター 部長
Roy Anthony STARRS	2004年7月1日～ 2005年1月31日	明治・大正文学における国家のイメージ	イギリス／ カナダ	オタゴ大学教授
Noel John PINNINGTON	2004年7月1日～ 2005年6月30日	和算―その価値観と社会的背景―	イギリス	アリゾナ大学助教授
呉咏梅	2004年8月1日～ 2005年7月31日	コマーシャル映像と日本の消費文化の構築	中国	北京日本学 研究センター 専任講師
Ian James McMULLEN	2004年9月1日～ 2005年8月31日	日本に於ける積奠の歴史	イギリス	オックスフォード大学 教授
Agnieszka Helena KOZYRA	2004年9月1日～ 2005年8月31日	近代日本における哲学概念の形成	ポーランド	ワルシャワ大学助教授
Luciana GALLIANO	2004年9月16日～ 2005年6月30日	日本音楽における時間の概念	イタリア	ヴェニス大学助教授
馮天瑜	2004年10月1日～ 2005年8月31日	近代東アジアにおける二字熟語概念の成立に関する総合的研究	中国	武漢大学教授
Norma Absing RESPICIO	2004年10月7日～ 2005年10月6日	京都を中心とした伝統工芸―フィリピンとの比較において―	フィリピン	フィリピン大学教授
Hartmut Otto ROTERMUND	2004年10月10日～ 2005年4月9日	明治期の日本と西洋―内地雑居文献を通しての分析―	フランス	フランス 国立高等研究院教授
池明観	2004年11月19日～ 2005年5月18日	1970年代及び1980年代における日韓関係に対する比較思想史的研究	韓国	翰林大学校 日本学研究所所長
翟新	2004年12月1日～ 2005年11月30日	近代日本の上海での文化事業―1937～45―	中国	上海交通大学副教授
韓錫政	2005年1月5日～ 2006年1月4日	発展国家の系譜―満洲国から韓国まで―	韓国	東亜大学校教授
Ahmed Hassan IBRAHIM	2005年2月1日～ 2005年7月31日	中部及び近畿地方における都市化―その比較研究―	エジプト	カイロ大学教授
Bjorn BERGLUND	2005年2月25日～ 2005年5月31日	先史・歴史時代の人間活動と景観―環境と社会の変遷に関連して―	スウェーデン	ルンド大学名誉教授
鄭在貞	2005年3月1日～ 2006年2月28日	東アジア鉄道文化の比較史的研究―20世紀前半の日本・朝鮮・満洲・台湾を中心にして―	韓国	ソウル市立大学校教授
尹相仁	2005年3月1日～ 2006年2月28日	明治前期近代文学・美術制度の成立過程に関する研究	韓国	漢陽大学校教授

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Mayke WAGNER	2005年4月1日～ 2005年9月30日	縄文時代・弥生時代の日本とその周辺地域の環境史と人間文化の相互関係の研究	ドイツ	ドイツ考古学研究所 副学科長
Augustin Laurent Pierre BERQUE	2005年4月1日～ 2006年3月29日	日本における住まいの風土性と持続性	フランス	フランス国立社会科学 高等研究院教授
Sergey LAPTEV	2005年7月1日～ 2006年6月30日	古代日本に於ける漢字文化の拡大に関する考古学研究	ロシア	ゴリキー文学学院 助教授
金容儀	2005年8月1日～ 2006年7月31日	1600～1800年代東アジアにおける朝鮮通信使・江戸上りの文化的意味およびその現在的追求	韓国	全南大学校助教授
劉春英	2005年8月15日～ 2006年8月14日	旧「満洲」における山田清三郎の研究	中国	東北師範大学助教授
Charles Shiro INOUE	2005年9月1日～ 2006年8月31日	フィギュラリティと近代意識の発達	米国	タフツ大学教授
周維宏	2005年9月1日～ 2006年8月31日	近代におけるアジア農村の変貌―日中両国の比較を通して―	中国	北京日本学 研究センター 教授
Mirosław MAKOHONIENKO	2005年9月1日～ 2006年8月31日	完新世の東アジアにおける人間と自然環境―立山の環境変遷からみた立山信仰―	ポーランド	アダム・ミツキェヴィチ大学 助教授
孫承	2005年9月10日～ 2006年9月9日	中日近代化における土文化と武家文化との比較研究	中国	中国国際問題研究所 教授
Clarence Andrew GERSTLE	2005年9月20日～ 2006年9月19日	上方歌舞伎と都市文化―役者、俳諧師、絵師―	イギリス	ロンドン大学教授
Adel Amin SALEH	2005年10月1日～ 2006年3月31日	日本型言語ナショナリズムにみる言語意識の変遷	エジプト	カイロ大学専任講師
崔博光	2005年10月14日～ 2006年6月30日	近世における東アジア三国の交流と文明の空間―朝鮮通信使と燕行使を中心として―	韓国	成均館大学校教授
Dalia SVAMBARYTE	2005年12月1日～ 2006年11月30日	太平洋の島国のアイデンティティー	リトアニア	ビリニウス大学講師
Christine GREINER	2005年12月10日～ 2006年3月12日	舞踏と歌舞伎における身体の解体	ブラジル	サンパウロ・カトリック大学 教授
Roland SCHNEIDER	2006年1月5日～ 2006年5月31日	中世における庶民と小歌―『宗安小歌集』の研究を軸として―	ドイツ	ハンプルク大学教授
Brian William Farvis POWELL	2006年4月1日～ 2006年9月30日	近代演劇史における関西の役割	イギリス	オックスフォード大学 名誉フェロー
Josef Antonius KYBURZ	2006年4月1日～ 2006年12月31日	フランク・コレクションのお札の研究	フランス ／スイス	フランス 国立科学研究センター 教授

外国人研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Rien Theodor SEGERS	2006年6月1日～ 2007年5月31日	新しい日本に向けて—現代日本の文化的アイデンティティーに関する認識の相違を埋める—	オランダ	フローニンゲン大学教授
Edwina PALMAER	2006年7月1日～ 2006年11月30日	ニュージーランドでの高等学校社会科カリキュラムにおける日本に関する項目内容	イギリス／ ニュージーランド	カンタベリー大学 シニアレクチャラー
Robert Alan ESKILDSEN	2006年7月1日～ 2007年4月30日	万国像の屈折—近世日本における文明と野蛮の画像—	米国	スミス大学助教授
Yomna Tareef Amin ELKHOLY	2006年8月1日～ 2006年11月30日	日本の科学哲学—その20世紀における発展—	エジプト	カイロ大学教授
Pullattu Abraham GEORGE	2006年8月1日～ 2007年7月31日	宮沢賢治作品に見られる普遍性、東洋性及び民俗性の考察	インド	ジャワハルラル・ネルー大学準教授
張哲俊	2006年9月1日～ 2007年8月31日	「物」の交流と中日文学	中国	北京師範大学副教授
呂莉	2006年9月1日～ 2007年8月31日	人麻呂と漢詩—修辞法を中心に—	中国	中国社会科学院外国文学研究所助教授
陸留弟	2006年9月10日～ 2007年9月9日	茶の芸・道観から見た中日茶文化の違い	中国	華東師範大学教授
Stylios PAPALEXANDROPOULOS	2006年10月1日～ 2007年3月31日	道元における真実の概念	ギリシャ	アテネ大学準教授
Chavalin SVETANANT	2006年10月1日～ 2007年9月30日	タイと日本のメディアにおける青少年をめぐるディスコース	タイ	チュラロンコン大学 専任講師
Cynthia Neri ZAYAS	2006年10月1日～ 2007年9月30日	石製潮止堰とアジア太平洋諸島民の石文明—沖縄、ボンフー島、フィリピン諸島、インドネシア諸島—	フィリピン	フィリピン大学準教授
Thi Chung Toan TRAN	2006年10月15日～ 2007年9月20日	宮本常一の日本人と日本文化理解	ベトナム	ベトナム国立大学 大学院副学科長
Rajendra TOMAR	2006年12月1日～ 2007年7月31日	ヒンドゥー教と神道	インド	ジャワハルラル・ネルー大学客員教授
Milagros Ragos ESPINAS	2006年12月1日～ 2007年8月31日	日本におけるフィリピン女性労働者—その社会的政治的意識とフィリピン国家に対する影響—	フィリピン	フィリピン大学教授
Mohammad Reza SARKAR ARANI	2006年12月4日～ 2007年8月31日	学校文化と教師文化に関する比較研究	イラン	アラーム・タバタバイ大学助教授
李均洋	2007年1月5日～ 2007年7月4日	出雲大社の哲学思想についての研究	中国	首都師範大学教授
Ioulia KARALI GIANNAKOPOULOU	2007年4月1日～ 2007年7月31日	エーゲ海新石器時代の貝文化—日本 の縄文・弥生との比較—	ギリシャ	アテネ大学教授

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Gilles Jean-Pierre CAMPAGNOLO	2007年4月1日～ 2008年3月31日	日本の近代化を論じた「外書」—日 文研および関西の図書館を利用して—	フランス	フランス 国立科学研究センター 研究員
金榮哲	2007年4月1日～ 2008年3月31日	朝鮮と江戸時代の文芸にあらわれる遊興の美意識の比較研究	韓国	漢陽大学校教授
王維坤	2007年4月1日～ 2008年3月31日	古代中国と日本の都城・墓制・文物交流の研究	中国	西北大学 国際文化交流学院 副院長
Hyung Il PAI	2007年4月1日～ 2008年3月28日	観光産業と「日本文化財」の宣伝—博物館、記念物と先祖遺産のマーケティング—	米国	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 準教授
汪宏倫	2007年7月1日～ 2008年6月30日	日中に於ける歴史を書く政治—その フィーリング、価値観及びモダニティー の未完成プロジェクト—	中国	台湾中央研究院社会学 研究所準研究員
Brian Douglas RUPPERT	2007年7月1日～ 2008年6月30日	日本中世後期における経蔵・書写活動及び寺院ネットワークの変遷	米国	イリノイ大学 アーバナシャンペーン校 準教授
Hugh Barry De FERRANTI	2007年8月1日～ 2008年1月31日	音楽体験から観た日本の近代—世界大戦間の大阪を例に—	オーストラリア	ニューイングランド大学 助教授
Frederic Rene Robert GIRARD	2007年8月1日～ 2008年7月31日	中世に於ける宗教・思想の研究	フランス	フランス国立極東学院 研究員
金貞恵	2007年9月1日～ 2008年8月31日	在日コリアン文学に表れたディアスポラの様相と意味	韓国	釜山外国語大学校 教授
Michael S. MOLASKY	2007年9月1日～ 2008年8月31日	ジャズ喫茶と戦後日本文化	米国	ミネソタ大学準教授
周見	2007年9月1日～ 2008年8月31日	洪沢栄一と近代中国	中国	中国社会科学院世界 経済政治研究所教授
Karin Gunilla LINDBERG-WADA	2007年10月1日～ 2008年8月31日	世界文学史の中の日本文学	スウェーデン	ストックホルム大学教授
William Jefferson TYLER	2007年10月1日～ 2008年9月30日	世界に石川淳を紹介する(その第3段)—壮年期代表作『荒魂』の英訳—	米国	オハイオ州立大学 準教授
Purnendra Chandra JAIN	2007年11月1日～ 2008年1月31日	日本の選択—急成長する中国と浮上するインドの間で—	オーストラリア	アデレード大学教授
Alexander VOVIN	2008年1月10日～ 2008年12月31日	『万葉集』の英語全注釈と翻訳	米国	ハワイ大学 マノア校教授
金弼東	2008年3月1日～ 2009年2月28日	日本の「東アジア経済圏」構想と「アジアアイデンティティ」に関する研究	韓国	世明大学校副教授
王中忱	2008年3月1日～ 2009年2月28日	近代知としての「満蒙」及び「満蒙史」研究の設立とその行方	中国	清華大学教授

外国人研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
蔡敦達	2008年4月1日～ 2008年9月30日	日本文明における長江文明の摂取	中国	同済大学教授
Alison Isobel Rae TOKITA	2008年4月1日～ 2009年3月31日	両世界大戦間(1918～1938年)の大阪における音楽と近代	オーストラリア	モナシュ大学教授
Kuldeep Kumar BHAN	2008年6月3日～ 2009年3月20日	インド考古学へのGISの応用	インド	マハラジャ・サラジラオ大学教授
Mauricio Rodrigues MARTINEZ	2008年7月1日～ 2009年6月30日	スペイン語版インターネット日本芸能百科事典	コロンビア	ロス・アンデス大学教授
David Weirick HUGHES	2008年7月1日～ 2008年12月15日	日本民謡の将来―保存会とコンクール の役割と影響―	米国/ イギリス	ロンドン大学 シニアレクチャラー
Felix Ulombe KAPUTU	2008年7月1日～ 2009年3月31日	北日本の「いたこ」現象と中央アフリカの「Mikishi」―社会宗教学的比較研究―	コンゴ民主共和国	ルブンバシ大学教授
趙政男	2008年8月1日～ 2009年7月31日	現代日本の政治理念研究	韓国	高麗大学校政経大学 学長
雷国山	2008年9月1日～ 2009年7月31日	武士道総合研究	中国	南京大学助教授
Michel DALISSISER	2008年9月1日～ 2009年8月31日	日本現代哲学についての研究	フランス	中国日本チベットの文明 研究センター研究員
胡宝華	2008年9月1日～ 2009年8月31日	20世紀における日本学者の中国史研究	中国	南開大学副教授
Wolfgang SCHAMONI	2008年10月1日～ 2009年3月31日	18・19世紀の自伝・伝記文学の研究	ドイツ	ハイデルブルグ大学 名誉教授
Ami Aminah MEUTIA	2008年10月1日～ 2009年3月31日	環境サステイナビリティにおけるローカル フレッジの役割―インドネシア・マンニン ジョウ湖と日本・琵琶湖の比較研究―	インドネシア	インドネシア科学研究所 研究員
林慶花	2008年11月1日～ 2009年3月31日	帝国の声・民族の声―近代東アジア における「民謡」言説比較―	韓国	成均館大学校 研究教授
河名 サリ	2009年1月1日～ 2009年5月31日	マンガ文化と日本の視覚文化	日本	マサチューセッツ大学 助教授
Anu JINDAL	2009年3月1日～ 2010年2月28日	美女の理想としての傾城―浮世絵と インド細密画―	インド	画家、日本美術史 研究家
陳玲	2009年4月1日～ 2010年3月31日	京都祇園祭―異文化「共存」の 歴史的モデルとして―	中国	清華大学准教授
Yona SIDERER	2009年4月1日～ 2010年3月31日	日本の近現代化学史	イスラエル	エルサレム・ ヘブライ大学 シニアレクチャラー

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
蔡慧玉	2009年4月1日～ 2009年11月30日	「湾官」―日本人街庄長の分析 (1920～1945)を例として―	中国	中央研究院 台湾史研究所 副研究員
尹海東	2009年4月1日～ 2010年3月31日	国家としての朝鮮総督府	韓国	成均館大学校 研究教授
Theodore Failor COOK	2009年5月1日～ 2009年8月31日	全面戦争中の文化―日本の体験―	米国	ウィリアム・バスターソン大学 教授
David Gabriel HEBERT	2009年6月1日～ 2009年8月31日	日本の吹奏楽作品にみるトランス カルチャレーションとハイブリディティ	米国	シベリウス音楽院教授
Nam-lin HUR	2009年6月1日～ 2010年5月31日	秘仏の誘い―開帳と日本近世の宗教 文化―	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア 大学教授
黄自進	2009年7月1日～ 2010年6月30日	満州事変の再考察―日中間係史に おける位置づけ―	中国	中央研究院 近代史研究所研究員
野原博淳	2009年7月1日～ 2010年6月30日	バイオテクノロジー発展の日仏比較 ―コンピータンスのネットワーク化と 知識獲得メカニズム―	日本	フランス国立科学 研究センター研究員
Murielle HLADIK	2009年7月1日～ 2010年2月28日	建築と庭園―東洋と西洋における 交流の展望―	フランス	サンテチエヌ国立 高等建築学校准教授
Thi Thu Giang PHAM	2009年7月1日～ 2010年2月28日	日本仏教における肉食妻帯問題 ―その実態および思想的特徴―	ベトナム	ハノイ国家大学附属人 文社会科学大学 専任講師
蒋立峰	2009年8月1日～ 2010年3月31日	日本文化と日本人	中国	中国社会科学院 日本研究所教授
Jeffrey Matthew ANGLES	2009年8月30日～ 2010年8月29日	日本における翻訳の文化史	米国	ウェスタン・ミシガン大学 准教授
趙維平	2009年9月1日～ 2010年8月31日	東アジアにおける中国音楽の受容に 関する研究―日本、朝鮮、ベトナム 宮廷音楽の初期史を中心に―	中国	上海音楽学院教授
李相燦	2009年9月1日～ 2010年8月31日	明治期近代文書管理制度成立過程 研究	韓国	ソウル大学校教授
林志弦	2009年9月1日～ 2010年8月31日	犠牲者意識の民族主義	韓国	漢陽大学校 比較歴史文化 研究所所長
Phillip Tudor HARRIES	2009年9月1日～ 2010年8月31日	奈良・平安初期の和歌における地名 の使い方	イギリス	オックスフォード大学 クイーンズカレッジ フェロー
Ekkehard MAY	2009年12月1日～ 2010年5月31日	芭蕉俳文の研究	ドイツ	フランクフルト大学 名誉教授
根川幸男	2010年1月1日～ 2010年12月31日	新世界ブラジルにおける日本の教育 文化の越境と展開	日本	ブラジリア大学准教授

外国人研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Bernard Roger FAURE	2010年4月2日～ 2010年6月30日	中世日本宗教の一側面 三天信仰(弁財天、茶吉尼天、 聖天)について	フランス／ 米国	コロンビア大学教授
Roman ROSENBAUM	2010年4月1日～ 2011年3月31日	日本の戦後文化研究―戦争の傷跡 と焼け跡、闇市世代―	オーストラ リア	シドニー大学 名誉アソシエイト
高崇文	2010年4月1日～ 2011年3月31日	中日間の古代都市文明に関する比較 研究	中国	北京大学 考古文博学院院长
呉京煥	2010年4月1日～ 2011年3月31日	日本浪漫派とアジア	韓国	釜山大学校教授
Aida Musulyevna SULEYMENOVA	2010年4月1日～ 2011年3月31日	20世紀前半の北東アジアにおける ロシア亡命人の文芸詩と近代短歌	ロシア	極東国立総合大学 准教授
Pullattu Abraham GEORGE	2010年6月1日～ 2011年5月31日	文学の中の宗教と民間伝承の融合 ―宮沢賢治の世界観の再検討―	インド	ジャワハルラル・ ネルー大学教授
魏大海	2010年6月1日～ 2011年5月31日	日中近代文学ジャンルの比較研究 ―「純文学」・「大衆文学」・「私小説」・ 「心境小説」などを中心に―	中国	中国社会科学院 外国文学研究所 研究員
崔官	2010年6月1日～ 2011年2月28日	戦争・記憶・想像力	韓国	高麗大学校 日本研究センター所長
康志賢	2010年7月1日～ 2011年6月30日	小説から浮世絵へ、越境する江戸表象 文化考―「膝栗毛もの」の図様継承 史を端緒に―	韓国	全南大学校 副教授
Boyka Elit TSIGOVA	2010年7月1日～ 2011年6月30日	京都禅寺における普遍概念の表現	ブルガリア	「聖クレメント・オフリドスキ」 ソフィア大学教授
Mitsuyo WADA-MARCIANO	2010年8月1日～ 2011年7月31日	現代日本映画と映像文化における ニューメディアの影響	日本	カールトン大学准教授
徐載坤	2010年9月1日～ 2011年8月31日	日本現代文学と戦争表象	韓国	韓国外国語大学校 副教授
韓東育	2010年10月1日～ 2011年9月30日	近世日本における知の再編と来日 儒学者・朱舜水	中国	東北師範大学 歴史文化学院院長
王鉄軍	2010年10月1日～ 2011年9月30日	戦前日本植民地官僚制度研究 ―台湾総督府と関東庁との比較を 中心として―	中国	遼寧大学 日本研究所副研究員
Thi Thanh Tam NGUYEN	2010年11月1日～ 2011年10月31日	ベトナム高等教育における「日本文化」 教育のための基礎的研究	ベトナム	ベトナム科学技術協会 技術開発研究所副所長
朴賛勝	2011年5月1日～ 2012年2月29日	1920～30年代日本の新聞・雑誌の 朝鮮流入	韓国	漢陽大学校 東アジア文化研究所 所長
金哲	2011年4月1日～ 2012年2月29日	韓国の近代における公と私という問題 ―韓国の小説と「私的公共性」という 問題を中心として―	韓国	延世大学校教授

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
王 确	2011年4月1日～ 2012年3月31日	植民地近代国家の夢と「満州国」 美術展	中国	東北師範大学 文学院院长
Daniel ROH	2011年4月1日～ 2012年3月31日	戦後日韓関係の心理構造	韓国	東アジア平和投資 プログラム代表
Cynthia VIALLE	2011年4月1日～ 2011年8月31日	オランダから江戸まで―徳川時代に おける東インド会社の献上品―	オランダ	ライデン大学研究員
Thi Oanh NGUYEN	2011年6月1日～ 2011年5月31日	日本説話における鬼神世界―ベトナム との比較―	ベトナム	ベトナム社会科学学院 准教授
Philippe BONNIN	2011年6月1日～ 2012年5月31日	仕掛けと概念―空間と時間の日仏 比較建築論―	フランス	フランス国立科学研究 センター教授
Frederick Richard DICKINSON	2011年7月1日～ 2012年3月31日	戦間期世界における政治指導の 困難―浜口雄幸を中心に―	米国	ペンシルベニア大学 准教授
Gary James HICKEY	2011年7月1日～ 2012年6月30日	文化的な相違―オーストラリアと日本―	オーストラ リア	クイーンズランド大学 研究主査
楊曉捷	2011年7月1日～ 2012年6月30日	デジタル環境が創成する古典画像 資料研究の新時代	カナダ	カルガリー大学教授
Hans Martin KRÄMER	2011年9月1日～ 2012年7月31日	明治初年の浄土真宗海外教状視察団 と近代日本の「宗教」概念形成	ドイツ	ルール大学 ボッフム校准教授
都珍淳	2011年9月1日～ 2012年8月31日	19世紀開港に対する韓・中・日の記憶 と記念に関する比較研究	韓国	昌原大学校教授

外来研究員

日本学術振興会外国人特別研究員				
氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Wybe Paul KUITERT	1990年3月31日～ 1991年3月30日	日本庭園を通してみた17・18世紀の創造性	オランダ	ワーゲニンゲン大学 研究員
彭飛	1994年4月1日～ 1995年3月31日	神話伝承の日中比較	中国	元復旦大学分校 (現上海大学文学院) 助教授
金峰	1994年5月29日～ 1995年5月28日	東アジア人類集団の遺伝学的研究	中国	中国科学院 遺伝研究所 副教授
Henriette L. HEET	1997年2月24日～ 1997年9月23日	日本人の系統分析：指紋データの利用	ロシア	ロシア科学アカデミー 民族学・文化人類学 研究所 Leading Scientist
Mohamed Abdel Rahman Ali HEMDAN	1997年9月11日～ 1998年9月10日	大河文明の考古地質学的研究 —エジプト文明と長江文明の比較—	エジプト	カイロ大学講師
Peipei QIU	1998年1月20日～ 1998年8月15日	俳諧と莊子、日本文学における女性と女性像	中国 (米国永住権)	ヴァッサー大学 準教授
Sheila Anne SMITH	1998年1月30日～ 1998年7月30日	外交政策と地方政治—沖縄の軍事基地の場合	米国	ボストン大学助手
Saddia M PEKKANEN	1998年3月20日～ 1998年8月19日	日本の多角的な貿易政策	米国	ハーバード大学 ポストドクトラル フェロー
Carolyn Anne MORLEY	1998年3月28日～ 1998年8月27日	大和物語に基づく謡曲とその幕間狂言との関係	米国	ウェルズレー大学 準教授
黄曉芬	1998年5月1日～ 2000年3月31日	長江文明の考古学的研究	中国	京都造形芸術大学 京都芸術短期大学 非常勤講師
Kinh Thien DO	1998年7月1日～ 1998年9月27日	紅河デルタ農村地帯における生活水準の階層化に対する労働—職業構造変容のインパクト：日本との比較	ベトナム	ベトナム国立自然科学 技術センター 研究員
Sunil GUPTA	1998年11月6日～ 1999年11月5日	ガンジス文明と長江文明の比較研究	インド	アルハバード博物館 学芸員
Robert Mark NESBITT	1998年12月1日～ 1999年11月30日	稲作農耕と麦作農耕の起源	イギリス	ロンドン大学 考古学研究所 名誉研修員
Maryellen Toman MORI	1999年1月15日～ 1999年12月14日	英語訳における日本のエロス文学・20世紀アンソロジーの計画	米国	サンタクララ大学 準教授
Jordan Alexander SAND	1999年1月22日～ 2000年1月21日	木曾地方における近代化：文化的・物質的・人口学的側面	米国	ジョージタウン大学 助教授
Jennifer Ann AMYX	1999年2月1日～ 1999年7月31日	大蔵省と日本の金融政策	米国	オーストラリア 国立大学助手

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Mark MELI	1999年3月10日～ 2001年2月9日	「あはれ」の歴史と理想化	米国	元大阪大学 大学院研究生
Giles M. RICHTER	1999年11月1日～ 2001年9月30日	教養のある消費者の成立：明治大正期におけるメディアとマーケティングの役割をめぐって	米国	コロンビア大学 大学院 ポストドクトラルフェロー
Pavel Efimovich TARASSOV	2000年1月8日～ 2001年1月7日	第四紀末期の日本及びアジア大陸における定量的な気候及び植生復元	ロシア	モスクワ大学 主任研究員
頼培林	2000年4月4日～ 2002年3月31日	長江文明の農業経済史的研究	中国	中国四川省社会科学 院農村経済研究所 助教授
Alison TOKITA	2000年11月20日～ 2000年12月22日	中世日本の語り物が担う庶民的思想 とイデオロギー	オーストラリア	モナシュ大学助教授・ 日本研究センター所長
Jeewan Singh KHARAKWAL	2001年1月10日～ 2002年3月31日	長江文明とインダス文明の比較研究 特に金属器の発生をめぐって	インド	ラジャスタン ウダイपीース大学 ラジャスタン研究所 助教授
Jonathan Morris AUGUSTINE	2001年3月26日～ 2002年2月26日	高僧と社会事業	米国	プリンストン大学 研究生
李美林	2002年4月1日～ 2004年3月31日	18世紀日韓両国における美人風俗画の研究	韓国	大阪大学大学院 外国人客員研究員
官文娜	2002年4月1日～ 2004年3月31日	日中親族構造から見た異文化間の衝突の原因と融和の条件	中国	国際日本文化 研究センター 外国人研究員
Inge Maria DANIELS	2002年11月26日～ 2003年10月25日	現代の日本都市における住居の物質文化についての研究	ベルギー	王立芸術学院講師
David RIGGS	2003年3月7日～ 2005年3月6日	徳川時代の禅宗における戒律と受戒の役割に関する研究	米国	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 講師
Geoffrey Nigel BAILEY	2003年3月13日～ 2003年4月2日	日本列島の貝塚遺跡に関する研究	イギリス	ニューカッスル大学 教授
戦曉梅	2003年4月1日～ 2004年9月30日	日本近代美術の発展における「非西洋的」要素についての考察—近代画家の旧「満州」体験を中心に	中国	国際日本文化 研究センター 中核的研究機関 研究員
徐蘇斌	2003年6月1日～ 2004年3月31日	中国近代建築の成立過程における日本の影響	中国	西南交通大学 客員教授
李応寿	2003年6月11日～ 2003年8月9日	日本古代における伎楽の受容過程に関する研究	韓国	世宗大学校教授
洪善杓	2003年6月22日～ 2003年8月22日	東アジアにおける女性人物画の伝統的表現研究	韓国	梨花女子大学校教授

※「就任時の所属・職」は申請時のもの

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Massimiliano TOMASI	2003年9月21日～ 2004年5月7日	島村抱月の思想および生涯	イタリア	ウェスタン ワシントン大学 準教授
Alexander Marshall VESEY	2004年8月20日～ 2006年8月19日	近世村落社会における僧職制度の影響	米国	ストーンヒル大学 助教授
李卓	2004年12月1日～ 2005年1月31日	家訓から日本の伝統文化を見て	中国	南開大学 日本研究センター 教授
William Puck BRECHER	2005年9月1日～ 2006年3月26日	江戸・明治時代における社会異常者 (畸人・狂人)の研究	米国	南カリフォルニア大学 講師
Xun LI	2007年9月10日～ 2009年9月9日	イースター島の生態史における人為的 影響	ニュージー ランド	マッセー大学 リサーチアシスタント
陳姪媛	2007年11月20日～ 2008年11月19日	植民地帝国日本と東アジアの知識交流 ―台湾と朝鮮の植民地期メディアを 対象に―	韓国	台湾中央研究院 台湾史研究所 助研究員
Noriko MANABE	2008年2月18日～ 2009年1月17日	西洋音楽語法で書かれた日本の歌の 変遷―歌詞と旋律・リズムの関係を 中心に	米国	ブルックリンカレッジ 講師
Björn E BERGLUND	2008年10月1日～ 2008年11月6日	日本とスウェーデンの里山の比較研究	スウェーデン	ルンド大学名誉教授
Johan ERIKSSON	2009年3月11日～ 2009年3月27日	近世日本におけるビジュアルコミュニ ケーション	スウェーデン	ゴットランド大学 准教授
李偉	2010年4月1日～ 2012年3月31日	満州における公園文化の受容―日本人 の造園活動を中心に―	中国	総合研究大学院 大学博士(学術)
Micah Louis AUERBACK	2010年6月2日～ 2011年7月31日	近代日本におけるさまざまな仏伝	米国	ミシガン大学准教授
趙曉賓	2011年1月5日～ 2011年3月5日	関漢卿の雜劇と世阿弥の能における 幽霊の表現方法の比較研究	中国	オタゴ大学准教授
James Mark SHIELDS	2011年5月30日～ 2011年7月29日	明治・大正期の新仏教運動と1880年代 から1930年代の進歩的仏教の結社活動	カナダ	バックネル大学 准教授

国際交流基金フェロー

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
劉雨珍	1989年3月7日～ 1990年2月16日	万葉集と中国文学―大伴旅人の歌に 見られる中国文学の影響	中国	北京外国語学院 日本学研究中心 研究員
井川史子	1989年6月1日～ 1989年7月31日	有史前の日本における共同体―縄文 後期の地域集団作業としての埋葬―	カナダ	マックギル大学教授
Eric SEIZELET	1989年6月28日～ 1990年1月27日	大阪地方自治制度の現状と展開	フランス	フランス 国立科学研究所 助教授
Anthony V. LIMAN	1989年9月1日～ 1989年12月31日	The Japanese Literary Landscape of 'Mountain and Water' (sansui) and Its Poetics	カナダ	トロント大学助教授
Rodica Livia MONNET	1989年9月1日～ 1990年8月31日	近現代女性作家の文学における 女性的自我	スイス	ミネソタ州立大学 助教授
秋間俊夫	1990年5月15日～ 1991年2月15日	日本文学における個人主義的傾向の 発達	日本	オークランド大学 アジア言語文学部 上級講師
辛容泰	1991年1月10日～ 1992年12月24日	万葉における古代日本語の研究	韓国	東国大学校 文化大学教授
Andrew Murray WATSON	1992年2月1日～ 1992年8月31日	日本史における時間と空間についての 考察	カナダ	トロント大学教授
草野 ダルシーやすこ	1993年6月4日～ 1994年5月5日	演劇人 三島由紀夫	ブラジル	サンパウロ大学講師
Vladislav N. GOREGLIAD	1994年2月18日～ 1995年1月20日	中世日本文学史	ロシア	ロシア科学アカデミー 東洋学研究所サンク トペテルブルグ支部 極東部長
Gloria GONICK	1994年7月1日～ 1994年9月1日	京都祇園祭、その他日本の祭礼に 見られる外国製染織品	米国	民俗工芸博物館 学芸員
Lyudmila Mikhailovna ERMAKOVA	1994年9月1日～ 1996年8月31日	日本神話の研究	ロシア	ロシア科学アカデミー 東洋学研究所文学部 次長
Le Chun KIM	1995年3月18日～ 1995年6月11日	ロシア亡命文学の研究	ロシア	ロシア科学アカデミー 世界文学研究所 上級研究員
Tatyana Lyvovna SOKOLOVA-DELYUSINA	1995年9月9日～ 1996年9月8日	現代文学と芸術における日本民俗的 な伝統の発現	ロシア	モスクワ文学委員会 所属翻訳家
Alexander Nikolaevich MESHCHERYAKOV	1996年10月8日～ 1997年1月31日	飛鳥・奈良時代における情報生活	ロシア	ロシア科学アカデミー 東洋学研究所学部長
Sinh VINH	1997年5月16日～ 1997年8月15日	小松清の仏印体験	カナダ	アルバータ大学教授

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Rodica Livia MONNET	1997年6月27日～ 1998年6月26日	1920年代・30年代の日本における映画をめぐる言説、その芸術表現への影響に関する総合的研究	スイス	モントリオール大学 東アジア研究センター 準教授
Royall TYLER	2000年3月1日～ 2000年6月30日	源氏物語 英文新訳完成のため	オーストラリア	オーストラリア 国立大学教授
Henry Dewitt SMITH	2000年7月7日～ 2000年8月30日	忠臣蔵伝説のメディア史的研究	米国	コロンビア大学教授
Jean BAUBEROT	2000年7月16日～ 2000年8月15日	日本文化交流の見地から日文研での資料収集及び交流活動について詳細に視察検討する	フランス	フランス 国立高等研究院 院長
Anita KHANNA	2002年5月15日～ 2002年8月15日	江戸期文学の普遍性について―「戯作」作品を中心として―	インド	ネルー大学助教授
Agnieszka KOZYRA	2002年5月28日～ 2002年8月23日	西田幾多郎の哲学についての研究	ポーランド	ワルシャワ大学 助教授
李応寿	2002年6月22日～ 2002年8月21日	『日本演劇史・中巻(近世)』の翻訳のための資料収集および現地調査	韓国	世宗大学校 人文科学大学 副教授
Mauricio MARTINEZ RODRIGUEZ	2005年6月14日～ 2006年6月13日	「日本舞台芸術電子百科事典」の構築	コロンビア	ロスアンデス大学 講師
Madalena N. Hashimoto CORDARO	2005年12月1日～ 2006年3月31日	日本の春画―絵画と版画	ブラジル	サンパウロ大学 日本研究センター 副所長
Adriana Lisboa COSTA	2006年5月29日～ 2006年6月26日	小説『旅人』のための『奥の細道』研究	ブラジル	リオデジャネイロ 州立大学 博士課程在籍・ 作家
Montserrat CRESPIN PERALES	2006年6月9日～ 2006年9月29日	現代哲学史における京都学派	スペイン	バルセロナ大学 研究員
魏大海	2006年10月31日～ 2007年8月30日	芥川龍之介と中国文化	中国	中国社会科学院 国文学研究所 研究員
高木香世子	2007年1月22日～ 2007年1月31日	源氏物語のスペイン語への翻訳のための準備資料収集	日本	マドリッド・ アウトノマ大学 常任助教授
Raquel ABI-SAMARA	2007年7月2日～ 2008年6月1日	都会の風景と現代日本詩	ブラジル	ブラジル科学技術 開発協議会 研究員、 ジャーナリスト
Junko OTA	2008年1月7日～ 2008年4月3日	江戸から明治時代にかけての日本語変化の文化・社会・歴史的背景	ブラジル	サンパウロ大学 所長・教授
Maria Teresa Rodríguez NAVARRO	2009年6月24日～ 2009年9月23日	明治期における文化受容―日本人著者と翻訳者及び文化的仲介者としての役割について	スペイン	バルセロナ自治大学 研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Wiebke DENECKE	2009年9月1日～ 2010年6月1日	中国・ギリシアの足跡―日本語世界とラテン語世界の作者たちとその文学伝統	ドイツ	コロンビア大学 バーナードカレッジ 准教授
白石実	2010年7月13日～ 2010年9月9日	日本美術における東アジア美術の影響：思想と形 資料収集、データ作成	日本	バルセロナアウトノマ大学 コーディネーター
HOANG Minh Hang	2010年5月22日～ 2010年11月21日	1970年代の福田ドクトリンと東南アジアにおける日本の政治的役割の台頭	ベトナム	ベトナム社会科学院 研究員
Anne COMMONS	2010年10月19日～ 2010年12月16日	俊頼の詩的特質―『俊頼髓脳』におけるカノン形成と説話引証をめぐって	ニュージーランド	アルバータ大学 准教授
Csaba Gergely TAMAS	2011年7月9日～ 2011年8月13日	日本の議会政治―その歴史的進展と現代的課題―	ハンガリー	パーズマーニ・ペーテル・カトリック大学 非常勤講師
Vijay Suryakant TENNETI	2011年1月15日～ 2012年1月15日	社会文化的理解と異文化交渉	インド	英語・外国語大学 准教授
TRAN Thi Hoang Mai	2011年6月15日～ 2012年3月15日	日本の図書館におけるデジタル化環境下の書誌コントローラーベトナムの図書館への教訓―	ベトナム	ベトナム社会科学院附属 東北アジア研究院日本研究 センター情報図書館センター 所長
Gita A. KEENI	2010年4月1日～ 2012年6月27日	女性に関する日本とベンガルのことわざの比較研究	インド	ヴィシュヴァ バーラティ大学准教授
外国人来訪研究員				
Ian John READER	1990年10月1日～ 1991年3月26日	現代日本における巡礼と遍路	イギリス	スターリング大学 日本研究センター教授
官文娜	1990年10月1日～ 1991年12月31日	日中家族制度の比較研究	中国	中南民族学院講師
Manoj L. SHRESTHA	1991年4月1日～ 1992年3月31日	アジアにおける日本企業の経営戦略―下請け化と技術移転をめぐって―	ネパール	龍谷大学 非常勤講師
朴正義	1992年3月1日～ 1993年2月28日	日本説話にみられる「日本人の来世観」の研究―韓国説話文学との比較から―	韓国	圓光大学校副教授
劉徳潤	1992年4月1日～ 1993年3月31日	俳諧を中心とする日本詩歌の研究	中国	河南師範大学副教授
馬樹茂	1992年4月1日～ 1993年3月31日	日本の山水画の比較研究	中国	関西留学生新聞 芸術編集担当・ 芸術家
金春美	1992年8月1日～ 1993年7月31日	韓国・日本近代文学の比較研究	韓国	高麗大学校教授

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Michael J. CALHOUN	1992年9月20日～ 1993年3月30日	健康・保健における日本文化と宗教	米国	米国連邦厚生省長官 主席補佐官
金泰昌	1992年10月1日～ 1993年9月30日	代表的日本人像の典型考	韓国	忠北大学校教授
Ilari TYRNI	1992年11月1日～ 1992年12月20日	日本的経営に関する研究	フィンランド	タンペレ大学教授
Harm BEUKERS	1992年11月14日～ 1992年12月14日	幕末における西洋医学の日本への 導入に関する研究	オランダ	ライデン大学教授
彭飛	1993年4月1日～ 1994年3月31日	神話伝承の日中比較	中国	元復旦大学分校 (上海大学文学院) 外語系助教
朱家駿	1993年5月1日～ 1994年4月30日	日本における祭祀儀礼に関する研究	中国	元国際日本文化研究 センター特別研究生
許文道	1993年6月1日～ 1994年5月31日	仏教を中心とする日本文化研究	韓国	大韓傳統佛教研究院 研究員
Burglind JUNGMAN	1993年8月1日～ 1995年3月31日	日本文人画に与えた朝鮮文人画の 影響	ドイツ	ハイデンベルグ大学 研究員
Tzvetana I. KRISTEVA	1993年11月1日～ 1993年12月30日	日本古典文学の文学形式と詩的 言語の特徴	ブルガリア	ソフィア大学教授
崔博光	1994年4月1日～ 1995年3月31日	朝鮮通信使と日本	韓国	成均館大学校教授
Roy Anthony STARRS	1994年8月1日～ 1995年7月31日	日本文学における「国」と伝統	デンマーク	アールス大学 東アジア研究所 準教授
梁嶸	1994年8月25日～ 1995年8月24日	日中医学史の比較研究	中国	北京中医薬大学 中医診断教研室 助教授
劉建輝	1994年9月1日～ 1994年10月31日	文学を中心とする1920年代・1930年代の 日中文化交流の研究	中国	南開大学副教授
金容局	1994年9月1日～ 1994年11月30日	韓日比較数学史の研究	韓国	木浦大学校 自然科学大学教授
Barbara Brennan FORD	1994年9月1日～ 1995年4月30日	雪村周継の研究	米国	メトロポリタン美術館 学芸員
李均洋	1994年10月1日～ 1995年9月30日	日本現代の経済小説の研究	中国	国立西北大学 外国文学研究室 助教授

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
彭飛	1995年10月1日～ 1995年6月30日	日中・神話伝承の比較研究	中国	元日本学術振興会 外国人特別研究員
唐剛卯	1997年6月25日～ 1997年7月22日	明治期に中国へ流出した日本寺院の 旧蔵文書の調査研究	中国	湖北省博物館 文物保管研究部 副研究館員
Susan FISHER	1999年2月15日～ 1999年5月31日	西洋と東洋とジェンダー：大庭みな子 とアンジェラ・カーター	カナダ	ブリティッシュコロンビア 大学英文学科 講師
金鋒	2000年10月22日～ 2000年12月15日	中国人およびアジア人の分子人類学 的研究	中国	中国科学院 遺伝研究所 助教授
梁嶸	2000年12月1日～ 2001年11月30日	日本漢方医学における舌診法の研究 と舌診図の画像処理	中国	北京中医薬大学 基礎医学院 中医診断教研室 教授
李応寿	2001年6月9日～ 2001年9月8日	李人植と日本	韓国	世宗大学校 人文科学大学 副教授
Klaus KRACHT	2001年7月21日～ 2001年10月13日	日本におけるクリスマス文化の受容と 表現形態	ドイツ	ベルリン フンボルト大学 主任教授
Klaus KRACHT	2002年8月3日～ 2002年10月13日	日本におけるクリスマス文化の受容と 表現形態	ドイツ	ベルリン フンボルト大学 主任教授
Mark Cody POULTON	2002年12月10日～ 2003年3月31日	近代日本の戯曲と演劇	カナダ	ビクトリア大学 準教授
James R. BARTHOLOMEW	2003年8月1日～ 2004年7月31日	ノーベル自然科学賞と日本：1901- 1949	米国	オハイオ州立大学 教授
Klaus KRACHT	2003年8月2日～ 2003年10月18日	日本におけるクリスマス文化の受容と 表現形態	ドイツ	ベルリン フンボルト大学 主任教授
李光潜	2004年4月26日～ 2005年4月25日	韓日佛教文化交流史研究	韓国	東西心理学研究所 所長
Richard Hideki OKADA	2004年6月22日～ 2004年7月15日	夏目漱石の小説における労働・資本・ 戦争	米国	プリンストン大学 教授
Beata KUBIAK HO-CHI	2004年6月30日～ 2004年8月14日	近松作品における悲劇構成要素に 見る日本の美意識	ポーランド	ワルシャワ大学 助教授
Klaus KRACHT	2004年8月1日～ 2004年10月16日	日本におけるクリスマス文化の受容と 表現形態	ドイツ	フンボルト大学 主任教授
Christal WHELAN	2004年9月1日～ 2005年2月21日	グローバリゼーションと日本の新々宗教 ―阿含宗の場合―	米国	宗教・世界問題 研究所研究員

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Mark Cody POULTON	2004年9月1日～ 2004年12月31日	近代日本の戯曲、1900-1960年	カナダ	ビクトリア大学準教授
王述坤	2004年10月1日～ 2005年9月30日	①焼け跡と無頼派—文学と社会を考える ②日本の戦後派文学と中国プロ文革直後の文学—「傷痕文学」の社会的作用	中国	中国東南大学教授
魯成煥	2004年11月30日～ 2005年11月29日	朝鮮通信使の記録から見た近世日本の生活史に関する研究	韓国	蔚山大学校 人文大学教授
張哲嘉	2004年12月12日～ 2005年3月11日	江戸時代の薬売り文化	台湾	中央研究院 近代史研究所 助研究員
Yomna Tareef Amin ELKHOLY	2005年2月5日～ 2005年5月4日	フェミニスト認識論—西洋的科学原理に対する新手法	エジプト	カイロ大学教授
李応寿	2005年6月22日～ 2005年8月21日	『日本演劇史』の翻訳	韓国	世宗大学校 人文科学大学教授
Richard Hideki OKADA	2005年6月25日～ 2005年7月25日	環境と日本大衆文化	米国	プリンストン大学教授
Iwona KORDZINSKA-NAWROCKA	2005年7月16日～ 2005年8月31日	井原西鶴の町人文化論	ポーランド	ワルシャワ大学 東洋学院助教授
Louis Michael CULLEN	2006年3月28日～ 2006年4月27日	徳川時代の官吏と支配—発展、体制と情報源	アイルランド	ダブリン大学 トリニティーカレッジ 教授
喬瑩潔	2006年5月10日～ 2007年5月7日	日漢翻訳における文化翻訳の可能と不可能性研究	中国	広西大学 外国語学院教授
Richard Hideki OKADA	2006年7月1日～ 2006年7月31日	日本における環境学の現状	米国	プリンストン大学教授
Alaa Ali Zein Elabedin EL TAIB	2006年8月1日～ 2006年8月31日	アラブ民族から見た現代日本文化にみられる世界観	エジプト	カイロ大学専任講師
Mark RAVINA	2006年9月1日～ 2007年5月31日	国際礼譲への取り組み：国際社会における日本国民国家	米国	エモリー大学準教授
Stina JELBRING	2006年10月10日～ 2006年12月15日	源氏物語の文体研究：比喩と象徴を中心に	スウェーデン	ストックホルム大学 講師
大森恭子	2006年12月20日～ 2007年3月7日	「モダニズム」を探偵する： 雑誌『新青年』、探偵小説、日常と平俗のモダニズム文化（1920-1950年）	日本	ハミルトン大学助教授
劉春英	2007年1月10日～ 2007年3月20日	「満州新京」時代における日本人作家の創作	中国	東北師範大学 日本研究所助教授

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
藩光哲	2007年2月1日～ 2007年6月30日	近代日本・中国における出版文化と国家アイデンティティー	台湾	中央研究院 近代史研究所 助研究員
Mary Elizabeth BERRY	2007年2月1日～ 2007年7月31日	なぜそれほど熱心に働くのか—近代日本における不安、利益、幸福	米国	カリフォルニア大学 バークレー校教授
栗山茂久	2007年3月17日～ 2007年7月31日	①江戸時代の医学と身体の研究 ②日本文化史諸相の映画化	日本	ハーバード大学教授
Louis Michael CULLEN	2007年3月21日～ 2007年4月22日	徳川時代の官吏と支配 発展体制と資料	アイルランド	ダブリン大学 トリニティーカレッジ 教授
Stina JELBRING	2007年3月22日～ 2007年4月19日	源氏物語の文体研究：比喩と象徴を中心に	スウェーデン	ストックホルム大学 講師
大森恭子	2007年5月8日～ 2007年5月31日	「モダニズム」を探偵する： 雑誌『新青年』、探偵小説、日常と平俗のモダニズム文化（1920-1950年）	日本	ハミルトン大学助教授
Michael MARRA	2007年6月11日～ 2007年6月25日	和歌における日本の美学—身体感覚を通して	米国	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 日本研究センター教授
李漢燮	2007年7月19日～ 2007年8月25日	近代日本語語彙の研究文献調査	韓国	高麗大学校教授
Andrew Clarence GERSTLE	2007年8月7日～ 2007年9月6日	18世紀艶本の研究	イギリス	ロンドン大学教授
李漢燮	2007年12月24日～ 2008年2月3日	近代日本語語彙の研究文献調査	韓国	高麗大学校教授
Louis Michael CULLEN	2008年3月5日～ 2008年3月30日	徳川時代の官吏と支配—発展体制と資料	アイルランド	ダブリン大学 トリニティーカレッジ 教授
Thomas LAMARRE	2008年4月21日～ 2008年5月22日	戦前の国策漫画映画と日本の動物観・進化論に関する研究	米国	カナダ・マギル大学 教授
Amaury GARCIA	2008年6月24日～ 2008年6月30日	西川祐信と上方艶本文化	キューバ共和国	エル・コレヒオ・デ・ メヒコ・大学院大学 教授
Agnieszka KOZYRA	2008年6月28日～ 2008年7月28日	西田幾多郎の芸術論	ポーランド	ワルシャワ大学 東洋学研究所教授
Gina Lee BARNES	2008年7月1日～ 2008年12月15日	4世紀中期～5世紀大和における工芸技術の進歩	イギリス	ダーラム大学 名誉教授
金榮哲	2008年7月4日～ 2008年8月3日	井原西鶴『浮世草子』の京都と遊興の美意識	韓国	漢陽大学校教授

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
李漢燮	2008年7月22日～ 2008年8月5日	近代日本語語彙の研究文献調査	韓国	高麗大学校教授
Constantine Nomikos VAPORIS	2008年7月28日～ 2008年7月31日	参勤交代に関する思想	米国	メリーランド大学教授
Yomna Tareef Amin ELKHOLY	2008年8月25日～ 2008年9月14日	日本文化における哲学と科学	エジプト	カイロ大学教授
楊念群	2008年11月1日～ 2008年11月30日	日中近代医学概念成立の比較的研究	中国	中国人民大学清史研究所教授
Louis Michael CULLEN	2009年3月31日～ 2009年4月21日	鎖国時代日本の外交における意思決定—資料分析を通して	アイルランド	ダブリン大学トリニティーカレッジ教授
Noriko THUNMAN	2009年5月25日～ 2009年7月13日	俳諧の連歌の文学史上の位置—中興の俳諧復興期の批判的評価	スウェーデン	ヨーテボリ大学教授
Shawn BENDER	2009年6月17日～ 2009年8月3日	高齢化社会向けの知的機械の創造—日本の介護ロボット工学とテクノロジー	米国	ディッキンソン大学准教授
Mats KARLSSON	2009年7月22日～ 2009年10月9日	日本のプロレタリア文化運動再考	スウェーデン	シドニー大学講師
Mark Cody POULTON	2009年8月7日～ 2010年1月3日	『コロンビア現代日本戯曲名作集』の翻訳、注釈、編集完成	カナダ	ヴィクトリア大学教授
Chavalin SVETANANT	2009年11月16日～ 2009年12月15日	文化を越えた感情:標準日本語とタイ語の語彙の比較からみた琉球語の「感情語」のエスノグラフィー的研究	タイ	マコーリー大学講師
Massimiliano TOMASI	2009年11月25日～ 2009年12月11日	キリスト教の比喩論—近代日本文学における「信仰」の問題	イタリア	ウェスタンワシントン大学教授
蔡慧玉	2009年12月1日～ 2010年3月30日	鶯巣敦哉とその植民地世界	中国	中央研究院台湾史研究所副研究員
李漢燮	2009年12月23日～ 2010年1月24日	近代日本語語彙の研究文研調査	韓国	高麗大学校教授
Louis Michael CULLEN	2010年3月10日～ 2010年3月30日	鎖国時代日本の外交政策決定における文書原拠の研究と分析	アイルランド	ダブリン大学トリニティーカレッジ教授
Tobias CHEUNG	2010年4月1日～ 2010年4月30日	日本における生理学の受容：自然と人文科学における星座比較	ドイツ	フンボルト大学ハイゼンベルグ・フェロー
Stina JELBRING	2010年4月29日～ 2010年6月8日	『源氏物語』のメタファー論とスウェーデン語訳	スウェーデン	ストックホルム大学講師

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Amaury GARCIA	2010年6月27日～ 2010年7月4日	19世紀の出版の商業戦略：国芳と国貞の艶本の場合	キューバ共和国	エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学（メキシコ）教授
David HUGHES	2010年7月6日～ 2010年7月19日	1)心の郷を守る:無形文化財としての民謡 2)日本民謡の将来:保存団体および民謡大会の役割と影響 3)日本の盆踊り:世俗的か宗教的か	イギリス	ロンドン大学リサーチ・アソシエイト
Gina Lee BARNES	2010年7月6日～ 2010年7月19日	5世紀における移民テクノロジー	米国／イギリス	ロンドン大学リサーチ・アソシエイト
Wael Mohamed Orabi ABDELWAKSOUD	2010年7月20日～ 2010年8月16日	横光利一「上海」論	エジプト	カイロ大学専任講師
Agnieszka KOZYRA	2010年7月21日～ 2010年8月16日	現代日本文化における神話・民間伝承の影響	ポーランド	ワルシャワ大学教授
Ahmed Mohamed Fathy MOSTAFA	2010年8月7日～ 2010年9月9日	野坂昭如文学におけるアメリカ人コンプレックス	エジプト	カイロ大学准教授
奥泉栄三郎	2010年11月1日～ 2010年11月30日	日本研究のための大型・特殊・デジタル情報等の分析評価とメディア・リテラシー	日本	シカゴ大学図書館 日本文庫長
根川幸男	2011年1月1日～ 2011年12月31日	人間文化研究機構「日本関連在外資料の調査研究」プロジェクト（カテゴリー-B アメリカ大陸チームb）	日本	ブラジリア大学准教授
黄自進	2011年1月9日～ 2011年1月23日	池田勇人内閣の二つの中国政策（1960～1964）	台湾	中央研究院近代史研究所研究員
Noriko THUNMAN	2011年2月1日～ 2011年3月25日	俳諧の連歌の文学史上の位置—中興の俳諧復興期の批判的評価	スウェーデン	ヨーテボリ大学教授
柳書琴	2011年2月1日～ 2012年1月31日	上海魅影:植民都市としての台北と哈爾濱（ハルビン）の現代的考察	台湾	台湾国立清華大学台湾文学研究所准教授
Yona SIDERER	2011年3月3日～ 2011年3月22日	環境問題と日本における原子炉の安全策に関する研究：政府と国民の視点から	イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学上級講師
孫昌武	2011年3月8日～ 2011年4月15日	中国歴史における北方民族と仏教	中国	南開大学教授
太田雄三	2011年4月1日～ 2011年5月31日	遠藤周作と井上洋治におけるキリスト教の土着化の問題	日本	マッギル大学教授
蔡敦達	2011年5月6日～ 2011年6月30日	辻惟雄著『日本美術の歴史』の翻訳・注釈および伊東忠太・関野貞の中国美術・建築踏査に関する資料調査	中国	同済大学外国語学院日本研究所教授兼所長
呉京煥	2011年7月4日～ 2011年8月3日	保田与重郎と韓国の美	韓国	釜山大学校人文大学教授

外来研究員

氏名	受入期間	研究テーマ	国籍	就任時の所属・職
Ahmed Mohamed Fathy MOSTAFA	2011年8月1日～ 2011年8月31日	特攻隊と日本戦後小説・その流れと 問題点	エジプト	カイロ大学准教授
Beata KUBIAK HO-CHI	2011年9月9日～ 2011年10月8日	今日の日本文学における日常生活の 審美化(1980-2010)	ポーランド	ワルシャワ大学准教授
Krystyna WILKOSZEWSKA	2011年9月22日～ 2011年10月8日	日常活動の審美化	ポーランド	ヤギエウオ大学教授

中核的研究機関研究員（講師）

氏名	在任期間
入江洋	1995年 6月 16日～1996年 4月 15日
本郷一美	1995年 6月 16日～1997年 11月 30日
君野隆久	1995年 8月 1日～1997年 3月 31日
内田亮子	1995年 9月 1日～1996年 2月 29日
長倉養輔	1996年 4月 1日～1998年 3月 31日
Shivani NANDI	1996年 7月 1日～1998年 3月 31日
津田順子	1997年 4月 1日～1997年 6月 30日
佐々木憲一	1997年 7月 16日～1999年 3月 31日
嘉本伊都子	1997年 10月 1日～1999年 3月 31日
北川淳子	1998年 1月 1日～1998年 3月 31日
Emilia GADELEVA	1998年 4月 1日～2000年 3月 31日
太田博樹	1998年 4月 1日～1998年 6月 30日
藤木利之	1998年 4月 1日～2000年 4月 30日
鶴澤和宏	1998年 11月 1日～1999年 3月 31日
那須耕介	1998年 11月 1日～2000年 3月 31日
加藤徹	1999年 4月 1日～2001年 3月 31日
土居浩	1999年 4月 1日～2001年 3月 31日
野口淳	1999年 4月 1日～2001年 3月 31日
Bart GAENS	1999年 5月 27日～2001年 3月 31日
真鍋昌賢	2000年 4月 1日～2002年 3月 31日
申昌浩	2000年 4月 26日～2002年 3月 31日
小笠原はるの	2000年 5月 1日～2002年 3月 31日
遠藤和久	2001年 4月 1日～2002年 3月 31日
孫才喜	2001年 4月 1日～2002年 3月 31日
那須真裕美	2001年 4月 1日～2002年 3月 31日
戦曉梅	2001年 4月 24日～2002年 3月 31日

研究機関研究員（講師）

氏名	在任期間
遠藤和久	2002年 4月 1日～2003年 3月 31日
申昌浩	2002年 4月 1日～2003年 3月 31日
戦曉梅	2002年 4月 1日～2003年 3月 31日
孫才喜	2002年 4月 1日～2003年 3月 31日

研究員

氏名	在任期間
濱田陽	2002年 4月 1日～2004年 3月31日
唐権	2002年 4月 17日～2004年 3月31日
才津祐美子	2003年 4月 1日～2005年 3月31日
孫建軍	2003年 5月 1日～2004年 3月31日
梁音	2003年 5月 1日～2004年 3月31日
那須浩郎	2004年 4月 1日～2006年 3月31日
伊東章子	2004年 4月 1日～2005年 10月 7日
金子晋右	2004年 4月 16日～2006年 3月31日
宮田昌明	2004年10月 13日～2006年 3月31日
小川順子	2005年 4月 1日～2006年 3月31日
片平幸	2005年 4月 1日～2006年 3月31日
松村薫子	2005年 4月 1日～2006年 3月31日
機関研究員	
氏名	在任期間
松村薫子	2006年 4月 1日～2007年 3月31日
片平幸	2006年 4月 1日～2007年 3月31日
中谷正和	2006年 4月 1日～2008年 3月31日
井出文紀	2007年 4月 1日～2009年 3月31日
永原順子	2007年 4月 1日～2009年 3月31日
町田香	2007年 4月 1日～2010年 3月31日
山口欧志	2008年 4月 1日～2011年 3月31日
山田和芳	2008年 4月 1日～2009年 2月15日
平松隆円	2008年 4月 1日～2011年 3月31日
李偉	2008年 4月 1日～2009年 3月31日
飯倉義之	2009年 4月 1日～
松村博行	2009年 4月 1日～2011年 3月31日
小都晶子	2009年 4月 1日～2011年 3月31日
堀まどか	2010年 4月 1日～
寺村裕史	2011年 4月 1日～
田村太一	2011年 4月 1日～
朴美貞	2011年 4月 1日～
益満まを	2011年 4月 1日～

プロジェクト研究員

氏名	在任期間
井口かをり	2006年 7月 1日～2008年 3月31日
James BASKIND	2006年 8月 1日～2009年 2月28日
名越万里子	2008年 9月 1日～2009年 9月30日
中西和子	2009年 6月 1日～2011年 3月31日
北川淳子	2009年10月 1日～
藤木利之	2009年10月 1日～
Xun LI	2009年10月 1日～2010年 3月31日
野嶋洋子	2009年11月 1日～
梅定娥	2010年 4月 1日～2010年 7月31日
朴美貞	2010年 5月 1日～2011年 3月31日
石川肇	2010年 8月 1日～
箕浦尚美	2011年 7月 1日～

年度決算推移表

(法人化前) 歳出決算書より(単位:千円)									
項目	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度
国立学校	2,814	4,869	13,031	58,797	68,769	128,625	77,859	138,607	140,770
物件費	2,566	4,043	6,302	57,577	68,267	91,264	41,778	90,945	66,479
人件費	248	826	6,729	1,220	502	37,361	36,081	47,662	74,291
研究所	346,294	607,700	883,118	1,237,281	1,205,845	1,425,354	1,613,355	1,498,901	1,599,769
物件費	210,634	338,001	490,861	734,216	608,888	748,452	888,449	765,404	835,705
人件費	135,660	269,699	392,257	503,065	596,957	676,902	724,906	733,497	764,064
産学連携等研究費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設整備費	431	450	1,323,641	1,435,961	1,021,105	1,453,835	582,992	99,149	111,713
(物件費小計)	213,631	342,494	1,820,804	2,227,754	1,698,260	2,293,551	1,513,219	955,498	1,013,897
(人件費小計)	135,908	270,525	398,986	504,285	597,459	714,263	760,987	781,159	838,355
合計	349,539	613,019	2,219,790	2,732,039	2,295,719	3,007,814	2,274,206	1,736,657	1,852,252
項目	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	
国立学校	206,963	134,656	101,431	56,650	63,319	115,798	60,763	129,328	
物件費	91,134	69,563	58,665	55,862	58,993	48,809	51,424	43,580	
人件費	115,829	65,093	42,766	788	4,326	66,989	9,339	85,748	
研究所	1,624,251	1,594,556	1,611,891	1,648,778	1,602,706	1,606,784	1,587,550	1,585,168	
物件費	841,855	796,756	809,624	816,188	771,631	772,545	767,112	800,482	
人件費	782,396	797,800	802,267	832,590	831,075	834,239	820,438	784,686	
産学連携等研究費	0	0	1,840	332	166	7,635	6,789	17,252	
施設整備費	9,519	47,223	191,144	81,320	14,992	88,491	11,357	5,186	
(物件費小計)	942,508	913,542	1,061,273	953,702	845,782	917,480	836,682	866,500	
(人件費小計)	898,225	862,893	845,033	833,378	835,401	901,228	829,777	870,434	
合計	1,840,733	1,776,435	1,906,306	1,787,080	1,681,183	1,818,708	1,666,459	1,736,934	

(法人化以降) 損益計算書より(単位:千円)							
項目	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
経常収益	1,533,087	1,559,643	1,520,513	1,545,425	1,450,596	1,362,605	1,408,936
運営費交付金収益	1,366,044	1,385,167	1,352,932	1,423,193	1,336,250	1,257,958	1,298,464
大学院教育収益	35,046	36,262	29,590	34,305	33,693	30,820	30,098
受託研究等収益	17,446	27,852	35,183	6,854	4,100	7,513	6,000
寄附金収益	7,993	5,724	2,980	8,841	8,881	4,445	9,430
資産見返負債戻入	72,294	74,798	67,443	48,158	44,956	33,625	32,955
雑益	34,264	29,840	32,385	24,074	22,716	28,244	31,989
経常費用	1,527,047	1,556,100	1,516,076	1,544,185	1,439,266	1,355,419	1,405,913
業務費	1,376,729	1,443,751	1,402,187	1,427,107	1,318,915	1,228,387	1,287,591
大学院教育経費	12,425	16,104	10,219	16,097	10,535	8,384	11,074
研究経費	84,028	66,693	61,450	74,371	75,965	74,192	63,188
共同利用経費	109,707	182,038	201,450	177,422	139,076	149,983	189,769
教育研究支援経費	233,494	209,639	214,943	173,732	179,948	156,196	155,551
受託研究費等	17,446	27,852	35,183	6,854	4,100	7,513	6,000
人件費	919,629	941,425	878,942	978,631	909,291	832,119	862,009
一般管理費	150,314	112,349	113,889	117,078	120,351	126,248	115,340
財務費用	4	0	0	0	0	784	2,982
臨時利益	119,161	0	0	0	0	0	0
臨時損失	119,161	0	0	0	0	0	0
目的積立金取崩	0	0	0	0	0	0	371
当期総利益	6,040	3,543	4,437	1,240	11,330	7,186	3,394

年表

年	日文研の動き		社会の動き
	年	日文研の動き	
1982(昭和57)年		「日本文化の総合的研究方法に関する研究」(文部省科学研究費補助金)を実施	11月27日 中曽根内閣発足
1983(昭和58)年		「日本文化総合研究の研究体制のあり方に関する研究」(文部省科学研究費補助金)を実施	4月15日 東京ディズニーランド開園
1984(昭和59)年		国立民族学博物館の事業として、「日本文化研究に関する調査研究」を実施	6月30日 日本人の平均寿命、男女ともに世界一に 8月 8日 臨時教育審議会設置法公布
1985(昭和60)年	4月 - 8月29日 4~12月	国際日本文化研究センター(仮称)に関する懇談会(文部省)と同調査会議(国立民族学博物館)を設置 調査会議は、同センターの構想について中間報告 調査会議は、中間報告について、国内外の日本研究者及び関係分野の研究者の意見を聴取	8月12日 日航ジャンボ機墜落事故 9月22日 プラザ合意
1986(昭和61)年	3月31日 4月 5日 5月14日	調査会議は、同センターの構想について最終報告 国際日本文化研究センター(仮称)創設準備室を設置。創設準備室長に梅原猛教授が就任 創設準備委員会(文部大臣裁定)を設置	4月 1日 男女雇用機会均等法施行
1987(昭和62)年	5月21日	国際日本文化研究センターを大学共同利用機関として京都市に創設 梅原猛創設準備室長が ¹ 初代所長に就任 管理部(総務課、研究協力課)、研究部を設置	4月 1日 国鉄分割・民営化 10月19日 ニューヨーク株式市場大暴落(ブラックマンデー) — 世界の人口が ² 50億人を突破
1988(昭和63)年	4月 8日	情報管理施設(資料課)を設置、管理部総務課を庶務課、会計課に改組	3月13日 青函トンネル開通 — リクルート事件
1990(平成2)年	7月27日 12月10日	研究棟の一部完成により仮事務所から移転 情報・管理棟、国際交流棟、図書館が ³ 完成し、開所式を挙行	4月 1日 国際花と緑の博覧会開幕 — バブル経済崩壊始まる
1991(平成3)年	10月 -	北研究棟完成	1月17日 湾岸戦争勃発 12月26日 ソ連最高会議、ソ連邦消滅を宣言
1992(平成4)年	1月 - 4月10日 4月10日	コンピュータ導入 情報管理施設に情報課を設置 本センターに総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻設置	3月14日 東海道新幹線「のぞみ」運転開始 6月15日 PKO協力法成立

年	日文研の動き		社会の動き
	年	日文研の動き	
1994(平成6)年		講堂、福利施設棟、日文研ハウス(世帯用)、図書資料館完成 11月 7日 天皇皇后両陛下ご視察	7月 1日 製造物責任(PL)法公布 9月 4日 関西国際空港開港
1995(平成7)年	5月21日	河合隼雄国際日本文化研究センター名誉教授が ² 第二代所長に就任 外部委員による「第三者評価委員会報告書」作成及び「将来計画概要」策定	1月17日 阪神・淡路大震災発生 3月20日 地下鉄サリン事件発生
1997(平成9)年	5月24日	創立10周年記念式典を挙行	4月 1日 消費税増税実施(3%から5%に)
1998(平成10)年	4月 9日	海外研究交流室を設置	2月 7日 長野冬季オリンピック大会開幕
1999(平成11)年	3月25日 4月 1日	日文研ハウス(単身用)完成 文化資料研究企画室を設置	1月 1日 欧州連合11カ国、単一通貨ユーロ導入 6月23日 男女共同参画社会基本法制定
2001(平成13)年	5月21日	山折哲雄国際日本文化研究センター名誉教授が ³ 第三代所長に就任	9月11日 アメリカで同時多発テロ事件発生
2004(平成16)年	4月 1日	法人化に伴い、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国際日本文化研究センターとなる。庶務課を総務課に、会計課を財務課に改組	1月16日 陸上自衛隊イラク派遣開始 10月23日 新潟県中越地震発生
2005(平成17)年	5月21日	片倉もとこ国立民族学博物館名誉教授が ⁴ 第四代所長に就任	2月16日 京都議定書発効 3月25日 愛・地球博(愛知万博)開幕
2007(平成19)年	5月21日	創立20周年記念式典を挙行	7月16日 新潟県中越沖地震発生 10月 1日 日本郵政公社分割・民営化
2008(平成20)年	4月 1日 10月 1日	猪木武徳国際日本文化研究センター教授が ⁵ 第五代所長に就任 管理部総務課と財務課を統合して総務課に改組	9月15日 リーマン・ブラザーズが ⁶ 経営破綻、世界同時不況
2010(平成22)年	6月30日	第二図書資料館完成	6月 1日 子ども手当支給開始 6月13日 小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還

編集後記

ここに『国際日本文化研究センター 25年史・資料編』を世に送る。総ページ数400を越える大部な本書をひも解けば、25年に及ぶ日文研の創設期から現在までの活動が豊富なデータのなかから浮かび上がってくるだろう。

とはいえ、本書は資料集という性格上、決して通読に適した書物とは言えまい。けれども、パラパラとページをめくだけでも、この25年間の日本研究の変遷が自ずと感得される—そのような学問の息吹が脈打つような書として、本書は編まれた。

思えば、日文研誕生からの25年は、日本を取り巻く環境が激変した時代であった。「ジャパン・アズ・ナンバー1」とさえ言われた栄華の80年代からバブル崩壊後の「失われた10年」の90年代を経て、政治経済の混迷深める今日までといったように、日本の地盤沈下が指摘されているのは周知のところである。日本研究もそれに合わせて大きな変容を迫られている。一見無味乾燥な資料の羅列のなかから、そのような日本研究の質的变化の軌跡をたどっていくことも可能だろう。

だが、それ以上に重要なのは、内外の環境の変化にもかかわらず、毎年毎年営々と積み重ねられてきた学問の成果である。ここに記録された衆智の軌跡は、日本研究が有するポテンシャルの大きさを指し示していると言えるのではないか。

最後に、本書の編集で大変お世話になった(株)エトレ、日文研管理部並びに情報管理施設の歴代職員の方々、その他本書の作成にご尽力くださったすべての皆様に厚くお礼申し上げたい。

25年史編纂室長 瀧井一博

25年史編集関係者一覧

25年史刊行委員会

委員長 白幡洋三郎

委員 小松和彦

井上章一

牛村圭

鈴木貞美

早川閑多

細川周平

山田奨治

荒木浩

倉本一宏

瀧井一博

松田利彦

マルクス・リュッターマン

25年史編纂室

室長 小松和彦(H20.9～H22.9)

瀧井一博(H22.10～)

室員 白幡洋三郎

荒木浩

倉本一宏

松田利彦

(事務担当)

豆本博一

梶川道雄

事務担当者

岡田幸美

北浦和子

秦三千代

中谷梨江

田中隆繁

結城美和

杉浦圭祐

新治郷美

池田聖恵

竹谷直子

田邊景子

小溝孝仁

国際日本文化研究センター25年史—資料編—

2012年3月発行

【編集・発行】

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

電話:(075)335-2222 (代表)

<http://www.nichibun.ac.jp>

【編集協力】

株式会社エトレ

〒541-0046 大阪市中央区平野町2丁目1-14

【印刷製本】

亜細亜印刷株式会社

〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1154